



Navicat

バージョン 17

ユーザーガイド



目次

1 - イントロダクション	12
Navicat について	12
インストール	15
登録	16
移行/アップグレード	17
エンドユーザーライセンス使用許諾契約書	18
2 - ユーザインタフェース	25
メインウィンドウ	25
ナビゲーションペイン	26
オブジェクトペイン	26
情報ペイン	28
3 - コラボレーション	30
コラボレーションについて	30
クラウドの管理	30
Navicat Cloud	30
On-Prem Server	32
プッシュ同期	34
キャッシュとローカルコピー	35
プロジェクト	35
プロジェクトの操作	35
メンバーの管理	36
4 - 接続	38
接続について	38
基本設定	40
RDBMS	40
MongoDB	42
Redis	43
詳細設定	44
データベース/追加データベース設定	47
SSL 設定	48
SSH 設定	50
HTTP 設定	51
互換性設定	52
様々なプロファイルに接続	53
接続の管理	53
5 - サーバーオブジェクト	55
サーバーオブジェクトについて	55
MySQL/MariaDB	55
データベース	55
テーブル	56

ビュー	56
プロシージャ／ファンクション	57
テーブルスペース	58
イベント	58
その他のオブジェクト	59
オブジェクトの保守	59
Oracle	59
スキーマ	59
テーブル	60
ビュー	60
マテリアライズド・ビュー	61
プロシージャ／ファンクション	62
パッケージ	63
リサイクルビン	64
その他のオブジェクト	65
オブジェクトの保守	65
PostgreSQL	67
データベースとスキーマ	67
テーブル	68
ビュー	69
マテリアライズド・ビュー	69
プロシージャ／ファンクション	70
タイプ	71
外部サーバー	71
その他のオブジェクト	72
オブジェクトの保守	72
拡張機能の管理	73
SQL Server	73
データベースとスキーマ	73
テーブル	74
ビュー	74
プロシージャ／ファンクション	75
その他のオブジェクト	76
オブジェクトの保守	76
SQLite	77
データベース	77
テーブル	78
ビュー	78
その他のオブジェクト	79
オブジェクトの保守	79
MongoDB	80
データベース	80

コレクション	80
ビュー	81
関数（ファンクション）	81
インデックス	82
MapReduce	82
GridFS	82
オブジェクトの保守	83
Redis	84
データベース	84
データ	84
6 - データビューワー	85
データビューワーについて	85
RDBMS	85
RDBMS データビューワー	85
ナビゲーションバーの使用	86
レコードの編集	87
レコードのソート／検索／置換	92
レコードのフィルター	93
Raw データの操作	93
データビューの書式設定	93
フィールド情報の表示	95
MongoDB	95
MongoDB データビューワー	95
ナビゲーションバーの使用	96
グリッドビュー	97
ツリービュー	100
JSON ビュー	102
ドキュメントのソート／検索／置換	102
ドキュメントのフィルター	103
データビューの書式設定	104
Redis	106
Redis データビューワー	106
ナビゲーションバーの使用	106
キーの編集	107
キーのソート	107
キーの検索	108
セルエディタ	108
フィルターとソートペイン	109
7 - データプロファイリング（Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能）	111
データプロファイリングについて	111
データプロファイリングの開始	111
プロファイリング結果の表示	111

8 - クエリ	115
クエリについて	115
RDBMS	116
クエリエディタ	116
クエリビルダ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	120
クエリパラメータ	126
Oracle クエリのデバッグ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	126
クエリの結果	126
クエリの説明	128
MongoDB	129
クエリエディタ	129
検索ビルダ Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	132
集約ビルダ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	133
クエリの結果	133
クエリの説明	134
Redis	135
クエリエディタ	135
クエリの結果	137
コードスニペット	139
9 - モデル (Navicat Premium/Enterprise エディションでのみ使用可能)	141
モデルについて	141
ワークスペース	142
モデル	143
モデルについて	143
モデルの作成	144
テーブルの作成	144
ビューの作成	145
ファンクション/プロシージャの作成	145
コレクションの作成	145
事前定義オブジェクトの作成	146
エンティティの作成	146
ダイアグラム	147
ダイアグラムについて	147
ダイアグラムの作成	148
モデルオブジェクトの追加	149
テーブルの追加	149
コレクションの追加	150
外部キーの追加	152
ビューの追加	153
ファンクション/プロシージャの追加	155
エンティティの追加	156
ラベルの追加	158

メモの追加	159
イメージの追加	160
形状の追加	161
レイヤーの追加	163
ダイアグラムキャンバスの操作	164
自動レイアウトの適用	165
ダイアグラムのプレビュー	165
ダイアグラムの印刷とエクスポート	166
データディクショナリ	166
データディクショナリについて	166
データディクショナリの作成	166
リバースエンジニアリング	167
リバースエンジニアリングについて	167
データベースをモデルに同期	167
データベースをモデルに置き換え	169
フォワードエンジニアリング	170
フォワードエンジニアリングについて	170
モデルをデータベースに同期	170
モデルを SQL/スクリプトファイルにエクスポート	172
モデルワークスペースの比較	173
モデル変換	174
モデルのヒントとコツ	175
10 - デバッグ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	178
デバッグについて	178
Oracle PL/SQL デバッグ	178
PostgreSQL PL/pgSQL デバッグ	179
11 - Pub/Sub (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	181
Pub/Sub について	181
Pub/Sub ウィンドウ	181
チャンネルのサブスクライブ	182
チャンネルのカラーリング	183
12 - 集計パイプライン (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	185
集計パイプラインについて	185
パイプラインビルダ	185
パイプラインの結果	187
パイプラインの説明	187
13 - データ移行ツール	188
データ移行ツールについて	188
インポートウィザード	188
インポートウィザードについて	188
ファイル形式を選択	188
ソースファイルを選択	188

区切り文字を選択	190
追加オプションを選択	191
ターゲットのテーブル/コレクションを選択	192
フィールド構造とマップフィールドを調整	192
インポートモードを選択	193
インポートの保存と開始	194
エクスポートウィザード	194
エクスポートウィザードについて	194
ファイル形式を選択	195
保存パスを選択	195
エクスポートする列/フィールドを選択	196
追加オプションを選択	196
エクスポートの保存と開始	198
データ転送 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	198
データ転送について	198
接続と詳細オプションを選択 (ステップ 1)	199
オブジェクトと転送モードを選択する (ステップ 2)	202
データ転送の確認と開始 (ステップ 3)	204
データの同期 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	204
データの同期について	204
接続と比較オプションを選択 (ステップ 1)	205
テーブル/コレクションマッピングを選択 (ステップ 2)	205
データ比較結果の表示 (ステップ 3)	205
選択したスクリプトの編集と実行 (ステップ 4)	206
構造の同期 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	207
構造の同期について	207
接続と比較オプションを選択 (ステップ 1)	207
構造比較結果を表示 (ステップ 2)	210
選択したスクリプトの編集と実行 (ステップ 3)	210
SQL/スクリプトファイルのダンプと実行	211
コマンドファイルの実行	212
MongoImport と MongoExport	212
MongoImport と MongoExport について	212
MongoImport	212
MongoExport	213
14 - データ生成 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	214
データ生成について	214
ターゲットの接続を選択 (ステップ 1)	214
オブジェクトと列のプロパティの選択 (ステップ 2)	215
ジェネレーターを使用する (ステップ 2.1)	216
数字ジェネレータ	216
Date/Time/DateTime ジェネレータ	216

シーケンスジェネレータ	217
Enum ジェネレータ	217
テキストジェネレータ	217
イメージ/バイナリジェネレータ	217
外部キージェネレータ	218
UUID ジェネレータ	218
正規表現ジェネレータ	219
名前ジェネレータ	220
性別ジェネレータ	220
タイトルジェネレータ	220
婚姻状況ジェネレータ	221
電話番号ジェネレータ	221
Eメールジェネレータ	221
職位ジェネレータ	221
ソーシャルネットワーク ID ジェネレータ	222
支払方法ジェネレータ	222
クレジットカードの種類ジェネレータ	222
クレジットカード番号ジェネレータ	222
クレジットカードの日付ジェネレータ	223
会社名ジェネレータ	223
部署ジェネレータ	223
業界ジェネレータ	223
住所ジェネレータ	224
市ジェネレータ	224
地域ジェネレータ	224
製品名ジェネレータ	224
製品カテゴリジェネレータ	225
色ジェネレータ	225
サイズジェネレータ	225
重量単位ジェネレータ	225
バーコードジェネレータ	226
SKU ジェネレータ	226
IP アドレスジェネレータ	226
MAC アドレスジェネレータ	226
ファイルパスジェネレータ	227
ファイル名ジェネレータ	227
ファイル拡張子ジェネレータ	227
URL ジェネレータ	228
ホスト名ジェネレータ	228
データのプレビューと生成の開始 (ステップ 3)	228
15 - データディクショナリ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	229
データディクショナリについて	229

データベースの選択 (ステップ 1)	229
オブジェクトの選択と順序の変更 (ステップ 2)	229
テンプレートの選択 (ステップ 3)	229
レイアウト設定の調整 (ステップ 4)	229
ファイルパスの設定と生成の開始 (ステップ 5)	230
16 - BI (Navicat Premium/Enterprise エディションでのみ使用可能)	232
BI について	232
ワークスペース	233
データソース	234
データソースについて	234
データソースを作成	235
データソース接続の変更	237
データのフィルタリング/ソート/プロジェクト	238
カスタムフィールドの追加	240
チャート	242
チャートについて	242
チャートを作成	243
データのフィルタリング/ソート	245
集約関数を適用	246
範囲の追加	247
値の設定操作	247
チャートの表示	248
チャートタイプ	248
チャートタイプについて	248
棒チャート	249
折れ線チャート/面チャート	252
棒チャートと折れ線チャート	255
ウォーターフォールチャート	258
トルネードチャート	261
円チャート/ドーナツチャート	263
散布チャート	265
ヒートマップ	268
ツリーマップ	269
値	271
トレンド	272
KPI	273
ゲージ	274
テーブル	275
ピボットテーブル	277
コントロール	279
DateTime 形式	280
ダッシュボード	280

ダッシュボードについて	280
ダッシュボードを作成	281
ページを追加	282
チャートを追加	283
テキストラベルを追加	283
イメージを追加	284
形状を追加	284
オブジェクトの配置	285
ダッシュボードを表示	287
ダッシュボードを印刷&エクスポート	287
テーマを切り替え	288
17 - オートメーション (自動化) (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	289
オートメーション (自動化) について	289
バッチジョブを作成 (ステップ 1)	289
バッチジョブのスケジュール設定 (ステップ 2)	291
18 - バックアップと復元	293
バックアップと復元について	293
MySQL/PostgreSQL/SQLite/MariaDB (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	293
バックアップと復元の組み込みツールについて	293
バックアップ	293
復元	294
SQL 文を取り出す	297
Oracle データポンプ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	297
Oracle データポンプについて	297
Oracle データポンプエクスポート	298
Oracle データポンプインポート	300
SQL Server のバックアップと復元 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	304
SQL Server のバックアップと復元について	304
SQL Server バックアップ	304
SQL Server 復元	306
MongoDump と MongoRestore	308
MongoDump と MongoRestore について	308
MongoDump	308
MongoRestore	308
Redis (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	309
バックアップと復元の組み込みツールについて	309
バックアップ	309
復元	310
コマンドの抽出	311
19 - サーバーセキュリティ	313
サーバーセキュリティについて	313

MySQL/MariaDB のユーザーとロールの管理	313
ユーザーデザイナー	313
ロールデザイナー	314
Oracle のユーザーとロールの管理	315
ユーザーデザイナー	315
ロールデザイナー	317
ユーザーの保守	318
PostgreSQL のユーザー、グループ、ロールの管理	318
ユーザーデザイナー	318
グループデザイナー	319
ロールデザイナー	320
SQL Server のログイン、ロール、ユーザーの管理	322
ログインデザイナー	322
サーバーロールデザイナー	323
データベースユーザーデザイナー	324
データベースロールデザイナー	325
アプリケーションロールデザイナー	326
SQLite のユーザー管理	327
MongoDB のユーザーとロールの管理	327
ユーザーデザイナー	327
ロールデザイナー	328
Redis のユーザー管理	329
権限マネージャー	330
20 - 他のすばらしい機能	331
サーバー監視 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	331
スキーマ分析 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	332
コマンド監視 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	333
バーチャルグルーピング	333
接続の色付け	334
データベース/スキーマ内検索 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	334
コンソール	335
フォーカスモード (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	335
URI 経由で共有	336
お気に入り (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)	337
ダークテーマ	337
検索フィルター	338
21 - 設定	339
オプション設定	339
基本	339
タブ	340
コード補完	341
エディタ	341

レコード	342
自動リカバリ	345
ファイルロケーション	345
接続性	346
環境	347
詳細	348
22 - ホットキー	350
Navicat のホットキー	350
23 - ログをたどる	354
ログファイル	354

1 - イントロダクション

Navicat について

Navicat は、マルチ接続データベース管理ツールです。MySQL、Oracle、PostgreSQL、SQLite、SQL Server、MariaDB、MongoDB、Redis データベースに同時に接続することができ、異なる種類の複数のデータベースに対するデータベース管理を非常に簡単にします。Amazon Redshift、Amazon RDS、Alibaba Cloud のようなクラウドデータベースも管理できます。Navicat の機能は、プロの開発者のどのような要望も満たすほど非常に高性能です。また、データベースサーバーの初心者ユーザーが簡単に理解できるようにも作られています。使いやすくデザインされた Navicat のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用すると、安全かつ簡単な方法で、高速かつ簡単に情報を作成、整理、アクセス、共有することができます。

Navicat は、3つのプラットフォーム - Microsoft Windows、macOS、Linux で使用可能です。ローカル/リモートサーバーに接続でき、クラウドコラボレーション、データモデリング、データ転送、データ/構造の同期、インポート/エクスポート、バックアップ/復元、BI、データ生成、データディクショナリ、データプロファイリング、自動化などのいくつかのユーティリティツールを提供します。

詳細については、弊社のウェブサイトをご覧ください：<https://jp.navicat.com>

システム要件

Windows

- Microsoft Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10、Windows 11、Server 2012、Server 2016、Server 2019、Server 2022

macOS

- macOS 11 Big Sur、macOS 12 Monterey、macOS 13 Ventura、macOS 14 Sonoma、macOS 15 Sequoia

Linux

x86_64

- Debian 10、Debian 11、Debian 12、Ubuntu 20.04、Ubuntu 22.04、Ubuntu 24.04、Fedora 38、Fedora 39、Fedora 40、Linux Mint 20、Linux Mint 21、Deepin 20、KylinOS Desktop 10

aarch64

- Debian 11、Debian 12、Ubuntu 22.04、Ubuntu 24.04、Fedora 38、Fedora 39、Fedora 40、Linux Mint 20、Linux Mint 21、KylinOS Desktop 10

サポートされるオンプレミスデータベース

- MySQL 3.23 以降
- PostgreSQL 7.3 以降

- Oracle 8i 以降
- SQLite 2 と 3
- SQL Server 2000 以降
- MariaDB 5.1 以降
- MongoDB 3.0 以降
- Redis 2.8 以降、Redis Cluster、Redis Sentinel、Microsoft Garnet
- GaussDB 3.2 以降、openGauss
- OceanBase Community および Enterprise 3.1.0 以降（Enterprise Oracle モードは macOS Edition では使用できません）
- TiDB 7 以降
- Drizzle、OurDelta、Percona Server

サポートされるクラウドデータベース

Amazon AWS

- Amazon Redshift
- Amazon Aurora for MySQL
- Amazon Aurora for PostgreSQL
- Amazon RDS for MySQL
- Amazon RDS for PostgreSQL
- Amazon RDS for Oracle
- Amazon RDS for SQL Server
- Amazon RDS for MariaDB
- Amazon DocumentDB
- Amazon ElastiCache for Redis

Google Cloud

- Google Cloud SQL for MySQL
- Google Cloud SQL for PostgreSQL

- Google Cloud SQL for SQL Server
- Google Memorystore (Redis)

Oracle Cloud

- Oracle Database Cloud Service
- Oracle MySQL Cloud Service

Microsoft

- Microsoft Azure SQL Database
- Microsoft Azure Database for MySQL
- Microsoft Azure Database for PostgreSQL
- Microsoft Azure Database for MariaDB
- Microsoft Azure Cache for Redis

MongoDB Cloud Services

- MongoDB Atlas

Redis Enterprise Cloud

- Redis Enterprise Cloud

Alibaba Cloud

- Alibaba Cloud ApsaraDB RDS for MySQL
- Alibaba Cloud ApsaraDB RDS for PostgreSQL
- Alibaba Cloud ApsaraDB RDS for SQL Server
- Alibaba Cloud ApsaraDB for MongoDB
- Alibaba Cloud ApsaraDB for Redis
- Alibaba Cloud ApsaraDB for OceanBase (MySQL Mode)
- Alibaba Cloud ApsaraDB for OceanBase (Oracle Mode)
- Alibaba Cloud PolarDB for MySQL
- Alibaba Cloud PolarDB for PostgreSQL
- Alibaba Cloud PolarDB for Xscale

Tencent Cloud

- Tencent Cloud TencentDB for MySQL
- Tencent Cloud TencentDB for PostgreSQL
- Tencent Cloud TencentDB for SQL Server
- Tencent Cloud TencentDB for MariaDB
- Tencent Cloud TencentDB for MongoDB
- Tencent Cloud TencentDB for Redis

Huawei Cloud

- Huawei Cloud RDS for MySQL
- Huawei Cloud RDS for PostgreSQL
- Huawei Cloud RDS for SQL Server
- Huawei Cloud Document Database Service
- Huawei Cloud Distributed Cache Service for Redis
- Huawei Cloud GaussDB Centralized
- Huawei Cloud GaussDB Distributed
 - Huawei Cloud GaussDB(DWS)

インストール

現在開いているアプリケーションがある場合は、シャットダウンすることを強くお勧めします。これによって、円滑にインストールが行えます。

ダウンロード版のインストール方法

1. Navicat Windows 版をダウンロードします。
2. **.exe** ファイルを開きます。
3. セットアップウィザードの開始画面で、**次へ**をクリックします。
4. 使用許諾契約書を読んでください。それに同意し、**次へ**をクリックします。
5. プログラムアイコンの場所を承認します。フォルダの保存先を変更したい場合は**参照**をクリックします。
6. 残りのステップに従って進みます。

CD 版のインストール方法

1. CD-ROM ドライブから Navicat CD インストールディスクを読み込みます。
2. **.exe** ファイルを開きます。
3. セットアップウィザードの開始画面で、**次へ**をクリックします。
4. 使用許諾契約書の同意を読んでください。それに同意し、**次へ**をクリックします。
5. プログラムアイコンの場所を承認します。フォルダの保存先を変更したい場合は**参照**をクリックします。
6. 残りのステップに従って進みます。

登録

試用期間が終了すると、Navicat の機能を使い続けるためにライセンスキーまたはサブスクリプションプランが必要となります。

注意：永久ライセンスとサブスクリプションプランを同じ Navicat で使用することはできません。登録方法を変更する前に、ライセンスキーを無効にするか、Navicat ID からサインアウトする必要があります。

永久ライセンス

永久ライセンスを購入した場合、Navicat をアクティベートするためのライセンスキーを受け取ります。

永久ライセンスセクションで、ライセンスキー（16 桁）を貼り付け、**アクティベーション実行**ボタンをクリックします。Navicat はライセンスサーバーに接続して、ライセンスキーを有効にします。アクティベーションプロセスが成功すると、ライセンスキーの詳細が表示されます。

マニュアルアクティベーション

マニュアルアクティベーションは、コンピューターがインターネットに接続されていない場合に利用できます。このアクティベーションプロセスを完了するためには、インターネット接続が可能な別のコンピューターが必要です。

1. オンラインのアクティベーションに失敗した場合、**マニュアルアクティベーション**をクリックします。
2. **リクエストコードをここにコピーする**：ボックスにリクエストコードをコピーします。
3. インターネットに接続されているコンピューターで Web ブラウザーを開き、https://customer.navicat.com/jp/manual_activate.php にアクセスします。
4. リクエストコードを左側のボックスに貼り付け/入力します。
5. **アクティベーションコードを取得**をクリックします。
6. 生成されたアクティベーションコードを右側のボックスにコピーします。
7. Navicat を有効にしようとしているコンピューターに戻ります。

- ここにアクティベーションコードを貼り付けて下さい：ボックスにアクティベーションコードを貼り付けます。
- アクティベーション実行をクリックします。

サブスクリプションプラン

サブスクリプションプランをお持ちの場合、Navicat ID にサインインして、サブスクリプション期間中 Navicat を使用できます。

注意： Navicat ID は、サブスクリプションプランの購入に使用したメールアドレスです。

サブスクリプションセクションで、**Navicat ID** と**パスワード**を入力します。サインインすると、サブスクリプションプランの詳細が表示されます。

Navicat は、デフォルトで 1 時間に 1 回、ライセンスサーバーに接続してプランを自動再読み込みします。ポータルサイトでプランを更新した場合、**プランの再読み込み**ボタンを使用して、新しいプランを強制的に再読み込みできます。

注意：Navicat ID はそれぞれ 1 つの Navicat にのみ接続できます。別の Navicat で Navicat ID にサインインすると、現在の Navicat からサインアウトされます。

移行／アップグレード

Navicat を新しいコンピュータに移動する

- Navicat で、**ファイル** -> **接続をエクスポート**を選択します。エクスポートファイル (.ncx) に全ての接続設定が含まれます。
- エクスポートファイル (.ncx) をバックアップします。
- Navicat で、**ヘルプ** -> **登録**を選択します。
- [永久ライセンス] オンラインでライセンスキーのアクティベーションを解除するためには、**アクティベーション解除**をクリックします。
- [サブスクリプションプラン] Navicat ID からサインアウトするためには、**サインアウト**をクリックします。
- 現行のコンピュータから、Navicat をアンインストールします。
- 新しいコンピュータに Navicat をインストールしなおします。
- 新しいコンピュータで Navicat を開き、**ファイル** -> **接続をインポート**を選択して、接続設定 (.ncx) をインポートします。

新しい接続が確立されると、Navicat は[設定の保存場所](#)の下にサブフォルダを作成します。ほとんどのファイルはこのサブフォルダに保存されます。パスを探すためには、接続を右クリックし、**接続を編集** -> **詳細** -> **設定の保存場所**を選択します。

また、保存される全てのプロファイルは [profiles](#) の下に保存されます。パスを探すためには、**ツール** -> **オプション** -> **ファイルロケーション** -> **プロファイルの保存場所**を選択します。

Navicat をアップグレードする

インストール済みの Navicat を最新バージョンにアップグレードしたい場合、**ヘルプ** -> **更新の確認**を選択し、アップデーターを起動してください。アップデーターは、インストール済みのバージョンを自動的に確認します。そして、新しいバージョンがリリースされている場合、アップデーターの指示に従って、お使いの Navicat をアップグレードしてください。最新バージョンが前のバージョンに置き換わりますが、設定は変更されずに残ります。

または、登録 e メールアドレスで[カスタマーセンター](#)にアクセスし、最新バージョンのインストーラをダウンロードすることも可能です。

エンドユーザーライセンス使用許諾契約書

Note: For the License Agreement of Navicat Cloud service, please click [here](#).

IMPORTANT: THIS SOFTWARE END USER LICENSE AGREEMENT ("EULA") IS A LEGAL AGREEMENT BETWEEN YOU (EITHER AN INDIVIDUAL OR, IF PURCHASED OR OTHERWISE ACQUIRED BY OR FOR AN ENTITY, AN ENTITY) AND PREMIUMSOFT CYBERTECH LTD..READ IT CAREFULLY BEFORE COMPLETING THE INSTALLATION PROCESS AND USING THE SOFTWARE. IT PROVIDES A LICENSE TO USE THE SOFTWARE AND CONTAINS WARRANTY INFORMATION AND LIABILITY DISCLAIMERS. BY INSTALLING AND USING THE SOFTWARE, YOU ARE CONFIRMING YOUR ACCEPTANCE OF THE SOFTWARE AND AGREEING TO BECOME BOUND BY THE TERMS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE TO BE BOUND BY THESE TERMS, THEN DO NOT INSTALL THE SOFTWARE AND RETURN THE SOFTWARE TO YOUR PLACE OF PURCHASE. THIS EULA SHALL APPLY ONLY TO THE SOFTWARE SUPPLIED BY PREMIUMSOFT CYBERTECH LTD. HEREWITH REGARDLESS OF WHETHER OTHER SOFTWARE IS REFERRED TO OR DESCRIBED HEREIN.

1. Definitions

- a. "Non-commercial Version" means a version of the Software, so identified, for use by i) the individual who is a natural person and not a corporation, company, partnership or association or other entity or organization (ii) the individual who is a student, faculty or staff member at an educational institution, and (iii) staff of a non-profit organization or charity organization only. For purposes of this definition, "educational institution" means a public or private school, college, university and other post secondary educational establishment. A non-profit organization is an organization whose primary objective is to support an issue or matter of private interest or public concern for non-commercial purposes.
- b. "Not For Resale (NFR) Version" means a version, so identified, of the Software to be used to review and evaluate the Software, only.
- c. "PremiumSoft" means PREMIUMSOFT CYBERTECH LTD. and its licensors, if any.
- d. "Software" means only the PremiumSoft software program(s) and third party software programs, in each case, supplied by PremiumSoft herewith, and corresponding documentation, associated media, printed materials, and online or electronic documentation.
- e. "Unregistered version", "Trial version" or "Demo version" means an unregistered copy of the SOFTWARE ("UNREGISTERED SOFTWARE") which may be used by the USER for evaluation purposes for a period of fourteen

(14) days following the initial installation of the UNREGISTERED SOFTWARE. At the end of the trial period ("TRIAL PERIOD"), the USER must either register the SOFTWARE or remove it from his system. The UNREGISTERED SOFTWARE may be freely copied and distributed to other users for their evaluation.

- f. "Navicat Premium Lite" means a free-to-use version of the Software with limited features, identified as "Lite".

2. License Grants

The licenses granted in this Section 2 are subject to the terms and conditions set forth in this EULA:

- a. Subject to Section 2(b), you may install and use the Software on a single computer; OR install and store the Software on a storage device, such as a network server, used only to install the Software on your other computers over an internal network, provided you have a license for each separate computer on which the Software is installed and run. Except as otherwise provided in Section 2(b), a license for the Software may not be shared, installed or used concurrently on different computers.
- b. In addition to the single copy of the Software permitted in Section 2(a), the primary user of the computer on which the Software is installed may make a second copy of the Software and install it on either a portable computer or a computer located at his or her home for his or her exclusive use, provided that:
 - A. the second copy of the Software on the portable or home computer (i) is not used at the same time as the copy of the Software on the primary computer and (ii) is used by the primary user solely as allowed for such version or edition (such as for educational use only),
 - B. the second copy of the Software is not installed or used after the time such user is no longer the primary user of the primary computer on which the Software is installed.
- c. In the event the Software is distributed along with other PremiumSoft software products as part of a suite of products (collectively, the "Studio"), the license of the Studio is licensed as a single product and none of the products in the Studio, including the Software, may be separated for installation or use on more than one computer.
- d. You may make one copy of the Software in machine-readable form solely for backup purposes. You must reproduce on any such copy all copyright notices and any other proprietary legends on the original copy of the Software. You may not sell or transfer any copy of the Software made for backup purposes.
- e. You agree that PremiumSoft may audit your use of the Software for compliance with these terms at any time, upon reasonable notice. In the event that such audit reveals any use of the Software by you other than in full compliance with the terms of this Agreement, you shall reimburse PremiumSoft for all reasonable expenses related to such audit in addition to any other liabilities you may incur as a result of such non-compliance.
- f. Your license rights under this EULA are non-exclusive.

3. License Restrictions

- a. Other than as set forth in Section 2, you may not make or distribute copies of the Software, or electronically transfer the Software from one computer to another or over a network.

- b. You may not alter, merge, modify, adapt or translate the Software, or decompile, reverse engineer, disassemble, or otherwise reduce the Software to a human-perceivable form.
- c. Unless otherwise provided herein, you may not rent, lease, or sublicense the Software.
- d. Other than with respect to a Trial / Demo Version, Lite Version or a Not For Resale Version of the Software, you may permanently transfer all of your rights under this EULA only as part of a sale or transfer, provided you retain no copies, you transfer all of the Software (including all component parts, the media and printed materials, any upgrades, this EULA, the serial numbers, and, if applicable, all other software products provided together with the Software), and the recipient agrees to the terms of this EULA. If the Software is an upgrade, any transfer must include all prior versions of the Software from which you are upgrading. If the copy of the Software is licensed as part of the whole Studio (as defined above), the Software shall be transferred only with and as part of the sale or transfer of the whole Studio, and not separately. You may retain no copies of the Software. You may not sell or transfer any Trial / Demo Version, Lite Version or Not For Resale Version of the Software.
- e. Unless otherwise provided herein, you may not modify the Software or create derivative works based upon the Software.
- f. Non-commercial Versions of the Software may not be used for, or distributed to any party for, any commercial purpose.
- g. Unless otherwise provided herein, you shall not
 - A. in the aggregate, install or use more than one copy of the Trial / Demo Version of the Software,
 - B. download the Trial / Demo Version of the Software under more than one username,
 - C. alter the contents of a hard drive or computer system to enable the use of the Trial / Demo Version of the Software for an aggregate period in excess of the trial period for one license to such Trial / Demo Version,
 - D. disclose the results of software performance benchmarks obtained using the Trial / Demo Version or Lite Version to any third party without PremiumSoft prior written consent, or
 - E. use the Trial / Demo Version of the Software for a purpose other than the sole purpose of determining whether to purchase a license to a commercial or education version of the software; provided, however, notwithstanding the foregoing, you are strictly prohibited from installing or using the Trial / Demo Version or Lite Version of the Software for any commercial training purpose.
- h. For Navicat Premium Lite: For avoidance of doubt, Navicat Premium Lite is licensed, not sold. Under this EULA, PremiumSoft grants you the right to 1) download [one copy] of the software, and 2) install and run [one instance] of the software on your [one device], whether physical or virtual with an internal storage device capable of running the software, so long as you comply with all the terms of this EULA.
If you were in possession of multiple software versions, you may only install and run [one] of those versions at a time. If you use the software on more than one physical or virtual device, you must obtain a separate license for each instance.

[Commercial Use]

The number of users at any time within a business, whether incorporated or not, shall not exceed [five persons]. To use the software on more than one device, you are required to obtain a dedicated license and you may allow up to [five other devices] to access the software installed on the licensed device for commercial use.

[Non-Commercial Use]

Users qualified for PremiumSoft's Non-Commercial Licensing Program, subject to the conditions of the program as detailed in [Navicat Non-Commercial Licensing Program](http://www.navicat.com/en/store/non-commercial) (www.navicat.com/en/store/non-commercial), are granted the right to download, install, run, and use the software.

- i. You may only use the Not for Resale Version of the Software to review and evaluate the Software.
- j. You may receive the Software in more than one medium but you shall only install or use one medium. Regardless of the number of media you receive, you may use only the medium that is appropriate for the server or computer on which the Software is to be installed.
- k. You may receive the Software in more than one platform but you shall only install or use one platform.
- l. You shall not use the Software to develop any application having the same primary function as the Software.
- m. In the event that you fail to comply with this EULA, PremiumSoft may terminate the license and you must destroy all copies of the Software (with all other rights of both parties and all other provisions of this EULA surviving any such termination).
- n. This program may include Oracle Instant Client (OCI). You agree that you shall
 1. not use of the Oracle Instant Client to the business operations;
 2. not assign, give, or transfer the Oracle Instant Client or an interest in them to another individual or entity;
 - a. make the Programs available in any manner to any third party for use in the third party's business operations; and
 - b. title to the Programs from passing to the end user or any other party;
 3. not reverse engineer, disassemble or decompilation the Oracle Instant Client and duplicate the Programs except for a sufficient number of copies of each Program for your licensed use and one copy of each Program media;
 4. discontinue use and destroy or return to all copies of the Oracle Instant Client and documentation after termination of the Agreement;
 5. not publish any results of benchmark tests run on the Programs;
 6. comply fully with all relevant export laws and regulations of the United States and other applicable export and import laws to assure that neither the Oracle Instant Client, nor any direct product thereof, are exported, directly or indirectly, in violation of applicable laws;
 7. allow PremiumSoft to audit your use of the Oracle Instant Client;

4. Upgrades

If this copy of the Software is an upgrade from an earlier version of the Software, it is provided to you on a license exchange basis. You agree by your installation and use of such copy of the Software to voluntarily terminate your earlier EULA and that you will not continue to use the earlier version of the Software or transfer it to another person or entity unless such transfer is pursuant to Section 3.

5. Ownership

The foregoing license gives you limited license to use the Software. PremiumSoft and its suppliers retain all rights, title and interest, including all copyright and intellectual property rights, in and to, the Software (as an independent work and as an underlying work serving as a basis for any application you may develop), and all copies thereof. All rights not specifically granted in this EULA, including Federal and International Copyrights, are reserved by PremiumSoft and its suppliers.

6. LIMITED WARRANTY AND DISCLAIMER

- a. Except with respect to Trial / Demo Version, Lite Version and Not For Resale Version of the Software, PremiumSoft warrants that, for a period of thirty (30) days from the date of delivery (as evidenced by a copy of your receipt): the physical media on which the Software is furnished will be free from defects in materials and workmanship under normal use. The Software is provided "as is". PremiumSoft makes no warranties, express or implied, arising from course of dealing or usage of trade, or statutory, as to any matter whatsoever.
- b. PremiumSoft provides no remedies or warranties, whether express or implied, for Trial / Demo version, Lite version and the Not for Resale version of the Software. Trial / Demo version, Lite version and the Not for Resale version of the Software are provided "as is".
- c. Except as set Forth in the foregoing limited warranty with respect to software other than Trial/ Demo version, Lite version and Not for Resale version, PremiumSoft and its suppliers disclaim all other warranties and representations, whether express, implied, or otherwise, including the warranties of merchantability or fitness for a particular purpose. Also, there is no warranty of non-infringement and title or quiet enjoyment. PremiumSoft does not warrant that the Software is error-free or will operate without interruption. The Software is not designed, intended or licensed for use in hazardous environments requiring fail-safe controls, including without limitation, the design, construction, maintenance or operation of nuclear facilities, aircraft navigation or communication systems, air traffic control, and life support or weapons systems. PremiumSoft specifically disclaims any express or implied warranty of fitness for such purposes.
- d. If applicable law requires any warranties with respect to the Software, all such warranties are limited in duration to thirty (30) days from the date of delivery.
- e. No oral or written information or advice given by PremiumSoft, its dealers, distributors, agents or employees shall create a warranty or in any way increase the scope of ANY warranty PROVIDED HEREIN.

7. LIMITATION OF LIABILITY

(a) Neither PremiumSoft nor its suppliers shall be liable to you or any third party for any indirect, special, incidental, punitive or consequential damages (including, but not limited to, damages for the inability to use equipment or access data, loss of business, loss of profits, business interruption or the like), arising out of the use of, or inability to use, the Software and based on any theory of liability including breach of contract, breach of warranty, tort (including negligence), product liability or otherwise, even if PremiumSoft or its representatives have been advised of the possibility of such damages.

8. Third Party Software

The Software may contain third party software which requires notices and/or additional terms and conditions. By accepting this EULA, you are also accepting the additional terms and conditions of the third party software.

9. General

No PremiumSoft dealer, agent or employee is authorized to make any amendment to this EULA.

This EULA contains the complete agreement between the parties with respect to the subject matter hereof, and supersedes all prior or contemporaneous agreements or understandings, whether oral or written. You agree that any varying or additional terms contained in any purchase order or other written notification or document issued by you in relation to the Software licensed hereunder shall be of no effect. The failure or delay of PremiumSoft to exercise any of its rights under this EULA or upon any breach of this EULA shall not be deemed a waiver of those rights or of the breach.

If any provision of this EULA shall be held by a court of competent jurisdiction to be contrary to law, that provision will be enforced to the maximum extent permissible, and the remaining provisions of this EULA will remain in full force and Effect.

10. Basis of Bargain

The Limited Warranty and Disclaimer and Limited Liability set forth above are fundamental elements of the basis of the agreement between PremiumSoft and you. PremiumSoft would not be able to provide the Software on an economic basis without such limitations. Such Limited Warranty and Disclaimer and Limited Liability inure to the benefit of PremiumSoft's licensors.

11. Term

By downloading and/or installing this SOFTWARE, the Licensor agrees to the terms of this EULA.

This license is effective until terminated. Licensor has the right to terminate your License immediately if you fail to comply with any term of this License.

"as is". Licensor makes no warranties, express or implied, arising from course of dealing or usage of trade, or statutory, as to any matter whatsoever. In particular, any and all warranties or merchantability, fitness for a particular purpose or non-infringement of third party rights are expressly excluded.

12. License Termination

Without prejudice to any other rights, PremiumSoft may terminate this EULA if you fail to comply with the terms and conditions of this EULA. In such event, you must destroy all copies of the software and all of its component parts.

13. Governing Law

This License will be governed by the laws in force in Hong Kong. You hereby consent to the non-exclusive jurisdiction and venue sitting in Hong Kong to resolve any disputes arising under this EULA.

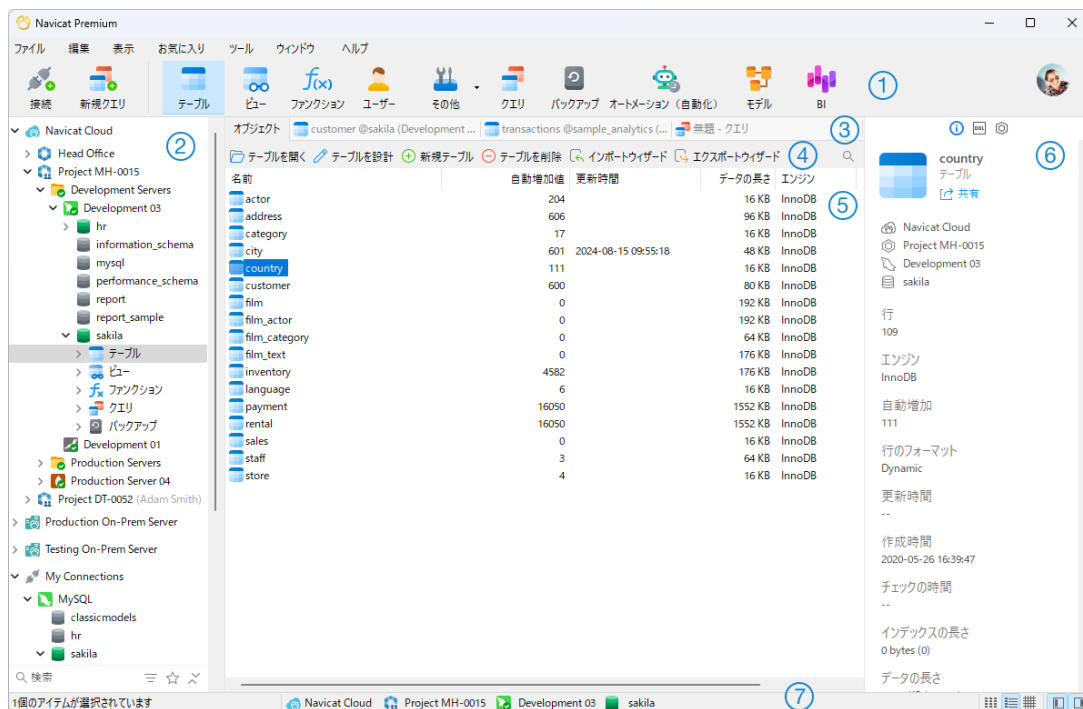
Should you have any questions concerning the validity of this License, please contact: licensing@navicat.com. If you desire to contact the Licensor for any other reason, please contact support@navicat.com.

PremiumSoft and other trademarks contained in the Software are trademarks or registered trademarks of PremiumSoft CyberTech Ltd. in the United States and/or other countries. Third party trademarks, trade names, product names and logos may be the trademarks or registered trademarks of their respective owners. You may not remove or alter any trademark, trade names, product names, logo, copyright or other proprietary notices, legends, symbols or labels in the Software. This EULA does not authorize you to use PremiumSoft or its licensors names or any of their respective trademarks.

2 - ユーザインタフェース

メインウィンドウ

メインウィンドウは、複数のツールバーとペインからなり、ユーザーは接続やデータベースオブジェクト、高性能なツールを操作できます。



① メインツールバー

メインツールバーは、基本的なオブジェクトや機能にアクセスするために使用されます。例えば、接続やユーザー、テーブル、コレクション、バックアップ、オートメーション（自動化）など。小さいアイコンを使用する または キャプションを非表示にするためには、ツールバーを右クリックし、**大きいアイコンを使用**または**キャプションを表示**を無効にします。

② ナビゲーションペイン

ナビゲーションペインは、接続やデータベース、データベースオブジェクトを操作するために使用されます。ナビゲーションペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示 -> ナビゲーションペイン -> ナビゲーションペインを表示**を選択します。




③ タブバー

タブバーを使用して、オブジェクトペインのタブ化されたウィンドウを切り替えることができます。ポップアップ画面を常に新しいタブに表示するか、常に新しいウィンドウに表示するかを選択することができます。複数のタブを開いている場合、CTRL+TABを使って簡単に他のタブに切り替えられます。[オプション](#)もご参照ください。

④ オブジェクトツールバー

オブジェクトツールバーは、オブジェクトの操作に使用されます。

⑤ オブジェクトペイン

オブジェクトペインには、オブジェクト一覧（例えば、テーブル、接続、ビュー、クエリ）とタブ化されたウィンドウが表示されます。オブジェクトタブのビューを変更するためには、 **詳細**、 **リスト** や  **ER ダイアグラム** ボタンを使用します。

⑥ 情報ペイン

情報ペインには、詳しいオブジェクト情報やプロジェクトアクティビティ、データベースオブジェクトの DDL、オブジェクトの依存関係、ユーザー/ロールのメンバーシップ、プレビューが表示されます。情報ペインが非表示の場合、メニューバーから **表示 -> 情報ペイン -> 情報ペインを表示** を選択します。

⑦ ステータスバー

ステータスバーは、現在のウィンドウの状態情報を表示します。

ナビゲーションペイン

ナビゲーションペインにはツリー構造を採用しており、データベースとそのオブジェクトをそれぞれのポップアップメニューを使って素早く簡単に操作することができます。[オブション](#) ウィンドウで、**ナビゲーションペインのスキーマ下のオブジェクトを表示** オプションにチェックがされている場合、すべてのデータベースオブジェクトもこのペインに表示されます。データベースまたはスキーマに接続するためには、ペインでそれをダブルクリックします。

[Navicat Cloud](#) または [On-Prem Server](#) にログインすると、ナビゲーションペインでそれを確認でき、ローカルに保存されている全ての接続が **My Connections** セクションに配置されます。

フィールド、インデックス、外部キーなどのテーブル要素が各テーブルの下に表示されます。テーブル名の左側にある矢印をクリックしてリストを展開します。要素が非表示の場合は、[オブション](#) ウィンドウの **ナビゲーションペインのテーブルの下にオブジェクトを表示** オプションを有効にします。



ポップアップメニューを使用してフィールドの名前を変更することも、要素をダブルクリックしてテーブルデザイナーを開くこともできます。

ナビゲーションペインのグループ構造を非表示にしたい場合、**表示 -> ナビゲーションペイン -> 接続を折りたたむ** を選択します。

ナビゲーションペインが非表示の場合、**表示 -> ナビゲーションペイン -> ナビゲーションペインを表示** を選択します。

接続のフィルタリング

検索テキストボックスに検索文字列を入力すると、その文字列を含む項目のみが表示されます。検索結果を含む全てのグループ、開いている接続、およびオブジェクトも自動的に展開され、フィルターされた結果が表示されます。

テキストボックスの右側にある  と  アイコンを使用すると、特定の接続タイプとベンダー、アクティブなオブジェクト、またはスター付きの接続をすばやくフィルターできます。

オブジェクトペイン

オブジェクトタブでは、 **リスト**、 **詳細**、 **ER ダイアグラム** ボタンを使用して、オブジェクトビューを変更できます。

リストビューまたは詳細ビューでグループ構造を非表示にしたい場合、メニューバーから**表示 -> オブジェクトリストを折りたたむ**を選択します。

リストビュー

デフォルトで、Navicat は**リストビュー**を使用します。このビューはオブジェクト名のみを表示します。

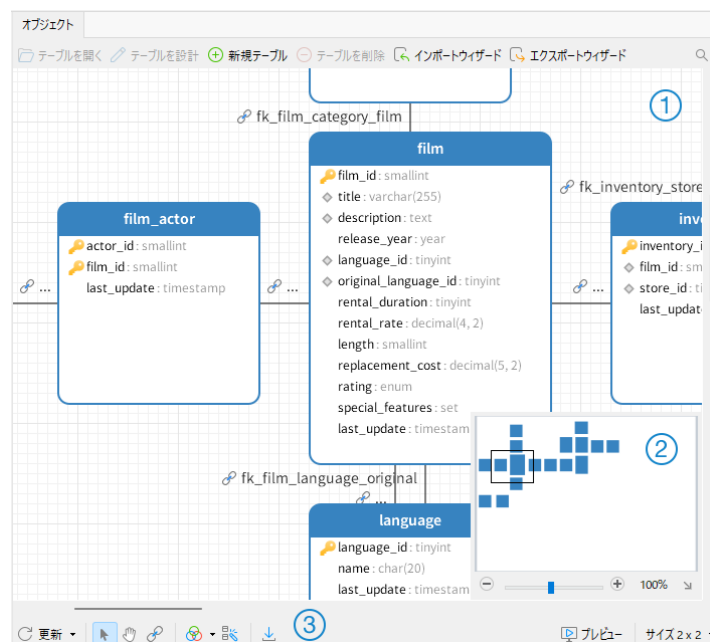
詳細ビュー

詳細ビューには、オブジェクトの名前といくつかのプロパティが列で表示されます。プロパティの表示列を変更するためには、メニューバーから**表示 -> カラムの選択**を選択し、ポップアップウィンドウからそれぞれのオブジェクトの表示列を選択します。

ER ダイアグラムビュー (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

注意: MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB でのみ使用可能です。ER ダイアグラムビューはテーブルのみに対応しています。


選択したデータベース/スキーマにテーブルが含まれる場合、ER ダイアグラムは自動的に作成されます。ER ダイアグラムファイルは、[設定の保存場所](#)に保存されます。



① ダイアグラムキャンバス

テーブルフィールドとデータベース/スキーマにあるテーブル間の関係を図で表示します。

外部キーを追加

一番下のツールバーから  をクリックします。子テーブルから親テーブルにフィールドをドラッグアンドドロップします。

外部キーを編集、削除

関係線を右クリックし、ポップアップメニューから**外部キーを設計**または**外部キーを削除**を選択します。

注意： ER ダイアグラムにあるテーブルをダブルクリックすると、テーブルデザイナーが開きます。その一方、リストビューや詳細ビューにあるテーブルをダブルクリックすると、テーブルビューが開きます。









② 概要

ダイアグラムの選択領域をズームインまたはズームアウトするためには、概要のスライダーで調整します。キーボードショートカットを使って同様の効果を得ることができます：

ズームイン：[CTRL++] または [CTRL+マウスホイールを上へ]

ズームアウト：[CTRL+-] または [CTRL+マウスホイールを下へ]




③ 一番下のツールバー









ボタン	説明
 更新	更新 - ER ダイアグラムを更新します。 ER ダイアグラムを再生成 - 自動レイアウト機能を使用して ER ダイアグラムを再生成します。
	カーソルを選択モードに切り替えます。
	カーソルをハンドモードに切り替えて、ダイアグラムを移動します。または、スペースキーを押したまま、ダイアグラムを移動することもできます。
	2つのテーブルフィールド間にリレーションを追加します。このボタンをクリックして、子テーブルから親テーブルにフィールドをドラッグアンドドロップします。
	選択されたテーブルまたはリレーションの色を設定します。
	キャンバス上の全てのテーブルまたは選択されたテーブルを自動的に配置します。
	ER ダイアグラムを PNG ファイルにエクスポートします。
 プレビュー	ダイアグラムをフルスクリーンモードでプレビューします。
サイズ	ドロップダウンリストから用紙サイズを選択します。対応する用紙サイズは概要ペインに反映されます。

情報ペイン

情報ペインは、詳細なオブジェクト情報やプロジェクトアクティビティ、データベースオブジェクトの DDL、オブジェクトの依存関係、ユーザー/ロールのメンバーシップ、プレビューを表示します。情報ペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示 -> 情報ペイン -> 情報ペインを表示**を選択します。

接続またはオブジェクト、プロジェクトを選択してから、情報ペインの対応するボタンを選択することができます。

ボタン	説明
	基本 - オブジェクト/プロジェクトの一般的な情報を表示します。
	プレビュー - クエリの SQL 文を表示します。
	DDL - オブジェクトの DDL 文を表示します。CTRL+F を押して検索ボックスを開きます。

	<p>使用先 - 選択されたオブジェクトが依存するオブジェクトを表示します。</p> <p>オブジェクト - テーブルスペースにあるオブジェクトを表示します。</p> <p>どこのメンバーか - ユーザーまたはロールが割り当てられているロールを表示します。</p>
	<p>使用元 - 選択されたオブジェクトに依存するオブジェクトを表示します。</p> <p>メンバー - ロールのメンバーを表示します。</p>
	<p>コードスニペット - すべてのビルトインとカスタム コードスニペット を表示します。</p>
	<p>識別子 - 選択されたデータベースまたはスキーマにあるすべての使用可能なテーブル、コレクション、ビューまたはフィールドを表示します。</p> <p>フィールド - 選択されたフィールドの情報をテーブルビューに表示します。</p>
	<p>権限 - ユーザーに付与された権限を表示します。</p>
	<p>プロジェクト - プロジェクトメンバーと、メンバーによって行われたプロジェクトアクティビティを表示します。プロジェクトにメンバーを追加するためには、+ をクリックします。</p>
	<p>タイプ色 - グリッドビュー のセルを強調表示するための個別のタイプの色を設定します。</p> <p>(MongoDB でのみ使用可能)</p>
	<p>Pub/Sub 情報 - Redis サーバー上でどのチャンネルがアクティブかを表示します。</p>

3 - コラボレーション

コラボレーションについて

Navicat を使用すると、Navicat や他の Navicat ファミリーメンバー、様々なマシン、様々なプラットフォームから接続やクエリ、集計パイプライン、スニペット、モデルワークスペース、BI ワークスペース、バーチャルグループを同期できます。Navicat Cloud を使用してファイルをホストできます。または、弊社の別の製品である Navicat On-Prem Server を環境にインストールしている場合は、全てを組織内でホストできます。

コラボレーション機能を使用すると、チームメイトがアカウントにログインした時にプロジェクトにアクセスできるようになります。そうすれば、あなたとあなたのチームメイトは、ユーザー名とパスワードを明かすことなく、同じプロジェクトに取り組むことができます。チームメイトがプロジェクトに対して持つアクセスの種類を制限することもできます。

クラウドの管理

Navicat Cloud

Navicat Cloud は、接続設定、クエリ、集計パイプライン、スニペット、モデルワークスペース、BI ワークスペース、バーチャルグループ情報を同期するための PremiumSoft が提供するクラウドサービスです。

Navicat Cloud は、データベースに接続やアクセスすることはできません。つまり、保存できるのは接続設定、クエリ、集計パイプライン、スニペット、モデルワークスペース、BI ワークスペース、バーチャルグループ情報のみで、データベースのパスワードやデータ（テーブル、ビューなど）は、Navicat Cloud に保存されません。

注意：ソフトウェアでサインインできる Navicat Cloud アカウントは 1 つだけです。PremiumSoft は、同期されるすべてのファイルを極秘に保持します。そして、すべての従業員に対して、ユーザーが Navicat Cloud アカウントに保存するファイルの内容を見ること/アクセスすることを禁止しています。

Navicat Cloud アカウントの作成

1. メニューバーで、**ファイル** -> **Cloud を管理**を選択します。
2. Cloud を管理ウィンドウで、**Navicat Cloud** を選択します。
3. **Navicat ID の作成**をクリックします。
4. 必要な情報を入力し、**サインアップ**をクリックします。確認用 E メールがお客様の E メールアドレスに送信されます。
5. その E メール内のリンクをクリックして、新しいアカウントの確認を行います。

ヒント： Navicat カスタマーセンターでお使いの Navicat ID を使用して、サインインすることができます。

Navicat Cloud にサインインする

1. メニューバーで、**ファイル** -> **Cloud を管理**を選択します。

2. Cloud を管理ウィンドウで、**Navicat Cloud** を選択します。
3. **Navicat ID とパスワード**を入力します。
4. **サインイン**をクリックします。
5. [Navicat Cloud Portal](#) サイトでの 2 段階認証を有効にしている場合、コードがお使いの電話にモバイルアプリを通じて送られます。サインインするために、受け取ったコードを入力します。

Navicat Cloud からサインアウトする

1. メインウィンドウで、**Navicat Cloud** を右クリックし、**すべての接続を終了**を選択して、Navicat Cloud の全の接続を閉じます。
2. 右上にあるアバターをクリックします。
3. Cloud を管理ウィンドウで、**Navicat Cloud** を選択します。
4. **サインアウト**をクリックします。

使用状況の表示

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、**Navicat Cloud** を選択します。
3. 使用量と現在のプランが表示されます。

写真の変更

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、**Navicat Cloud** を選択します。
3. アバターをクリックします。
4. 画像ファイルを選択します。

アカウントの管理

[Navicat Cloud Portal](#) で、パスワードの変更、2 段階認証の有効化、Cloud プランのアップグレードなどを行うことができます。

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、**Navicat Cloud** を選択します。
3. **アカウント管理**をクリックします。
4. ウェブブラウザが自動的に開き、Navicat Cloud Portal が表示されます。

On-Prem Server

Navicat On-Prem Server は、オンプレミスソリューションであり、Navicat オブジェクト（接続設定、クエリ、集計パイプライン、スニペット、モデルワークスペース、BI ワークスペース、バーチャルグループ情報）を組織内に保存するためのクラウド環境をホストするオプションを提供します。

On-Prem Server を追加する前に、まず使用される環境で Navicat On-Prem Server をセットアップする必要があります。

注意：ソフトウェアに複数の On-Prem Server を追加できます。

新しい On-Prem Server の追加

1. メニューバーで、**ファイル** -> **Cloud を管理** を選択します。
2. Cloud を管理ウィンドウで、**+** **新規の On-Prem Server** -> **URI を持つ新しい On-Prem Server** を選択します。
3. On-Prem Server のログイン情報を入力します。

オプション	説明
ホスト	On-Prem Server のホスト名または IP アドレス。
ポート	On-Prem Server のポート番号。
サーバー証明書を確認	サーバー証明書を検証するためには、このオプションを有効にします。
プッシュ同期を有効にする	Navicat は、On-Prem Server に保存されているファイルが変更される度にサイレントプッシュ通知を受け取ります。

4. **確認** をクリックします。

URI を使用して新しい On-Prem Server を追加

1. メニューバーで、**ファイル** -> **Cloud を管理** を選択します。
2. Cloud を管理ウィンドウで、**+** **新規の On-Prem Server** -> **URI を持つ新しい On-Prem Server** を選択します。
3. On-Prem Server URI を貼り付けます。
4. **確認** をクリックします。

注意：URI は、On-Prem Server ポータルサイトからコピーできます。

On-Prem Server にサインインする

1. メニューバーで、**ファイル** -> **Cloud を管理** を選択します。
2. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
3. **ユーザー名とパスワード** を入力します。
4. **サインイン** をクリックします。

5. 2段階認証を有効にしている場合は、選択した認証方法によってコードが送信されます。サインインするために、受け取ったコードを入力します。

On-Prem Server からサインアウトする

1. メイン ウィンドウで、On-Prem Server を右クリックし、**すべての接続を終了**を選択して、サーバーの全の接続を閉じます。
2. 右上にあるアバターをクリックします。
3. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
4. **サインアウト**をクリックします。

On-Prem Server の編集

1. メイン ウィンドウで、On-Prem Server を右クリックし、**すべての接続を終了**を選択して、サーバーの全の接続を閉じます。
2. 右上にあるアバターをクリックします。
3. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
4. **サインアウト**をクリックします。
5. サーバーを右クリックし、**On-Prem Server を編集**を選択します。
6. On-Prem Server の情報を編集します。
7. サーバーにサインインします。

On-Prem Server の名前を変更

1. メイン ウィンドウで、On-Prem Server を右クリックし、**すべての接続を終了**を選択して、サーバーの全の接続を閉じます。
2. 右上にあるアバターをクリックします。
3. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
4. **サインアウト**をクリックします。
5. サーバーを右クリックし、**名前を変更**を選択します。
6. On-Prem Server を表す名前を入力します。
7. サーバーにサインインします。

On-Prem Server の削除

1. メイン ウィンドウで、On-Prem Server を右クリックし、**すべての接続を終了**を選択して、サーバーの全の接続を閉じます。
2. 右上にあるアバターをクリックします。
3. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
4. **サインアウト**をクリックします。
5. サーバーを右クリックし、**On-Prem Server を削除**を選択します。
6. **削除**をクリックします。

使用状況の表示

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
3. 使用状況が表示されます。

写真の変更

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
3. アバターをクリックします。
4. 画像ファイルを選択します。

アカウントの管理

On-Prem Server ウェブポータルで、パスワードの変更、2段階認証の有効化などを行うことができます。

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、On-Prem Server を選択します。
3. **アカウント管理**をクリックします。
4. ウェブブラウザが自動的に開き、On-Prem Server ウェブポータルが表示されます。

プッシュ同期

プッシュ同期により、Navicat Cloud または On-Prem Server に保存されているファイルが変更される度に、Navicat はサイレントプッシュ通知を受け取ることができます。

プッシュ同期を有効にする

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、Navicat Cloud または On-Prem Server を右クリックします。
3. **プッシュ同期を有効にする**をオンにします。

プッシュ同期を無効にする

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、Navicat Cloud または On-Prem Server を右クリックします。
3. **プッシュ同期を有効にする**をオフにします。

キャッシュとローカルコピー

Navicat Cloud または On-Prem Server にログインすると、Navicat はクラウドオブジェクトファイルと一部の情報をローカルコンピュータに保存します。キャッシュとローカルコピーを使用して、変更がクラウドに保存されていることを確認します。

キャッシュとローカルコピーのクリア

1. 右上にあるアバターをクリックします。
2. Cloud を管理ウィンドウで、Navicat Cloud または On-Prem Server を選択します。
3. **サインアウト**をクリックします。
4. Navicat Cloud または On-Prem Server を右クリックし、**キャッシュとローカルコピーをクリア**を選択します。
5. **クリア**をクリックします。

格納フォルダを開く

1. メインウィンドウで、Navicat Cloud または On-Prem Server を選択します。
2. プロジェクト、接続、データベース、スキーマを開きます。
3. クエリアイコン、モデルアイコン、または BI アイコンをクリックします。
4. オブジェクトタブ内の任意の場所を右クリックし、**格納フォルダを開く**を選択します。

プロジェクト

プロジェクトの操作

プロジェクトは、Navicat オブジェクトを構造化および編成する方法です。複数の関連するオブジェクトを 1 つのプロジェクトに配置し、必要に応じてコラボレーションのためにそのプロジェクトを他のアカウントと共有できます。

新しいプロジェクトを作成する

1. メインウィンドウで、**Navicat Cloud** または On-Prem Server を右クリックします。
2. **新規プロジェクト**を選択します。
3. 新しいプロジェクトの名前を入力します。
4. **確認**をクリックします。

既存のプロジェクトを管理する

プロジェクトの名前を変更する

1. メインウィンドウで、プロジェクトを右クリックし、**名前を変更**を選択します。
2. 新しいプロジェクト名を入力します。

注意：プロジェクトの所有者と、管理と編集可能権限を持つメンバーのみが、プロジェクトの名前を変更できます。

プロジェクトを削除する

1. メインウィンドウで、プロジェクトを右クリックし、**プロジェクトを削除**を選択します。
2. **削除**をクリックします。

注意：プロジェクトを削除できるのは、プロジェクトオーナーだけです。

注意：プロジェクトを削除する前に、プロジェクト内の全てのオブジェクトを削除する必要があります。

プロジェクトを終了する

1. メインウィンドウで、プロジェクトを右クリックし、**プロジェクトを終了**を選択します。
2. **終了**をクリックします。

メンバーの管理

メンバーを追加

1. メインウィンドウで、プロジェクトを右クリックし、**メンバーを管理**を選択します。
2. **メンバーを追加**をクリックします。
3. [Navicat Cloud] メンバーの Navicat ID を入力し、ENTER を押します。
4. [On-Prem Server] 追加したいユーザーのボックスにチェックを入れます。
5. メンバーの権限選択します。
6. **追加**をクリックします。

メンバーの権限	権限
管理と編集可能	オブジェクトの読み取り、オブジェクトの書き込み、メンバーの管理、および、プロジェクトの名前変更
編集可能	オブジェクトの読み取り、オブジェクトの書き込み
閲覧可能	オブジェクトの読み取り

既存のメンバーを管理する

メンバーの権限を編集するためには

1. メインウィンドウで、プロジェクトを右クリックし、**メンバーを管理**を選択します。
2. メンバーの横にあるドロップダウンリストを使用して、権限を変更します。
3. **適用**をクリックします。

プロジェクトからメンバーを削除するためには

1. メインウィンドウで、プロジェクトを右クリックし、**メンバーを管理**を選択します。
2. メンバーの横にある **X** アイコンをクリックします。
3. **適用**をクリックします。


4 - 接続

接続について

Navicat でサーバー管理を始めるためには、まず接続ウィンドウを使用して 1 つ以上の接続を作成する必要があります。サーバーまたは'Net in general'の初心者の場合や、物事がどのように動作するのかよくわからない場合には、以下を参考にしてください：


- [MySQL ユーザーマニュアル](#)
- [Oracle データベースドキュメント](#)
- [PostgreSQL ユーザーマニュアル](#)
- [SQLite ユーザーマニュアル](#)
- [Microsoft SQL ドキュメント](#)
- [MariaDB ドキュメント](#)
- [MongoDB マニュアル](#)
- [Redis ドキュメント](#)

接続の作成

1. メインウィンドウで、 **接続**をクリックします。
2. 新しい接続ウィンドウで、サーバーのタイプを選択し、**次**をクリックします。
3. 必要な情報を入力します。
4. **確認**をクリックします。

注意：Navicat は、様々なプラットフォーム（Windows、macOS、Linux、UNIX など）で実行されているリモートサーバーへの接続を許可し、PAM、Kerberos、LDAP 認証をサポートしています。Kerberos は、Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用できます。

URI を使用して接続を作成

1. メインウィンドウで、 **接続**をクリックします。
2. 新しい接続ウィンドウで、**URI を使用した新しい接続**をクリックします。
3. Navicat URI または MongoDB URI を貼り付けます。
4. **適用**をクリックします。
5. Navicat は、接続ウィンドウのオプションを自動的に入力します。必要に応じて接続情報を変更してください。

6. **確認**をクリックします。

ヒント : Navicat URI は、接続を編集ウィンドウからコピーできます。

接続設定の編集

1. メインウィンドウで、接続を右クリックして**接続を編集**を選択します。
2. 接続を編集ウィンドウで、接続情報を変更します。
3. **確認**をクリックします。

ヒント : **URI** をクリックすると、Navicat URI または MongoDB URI を表示／コピーできます。

プロジェクトに接続を移動／コピーする

Navicat Cloud または On-Prem Server にログインしている場合、My Connections の接続をプロジェクトに同期できます。

1. メインウィンドウで、**My Connections** の下の接続を右クリックし、**接続を移動**または**接続をコピー**を選択します。
2. 既存のプロジェクトを選択するか、新しいプロジェクトを作成します。
3. 接続に全てのクエリとバーチャルグループを含めるかどうかを選択し、**確認**をクリックします。
4. 接続はプロジェクトに移動またはコピーされます。

ヒント : 同様の方法で、プロジェクト内の接続を My Connections に移動／コピーできます。

MySQL/MariaDB 接続のフラッシュ

いろいろな内部キャッシュをクリアまたはリロード、テーブルをフラッシュ、ロックを取得するためには、ナビゲーションペインの接続を右クリックし、**フラッシュ**を選択し、フラッシュオプションを選択します。この機能を使用するためには、[RELOAD](#) 権限が必要です。

Azure SQL Database ファイアウォール規則を管理

お使いのクライアントの IP アクセスに権限を与えるまで、Azure SQL Database に接続することはできません。お使いのコンピューターから Azure SQL Database にアクセスするためには、お使いのファイアウォールが TCP ポート 1433 を介した外部 TCP 通信を確実に許可するようにしてください。少なくとも 1 つのファイアウォール規則がなければ、Azure SQL Database に接続することはできません。

ファイアウォール規則の設定を管理するためには、ナビゲーションペインの Azure SQL Database 接続を右クリックし、**SQL Azure ファイアウォール規則**を選択します。IP アドレスの範囲を提供することによって、新しい規則を追加することができます。

テストアカウント

Navicat は、テスト目的のために使えるテストアカウントを提供しています。

MySQL

- ホスト : server1.navicat.com
- ポート : 4406
- ユーザー名 : navicat
- パスワード : testnavicat

PostgreSQL

- ホスト : server1.navicat.com
- ポート : 5432
- 初期データベース : HR
- ユーザー名 : navicat
- パスワード : testnavicat

基本設定

RDBMS

SSL または SSH、HTTP を使用するかどうかに関わらず、ローカル/リモートサーバーへの新しい接続を作成するためには、基本タブでデータベースログイン情報を設定します。お使いのインターネットサービスプロバイダ (ISP) がそのサーバーへの直接接続を提供していない場合は、セキュアトンネリングプロトコル (SSH) /HTTP を使用した接続をお試しください。

注意 : 以下のオプションは接続サーバーの種類に依存し、昇順でソートします。

追加先

[Navicat Cloud](#) または [On-Prem Server](#) にログインした後、My Connections またはプロジェクトへの接続を保存することを選択できます。

認証

SQL Server 認証	SQL Server 認証は、ログインレコードを使用して、接続を検証します。ユーザーはサーバーログインを提供しなければなりません : ユーザー名とパスワード 。
Windows 認証	ユーザーが Windows ユーザーアカウントで接続する時、SQL Server は、オペレーティングシステムの Windows プリンシパルトークンを使用してアカウント名とパスワードを検証します。
Active Directory - Password	Microsoft Entra ID の ID とパスワードを使用してサーバーに接続します。
Active Directory -	Microsoft Entra ID と連携した Windows ID を使用してサーバーに接続します。

Integrated	
Active Directory - MFA	多要素認証（MFA）が有効になっているユーザーアカウントを使用してサーバーに接続します。

接続名

接続を最もよく表すわかりやすい名前を入力してください。

接続種類

Basic	Basic モードでは、Navicat は、Oracle Call Interface（OCI）を通して Oracle サーバーに接続します。 ホスト と ポート を入力します。接続を行う時にユーザーが接続する サービス名/SID を設定します。該当するラジオボタンを選択してください。
TNS	TNS モードでは、Navicat は、tnsnames.ora ファイルのエイリアスエントリを利用し、Oracle Call Interface（OCI）を通して Oracle サーバーへ接続します。ユーザーは ネットサービス名 を提供する必要があります。

OCI は、アプリケーションプログラミングインターフェースであり、Oracle データベースサーバーにアクセスし、SQL ステートメント実行の全段階をコントロールするための、第三世代言語の固有のプロシージャもしくはファンクションコールをアプリケーション開発者が利用できるようにします。OCI は、標準的なデータベースのアクセスと検索機能を持つダイナミックリンクライブラリ形式のライブラリです。参照：[OCI オプション](#)

データベースファイル

初期データベースファイルを指定します。HTTP トンネルを使用する場合は、ウェブサーバーにあるデータベースファイルの絶対ファイルパスを入力する必要があります。

エンドポイント

Amazon Web Services のインスタンスに接続するためのエンドポイント。

ホスト

データベースが置かれているホスト名、または、サーバーの IP アドレス。

初期データベース

接続を行う時にユーザーが接続する初期データベース。

パスワード

データベースサーバーに接続するためのパスワード。

ポート

データベースサーバーに接続するための TCP/IP ポート。

ユーザー名を Navicat Cloud と同期

Navicat Cloud の接続を編集する時、ユーザー名を Cloud に同期することを選択できます。

タイプ

既存データベースファイル	データベースファイルにある既存データベースに接続します。
新規 SQLite 3	データベースファイルに新しい SQLite 3 データベースを作成します。
新規 SQLite 2	データベースファイルに新しい SQLite 2 データベースを作成します。

ユーザー名

データベースサーバーに接続するためのユーザー名。

MongoDB

SSL または SSH を使用するかどうかに関わらず、ローカル/リモートサーバーへの新しい接続を作成するためには、基本タブでデータベースログイン情報を設定します。お使いのインターネットサービスプロバイダ (ISP) がそのサーバーへの直接接続を提供していない場合は、セキュアトンネリングプロトコル (SSH) を使用した接続をお試しください。

接続名

接続を最もよく表すわかりやすい名前を入力してください。

追加先

[Navicat Cloud](#) または [On-Prem Server](#) にログインした後、My Connections またはプロジェクトへの接続を保存することを選択できます。

タイプ

MongoDB サーバーの種類 : Standalone、Shard Cluster または Replica Set。

SRV レコード

SRV レコードを使用してサーバーに接続するためには、このオプションにチェックを付けます。

ホスト

ホスト名、IP アドレスまたはサーバーの UNIX ドメインソケット

ポート

サーバーに接続するための TCP/IP ポート。

メンバー

レプリカセットのメンバーまたはシャードされたクラスタのインスタンスを接続に追加または削除します。

環境設定を読む

この接続のレプリカセットの読み込み設定を選択します。

レプリカセット

レプリカセットの名前。

認証

MongoDB が接続の認証に使用する認証メカニズムを選択します。

None	認証なし。
Password	ユーザー名とパスワード に関連づけられている 認証データベース の名前を指定します。
LDAP	ユーザー名とパスワード を指定します。
Kerberos	Kerberos の サービス名 と ユーザーのプリンシパル を設定します。
X.509	x.509 証明書認証。

Redis

SSL または SSH を使用するかどうかに関わらず、ローカル/リモートサーバーへの新しい接続を作成するためには、基本タブでデータベースログイン情報を設定します。お使いのインターネットサービスプロバイダ (ISP) がそのサーバーへの直接接続を提供していない場合は、セキュアトンネリングプロトコル (SSH) を使用した接続をお試しください。

接続名

接続を最もよく表すわかりやすい名前を入力してください。

追加先

[Navicat Cloud](#) または [On-Prem Server](#) にログインした後、My Connections またはプロジェクトへの接続を保存することを選択できます。

タイプ

Redis サーバーのタイプ: Standalone、Cluster または Sentinel。

ホスト

ホスト名、IP アドレスまたはサーバーの UNIX ドメインソケット

ポート

サーバーに接続するための TCP/IP ポート。

認証

Redis が接続の認証に使用する認証メカニズムを選択します。

None	認証なし。
Password	Redis サーバーが requirepass オプションによってパスワードで保護されている場合、 パスワード を入力します。
Username & Password	Redis ACL が使用されている場合、 ユーザー名とパスワード を入力します。

詳細設定

注意：以下のオプションは接続サーバーの種類に依存し、昇順でソートします。

自動接続する

アプリケーションの起動時に自動的に接続を開きます。

暗号名

暗号化された SQLite データベースに接続する場合は、暗号化アルゴリズムを選択します。

クライアント側の文字セット

Navicat で使用されるセッションクライアントのキャラクターセットを選択します。

クライアントドライババージョン

サーバーへの接続に使用されるクライアントドライバを選択します。デフォルトのドライバが機能しない場合は、この設定をレガシーに変更できます。

互換性

MySQL 接続の互換モードを設定するためには、互換性タブを有効にします。

接続タイムアウト

タイムアウトになる前に接続が確立されるまで待機する時間を指定します。

エンコード

Navicat UI に表示するデータを変換するためのコードページを選択します。

暗号化

暗号化された SQLite データベースに接続する場合、このオプションを有効にし、**パスワード**を提供してください。

実行タイムアウト

サーバー上でタスクの実行が完了するまでの待機時間を指定します。

最初のクエリ

サーバーに接続する時に実行される最初のクエリコマンドを指定します。

Keepalive 間隔 (秒)

ping を実行することによってサーバーとの接続を維持します。ping 間隔を編集ボックスに設定することができます。

接続セッションを制限

サーバーが許可する最大同時接続数を指定します。

ネイティブクライアント・ドライバー

接続に使用される SQL Server Native Client を選択します。

OS 認証

データベースユーザーの認証に OS ユーザーのログイン認証情報を使用します。

読み取りタイムアウト

読み取りを中止する前に、接続からのさらなるデータを待機する時間を指定します。

再試行可能な読み取り

このオプションを無効にして、接続文字列に"retryReads=false"を指定します。

再試行可能な書き込み

このオプションを無効にして、接続文字列に"retryWrites=false"を指定します。

ロール

データベースユーザーが、Default、SYSOPER、SYSDBA のいずれのシステム権限を用いて接続するかを示します。

サーバー選択タイムアウト

例外をスローする前にサーバー選択をブロックする時間を指定します。

設定の保存場所

新しい接続が確立されると、Navicat は設定の保存場所の下にサブフォルダを作成します。ほとんどのファイルはこのサブフォルダに保存されます：

設定の保存場所にあるファイル	サーバーの種類	ファイルの拡張子
集計パイプライン	MongoDB	.nagg
バックアップ	MySQL、PostgreSQL、SQLite、MariaDB	.nb3
	Redis	.nbr
バックアッププロファイル	MySQL	.nbakmysql

	PostgreSQL	.nbakpgsql
	SQLite	.nbaksqlite
	SQL Server	.nbakmssql
	MariaDB	.nbakmariadb
	Redis	.nbakredis
コレクションプロファイル	MongoDB	.ntablep
データポンプのエクスポートプロファイル	Oracle	.nbakora
データビュープロファイル	Redis	.ndvredis
ER ダイアグラムファイル	MySQL、Oracle、PostgreSQL、SQLite、SQL Server、MariaDB	.nmodel
マテリアライズド・ビューのエクスポートプロファイル	Oracle	.nexpmora
	PostgreSQL	.nexpmpgsql
クエリ結果のエクスポートプロファイル	MySQL	.nexpqmysql
	Oracle	.nexpqora
	PostgreSQL	.nexpqpgsql
	SQLite	.nexpqsqlite
	SQL Server	.nexpqmssql
	MariaDB	.nexpqmariadb
	MongoDB	.nexpqmongodb
テーブル/コレクションのエクスポートプロファイル	MySQL	.nexptmysql
	Oracle	.nexptora
	PostgreSQL	.nexptpgsql
	SQLite	.nexptsqllite
	SQL Server	.nexptmssql
	MariaDB	.nexptmariadb
	MongoDB	.nexptmongodb
ビュー結果のエクスポートプロファイル	MySQL	.nexpvmysql
	Oracle	.nexpvora
	PostgreSQL	.nexpvpgsql
	SQLite	.nexpvsqlite
	SQL Server	.nexpvmssql
	MariaDB	.nexpvmariadb
	MongoDB	.nexpvmongodb
テーブル/コレクションのインポートプロファイル	MySQL	.nimpmysql
	Oracle	.nimpora
	PostgreSQL	.nimpppgsql
	SQLite	.nimpsqllite
	SQL Server	.nimpmssql
	MariaDB	.nimpmariadb
	MongoDB	.nimpmongodb

MapReduce	MongoDB	.mapreduce
Pub/Sub	Redis	.npsbredis
Pub/Sub アーカイブファイル	Redis	.nrpsbmlog
クエリ	MySQL、Oracle、PostgreSQL、SQLite、SQL Server、MariaDB	.sql
	MongoDB	.js
	Redis	.redis
スキーマ分析	MongoDB	.nsatmongodb
テーブルプロファイル	MySQL、Oracle、PostgreSQL、SQLite、SQL Server、MariaDB	.ntablep

ソケットタイムアウト

非アクティブなソケットを閉じるまでの待機時間を指定します。

サーバー証明書を信頼する

サーバー証明書を検証する手順をスキップします。サーバー証明書は自動的に信頼されます。

圧縮を使用

圧縮プロトコルを使用することができます。クライアントとサーバーの両方が zlib 圧縮をサポートし、クライアントが圧縮を要求する場合に、圧縮プロトコルが使用されます。

暗号化を使用

SQL Server 接続に暗号化を使用します。

名前付きパイプ、ソケットを使用

ローカルホスト接続にソケットファイルを使用します。

書き込みタイムアウト

書き込みを中止する前に、ブロックが接続に書き込まれるまで待機する時間を指定します。

データベース/追加データベース設定

MySQL、Oracle、PostgreSQL、SQL Server、MariaDB、MongoDB、Redis

データベースタブでは、サーバーへの接続時にナビゲーションペインに表示されるデータベースを設定できます。これは必須ではありません。カスタムデータベース設定を使用し始めるためには、**カスタムデータベースリストを使用**にチェックを付けます。それから、**データベース**列の希望のデータベースにチェックを付けます。接続時に Navicat が自動的にデータベースを開くようにしたい場合、**自動オープン**ボックスにチェックを付けます。

非表示のデータベースをリストに追加

1. **DB をリストに追加**ボタンをクリックしてください。
2. データベース名を入力してください。
3. データベースリストに新たに追加されたデータベースを確認します。

リストからデータベースを削除

1. データベースリストのデータベースを選択します。
2. **DB をリストから削除**ボタンをクリックしてください。

注意：データベースはデータベースリストボックスから削除されるだけです。サーバーには存在したままです。

SQLite

追加データベースタブで、SQLite データベースファイルを接続に追加します。**データベースを追加**ボタンをクリックして情報を入力します。

オプション	説明
データベースファイル	データベースファイルのファイルパスを選択します。
データベース名	Navicat に表示するデータベース名を入力してください。
暗号化	このオプションにチェックを付け、データベースファイルが暗号化されている場合は パスワード を入力します。

データベースを切り離すためには、リストからそのデータベースを選択し、**データベースを切り離す**ボタンをクリックしてください。

SSL 設定

セキュア・ソケット・レイヤー（SSL）は、インターネットを介して非公開の文書を送信するためのプロトコルです。安全な接続を確保するために、まず最初に、OpenSSL ライブラリーをインストールし、データベースソースをダウンロードする必要があります。

注意:MySQL/PostgreSQL/MariaDB/MongoDB/Redis でのみ使用可能です。PostgreSQL 8.4 以降でサポートされています。

MySQL/MariaDB 接続

認証の詳細情報を提供するために、**認証を使用する**を有効にし、必要な情報を入力します：

クライアントキー

安全な接続を確立するために使用される PEM 形式の SSL キーファイル。

クライアント証明書

安全な接続を確立するために使用される PEM 形式の SSL 証明書ファイル。

CA 証明書

信頼される SSL 証明書発行元リストを含む PEM 形式のファイルへのパス。

CA に対するサーバー証明書の検証

サーバーがクライアントに送る証明書に含まれるサーバーの Common Name の値を確認します。

暗号鍵

SSL 暗号化に使用するための許容暗号鍵のリスト。

PostgreSQL 接続

SSL モードを選択します：

require	SSL 接続のみを試みます。
verify-ca	SSL 接続のみを試み、サーバー証明書が信頼される CA から発行されていることを検証します。
verify-full	SSL 接続のみを試み、サーバー証明書が信頼される CA から発行されていることと、そのサーバーのホスト名が証明書内のものと一致することを検証します。

認証の詳細情報を提供するために、**認証を使用する**を有効にし、必要な情報を入力します：

クライアントキー

クライアントプライベートキーのパス。

クライアント証明書

クライアント証明書のパス。

ルート証明書

信頼される証明書発行元のパス。

証明書失効リスト

SSL の証明書失効リスト（CRL : Certificate Revocation List）のファイルパス。

MongoDB 接続

認証の詳細情報を提供するために、**認証を使用する**を有効にし、必要な情報を入力します：

クライアントキー

安全な接続を確立するために使用される PEM 形式の SSL キーファイル。

クライアントキーのパスワード

キーファイルのパスワード。

全てのサーバーSSL 証明書を許可する

MongoDB サーバーがサーバーSSL 証明書を許可する場合は、このオプションをオンにします。

CA 証明書

信頼される SSL 証明書発行元リストを含む PEM 形式のファイルへのパス。

証明書失効リスト

SSL の証明書失効リスト (CRL : Certificate Revocation List) のファイルパス。

無効なホスト名の許可

SSL 証明書で無効なホスト名を許可するためにはこのオプションにチェックを付けます。

Redis 接続

認証の詳細情報を提供するために、**認証を使用する**を有効にし、必要な情報を入力します：

クライアントキー

安全な接続を確立するために使用される PEM 形式の SSL キーファイル。

クライアントキーのパスワード

キーファイルのパスワード。

全てのサーバーSSL 証明書を許可する

Redis サーバーがサーバーSSL 証明書を許可する場合は、このオプションをオンにします。

CA 証明書

信頼される SSL 証明書発行元リストを含む PEM 形式のファイルへのパス。

サーバー名表示

Redis サーバーへの SSL 接続を確立する時に使用される Server Name Indication (SNI) 値。

SSH 設定

Secure Shell (SSH) は、ネットワークを介して他のコンピューターにログインしたり、リモートサーバー上でコマンドを実行したり、ひとつのマシンから別のマシンへファイルを移動したりするためのプログラムです。SSH は、厳密な認証を提供し、また、**SSH ポート転送 (トンネリング)** として知られる、安全ではないネットワーク上での 2 つのホスト間の安全な暗号化通信を提供しています。一般的に、Telnet の暗号化バージョンとして使用されます。

Telnet のセッション内では、ユーザー名やパスワードを含む全ての通信はテキスト形式で送られるため、誰もがセッションを盗聴したり、パスワードや他の情報を盗むことができます。また、そのようなセッションはセッションハイジャックされやすく、一度認証したセッションが悪意のあるユーザーに支配されてしまいます。SSH はそのような脆弱性を防ぐ働きをします。そして、SSH によって、セキュリティを侵害されることなく、リモートサーバーのシェルにアクセスすることができます。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQL Server/MariaDB/MongoDB/Redis でのみ使用可能です。

Linux サーバーのパラメータ - "AllowTcpForwarding"の値が"yes"に設定されていることを確認してください。そうではない場合、SSH ポート転送が無効になります。そのパスは、/etc/ssh/sshd_config です。デフォルトで、SSH ポート転送は有効になっているはずですが、設定値を再確認してください。

サーバーが SSH トンネルをサポートしている場合でも、ポート転送が無効になっている場合、Navicat は、SSH ポート 22 を介して接続することはできません。

ホスト

SSH サーバーが起動しているホスト名。

注意 : 基本タブのホスト名は、お使いのデータベースホスティング会社によって提供される SSH サーバーに対して、相対的に設定されるべきです。

ポート

SSH サーバーが起動しているポート。デフォルトは 22 です。

ユーザー名

SSH サーバーマシンのユーザー。(データベースサーバーのユーザーではありません。)

ユーザー名を Navicat Cloud と同期

Navicat Cloud の接続を編集する時、ユーザー名を Cloud に同期することを選択できます。

認証方式

パスワード	SSH サーバーのユーザーのパスワードを提供します。
公開鍵	プライベートキー 公開鍵とともに使用されます。プライベートキーはユーザーのみが読めるはずですが。 パスフレーズ パスフレーズは、ユーザーが作成しているキーに適用されることと、アカウントではないこと以外は、パスワードと同じようなものです。

注意 : HTTP トンネルと SSH トンネルは、同時に機能させることはできません。HTTP トンネルを選択すると SSH トンネルは無効となり、またその逆も同じです。

HTTP 設定

HTTP トンネリングは、ウェブサーバーが使用しているものと同じプロトコル (http://) と同じポート (ポート 80) を使用して、サーバーに接続する方法です。お使いの ISP が直接接続を許可しておらず、HTTP 接続の確立を許可している場合に、この方法が使用されます。

注意 : MySQL/PostgreSQL/SQLite/MariaDB でのみ使用可能です。

トンネリングスクリプトのアップロード

この接続方法を使用するために、最初に、お使いのサーバーがあるウェブサーバーにトンネリングスクリプトをアップロードする必要があります。

注意 : `ntunnel_mysql.php` (MySQL と MariaDB 用)、または、`ntunnel_pgsql.php`、`ntunnel_sqlite.php` は、Navicat のインストールフォルダに含まれています。

HTTP トンネルの設定

HTTP 接続の設定方法について説明します。

1. HTTP タブを選択し、**HTTP トンネルを使用する**を有効にします。
2. トンネリングスクリプトの URL を入力します、
例えば、`http://www.navicat.com/ntunnel_mysql.php`
3. お使いのサーバーに Web Application Firewall がインストールされている場合、**送信クエリを base64 エンコードオプション**を選択することができます。
4. トンネルスクリプトがパスワードで保護されたサーバーに置かれている場合、または、プロキシサーバーを介してインターネットにアクセスしなければならない場合は、**認証**または**プロキシ**タブに必要な認証詳細情報を入力することができます。

注意 : HTTP トンネルと SSH トンネルは、同時に機能することはできません。HTTP トンネルを選択すると、SSH トンネルは無効となります。逆も同じです。

互換性設定

サーバーが MySQL のバリエーションであるか、プロキシミドルウェアがインストールされている場合は、互換モードを有効にして、接続に対応する設定を行うことができます。

注意 : MySQL でのみ使用可能です。

次として `lower_case_table_names` を強制する

`lower_case_table_name` システム変数の値を設定します。

次として `sql_mode` を強制する

`sql_mode` システム変数の値を設定します。

次として NDB Cluster のサポートを強制する

NDBCLUSTER ストレージエンジンのサポートを含めるか除外します。

次としてデータベースの一覧表示方法を強制する

SHOW DATABASES ステートメントを使用して、データベースを一覧表示するための情報を取得するか、INFORMATION_SCHEMA データベースから情報を選択します。



次としてビューの一覧表示方法を強制する

SHOW FULL TABLES ステートメントを使用して、テーブルを一覧表示するための情報を取得するか、INFORMATION_SCHEMA データベースから情報を選択します。

様々なプロファイルに接続

各接続に対してわずかに異なる接続設定の複数のプロファイルを作成できます。例えば、異なるデータベースユーザー。

接続プロファイルの作成


1. 接続ウィンドウで、 をクリックします。
2.  をクリックします。
3. プロファイルの名前を入力します。
4. 接続設定を入力します。
5. **確認**をクリックします。

プロファイルの切り替え

1. メインウィンドウで、接続を右クリックし、**接続プロファイルを切り替え**を選択します。
2. プロファイル名を選択します。


ヒント : 接続ウィンドウでデフォルトのアクティブプロファイルを設定することもできます。

接続の管理


接続の管理機能は、My Connections またはプロジェクト内の接続を一元的に管理する方法です。マネージャーを開くためには、**My Connections** またはプロジェクトにマウスを移動して  をクリックします。

注意 : 接続を管理ウィンドウで行った変更は、ナビゲーションペインにすぐに適用されます。

接続の作成



1. 接続を管理ウィンドウで、 **新しい接続**をクリックします。
2. 新しい接続ウィンドウで、サーバーの種類を選択し、**次**をクリックします。
3. 必要な情報を入力します。
4. **確認**をクリックします。

接続設定の編集



1. 接続を管理ウィンドウで、接続を選択します。
2.  **接続を編集**をクリックします。
3. 接続を編集ウィンドウで、接続情報を変更します。
4. **確認**をクリックします。

ヒント : **URI** をクリックすることにより、Navicat URI または MongoDB URI を表示／コピーできます。


接続にスターを付ける/スターを外す

1. 接続を管理ウィンドウで、スターを追加または削除したい接続を選択します。
2.  **スターを追加**または  **スターを削除**をクリックします。

接続の非表示／再表示

1. 接続を管理ウィンドウで、非表示または非表示解除したい接続を選択します。
2.  **非表示**または  **再表示**をクリックします。

接続の削除

1. 接続を管理ウィンドウで、削除したい接続を選択します。
2.  **接続を削除**をクリックします。
3. **削除**をクリックします。

接続情報の検索

Navicat を使用すると、アプリケーション内で特定の接続情報をすばやく検索できます。接続の詳細に関連するキーワードを検索することで、特定の接続を見つけることができます。接続名、ホスト名、IP アドレス、ポート番号、その他の関連設定などの接続情報を検索できます。

接続を管理ウィンドウで、検索文字列を**接続情報を検索**ボックスに入力するだけです。入力すると、検索結果が自動的に更新され、一致する全てのテキスト文字列が強調表示されます。

5 - サーバーオブジェクト

サーバーオブジェクトについて

Navicat は、データベースやテーブル、ビュー、ファンクションなどのサーバーオブジェクトを管理するための高性能なツールを提供しています。

いくつかのサーバーオブジェクトは Navicat によって非表示にされている可能性があります。これらのオブジェクトには、システムデータベースやシステムテーブル等が含まれます。非表示のアイテムを表示するためには、メニューバーから**表示 -> 隠しアイテムを表示する**を選択します。

注意： Navicat でサーバーオブジェクトの操作を開始する前に、まず接続を確立しなければなりません。

オブジェクトデザイナーでは、**SQLプレビュー**、**スクリプトプレビュー**、または**コマンドプレビュー**タブで、オブジェクトの作成または編集に必要な SQL ステートメント、スクリプト、またはコマンドをプレビューできます。一部のデータベースオブジェクトまたはスキーマオブジェクトでは、下部のドロップダウンリストを使用して、**ファイルメニュー**から**保存**または**名前を付けて保存**を選択した時に実行される SQL、スクリプト、またはコマンドを表示できます。

MySQL/MariaDB

データベース

サーバーオブジェクトの操作を開始する前に、接続を作成し、接続を開かなければなりません。サーバーが空の場合、新しいデータベースを作成する必要があります。

新しいデータベースを作成する


1. ナビゲーションペインで、接続を右クリックして、**新規データベース**を選択します。
2. ポップアップウィンドウにデータベースプロパティを入力します。

既存のデータベースを編集する

1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックして、**データベースを編集**を選択します。
2. ポップアップウィンドウでデータベースプロパティを編集します。

注意： 現在のところ、MySQL はそのインターフェースからのデータベースのリネームに対応していませんので、ご注意ください。データベースが保存されているディレクトリにアクセスしてください。デフォルトで、すべてのデータベースは MySQL インストールフォルダの下にある data と呼ばれるディレクトリに保存されます。例：C:\mysql\data。データベースをリネームする前に MySQL を停止しなければなりません。

テーブル

テーブルは、データベースのすべてのデータを含むデータベースオブジェクトです。テーブルは行と列のセットで、その交わる部分がフィールドです。メインウィンドウで、 **テーブル**をクリックしてテーブルオブジェクトリストを開きます。

グラフィックフィールドを持つテーブルを開く方法は 2 つあります。テーブルを右クリックし、以下を選択します。

オプション	説明
テーブルを開く	Navicat はテーブルを開く時にすべての BLOB フィールド (イメージ) をロードします。
テーブルを開く (高速)	セルがクリックされるまで BLOB フィールド (イメージ) はロードされませんので、より高速なパフォーマンスでグラフィカルテーブルを開くことができます。(テーブルを右クリックした時に SHIFT キーを押すまでは、デフォルトでそれは見えません。)

オブジェクトタブにあるテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルを開くショートカットを作成**を選択することによって、テーブルのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなくテーブルを開いて直接データを入力できるので、大変便利です。

テーブルを空にするためには、選択したテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルをクリア**を選択します。このオプションは、自動増加倍はリセットせずに既存のすべてのレコードをクリアしたい場合にのみ適用されます。テーブルを空にする時に自動増加倍をリセットするためには、**テーブルをトランケート**を使用してください。

テーブルデザイナー

テーブルデザイナーは、テーブルを操作するための Navicat の基本ツールです。テーブルのフィールドやインデックス、外部キーなどを作成、編集、削除することができます。

フィールドタブでは、**編集** -> **検索**を選択または CTRL+F を押すことによって、フィールド名を検索することができます。


注意：設計画面のタブとオプションはサーバーの種類とバージョンによって異なります。

テーブルビューワー

テーブルを開く時、**テーブルビューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

注意：トランザクションは、INNODB テーブルに対して使用可能です。





ビュー

ビューでは、ユーザーはそれが 1 つのテーブルであるかのようにテーブル一式にアクセスすることができます。ビューを使用して、行へのアクセスを制限することができます。メインウィンドウで、 **ビュー**をクリックしてビューオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるビューを右クリックし、ポップアップメニューから**ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接ビューを開くことができるので、大変便利です。

ビューデザイナー

ビューデザイナーは、ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブでビューの定義を SQL ステートメント（実装する SELECT ステートメント）として編集することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。SQL ファイルからエディタに SQL ステートメントをロードしたい場合、**ファイル -> SQL をインポート**を選択してください。

ボタン	説明
 プレビュー	ビューのデータをプレビューします。
 説明	ビューのクエリプランを表示します。
 ビュービルダ	視覚的にビューを作成します。SQL の知識がなくてもビューの新規作成や編集を行います。詳細については、 クエリビルダ をご覧ください。
 SQL を整形	エディタで SQL 整形の設定を使用してコードをフォーマットします。


ヒント : **表示 -> 結果 -> エディタの下に表示**または**新しいページに表示**を選択することによって、プレビュー結果をエディタの下または新しいタブに表示することを選択できます。

ビュービューワー


ビューを開く時、**ビュービューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます : グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

注意 : トランザクションは、更新可能なビューに対して使用可能です。

プロシージャ/ファンクション

プロシージャとファンクション（ストアド・ルーチン）は、MySQL 5.0 でサポートされています。ストアド・ルーチンは、サーバーに保存されることが可能な SQL 文の集まりです。メインウィンドウで、 **ファンクション**をクリックしてファンクションオブジェクトリストを開きます。

ファンクションウィザード

オブジェクトツールバーから、 **新規ファンクション**をクリックします。**ファンクションウィザード**がポップアップ画面で開きます。このウィザードを使用して、簡単にプロシージャ/ファンクションを作成することができます。


1. ルーチンの種類を選択します : **プロシージャ**または**ファンクション**。
2. パラメータを定義します。該当する列に、**モード**、**名前**、**タイプ**を設定します。
3. ファンクションを作成する場合、リストから**リターンタイプ**を選択し、該当する情報を入力します : **長さ**、**小数**、**キャラクターセット**、**Enum**。

ヒント : **次回ウィザードを表示**のチェックを外した場合、[オプション](#)で再度有効にすることができます。

ファンクションデザイナー


ファンクションデザイナーは、プロシージャ／ファンクションを操作するための Navicat の基本ツールです。定義タブに有効な SQL ステートメントを入力することができます。これは、SELECT または INSERT のような単純な文、または、BEGIN と END を使用して書かれた複合文の場合があります。複合文は、宣言、ループ、その他の制御定義文を含むことができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。

結果

プロシージャ／ファンクションを実行するために、ツールバーの  **実行**をクリックします。SQL 文が正しい場合、その文が実行されます。そして、その文がデータを返すことになっている場合、プロシージャ／ファンクションによって返されたデータを表示した**結果**タブが開きます。プロシージャ／ファンクションの実行時にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。プロシージャ／ファンクションが入力パラメータを必要とする場合、**パラメータを入力**ダイアログがポップアップ表示されます。入力された値をクォーテーションマークなしでプロシージャ／ファンクションに渡すためには、**Raw モード**にチェックを付けます。

注意 : Navicat は、20 個の結果セットの返信に対応しています。


テーブルスペース

InnoDB の一般テーブルスペースは、複数のテーブルを保持できる共有テーブルスペースであり、全てのテーブルの行フォーマットをサポートしています。InnoDB の undo テーブルスペースには、undo ログが含まれています。MySQL NDB Cluster では、テーブルスペースは 1 つ以上のデータファイルを含むことができ、NDB Cluster ディスクデータテーブルにストレージスペースを提供します。メインウィンドウで、 **その他** -> **テーブルスペース**をクリックしてテーブルスペースオブジェクトリストを開きます。

テーブルスペースビューワー

テーブルスペースデザイナーは、テーブルスペースを操作するための基本的な Navicat ツールです。テーブルエンジンの設定、データファイルの指定などができます。


イベント

イベントは、スケジュールに従って実行される処理です。メインウィンドウで、 **その他** -> **イベント**をクリックしてイベントオブジェクトリストを開きます。

イベントデザイナー

イベントデザイナーは、イベントを操作するための Navicat の基本ツールです。定義タブに有効な SQL プロシージャステートメントを入力することができます。これは、SELECT または INSERT のような単純な文、または、BEGIN と END を使用して書かれた複合文の場合があります。複合文は、宣言、ループ、その他の制御定義文を含むことができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。

その他のオブジェクト

Navicat では他の MySQL/MariaDB オブジェクトの管理も行えます:シーケンス。メインウィンドウで  **その他**をクリックし、オブジェクトを選択してオブジェクトリストを開きます。

注意: シーケンスは、MariaDB 10.3 以降で使用可能です。

オブジェクトの保守

Navicat は、MySQL/MariaDB のオブジェクトを保守するための完全なソリューションを提供しています。

1. メインウィンドウで、ナビゲーションペインまたはオブジェクトタブにあるオブジェクトを選択してください。
2. 選択されたオブジェクトを右クリックしてください。
3. **保守**を選択した後、ポップアップメニューから保守オプションを選択してください。
4. 結果はポップアップウィンドウに表示されます。

テーブル

オプション	説明
テーブルの分析	テーブルのキー分布を分析し、保存します。
テーブルの検査	エラーに関して、テーブルを検査します。
テーブルの最適化	ストレージスペースを減らし I/O 効率を向上させるために、テーブルを最適化します。
テーブルの修復	壊れている可能性のあるテーブルを修復します。
行数の取得	テーブルの行数を数えます。

テーブルスペース

オプション	説明
アクティブに設定	InnoDB の UNDO テーブルスペースをアクティブとしてマークします。
非アクティブに設定	InnoDB の UNDO テーブルスペースを非アクティブとしてマークします。


Oracle


スキーマ

サーバーオブジェクトの操作を開始する前に、接続を作成し、接続を開かなければなりません。ユーザーアカウントを作成する時、そのユーザーに対してスキーマも暗黙的に作成しています。スキーマは、そのユーザーが作成するデータベースオブジェクト（テーブル、ビュー、トリガーなど）のための論理的な入れ物です。スキーマ名はユーザー名と同じで、そのユーザーによって所有されるオブジェクトを明確に参照するために使用されます。

ヒント: Oracle は、引用符で囲まれていないオブジェクト識別子を大文字として解釈します。Navicat では、全てのオブジェクト識別子が引用符で囲まれます。つまり、Navicat は、入力したものを正確に保存します。

テーブル

テーブルは、データベースのすべてのデータを含むデータベースオブジェクトです。テーブルは行と列のセットで、その交わる部分がフィールドです。メインウィンドウで、 **テーブル**をクリックしてテーブルオブジェクトリストを開きます。

標準/外部/索引構成テーブルを作成することができます。オブジェクトツールバーから  **新規テーブル**の隣の下向き矢印をクリックし、テーブルの種類を選択します。

グラフィックフィールドを持つテーブルを開く方法は 2 つあります。テーブルを右クリックし、以下を選択します。

オプション	説明
テーブルを開く	Navicat はテーブルを開く時にすべての BLOB フィールド (イメージ) をロードします。
テーブルを開く (高速)	セルがクリックされるまで BLOB フィールド (イメージ) はロードされませんので、より高速なパフォーマンスでグラフィカルテーブルを開くことができます。(テーブルを右クリックした時に SHIFT キーを押すまでは、デフォルトでそれは見えません。)

オブジェクトタブにあるテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルを開くショートカットを作成**を選択することによって、テーブルのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなくテーブルを開いて直接データを入力できるので、大変便利です。

テーブルを空にするためには、選択したテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルをクリア**を選択します。このオプションは、自動増加倍はリセットせずに既存のすべてのレコードをクリアしたい場合にのみ適用されます。テーブルを空にする時に自動増加倍をリセットするためには、**テーブルをトランケート**を使用してください。

テーブルデザイナー

テーブルデザイナーは、テーブルを操作するための Navicat の基本ツールです。テーブルのフィールドやインデックス、外部キーなどを作成、編集、削除することができます。


フィールドタブでは、**編集** -> **検索**を選択または CTRL+F を押すことによって、フィールド名を検索することができます。新規テーブルを作成する時、フィールドを挿入したり、フィールドの順番を並び替えることが可能です。

注意 : 設計画面にあるタブやオプションは、サーバーのバージョンやテーブルの種類によって異なります。

テーブルビューワー

テーブルを開く時、**テーブルビューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます : グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。





ビュー

ビューでは、ユーザーはそれが 1 つのテーブルであるかのようにテーブル一式にアクセスすることができます。ビューを使用して、行へのアクセスを制限することができます。メインウィンドウで、 **ビュー**をクリックしてビューオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるビューを右クリックし、ポップアップメニューから**ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接ビューを開くことができるので、大変便利です。

ビューデザイナー

ビューデザイナーは、ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブでビューの定義を SQL ステートメント（実装する SELECT ステートメント）として編集することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。SQL ファイルからエディタに SQL ステートメントをロードしたい場合、**ファイル -> SQL をインポート**を選択してください。


ボタン	説明
 プレビュー	ビューのデータをプレビューします。
 説明	ビューのクエリプランを表示します。
 ビュービルダ	視覚的にビューを作成します。SQL の知識がなくてもビューの新規作成や編集を行います。詳細については、 クエリビルダ をご覧ください。
 SQL を整形	エディタで SQL 整形の設定を使用してコードをフォーマットします。

ヒント : **表示 -> 結果 -> エディタの下に表示**または**新しいページに表示**を選択することによって、プレビュー結果をエディタの下または新しいタブに表示することを選択できます。

ビュービューワー

ビューを開く時、**ビュービューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

マテリアライズド・ビュー

マテリアライズド・ビューは、データの集約、計算、複製、分散に使用されるスキーマオブジェクトです。メインウィンドウで、 **マテリアライズド・ビュー**をクリックしてマテリアライズド・ビューオブジェクトリストを開きます。





オブジェクトタブにあるマテリアライズド・ビューを右クリックし、ポップアップメニューから**マテリアライズド・ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接マテリアライズド・ビューを開くことができるので、大変便利です。

マテリアライズドビューをリフレッシュするためには、オブジェクトタブで右クリックし、ポップアップメニューから**マテリアライズドビューを更新**を選択します。

マテリアライズド・ビューデザイナー

マテリアライズド・ビューデザイナーは、マテリアライズド・ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブでビューの定義を SQL ステートメント（実装する SELECT ステートメント）として編集することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。SQL ファイルからエディタに SQL ステートメントをロードしたい場合、**ファイル -> SQL をインポート**を選択してください。

ボタン	説明
-----	----


 プレビュー	マテリアライズド・ビューのデータをプレビューします。
 説明	マテリアライズド・ビューのクエリプランを表示します。
 ビュービルダ	視覚的にマテリアライズド・ビューを作成します。SQL の知識がなくてもビューの新規作成や編集を行えます。詳細については、 クエリビルダ をご覧ください。
 SQL を整形	エディタで SQL 整形の設定を使用してコードをフォーマットします。

ヒント: **表示** -> **結果** -> **エディタの下に表示**または**新しいページに表示**を選択することによって、プレビュー結果をエディタの下または新しいタブに表示することを選択できます。


マテリアライズド・ビュービューワー

マテリアライズド・ビューを開く時、**マテリアライズド・ビュービューワー**はグリッドでデータを表示します。データを2つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

プロシージャ/ファンクション

プロシージャとファンクションは、SQL ステートメントの集まりで構成されるスキーマオブジェクトであり、サーバーに保存されます。メインウィンドウで、 **ファンクション**をクリックしてファンクションオブジェクトリストを開きます。

ファンクションウィザード

オブジェクトツールバーから、 **新規ファンクション**をクリックします。**ファンクションウィザード**がポップアップ画面で開きます。このウィザードを使用して、簡単にプロシージャ/ファンクションを作成することができます。

1. ルーチンの**名前**を指定します。ルーチンの種類を選択します：**プロシージャ**または**ファンクション**。
2. パラメータを定義します。該当する列に、**名前**、**タイプ**、**モード**、**デフォルト値**/パラメータを設定します。
3. ファンクションを作成する場合、リストから**リターンタイプ**を選択します。




ヒント: **次回ウィザードを表示**のチェックを外した場合、[オプション](#)で再度有効にすることができます。




ファンクションデザイナー

ファンクションデザイナーは、プロシージャ/ファンクションを操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブに有効な SQL ステートメントを入力することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。


コードアウトラインペインには、パラメータやコード本体などを含むプロシージャ/ファンクションに関する情報が表示されます。コードアウトラインペインが非表示の場合、**表示** -> **コードアウトライン**を選択します。

注意: Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能です。

ボタン	説明
	コードアウトラインを更新します。
	コードアウトラインの詳細ビューを表示します。
	マウスオーバー時の強調表示を on または off に変更します。




	選択アイテムを展開します。
	選択アイテムを折りたたみます。
	位置によるソートを切り替えます。

結果


プロシージャ/ファンクションを実行するために、ツールバーの  **実行** をクリックします。SQL 文が正しい場合、その文が実行されます。そして、その文がデータを返すことになっている場合、プロシージャ/ファンクションによって返されたデータを表示した **DBMS 出力** タブが開きます。プロシージャ/ファンクションの実行時にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。プロシージャ/ファンクションが入力パラメータを必要とする場合、**パラメータを入力** ダイアログがポップアップ表示されます。入力された値をクォーテーションマークなしでプロシージャ/ファンクションに渡すためには、**Raw モード** にチェックを付けます。

注意 : Navicat は、20 個の結果セットの返信に対応しています。



デバッグ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)


各行横のグレーのエリアで  をクリックすることによって、デバッグ用のブレークポイントを追加/削除することができます。デバッグする前に、 **デバッグとして保存** をクリックして保存し、プロシージャ/ファンクションをコンパイルします。その後、ツールバーの  **デバッグ** をクリックして [Oracle デバッグ](#) を起動します。必要に応じて、入力パラメータを入力します。

パッケージ

パッケージは、関連するプロシージャ、ストアドファンクションや、データベースと一緒に格納される他のプログラムオブジェクトの集まりで、カプセル化されています。パッケージは、2 つの部分から構成されています：仕様とボディです。メインウィンドウで、 **その他** -> **パッケージ** をクリックしてパッケージオブジェクトリストを開きます。

パッケージデザイナーとパッケージボディデザイナー



パッケージデザイナー と **パッケージボディデザイナー** は、パッケージを操作するための Navicat の基本ツールです。パッケージデザイナーでパッケージを保存した後、 **新規パッケージボディ** または  **パッケージボディを設計** をクリックしてそのパッケージボディを編集することができます。





同様に、パッケージボディデザイナーで  **パッケージ仕様を設計** をクリックしてそのパッケージの仕様を編集することができます。

定義 タブに有効な SQL ステートメントを入力することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#) をご覧ください。


コードアウトライン ペインには、ファンクションやプロシージャ、パラメータ、コード本体などを含むパッケージ/パッケージボディに関する情報が表示されます。コードアウトラインペインが非表示の場合、**表示** -> **コードアウトライン** を選択します。

注意 : Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能です。




ボタン	説明
	コードアウトラインを更新します。
	コードアウトラインの詳細ビューを表示します。

	マウスオーバー時の強調表示を on または off に変更します。
	選択アイテムを展開します。
	選択アイテムを折りたたみます。
	位置によるソートを切り替えます。


結果

パッケージを実行するためには、ツールバーの  **実行** をクリックします。SQL 文が正しい場合、その文が実行されます。そして、その文がデータを返すことになっている場合、パッケージによって返されたデータを表示した **DBMS 出力** タブが開きます。パッケージの実行中にエラーが発生した場合、実行は中止され、適切なエラーメッセージが表示されます。パッケージが入力パラメータを必要とする場合、**パラメータを入力** ダイアログがポップアップ表示されます。


デバッグ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

各行横のグレーのエリアで  をクリックすることによって、デバッグ用のブレークポイントを追加/削除することができます。デバッグする前に、 **デバッグとして保存** をクリックして保存し、パッケージをコンパイルします。その後、ツールバーの  **デバッグ** をクリックして [Oracle デバッガ](#) を起動します。必要に応じて、入力パラメータを入力します。


リサイクルビン

リサイクルビンは、削除されたテーブルと関連付けられたオブジェクト（インデックス、制約、ネストされたテーブルなど）から構成されます。メインウィンドウで、 **その他-> リサイクルビン** をクリックしてリサイクルビンオブジェクトリストを開きます。

テーブルを復元する

1. オブジェクトタブで、テーブルを選択します。
2.  **テーブルをフラッシュバック** をクリックします。

オブジェクトを削除する

1. オブジェクトタブで、削除するオブジェクトを選択します。
2.  **オブジェクトを削除** をクリックします。
3. ダイアログウィンドウが開くので、確認して削除します。

すべてのオブジェクトを削除する


1. オブジェクトタブで右クリックし、ポップアップメニューから **リサイクルビンを削除** を選択します。
2. ダイアログウィンドウが開くので、確認して削除します。

全ユーザーのすべてのオブジェクトを削除する

1. SYSDBA 権限を持つユーザーでログインします。
2. オブジェクトタブで右クリックし、ポップアップメニューから **DBA リサイクルビンを削除** を選択します。

3. ダイアログウィンドウが開くので、確認して削除します。

その他のオブジェクト

Navicat では他の Oracle オブジェクトの管理も行えます : データベースリンク、インデックス、Java、マテリアライズドビュー、シークェンス、シノニム、タイプ、XML スキーマ、ディレクトリ、パブリックデータベースリンク、パブリックシノニム、テーブルスペース。メインウィンドウで、 **その他**をクリックし、オブジェクトを選択してオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトの保守

Navicat は、Oracle のオブジェクトを保守するための完全なソリューションを提供しています。

1. メインウィンドウで、ナビゲーションペインまたはオブジェクトタブにあるオブジェクトを選択してください。
2. 選択されたオブジェクトを右クリックしてください。
3. **保守**を選択した後、ポップアップメニューから保守オプションを選択してください。
4. 結果はポップアップウィンドウに表示されます。

テーブル

オプション	説明
テーブルロックを有効にする	テーブルに対する DDL 操作を許可します。
テーブルロックを無効にする	テーブルに対する DDL 操作をできないようにします。
行移動を有効にする	データベースが行を移動できるようにします。その結果、rowid は変更されます。
行移動を無効にする	データベースが行を移動できなくします。その結果、rowid の変更を防ぎます。
領域の圧縮	テーブル内のスペースを縮小します。
移動	テーブルのデータを移動します。
統計情報を収集	テーブルの内容を分析します。
構造を確認	テーブル構造の整合性を検証します。

ビュー

オプション	説明
コンパイル	ビューの仕様またはボディを再コンパイルします。

プロシージャ/ファンクション

オプション	説明
コンパイル	仕様またはボディを再コンパイルします。
デバッグ用にコンパイル	仕様またはボディを再コンパイルします。PL/SQL デバッガが使用するためにコードを生成し保存するように PL/SQL コンパイラに対して指示します。

インデックス

オプション	説明
-------	----

再構築	インデックス、または、そのパーティションまたはサブパーティションの1つを再作成します。
使用不可にする	インデックスを使用不可にします。
結合	可能であればインデックスブロックの内容をマージして再利用のためにブロックを解放します。
統計情報を算出	インデックスの統計情報を算出します。
使用状況を監視する	インデックスの監視を開始します。
使用状況を監視しない	インデックスの監視を終了します。

Java

オプション	説明
Compile / Resolve	主要な Java クラスのスキーマオブジェクトを解決します。
AuthID Current User を設定	AUTHID CURRENT_USER に Invoker 権限を設定します。
AuthID Definer を設定	AUTHID DEFINER に Invoker 権限を設定します。

マテリアライズド・ビュー

オプション	説明
行移動を有効にする	データベースが行を移動できるようにします。その結果、rowid は変更されます。
行移動を無効にする	データベースが行を移動できなくします。その結果、rowid の変更を防ぎます。
圧縮	マテリアライズド・ビューのセグメントを圧縮します。
コンパイル	マテリアライズドビューを再確認します。
強制更新	マテリアライズドビューを更新。

マテリアライズド・ビュー・ログ

オプション	説明
行移動を有効にする	データベースが行を移動できるようにします。その結果、rowid は変更されます。
行移動を無効にする	データベースが行を移動できなくします。その結果、rowid の変更を防ぎます。
領域の圧縮	マテリアライズド・ビュー・ログのセグメントを圧縮します。

パッケージ

オプション	説明
コンパイル	パッケージの仕様またはボディを再コンパイルします。
デバッグ用にコンパイル	パッケージの仕様またはボディを再コンパイルします。PL/SQL デバッガが使用するためにコードを生成し保存するように PL/SQL コンパイラに対して指示します。

トリガー

オプション	説明
有効にする	トリガーを有効にします。
無効にする	トリガーを無効にします。
コンパイル	トリガーを再コンパイルします。
デバッグ用にコンパイル	トリガーを再コンパイルします。PL/SQL デバッガが使用するためにコードを生成

	し保存するように PL/SQL コンパイラに対して指示します。
--	---------------------------------

タイプ

オプション	説明
コンパイル	タイプの仕様またはボディを再コンパイルします。
デバッグ用にコンパイル	タイプの仕様またはボディを再コンパイルします。PL/SQL デバッガが使用するためにコードを生成し保存するように PL/SQL コンパイラに対して指示します。

XML スキーマ

オプション	説明
コンパイル	すでに登録された XML スキーマを再コンパイルします。
削除	Oracle XML データベースから XML スキーマを完全に削除します。

テーブルスペース

オプション	説明
読み取り専用	テーブルスペースを推移読み取り専用モードにセットします。
読み書き	以前は読み取り専用だったテーブルスペースへの書き込み操作を許可します。
オンライン	テーブルスペースをオンラインにします。
オフライン	テーブルスペースをオフラインにします。
結合	テーブルスペースの各データファイルに関して、全ての隣接する空き領域を、より大きな隣接領域に結合します。
領域の圧縮	テーブルスペースが取っている総領域を削減します。

PostgreSQL

データベースとスキーマ

サーバーオブジェクトの操作を開始する前に、接続を作成し、接続を開かなければなりません。サーバーが空の場合、新しいデータベースや新しいスキーマを作成する必要があります。

新しいデータベースを作成する

1. ナビゲーションペインで、接続を右クリックし、**新規データベース**を選択します。
2. ポップアップウィンドウにデータベースプロパティを入力します。

既存のデータベースを編集する

1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックして、**データベースを編集**を選択します。
2. ポップアップウィンドウでデータベースプロパティを編集します。


新しいスキーマを作成する


1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックして、**新規スキーマ**を選択します。
2. ポップアップウィンドウでスキーマプロパティを入力します。

既存のスキーマを編集する

1. ナビゲーションペインで、スキーマを右クリックして、**スキーマを編集**を選択します。
2. ポップアップウィンドウでスキーマプロパティを編集します。

テーブル

テーブルは、データベースのすべてのデータを含むデータベースオブジェクトです。テーブルは行と列のセットで、その交わる部分がフィールドです。メインウィンドウで、 **テーブル**をクリックしてテーブルオブジェクトリストを開きます。

標準/外部/パーティションテーブルを作成することができます。オブジェクトツールバーから  **新規テーブル**の隣の下向き矢印をクリックし、テーブルの種類を選択します。

グラフィックフィールドを持つテーブルを開く方法は 2 つあります。テーブルを右クリックし、以下を選択します。

オプション	説明
テーブルを開く	Navicat はテーブルを開く時にすべての BLOB フィールド (イメージ) をロードします。
テーブルを開く (高速)	セルがクリックされるまで BLOB フィールド (イメージ) はロードされませんので、より高速なパフォーマンスでグラフィカルテーブルを開くことができます。(テーブルを右クリックした時に SHIFT キーを押すまでは、デフォルトでそれは見えません。)

オブジェクトタブにあるテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルを開くショートカットを作成**を選択することによって、テーブルのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなくテーブルを開いて直接データを入力できるので、大変便利です。

テーブルを空にするためには、選択したテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルをクリア**を選択します。このオプションは、自動増加倍はリセットせずに既存のすべてのレコードをクリアしたい場合にのみ適用されます。テーブルを空にする時に自動増加倍をリセットするためには、**テーブルをトランケート**を使用してください。

テーブルデザイナー

テーブルデザイナーは、テーブルを操作するための Navicat の基本ツールです。テーブルのフィールドやインデックス、外部キーなどを作成、編集、削除することができます。


フィールドタブでは、**編集** -> **検索**を選択または CTRL+F を押すことによって、フィールド名を検索することができます。新規テーブルを作成する時、フィールドを挿入したり、フィールドの順番を並び替えることが可能です。

注意：設計画面にあるタブやオプションは、サーバーのバージョンやテーブルの種類によって異なります。

テーブルビューワー

テーブルを開く時、**テーブルビューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。





ビュー

ビューでは、ユーザーはそれが 1 つのテーブルであるかのようにテーブル式にアクセスすることができます。ビューを使用して、行へのアクセスを制限することができます。メインウィンドウで、 **ビュー**をクリックしてビューオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるビューを右クリックし、ポップアップメニューから**ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接ビューを開くことができるので、大変便利です。

ビューデザイナー

ビューデザイナーは、ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブでビューの定義を SQL ステートメント（実装する SELECT ステートメント）として編集することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。SQL ファイルからエディタに SQL ステートメントをロードしたい場合、**ファイル -> SQL をインポート**を選択してください。


ボタン	説明
 プレビュー	ビューのデータをプレビューします。
 説明	ビューのクエリプランを表示します。
 ビュービルダ	視覚的にビューを作成します。SQL の知識がなくてもビューの新規作成や編集を行えます。詳細については、 クエリビルダ をご覧ください。
 SQL を整形	エディタで SQL 整形の設定を使用してコードをフォーマットします。

ヒント: **表示 -> 結果 -> エディタの下に表示**または**新しいページに表示**を選択することによって、プレビュー結果をエディタの下または新しいタブに表示することを選択できます。

ビュービューワー

ビューを開く時、**ビュービューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

マテリアライズド・ビュー





マテリアライズド・ビューは、データの集約、計算、複製、分散に使用されるスキーマオブジェクトです。メインウィンドウで、 **マテリアライズド・ビュー**をクリックしてマテリアライズド・ビューオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるマテリアライズド・ビューを右クリックし、ポップアップメニューから**マテリアライズド・ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接マテリアライズド・ビューを開くことができるので、大変便利です。

マテリアライズドビューの内容をリフレッシュし、完全に置換するためには、オブジェクトタブで右クリックし、ポップアップメニューから**マテリアライズドビューを更新 -> データ**または**データなし**を選択します。

マテリアライズド・ビューデザイナー

マテリアライズド・ビューデザイナーは、マテリアライズド・ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。定義タブでビューの定義を SQL ステートメント（実装する SELECT ステートメント）として編集することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。SQL ファイルからエディタに SQL ステートメントをロードしたい場合、**ファイル -> SQL をインポート**を選択してください。


ボタン	説明
 プレビュー	マテリアライズド・ビューのデータをプレビューします。
 説明	マテリアライズド・ビューのクエリプランを表示します。
 ビュービルダ	視覚的にマテリアライズド・ビューを作成します。SQL の知識がなくてもビューの新規作成や編集を行えます。詳細については、 クエリビルダ をご覧ください。
 SQL を整形	エディタで SQL 整形の設定を使用してコードをフォーマットします。

ヒント: 表示 -> 結果 -> エディタの下に表示または新しいページに表示を選択することによって、プレビュー結果をエディタの下または新しいタブに表示することを選択できます。


マテリアライズド・ビュービューワー

マテリアライズド・ビューを開く時、マテリアライズド・ビュービューワーはグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

プロシージャ/ファンクション

プロシージャとファンクションは、SQL ステートメントのセットで構成されるスキーマオブジェクトであり、サーバーに保存されます。プロシージャは PostgreSQL 11 でサポートされています。メインウィンドウで、 **ファンクション**をクリックしてファンクションオブジェクトリストを開きます。

ファンクションウィザード

オブジェクトツールバーから、 **新規ファンクション**をクリックします。ファンクションウィザードがポップアップ画面で開きます。このウィザードを使用して、簡単にファンクションを作成することができます。


1. ルーチンの種類を選択します：**プロシージャ**または**ファンクション**。
2. パラメータを定義します。対応する列に、**モード**、**タイプ**のスキーマ、**タイプ**、**名前**、**デフォルト値**を設定します。
3. ファンクションを作成する場合、リストから**スキーマ**と**戻り値のタイプ**を選択します。

ヒント: 次回ウィザードを表示のチェックを外した場合、[オプション](#)で再度有効にすることができます。

ファンクションデザイナー

ファンクションデザイナーは、プロシージャ/ファンクションを操作するための Navicat の基本ツールです。定義タブに有効な SQL ステートメントを入力することができます。これは、SELECT または INSERT のような単純な文、または、BEGIN と END を使用して書かれた複合文の場合があります。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。

結果


プロシージャ/ファンクションを実行するために、ツールバーの  **実行**をクリックします。SQL 文が正しい場合、その文が実行されます。そして、その文がデータを返すことになっている場合、プロシージャ/ファンクションによって返されたデータを表示した**結果**タブが開きます。プロシージャ/ファンクションの実行時にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。プロシージャ/ファンクションが入力パラメータを必要とする場合、**パラメータを入力**ダイアログがポップアップ表示されます。入力された値をクォーテーションマークなしでプロシージャ/ファンクションに渡すためには、**Raw モード**にチェックを付けます。

注意：Navicat は、20 個の結果セットの返信に対応しています。

デバッグ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)


PL/pgSQL プロシージャ/ファンクションをデバッグする前に、pldbgapi 拡張機能をインストールする必要があります。ファンクションオブジェクトリストで右クリックし、**pldbgapi 拡張機能をインストール**を選択します。


注意：このオプションは PostgreSQL 9.1 以降でのみ使用可能です。サーバーが PostgreSQL 8.3~9.0 の場合、サーバーでデバッグプラグインを手動で有効にする必要があります。

次に、PL/pgSQL プロシージャ/ファンクションを開きます。各行横のグレーのエリアで  をクリックすることによって、デバッグ用のブレークポイントを追加/削除することができます。

ツールバーの  **デバッグ**をクリックして、[PostgreSQL デバッグ](#)を起動させます。

タイプ

タイプは、現在のデータベースで使用する新しいデータタイプを登録します。メインウィンドウで、 **その他** -> **タイプ**をクリックしてタイプオブジェクトリストを開きます。


基本/**複合**/**Enum**/**範囲**タイプを作成することができます。オブジェクトツールバーから  **新規タイプ**の隣の下向き矢印をクリックし、タイプを選択します。

タイプデザイナー

タイプデザイナーは、タイプを操作するための Navicat の基本ツールです。タイプの作成または編集を許可します。

注意：設計画面にあるタブやオプションは、サーバーのバージョンや選択されたタイプによって異なります。

外部サーバー


外部サーバーは、通常、外部データラッパーが外部のデータリソースにアクセスするために使用する接続情報をカプセル化します。メインウィンドウで、 **その他** -> **外部サーバー**をクリックして外部サーバーオブジェクトリストを開きます。

外部 PostgreSQL サーバーに保存されたデータにアクセスするための postgres_fdw 拡張機能をインストールするためには、外部サーバーのオブジェクトリストで右クリックし、**postgres_fdw 拡張機能をインストール**を選択します。

外部サーバーデザイナー

外部サーバーデザイナーは、外部サーバーを操作するための Navicat の基本ツールです。外部サーバーの作成または編集を許可します。

その他のオブジェクト

Navicat では他の PostgreSQL オブジェクトの管理も行えます：集約関数、変換、インデックス、演算子、演算子クラス、シーケンス、トリガー、テーブルスペース、キャスト、言語。メインウィンドウで、 **その他**をクリックし、オブジェクトを選択してオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトの保守

Navicat は、PostgreSQL のオブジェクトを保守するための完全なソリューションを提供しています。

1. メインウィンドウで、ナビゲーションペインまたはオブジェクトタブにあるオブジェクトを選択してください。
2. 選択されたオブジェクトを右クリックしてください。
3. **保守**を選択した後、ポップアップメニューから保守オプションを選択してください。
4. 結果はポップアップウィンドウに表示されます。

データベース

オプション	説明
許可する	ユーザーはデータベースに接続することができます。
許可しない	どのユーザーもデータベースに接続することができません。
データベースの分析	データベースに関する統計を収集します。
データベースのバキューム	データベースをガベージコレクションし、任意で分析します。
データベースのインデックス再構築	データベース内のすべてのインデックスを再作成します。

テーブル/マテリアライズド・ビュー

オプション	説明
テーブルの分析/マテリアライズド・ビューの分析	テーブルの内容に関する統計を収集します。
テーブルのバキューム/マテリアライズド・ビューのバキューム	テーブルをガベージコレクションし、任意で分析します。
テーブルのインデックス再構築/マテリアライズド・ビューのインデックス再構築	テーブルのすべてのインデックスを再作成します。

拡張機能の管理

PostgreSQL には様々な拡張機能があり、データベースの機能を拡張するための追加の関数、演算子、または型を提供します。お使いの PostgreSQL サーバーでサポートされている拡張機能をインストールできます。

拡張機能をインストールする

1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックし、**拡張機能を管理**を選択します。
2. 利用可能な全ての拡張機能が左側に一覧表示されます。使用可能な拡張機能をインストール済みリストに移動します。
3. **確認**をクリックします。

拡張機能を削除する

1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックし、**拡張機能を管理**を選択します。
2. インストールされている拡張機能を利用可能リストに移動します。
3. **確認**をクリックします。

SQL Server

データベースとスキーマ

サーバーオブジェクトの操作を開始する前に、接続を作成し、接続を開かなければなりません。サーバーが空の場合、新しいデータベースや新しいスキーマを作成する必要があります。

新しいデータベースを作成する

1. ナビゲーションペインで、接続を右クリックして、**新規データベース**を選択します。
2. ポップアップウィンドウにデータベースプロパティを入力します。

既存のデータベースを編集する

1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックして、**データベースを編集**を選択します。
2. ポップアップウィンドウでデータベースプロパティを編集します。

新しいスキーマを作成する


1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックして、**新規スキーマ**を選択します。
2. ポップアップウィンドウにスキーマプロパティを入力します。

既存のスキーマを編集する

1. ナビゲーションペインで、スキーマを右クリックして、**スキーマを編集**を選択します。

2. ポップアップウィンドウにスキーマプロパティを編集します。

テーブル

テーブルは、データベースのすべてのデータを含むデータベースオブジェクトです。テーブルは行と列のセットで、その交わる部分がフィールドです。メインウィンドウで、 **テーブル**をクリックしてテーブルオブジェクトリストを開きます。

グラフィックフィールドを持つテーブルを開く方法は 2 つあります。テーブルを右クリックし、以下を選択します。

オプション	説明
テーブルを開く	Navicat はテーブルを開く時にすべての BLOB フィールド（イメージ）をロードします。
テーブルを開く(高速)	セルがクリックされるまで BLOB フィールド（イメージ）はロードされませんので、より高速なパフォーマンスでグラフィカルテーブルを開くことができます。（テーブルを右クリックした時に SHIFT キーを押すまでは、デフォルトでそれは見えません。）

オブジェクトタブにあるテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルを開くショートカットを作成**を選択することによって、テーブルのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなくテーブルを開いて直接データを入力できるので、大変便利です。

テーブルを空にするためには、選択したテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルをクリア**を選択します。このオプションは、自動増加倍はリセットせずに既存のすべてのレコードをクリアしたい場合にのみ適用されます。テーブルを空にする時に自動増加倍をリセットするためには、**テーブルをトランケート**を使用してください。

テーブルデザイナー

テーブルデザイナーは、テーブルを操作するための Navicat の基本ツールです。テーブルのフィールドやインデックス、外部キーなどを作成、編集、削除することができます。


フィールドタブでは、**編集** -> **検索**を選択または CTRL+F を押すことによって、フィールド名を検索することができます。新規テーブルを作成する時、フィールドを挿入したり、フィールドの順番を並び替えることが可能です。

注意：設計画面にあるタブやオプションは、サーバーのバージョンによって異なります。

テーブルビューワー

テーブルを開く時、**テーブルビューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。





ビュー

ビューでは、ユーザーはそれが 1 つのテーブルであるかのようにテーブル一式にアクセスすることができます。ビューを使用して、行へのアクセスを制限することができます。メインウィンドウで、 **ビュー**をクリックしてビューオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるビューを右クリックし、ポップアップメニューから**ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接ビューを開くことができるので、大変便利です。

ビューデザイナー

ビューデザイナーは、ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。定義タブでビューの定義を SQL ステートメント (実装する SELECT ステートメント) として編集することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。SQL ファイルからエディタに SQL ステートメントをロードしたい場合、**ファイル -> SQL をインポート**を選択してください。


ボタン	説明
 プレビュー	ビューのデータをプレビューします。
 説明	ビューのクエリプランを表示します。
 ビュービルダ	視覚的にビューを作成します。SQL の知識がなくてもビューの新規作成や編集を行えます。詳細については、 クエリビルダ をご覧ください。
 SQL を整形	エディタで SQL 整形の設定を使用してコードをフォーマットします。

ヒント: **表示 -> 結果 -> エディタの下に表示**または**新しいページに表示**を選択することによって、プレビュー結果をエディタの下または新しいタブに表示することを選択できます。


ビュービューワー

ビューを開く時、ビュービューワーはグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます: グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

プロシージャ/ファンクション

プロシージャとファンクションは、SQL ステートメントの集まりで構成されるスキーマオブジェクトであり、サーバーに保存されます。メインウィンドウで、 **ファンクション**をクリックしてファンクションオブジェクトリストを開きます。

ファンクションウィザード

オブジェクトツールバーから、 **新規ファンクション**をクリックします。ファンクションウィザードがポップアップ画面で開きます。このウィザードを使用して、簡単にプロシージャ/ファンクションを作成することができます。

1. ルーチンの**名前**を指定し、ルーチンの種類を選択します: **プロシージャ**または**ファンクション**。
2. パラメータを定義します。該当する列に、**名前**、**タイプのスキーマ**、**タイプ**、**デフォルト値**、**出力**、**読み取り専用パラメータ**を設定します。
3. ファンクションを作成する場合、リストから**ファンクションのタイプ**を選択します。必要に応じて、リストから**スキーマ**と**リターンタイプ**を選択します。
4. 詳細オプションを設定します。







ヒント: **次回ウィザードを表示**のチェックを外した場合、[オプション](#)で再度有効にすることができます。

ファンクションデザイナー


ファンクションデザイナーは、プロシージャ／ファンクションを操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブに有効な SQL ステートメントを入力することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。

コードアウトラインペインには、パラメータやコード本体などを含むプロシージャ／ファンクションに関する情報が表示されます。コードアウトラインペインが非表示の場合、**表示** -> **コードアウトライン**を選択します。

注意 : Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能です。


ボタン	説明
	コードアウトラインを更新します。
	コードアウトラインの詳細ビューを表示します。
	マウスオーバー時の強調表示を on または off に変更します。
	選択アイテムを展開します。
	選択アイテムを折りたたみます。
	位置によるソートを切り替えます。

結果

プロシージャ／ファンクションを実行するために、ツールバーの  **実行**をクリックします。SQL 文が正しい場合、その文が実行されます。そして、その文がデータを返すことになっている場合、プロシージャ／ファンクションによって返されたデータを表示した**結果**タブが開きます。プロシージャ／ファンクションの実行時にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。プロシージャ／ファンクションが入力パラメータを必要とする場合、**パラメータを入力**ダイアログがポップアップ表示されます。入力された値をクォーテーションマークなしでプロシージャ／ファンクションに渡すためには、**Raw モード**にチェックを付けます。

注意 : Navicat は、20 個の結果セットの返信に対応しています。

その他のオブジェクト

Navicat では他の SQL Server オブジェクトの管理も行えます : インデックス、シノニム、トリガー、バックアップデバイス、リンクサーバー、サーバートリガー、アセンブリ、データベーストリガー、パーティション関数、パーティションスキーマ。メインウィンドウで、 **その他**をクリックし、オブジェクトを選択してオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトの保守

Navicat は、SQL Server のオブジェクトを保守するための完全なソリューションを提供しています。

1. メインウィンドウで、ナビゲーションペインまたはオブジェクトタブにあるオブジェクトを選択してください。
2. 選択されたオブジェクトを右クリックしてください。
3. **保守**を選択した後、ポップアップメニューから保守オプションを選択してください。
4. 結果はポップアップウィンドウに表示されます。

データベース

オプション	説明
読み書き	データベースを読み取りモードと書き込みモードに設定します。
読み取り専用	データベースを読み取り専用モードに設定します。
オンライン	データベースをオンラインにします。
オフライン	データベースをオフラインにします。
EMERGENCY	データベースを EMERGENCY 状態に設定します。
マルチユーザー	データベースをマルチユーザーモードに設定します。
シングルユーザー	データベースをシングルユーザーモードに設定します。
制限ユーザー	データベースを制限ユーザーモードに設定します。

アセンブリ

オプション	説明
可視	アセンブリを可視に設定します。
不可視	アセンブリを不可視に設定します。

インデックス

オプション	説明
再構築	インデックスを再構築し有効にします。
再編成	有効なインデックスを再編成します。
無効にする	インデックスを無効にします。

トリガー/データベーストリガー/サーバトリガー

オプション	説明
有効にする	トリガーを有効にします。
無効にする	トリガーを無効にします。

SQLite

データベース

サーバーオブジェクトの操作を開始する前に、接続を作成し、接続を開かなければなりません。接続ウィンドウの基本タブに設定されたデータベースファイルは、**main** データベースとして命名されます。

データベースファイルを追加

1. ナビゲーションペインで、接続を右クリックし、**データベースを追加**を選択します。
2. ポップアップウィンドウにデータベースプロパティを入力します。

データベースを切り離す

1. ナビゲーションペインで、追加された接続を右クリックし、**データベースを切り離す**を選択します。

main データベースを暗号化

1. ナビゲーションペインで、main データベースを右クリックし、**データベースを暗号化**を選択します。
2. ポップアップウィンドウにパスワードを入力します。


main データベースを復号

1. ナビゲーションペインで、main データベースを右クリックし、**データベースを復号**を選択します。
2. ダイアログウィンドウが開くので、確認して復号します。

sqlite_master テーブルを表示

1. ナビゲーションペインで、データベースを右クリックし、**マスターテーブルを表示**を選択します。
2. sqlite_master テーブルをテーブルビューで開きます。

テーブル

テーブルは、データベースのすべてのデータを含むデータベースオブジェクトです。テーブルは行と列のセットで、その交わる部分がフィールドです。メインウィンドウで、 **テーブル**をクリックしてテーブルオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルを開くショートカットを作成**を選択することによって、テーブルのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなくテーブルを開いて直接データを入力できるので、大変便利です。

テーブルを空にするためには、選択したテーブルを右クリックし、ポップアップメニューから**テーブルをクリア**を選択します。

テーブルデザイナー

テーブルデザイナーは、テーブルを操作するための Navicat の基本ツールです。テーブルのフィールドやインデックス、外部キーなどを作成、編集、削除することができます。


フィールドタブでは、**編集** -> **検索**を選択または CTRL+F を押すことによって、フィールド名を検索することができます。

注意：設計画面にあるタブやオプションは、サーバーのバージョンによって異なります。

テーブルビュー

テーブルを開く時、**テーブルビュー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます：グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビュー](#)をご覧ください。





ビュー

ビューでは、ユーザーはそれが 1 つのテーブルであるかのようにテーブル形式にアクセスすることができます。ビューを使用して、行へのアクセスを制限することができます。メインウィンドウで、 **ビュー**をクリックしてビューオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるビューを右クリックし、ポップアップメニューから**ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接ビューを開くことができるので、大変便利です。

ビューデザイナー

ビューデザイナーは、ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブでビューの定義を SQL ステートメント（実装する SELECT ステートメント）として編集することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、SQL 編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。SQL ファイルからエディタに SQL ステートメントをロードしたい場合、**ファイル -> SQL をインポート**を選択してください。

ボタン	説明
 プレビュー	ビューのデータをプレビューします。
 説明	ビューのクエリプランを表示します。
 ビュービルダ	視覚的にビューを作成します。SQL の知識がなくてもビューの新規作成や編集を行えます。詳細については、 クエリビルダ をご覧ください。
 SQL を整形	エディタで SQL 整形の設定を使用してコードをフォーマットします。

ヒント : **表示 -> 結果 -> エディタの下に表示**または**新しいページに表示**を選択することによって、プレビュー結果をエディタの下または新しいタブに表示することを選択できます。

ビュービューワー

ビューを開く時、**ビュービューワー**はグリッドでデータを表示します。データを 2 つのモードで表示することができます : グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

その他のオブジェクト

Navicat では他の SQLite オブジェクトの管理も行えます : インデックスとトリガー。メインウィンドウで、メインツールバーから対応するボタンをクリックしてオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトの保守

Navicat は、SQLite のオブジェクトを保守するための完全なソリューションを提供しています。

1. メインウィンドウで、ナビゲーションペインまたはオブジェクトタブにあるオブジェクトを選択してください。
2. 選択されたオブジェクトを右クリックしてください。
3. **保守**を選択した後、ポップアップメニューから保守オプションを選択してください。
4. 結果はポップアップウィンドウに表示されます。

データベース

オプション	説明
データベースの分析	データベースに関する統計を収集します。

データベースのバキューム	データベースファイルを再構築します。それは main データベースでのみ動作します。
データベースのインデックス再構築	データベース内のすべてのインデックスを削除し、再作成します。

テーブル

オプション	説明
テーブルの分析	テーブルの内容に関する統計を収集します。
テーブルのインデックス再構築	テーブルのすべてのインデックスを削除し、再作成します。
行数を取得	テーブルの行数を数えます。

インデックス

オプション	説明
インデックス再構築	インデックスを削除し、再作成します。

MongoDB


データベース


サーバーオブジェクトの操作を開始する前に、接続を作成し、接続を開かなければなりません。サーバーが空の場合、新しいデータベースを作成する必要があります。

新しいデータベースを作成する

1. ナビゲーションペインで、接続を右クリックして、**新規データベース**を選択します。
2. ポップアップウィンドウにデータベースプロパティを入力します。

コレクション

コレクションは、ドキュメントの保存に関して、リレーショナルデータベーステーブルに似ています。メインウィンドウで、 **コレクション**をクリックしてコレクションオブジェクトリストを開きます。

標準/時系列コレクションを作成することができます。オブジェクトツールバーから  **新規コレクション**の隣の下向き矢印をクリックし、コレクションの種類を選択します。

オブジェクトタブにあるコレクションを右クリックし、ポップアップメニューから**コレクションを開くショートカットを作成**を選択することによって、コレクションのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなくコレクションを開いて直接データを入力できるので、大変便利です。

コレクションを空にするためには、選択したコレクションを右クリックし、ポップアップメニューから**コレクションをクリア**を選択します。

コレクションデザイナー


コレクションデザイナーは、コレクションを操作するための Navicat の基本ツールです。コレクションプロパティ、インデックス、バリデーション、ストレージエンジンなどを設定することができます。

注意：設計画面にあるタブやオプションは、サーバーのバージョンによって異なります。

コレクションビューワー

コレクションを開く時、**コレクションビューワー**はグリッドでデータを表示します。データを3つのモードで表示することができます：グリッドビュー、ツリービュー、JSON ビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。



ビュー

ビューは、指定された収集パイプラインをソースコレクションまたはビューに適用した結果です。メインウィンドウで、 **ビュー**をクリックしてビューオブジェクトリストを開きます。

オブジェクトタブにあるビューを右クリックし、ポップアップメニューから**ビューを開くショートカットを作成**を選択することによって、ビューのショートカットを作成することができます。このオプションを使用すると、Navicat メインウィンドウを起動することなく直接ビューを開くことができるので、大変便利です。

ビューデザイナー

ビューデザイナーは、ビューを操作するための Navicat の基本ツールです。


ボタン	説明
 プレビュー	ビューのデータをプレビューします。
 説明	ビューのクエリプランを表示します。

パイプラインタブでは、収集パイプラインステージを追加、挿入、削除することができます。**演算子**列では、式の演算子を選択します。式のテンプレートは**式**列で作成され、そのテンプレートを変更することができます。

ビュービューワー

ビューを開く時、**ビュービューワー**はグリッドでデータを表示します。データを3つのモードで表示することができます：グリッドビュー、ツリービュー、JSON ビュー。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。


関数（ファンクション）

再利用のために JavaScript 関数を保存できます。メインウィンドウで、 **ファンクション**をクリックして関数オブジェクトリストを開きます。

ファンクションデザイナー

ファンクションデザイナーは、関数を操作するための Navicat の基本ツールです。**定義**タブにファンクションの定義を入力することができます。エディタのビューをカスタマイズしたり、スクリプト編集用の様々な機能を調べるためには、[クエリエディタ](#)をご覧ください。


結果

関数を実行するために、ツールバーの  **実行** をクリックします。スクリプトが正しい場合、**ファンクションを実行** ダイアログがポップアップ表示されます。必要であれば入力パラメータを入力し、**確認** をクリックします。ファンクションがデータを返すことになっている場合、**結果** タブが開き、返されたデータが表示されます。関数の実行時にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。

インデックス

Navicat では、MongoDB のインデックスを管理できます。メインウィンドウで、**A-Z デックス** をクリックしてインデックスオブジェクトリストを開きます。





MapReduce

Map-Reduce とは、大量のデータを有用な集計結果にまとめるためのデータ処理パラダイムです。メインウィンドウで、 **MapReduce** をクリックして map-reduce オブジェクトリストを開きます。


Map-Reduce のジョブのスケジュールを組むために [自動化タスク](#) を設定できます。

Map-Reduce デザイナー

Map-Reduce デザイナー は、Map-Reduce ジョブを操作するための Navicat の基本ツールです。


ボタン	説明
 実行	Map-Reduce ジョブを実行します。
 中止	実行している Map-Reduce ジョブを停止します。
 プレビュー	入力 (Input) 、マッパー (Mapper) 、減速機 (Reducer) またはファイナライザ (Finalizer) を適用することによって、ドキュメントをプレビューします。
 ファンクションのインポート	既存のファンクションをマッパー (Mapper) 、減速機 (Reducer) またはファイナライザ (Finalizer) にインポートします。

結果

Map-Reduce ジョブを実行するためには、ツールバーの  **実行** をクリックします。結果をインラインで出力するように設定した場合、**結果** タブが開き、返されたドキュメントやドキュメント数、タイミング情報が表示されます。結果をコレクションに書き込むように設定した場合、結果は指定された出力コレクションにドキュメントを返します。

GridFS








GridFS は、ファイルを保存および取得するための仕様です。メインウィンドウで、 **GridFS** をクリックして GridFS オブジェクトリストを開きます。

ファイルを保存するためにデータベースに複数のバケットを作成することができます。 **新規バケット** をクリックし、バケット名を入力します。

選択されたバケットを開くためには、 **バケットを開く** をクリックします。

バケットビューワー

バケットビューワーは、GridFS バケットを操作するための Navicat の基本ツールです。バケット内にある GridFS ファイルをアップロード、ダウンロード、表示することができます。


ボタン	説明
 ファイルを開く	選択された GridFS ファイルを開きます。
 ファイルを削除	選択された GridFS ファイルを削除します。
 ファイルのアップロード	ファイルをバケットにアップロードします。
 ファイルのダウンロード	選択された GridFS ファイルをダウンロードします。
 フィルター	フィルター条件を適用することによって、GridFS ファイルテーブルをフィルタリングします。
 プレビュー	1MB より小さいイメージファイルをプレビューします。
 進捗	ファイルのアップロードとダウンロードの状況を確認します。

ファイルテーブル

ファイルテーブルには、バケットにアップロードされたすべてのファイルが表示されます。



GridFS の名前、コンテンツタイプ、エイリアス、メタデータを編集することができます。テーブルで、ファイル名を右クリックし、**ファイル名の修正**または**コンテンツタイプの修正**、**エイリアスの修正**、**メタデータの修正**を選択します。それから、ポップアップウィンドウに情報を入力します。

フィルターペイン

バケットにアップロードされたファイルがたくさんある場合、フィルターを使用して一致するファイルを見つけることができます。フィルターペインに切り替えるためには、 **フィルター**をクリックします。

進捗ペイン

進捗ペインには、現在のウィンドウのすべてのファイルのアップロードとダウンロードの状況が表示されます。並行のダウンロードとアップロードは、サポートされています。ウィンドウが閉じられた場合、リストはクリアされます。

ファイルのアップロードまたはダウンロードが開始されると、プログレスバーの隣にある対応するボタンをクリックしてプロセスを一時停止、再開、停止できます。プロセスが終了した後、 をクリックしてそのファイルを含むフォルダを開いたり、アイテムの上にマウスを移動し  をクリックしてそのアイテムをリストから削除することができます。

進行中のすべてのアイテムを一時停止、再開、停止したい場合、リストを右クリックして、適切なオプションを選択します。

終了されたアイテムをクリアするためには、リストを右クリックして、**終了済みすべてをクリア**を選択します。

オブジェクトの保守

Navicat は、MongoDB のオブジェクトを保守するための完全なソリューションを提供しています。

1. メインウィンドウで、ナビゲーションペインまたはオブジェクトタブにあるオブジェクトを選択してください。

2. 選択されたオブジェクトを右クリックしてください。
3. **保守**を選択した後、ポップアップメニューから保守オプションを選択してください。
4. 結果はポップアップウィンドウに表示されます。

データベース

オプション	説明
データベースの修復	無効なデータまたは壊れたデータを破棄することによって、データベースとインデックスを再ビルドします。

コレクション

オプション	説明
コンパクトコレクション	コレクション内のすべてのデータとインデックスを再書き込みし最適化します。
コレクションの確認	コレクションのデータとインデックスをスキャンして、ネームスペース内の構造が正しいことを確認します。
コレクションのインデックス再構築	コレクションのすべてのインデックスを削除し再作成します。

Redis

データベース

Redis はデフォルトで 16 のデータベースをサポートし、そのデータベースには 0 から 15 までの番号が付けられます。Navicat は、Redis サーバーに接続すると、全てのデータベースと各データベースのキーの数を一覧表示します。データベースをダブルクリックするだけで開きます。

空のデータベースの表示/非表示

1. ナビゲーションペインで、接続を右クリックして、**空のデータベースを表示する**を選択します。

ヒント : Redis 設定ファイル (redis.conf) の *databases* パラメータ値を調整することによって、より多くのデータベースをサポートするように Redis を設定できます。設定後、Redis を再起動すれば設定は完了です。

データ

データベース内の全てのキーと値のデータは、**全データ**という名前のデータビューにあります。

全データを開くと、ビューワーには、キー名、キータイプ、キー値、サイズ、Time-to-Live (TTL) を含むデータがグリッドとして表示されます。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。



6 - データビューワー

データビューワーについて

Navicat には、データの表示、更新、削除が行えるデータビューワーが含まれます。また、ビューワーには、データを操作する時にデータを理解するのに役立つ高度な機能とエディタが含まれます。一般的なキーボードナビゲーションを使用してデータを閲覧することができます。














RDBMS

RDBMS データビューワー

RDBMS データビューワーには、グリッドまたはフォームとしてデータが表示されます。ビューを切り替えるためには、一番下にある  または  をクリックします。

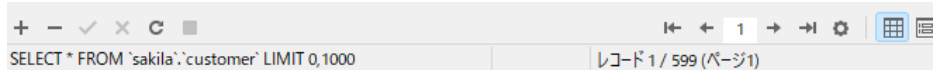
注意：フォームビューは、Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能です。

データビューワーのツールバーは、データを管理するための以下の機能を備えています：

ボタン	説明
 テーブルプロファイル	プロファイルを管理 - 保存したテーブルプロファイルを管理し、プロファイル情報を表示します。 プロファイルをロード - テーブルプロファイルをロードします。 プロファイルを保存 - 現在のフィルター、ソート、および列設定でプロファイルを作成します。 プロファイルを名前を付けて保存 - 設定を新しいプロファイルとして保存します。 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)
 トランザクションを開始	トランザクションを開始します。 オプション で 自動トランザクション開始 が有効になっている場合、データビューワーを開くとトランザクションが自動的に開始されます。
 コミット	現在のトランザクションで実行されたすべての変更を永続的にします。
 ロールバック	現在のトランザクションで行われた操作を元に戻します。
 セルエディタ	セルエディタをアクティブにして、データを表示および編集します。
 フィルターとソート	データグリッドにフィルターとソートの条件を適用して、レコードをフィルターおよびソートします。
 列	列を表示/非表示にします。
 データプロファイリング	テーブル内のデータをプロファイルします。
 ツール	
 データ生成	テーブルのデータを生成します。
 BI ワークスペースを作成	テーブルデータを使用して、データソースを使用した新しい BI ワークスペースを作成します。
 インポート	ファイルからデータをインポートします。
 エクスポート	データをファイルにエクスポートします。

ナビゲーションバーの使用

データビューワーでは、ナビゲーションバーボタンを使用して、レコード/ページの間を簡単に行き来することができます。



ボタン	説明
+	レコードに追加 - 新しいレコードを入力します。データビューワーでテーブルを操作する際の時点であっても、このボタンをクリックして、レコード用の空白表示部を出すことができます。
-	レコードの削除 - 既存レコードを削除します。
✓	変更を適用 - 変更を適用します。
✕	変更をキャンセル - 在のレコードに加えられた全ての編集を削除します。
🔄	更新 - データを更新します。
■	中止 - サーバーから非常に大きいデータを読み込んでいる時に、中止します。
⏪	先頭ページ - 最初のページに移動します。
⏩	前ページ - 前のページに移動します。
⏴	次ページ - 次のページに移動します。
⏵	最終ページ - 最後のページに移動します。
🔍	先頭のレコード - 最初のレコードに移動します。
↑	前のレコード - 現在のレコードから 1 つ前のレコードに移動します (1 つ前にレコードがある場合)。
↓	次レコード - 1 つ先のレコードに移動します。
🏠	最終レコード - 最後のレコードに移動します。
⚙️	レコード制限設定 - 各ページに表示するレコード数を設定します。
📄	グリッドビュー - グリッドビューに切り替えます。
📄	フォームビュー - フォームビューに切り替えます。

編集モードにするためには、レコード制限 ⚙️ ボタンを使用します。

レコード制限 レコード(1 ページあたり)

各ページに表示されるレコード数を制限したい場合、このオプションにチェックをつけます。チェックをつけない場合、すべてのレコードが 1 ページに表示されます。値を編集フィールドに設定します。各ページに表示されるレコード数を表す数です。

注意：この設定モードは、現在のオブジェクトのみに対して有効です。グローバル設定への適用については[オプション](#)を参照してください。



レコード a/b(ページ c)

選択されたレコードやページを表す番号を表示します。



- a - 選択されたレコード。
- b - 現在のページにあるレコード数。
- c - 現在のページ。

レコードの編集

グリッドビュー

グリッドビューは、レコードやフィールドを行と列として表示するスプレッドシートのようなビューです。ナビゲーションバーを使って、レコードをすばやく入れ替えたり、レコードを挿入、削除することができます。

レコードを挿入するために

1. カーソルがテーブルの最初の空白セルにあることを確認したら、追加したいデータを入力します。既存のテーブルに新しいレコードを追加する場合、既存のレコードをクリックし、ナビゲーションバーから **+** をクリックするか、CTRL+N を押し、レコード用の空白表示部を出します。
2. レコードの左側のレコード選択ボックスにあるグラフィック記号を見てください。カレントレコードであることを表す  から、変更中であることを表す  に変わります。
3. レコードを保存するためには、別のレコードに移動するか、ナビゲーションバーから **✓** をクリックします。

レコードを編集するために

1. 変更したい特定のフィールドをクリックして、編集したいレコードを選択します。
2. そのフィールドに対して、新しいデータを入力します。
3. 別のレコードに移動すると、新しいデータが前のデータを上書きします。または、ナビゲーションバーから **✓** をクリックします。

注意：別の方法として、テーブルを閉じてレコードを保存することができます。

同じデータで複数のセルを編集するためには

1. データグリッドでひとまとまりのセルを選択します。
2. 新しいデータを入力します。

注意：変更は、互換性のあるデータタイプを使って複数のフィールドに適用されます。

レコードを削除するために

1. 削除したいレコードを選択します。
2. 右クリックし、**削除レコード**を選択するか、ナビゲーションバーから **-** をクリックします。

フォームビュー

フォームビューは、テーブルから一度に1つのレコードを表示します。ナビゲーションバーを使って、レコードをすばやく入れ替えたり、レコードを挿入、削除することができます。

レコードを挿入するために

1. ナビゲーションバーから **+** をクリックするか、CTRL+N を押し、レコード用の空白表示部を出します。
2. 希望するデータを入力します。
3. ナビゲーションバーから **✓** をクリックしてレコードを保存します。

レコードを編集するために

1. 編集したいレコードに進みます。
2. 変更したい特定のフィールドに新しいデータを入力します。
3. ナビゲーションバーから **✓** をクリックします。新しいデータが前のデータを上書きします。

注意：別の方法として、テーブルを閉じてレコードを保存することができます。

レコードを削除するために




1. 削除したいレコードに進みます。
2. 右クリックし、**削除レコード**を選択するか、ナビゲーションバーから **-** をクリックします。

特別な操作によるレコードの編集

セルの値をからの文字列または NULL に設定するためには、選択されたセルで右クリックし、**空文字にする**または**ヌルにする**を選択します。

グリッドに画像を表示するためには、**表示 -> 表示 -> グリッドにイメージを表示**を選択します。

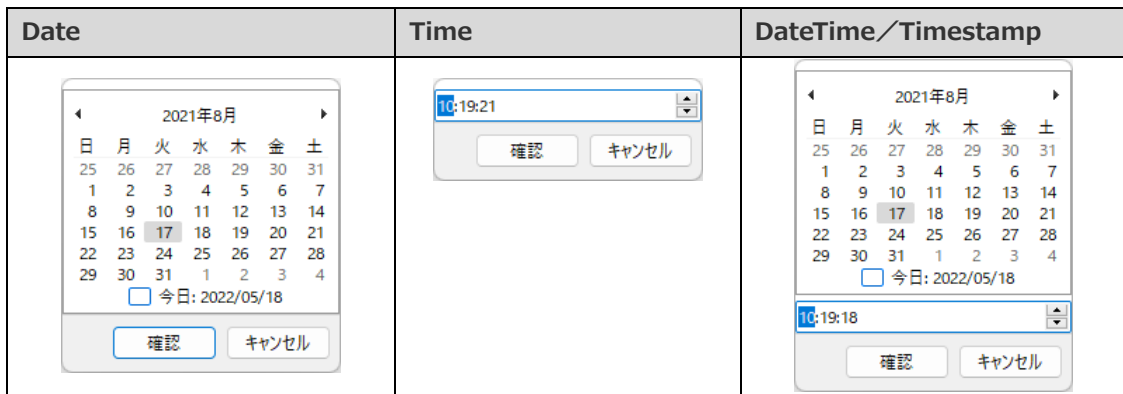
注意：MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQL Server/MariaDB でのみ使用可能です。

id	image
1	
2	
3	

ヒント：画像を簡単に表示/編集する方法については、[イメージエディタ](#)を参照してください。

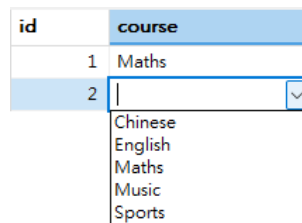
日付/時刻レコードを編集するためには、**⋮** をクリックするか、CTRL+ENTER を押して、編集用エディタを開きます。編集したいデータを選択/入力します。セルで使用されるエディタは、列に割り当てられたフィールドタイプによって決定されます。

注意：MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQL Server/MariaDB でのみ使用可能です。



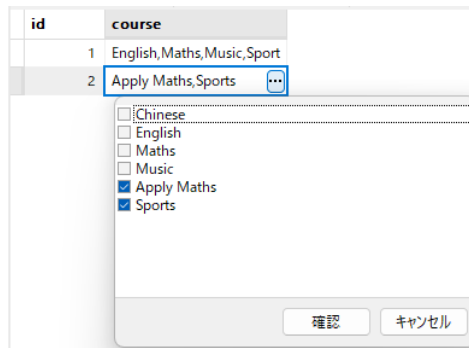
Enum レコードを編集するためには、ドロップダウンリストからレコードを選択します。

注意 : MySQL/PostgreSQL/MariaDB でのみ使用可能です。



Set レコードを編集するためには、 をクリックするか、CTRL+ENTER を押して、編集用エディタを開きます。リストからレコードを選択します。レコードを削除するためには、同様にチェックを外します。

注意 : MySQL/MariaDB でのみ使用可能です。



BFile の内容を表示するためには、**表示 -> 表示 -> BFile をプレビュー**を選択します。


注意 : Oracle でのみ使用可能です。

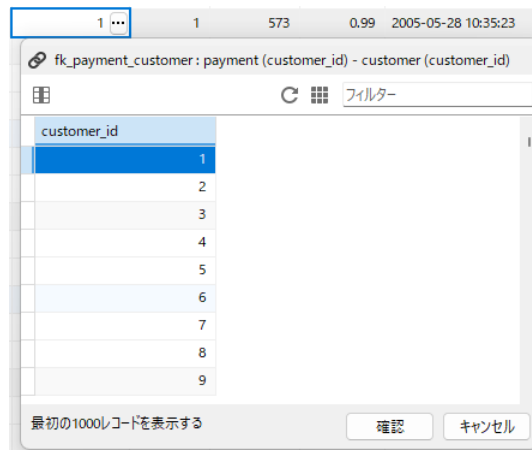
UUID/GUID を生成するためには、選択したセルを右クリックし、**UUID を生成**を選択します。

注意 : PostgreSQL/SQL Server でのみ使用可能です。

外部キーを持つレコードの編集 (外部キーデータの選択 - Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)


外部キーデータの選択は、選択可能な値を参照テーブルから簡単に取得するために役立つツールです。参照テーブルから追加レコードを表示したり、特別なレコードを探したりすることができます。

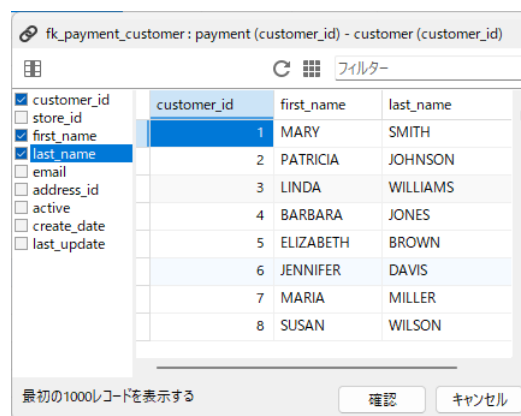
レコードにデータを追加するためには、 をクリックするか、CTRL+ENTER を押して、編集用エディタを開きます。



ダブルクリックして、編集したいデータを選択します。

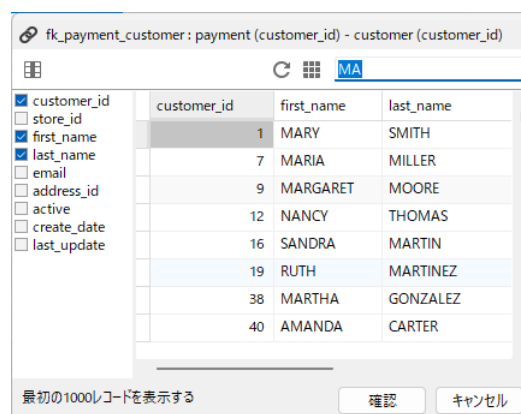
ヒント : デフォルトでは、1 ページに表示されるレコード数は、**1000** です。全てのレコードを表示するためには、 をクリックします。レコードを更新するためには、 をクリックします。または、F5 を押します。

 をクリックすると、左側に列名一覧が表示されます。追加する列をクリックすると表示されます。同様にしてチェックを外すとその列は除かれます。



ヒント : 列に昇順または降順モードを設定するためには、列のどこかで右クリックし、**ソート -> 昇順ソート/降順ソート**を選択します。

フィルター編集ボックスに検索文字列を入力し、ENTER を押して、特定のレコードのための検索条件を追加します。



ヒント : フィルター結果を削除するためには、検索文字列を削除し ENTER を押します。

グリッドビューからのデータのコピー

Navicat からコピーされたデータは、タブによって区切られたフィールドとキャリッジリターンによって区切られたレコードとして、Windows のクリップボードに入ります。これによって、希望のアプリケーションにクリップボードの内容を簡単に貼り付けることができます。一般的なスプレッドシートアプリケーションは、フィールド間のタブ文字を認識し、クリップボードのデータを行と列にきちんと分けます。

キーボードのショートカットでデータを選択するために

CTRL+A	データグリッドにある全ての行と列の選択を切り替えます。
SHIFT+ARROW	データグリッドで上/下/左/右に移動しながら、セルの選択を切り替えます。

マウス操作でデータを選択するために

- CTRL キーを押したまま、それぞれの行をクリックすることによって、希望のレコードを選択します。
- レコードを範囲で選択するためには、選択したい範囲の最初の行をクリックし、SHIFT キーを押したまま、最後の行までカーソルを移動します。
- ひとまとまりのセルを選択します。

注意：希望のレコードを選択した後、CTRL+C を押すか、右クリックして**コピー**を選択します。

グリッドビューのデータの貼り付け

クリップボードにコピーされたデータは、以下の形式で配置されます：

- データは行と列に配置されます。
- 行と列は、それぞれ、キャリッジリターン/タブによって区切られます。
- クリップボードの列は、選択したデータグリッドの列と同じ順番になります。

Navicat のデータ貼り付けでは、現在のレコードの内容を置き換えたり、クリップボードのデータをテーブルに追加することができます。テーブルの現在のレコードの内容を置き換えるためには、クリップボードのデータに置き換えられるべき内容のセルをデータグリッドで選択しなければなりません。CTRL+V を押すか、右クリックしてポップアップメニューから**貼り付け**を選択します。Navicat は、クリップボードのすべての内容を選択されたセルに貼り付けます。トランザクションを有効にしていない場合、貼り付けは必ず実行されます。

Insert/Update ステートメントとしてレコードをコピー

レコードを Insert/Update ステートメントとしてコピーするためには、列/行ヘッダーまたは選択されたセルを右クリックし、**以下としてコピー** -> **Insert ステートメント**または **Update ステートメント**を選択します。その後、どのエディタにでもステートメントを貼り付けることができます。

フィールド名をコピー

フィールド名をタブ区切り値としてコピーするためには、列／行ヘッダーまたは選択されたセルを右クリックし、**以下としてコピー** -> **タブ区切り（フィールド名のみ）** を選択します。データのみまたはフィールド名とデータの両方をコピーしたい場合、**タブ区切り（データのみ）** または **タブ区切り（フィールド名とデータ）** を選択します。

ファイルとしてデータをコピー

テーブルグリッドのデータをファイルに保存することができます。セルを右クリックして、**名前を付けてデータを保存** を選択します。名前を付けて保存ダイアログウィンドウに、ファイル名とファイルの拡張子を入力します。

注意： 複数選択時は使用できません。

レコードのソート／検索／置換

レコードのソート

サーバーは、テーブルに追加された順番にレコードを保存します。Navicat のソートを使用して、レコードを一時的に並び替え、違う順番でレコードを表示または更新することができます。

ソートしたい列の見出しに移動して、その列の右の方をクリックし、**昇順ソート**、**降順ソート** または **ソートを解除** を選択します。

payment_id	customer_id	staff_id	rental_id	amount
1	1	1	1	2.99
2	1	1	1	0.99
3	1	1	1	5.99
4	1	2	1422	0.99

複数列を希望の順序にソートするためには、ツールバーから  **フィルターとソート** をクリックします。

検索と置換

レコードの検索

検索バーは、ウィンドウにおけるテキストのクイック検索のために提供されています。**編集** -> **検索** をクリックするか、CTRL+F を押します。そして、**データの検索** を選択し、検索文字列を入力します。検索は、カーソルの現在の位置から始まり、ファイルの最後で終わります。

次のテキストを検索するためには、**次** をクリックするか、F3 を押します。

レコードの置換

検索バーで、**置換** ボックスにチェックを付け、検索したいテキストと置換したいテキストを入力します。**置換** または **全て置換** をクリックすることによって、最初の置換対象または全ての置換対象を置換することができます。**全て置換** をクリックする場合、**適用** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして変更をキャンセルすることができます。

フィールドの検索


フィールドを検索するためには、**編集** -> **検索** を選択するか、CTRL+F を押します。そして、**フィールドの検索** を選択し、検索文字列を入力します。

検索と置換用のいくつかの追加オプションがあります。  をクリックしてください：

オプション	説明
すべてを強調	ビューワーで一致するものすべてを強調表示します。
インクリメンタルサーチ	文字が入力されている時に、検索文字列に一致するテキストを検索します。
大文字と小文字を区別	大文字小文字区別検索を有効にします。

レコードのフィルター

以下のいずれかの方法を使い、グリッドのデータにフィルターをかけることができます：

- セルを右クリックし、ポップアップメニューから**フィルター** -> **フィールド xxx 値**を選択して、セルの現在の値でレコードをフィルタリングします。
- 単純なフィルターを素早く作成するために、**カスタムフィルター**ダイアログが提供されています。グリッドを右クリックし、ポップアップメニューから**フィルター** -> **カスタムフィルター**を選択します。条件内で任意の一字を表すためには、文字 '_' を使用します。条件内で任意の文字列を表すためには、文字 '_' を使用します。条件内で任意の文字列を表すためには、文字 '%' を使用します。
- フィールドを右クリックしてポップアップメニューから**フィルター** -> **フィルターとソート**を選択するか、ツールバーから  **フィルターとソート** をクリックすることで、より複雑な方法でフィルターをカスタマイズすることもできます。グリッドの上部に表示されるフィルターとソートペインでは、アクティブなフィルター条件を確認したり、左側のチェックボックスをクリックして簡単に有効または無効にしたりできます。

Raw データの操作

Navicat は、通常、ユーザーがテーブルに入力したものを普通の文字列とみなし、特別な文字または関数は単純なテキストとして処理されます（つまり、その機能性は省かれます）。

Raw モードでのデータ編集を使用すると、サーバー組み込み関数を簡単に直接適用することができます。Raw モードにアクセスするためには、**表示** -> **表示** -> **Raw モード**を選択します。

注意：MySQL/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB でのみ使用可能です。

JOB_ID	JOB_TITLE	MIN_SALARY
'AC_ACCOUNT'	'Public Accountant'	4200
'AC_MGR'	'Accounting Manager'	8200
'AD_ASST'	CONCAT('Administration',' Assistant')	3000
'AD_PRES'	'President'	20000
'AD_VP'	'Administration Vice President'	15000

データビューの書式設定

以下の方法を使用して、テーブルを書式設定します：

ヒント：フォームビューは、列を表示/隠すのみサポートしています。

列の移動

1. 列のヘッダーをクリックし、マウスの左ボタンを押した状態にします。
2. ポインターを希望の場所に移動します。
3. マウスを放すと、列が移動します。

列の固定

テーブルに多数の列があり、レコードを識別するために 1 つ以上の列を固定したい場合は、列ヘッダーを右クリックして**列を固定**を選択するか、**表示メニュー**から選択します。

固定された列は、テーブルグリッドの左端の位置に移動します。この操作により、固定された列がロックされ、編集できなくなります。

列の固定を解除するためには、テーブルグリッドの任意の列ヘッダーを右クリックして**全ての列の固定を解除**を選択するか、**表示メニュー**から選択します。

列の幅の設定

- 列の一番上で右端をクリックし、左か右にドラッグします。
- その列にとって最適な幅にするためには、列の一番上で右端をダブルクリックします。
- 列ヘッダーを右クリックし、**列幅を設定**を選択するか、**表示メニュー**から選択します。**列幅を設定**ダイアログで幅を指定します。


ヒント : 結果は、選択中の列だけに適用されます。

行の高さの設定

行ヘッダーを右クリックして**行の高さを設定**を選択するか、**表示メニュー**から選択します。**行の高さを設定**ダイアログで行の高さを指定します。

ヒント : この動作は、現在のテーブルグリッドだけに適用されます。

列の表示 / 非表示

テーブルに多くの列があり、グリッド / フォームからそれらのいくつかを非表示にする場合は、 **列**をクリックします。非表示にしたい列を選択します。

非表示の列はグリッド / フォームから消えます。

列の非表示を解除するためには、 **列**をクリックします。再表示したい列を選択します。

ROWID の表示 / 非表示

全ての行の ROWID (アドレス) を表示または非表示にしたい場合、テーブルグリッドの任意の場所を右クリックし、**ROWID を表示 / 隠す**を選択するか、**表示メニュー**から選択します。

ROWID 列は最後の列に表示されます。

注意 : Oracle/SQLite でのみ使用可能です。

フィールド情報の表示

データタイプ

列ヘッダーにフィールドのデータタイプを表示できます。これを行うためには、列ヘッダーを右クリックし、**フィールドタイプを表示**を選択します。

customer_id # smallint	store_id # tinyint	first_name #%C varchar(45)	last_name #%C varchar(50)	email #%C varchar(50)
36	2	KATHLEEN	ADAMS	KATHLEEN.ADAMS@sakil
37	1	PAMELA	BAKER	PAMELA.BAKER@sakilac
38	1	MARTHA	GONZALEZ	MARTHA.GONZALEZ@se
39	1	DEBRA	NELSON	DEBRA.NELSON@sakilac
40	2	AMANDA	CARTER	AMANDA.CARTER@sakil
41	1	STEPHANIE	MITCHELL	STEPHANIE.MITCHELL@:
42	2	CAROLYN	PEREZ	CAROLYN.PEREZ@sakila

フィールドコメント




テーブルフィールドにコメントを追加した場合、列ヘッダーを右クリックし、**コメントを表示**を選択します。フィールドコメントは列ヘッダーとして表示されます。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQL Server/MariaDB でのみ使用可能です。


address_id --	active The status of the customer account.	create_date --
58		1 2006-02-14 22:04:36
59		1 2006-02-14 22:04:36
60		1 2006-02-14 22:04:36
61		1 2006-02-14 22:04:36















MongoDB

MongoDB データビューワー

MongoDB のデータビューワーは、グリッドまたはツリーとして、または JSON 形式で、データを表示します。ビューを切り替えるためには、一番下にある 、、 をクリックします。

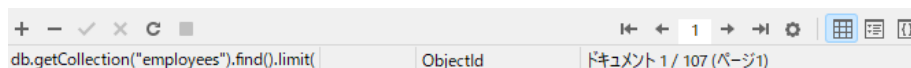
データビューワーのツールバーは、データを管理するための以下の機能を備えています :

ボタン	説明
 コレクションプロファイル	プロファイルを管理 - 保存したコレクションプロファイルを管理し、プロファイル情報を表示します。 プロファイルをロード - コレクションプロファイルをロードします。 プロファイルを保存 - 現在のフィルター、ソート、および列設定でプロファイルを作成します。

	プロファイルを名前を付けて保存 - 設定を新しいプロファイルとして保存します。 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)
 トランザクションを開始	トランザクションを開始します。 オプション で 自動トランザクション開始 が有効になっている場合、データビューワーを開くとトランザクションが自動的に開始されます。
 コミット	現在のトランザクションで実行されたすべての変更を永続的にします。
 ロールバック	現在のトランザクションで行われた操作を元に戻します。
 セルエディタ	セルエディタをアクティブにして、データを表示および編集します。 グリッドビューとツリービューでのみ使用可能です。
 フィルターとソート	データグリッドにフィルターとソートの条件を適用して、レコードをフィルターおよびソートします。
 列	列を表示/非表示にします。
 全てを展開する	[ツリービュー] すべての組み込みドキュメントと組み込み配列を開きます。
 全てを折り畳む	[グリッドビュー] すべての組み込みドキュメントを折り畳みます。 [ツリービュー] すべての組み込みドキュメントと組み込み配列を折り畳みます。
 タイプ色	[グリッドビュー] タイプ色ペインで設定されたタイプの指定色をセルの強調表示に使用します。
 分析	コレクションを分析します。
ツール	
 データ生成	コレクションのデータを生成します。
 BI ワークスペースを作成	コレクション データを使用して、データソースを使用した新しい BI ワークスペースを作成します。
 インポート	ファイルからデータをインポートします。
 エクスポート	データをファイルにエクスポートします。

ナビゲーションバーの使用

データビューワーでは、**ナビゲーションバー**ボタンを使用して、ドキュメント/ページの間を簡単に行き来することができます。



ボタン	説明
+	ドキュメントの追加 - 新しいドキュメントを入力します。データビューワーでテーブルを操作するどの時点であっても、このボタンをクリックして、ドキュメント用の空白表示部を出すことができます。
-	ドキュメントの削除 - 既存ドキュメントを削除します。
✓	変更を適用 - 変更を適用します。
✕	変更をキャンセル - 在のドキュメントに加えられた全ての編集を削除します。
↻	更新 - データを更新します。
■	中止 - サーバーから非常に大きいデータを読み込んでいる時に、中止します。
⏪	先頭ページ - 最初のページに移動します。
⏩	前ページ - 前のページに移動します。

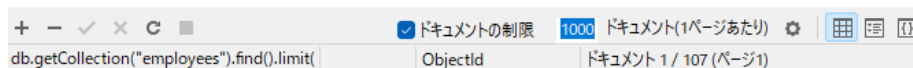
→	次ページ - 次のページに移動します。
→H	最終ページ - 最後のページに移動します。
≡	先頭のドキュメント - 先頭のドキュメント
↑	前のドキュメント - 現在のドキュメントから 1 つ前のドキュメントに移動します (1 つ前にドキュメントがある場合)。
↓	次ドキュメント - 1 つ先のドキュメントに移動します。
⌵	最終ドキュメント - 最後のドキュメントに移動します。
⚙	ドキュメント制限設定 - 各ページに表示するドキュメント数を設定します。
📄	グリッドビュー - グリッドビューに切り替えます。
📖	ツリービュー - ツリービューに切り替えます。
📄	JSON ビュー - JSON ビューに切り替えます。

編集モードにするためには、**ドキュメント制限設定** ⚙ ボタンを使用します。

ドキュメント制限 ドキュメント(1 ページあたり)

各ページに表示されるドキュメント数を制限したい場合、このオプションにチェックをつけます。チェックをつけない場合、すべてのドキュメントが 1 ページに表示されます。値を編集フィールドに設定します。各ページに表示されるドキュメント数を表す数です。

注意：この設定モードは、現在のオブジェクトのみに対して有効です。グローバル設定への適用については[オプション](#)を参照してください。



ドキュメント a/b(ページ c)

選択されたドキュメントやページを表す番号を表示します。




- a - 選択されたドキュメント。
- b - 現在のページにあるドキュメント数。
- c - 現在のページ。

グリッドビュー

グリッドビューは、ドキュメントやフィールドを行と列として表示するスプレッドシートのようなビューです。ナビゲーションバーを使って、ドキュメントをすばやく入れ替えたり、ドキュメントを挿入、削除することができます。

グリッドを使用してドキュメントを追加するために

- ドキュメント用の空のディスプレイを表示するためには、既存のドキュメント上でクリックし、ナビゲーションバーから **+** をクリックするか、CTRL+N を押します。
- 希望するデータを入力します。


3. ドキュメントの左側のレコード選択ボックスにあるグラフィック記号を見てください。カレントドキュメントであることを表す  から、変更中であることを表す  に変わります。
4. ドキュメントを保存するためには、別のドキュメントに移動するか、ナビゲーションバーから  をクリックします。

注意：コレクションが空の場合、ドキュメントを追加するためにウィンドウがポップアップ表示されます。

ポップアップウィンドウを使用してドキュメントを追加するために

1. グリッドを右クリックし、**ドキュメントの追加**を選択します。
2. ポップアップウィンドウでドキュメントを書き込みます。
3. **確認する**をクリックしてドキュメントが正しいことを確認します。
4. **追加**をクリックします。

グリッドを使用してドキュメントを編集するために

1. 変更したい特定のセルをクリックすることによって、編集したいドキュメントを選択します。
2. そのセル用に新しいデータを入力します。
3. 他のドキュメントに移動するか、ナビゲーションバーから  をクリックすると、前のデータが新しいデータに上書きされます。

ポップアップウィンドウを使用してドキュメントを編集するために

1. 編集したいドキュメントを右クリックし、**ドキュメントの編集**を選択します。
2. ポップアップウィンドウでドキュメントを編集します。
3. **確認する**をクリックしてドキュメントが正しいことを確認します。
4. **更新**をクリックします。

注意：別の方法として、コレクションを閉じてドキュメントを保存することができます。


同じデータで複数のセルを編集するためには

1. データグリッドでひとまとまりのセルを選択します。
2. 新しいデータを入力します。

注意：変更は、互換性のあるデータタイプを使って複数のフィールドに適用されます。


ドキュメントを削除するために

1. 削除したいドキュメントを選択します。

- 右クリックし、**削除ドキュメント**を選択するか、ナビゲーションバーから  をクリックします。

特別な操作によるドキュメントの編集

セルの値をからの文字列または NULL に設定するためには、選択されたセルで右クリックし、**空文字にする**または**ヌルにする**を選択します。

DateTime データを編集するためには、 をクリックするか、CTRL+ENTER を押して、編集用のエディタを開きます。編集したいデータを選択/入力します。



セルの値のタイプを変更するためには、選択したセルを右クリックし、**値のタイプ**を選択します。それから、希望のタイプを選択します。

Navicat からのデータのコピー

Navicat からコピーされたデータは、タブによって区切られたフィールドとキャリッジリターンによって区切られたドキュメントとして、Windows のクリップボードに入ります。これによって、希望のアプリケーションにクリップボードの内容を簡単に貼り付けることができます。一般的なスプレッドシートアプリケーションは、フィールド間のタブ文字を認識し、クリップボードのデータを行と列にきちんと分けます。

キーボードのショートカットでデータを選択するために

CTRL+A	データグリッドにある全ての行と列の選択を切り替えます。
SHIFT+ARROW	データグリッドで上/下/左/右に移動しながら、セルの選択を切り替えます。

マウス操作でデータを選択するために

- CTRL キーを押したまま、それぞれの行をクリックすることによって、希望のドキュメントを選択します。
- ドキュメントを範囲で選択するためには、選択したい範囲の最初の行をクリックし、SHIFT キーを押したまま、最後の行までカーソルを移動します。
- ひとまとまりのセルを選択します。

注意：希望のドキュメントを選択した後、CTRL+C を押すか、右クリックして**コピー**を選択します。

Navicat のデータの貼り付け

クリップボードにコピーされたデータは、以下の形式で配置されます：

- データは行と列に配置されます。

- 行と列は、それぞれ、キャリッジリターン/タブによって区切られます。
- クリップボードの列は、選択したデータグリッドの列と同じ順番になります。

Navicat のデータ貼り付けでは、現在のドキュメントの内容を置き換えたり、クリップボードのデータをコレクションに追加することができます。コレクションの現在のドキュメントの内容を置き換えるためには、クリップボードのデータに置き換えられるべき内容のセルをデータグリッドで選択しなければなりません。CTRL+V を押すか、右クリックしてポップアップメニューから**貼り付け**を選択します。Navicat は、クリップボードのすべての内容を選択されたセルに貼り付けます。トランザクションを有効にしていない場合、貼り付けは必ず実行されます。

Insert/Update ステートメントとしてレコードをコピー

レコードを Insert/Update ステートメントとしてコピーするためには、列/行ヘッダーまたは選択されたセルを右クリックし、**以下としてコピー** -> **Insert ステートメント**または **Update ステートメント**を選択します。その後、どのエディタにでもステートメントを貼り付けることができます。

フィールド名をコピー

フィールド名をタブ区切り値としてコピーするためには、列/行ヘッダーまたは選択されたセルを右クリックし、**以下としてコピー** -> **タブ区切り (フィールド名のみ)**を選択します。データのみまたはフィールド名とデータの両方をコピーしたい場合、**タブ区切り (データのみ)** または **タブ区切り (フィールド名とデータ)** を選択します。

ファイルとしてデータをコピー

グリッドのデータをファイルに保存することができます。セルを右クリックして、**名前を付けてデータを保存**を選択します。名前を付けて保存ダイアログウィンドウに、ファイル名とファイルの拡張子を入力します。

注意：複数選択時は使用できません。

ツリービュー

ツリービューは、ドキュメントを階層ビューで表示します。ゲーションバーを使って、ドキュメントをすばやく入れ替えたり、ドキュメントを挿入、削除することができます。

ドキュメントを挿入するために

1. ナビゲーションバーから **+** をクリックするか、CTRL+N を押し、ドキュメント用の空白表示部を出します。
2. 希望するデータを入力します。
3. ナビゲーションバーから **✓** をクリックしてドキュメントを保存します。

注意：コレクションが空の場合、**+** をクリックして新しいフィールドを追加する必要があります。

ドキュメントを編集するために

1. 編集したいドキュメントに進みます。

- 修正するフィールド名、値またはタイプをクリックします。
- ナビゲーションバーの をクリックして変更を適用します。

フィールドまたはアイテムを追加するために

- 編集したいドキュメントに進みます。
- をクリックして新しいフィールド／アイテムを追加します。
- 希望するデータを入力します。

フィールドまたはアイテムを削除するために

- 編集したいドキュメントに進みます。
- 削除したいフィールド／アイテムを右クリックし、**値の削除**を選択します。

注意：別の方法として、コレクションを閉じてドキュメントを保存することができます。

ドキュメントを削除するために

- 削除したいドキュメントに進みます。
- ナビゲーションバーの をクリックします。

特別な操作によるドキュメントの編集

値に空の文字列または NULL を設定するためには、選択したアイテムを右クリックし、**空文字列にする**または**ヌルにする**を選択します。

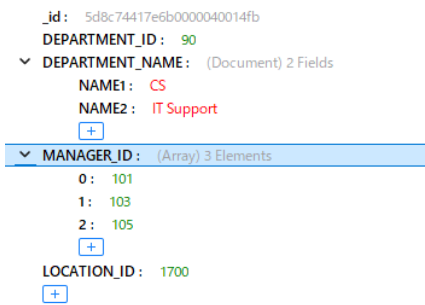
DateTime データを編集するためには、 をクリックして、編集用エディタを開きます。編集したいデータを選択／入力します。

```
_id: 5db2adeb0b4cbe39ac21d483
EMPLOYEE_ID: 100
FIRST_NAME: Steven
LAST_NAME: King
EMAIL: SKING
PHONE_NUMBER: 515.123.4567
HIRE_DATE: 1987-06-17 00:00:00.000
JOB_ID: AD_PRES
SALARY: 24000
COMMISSION_PCT: (Null)
MANAGER_ID: (Null)
DEPARTMENT_ID: 90
BIRTHDATE: 1962-10-06 00:00:00.000
```

ツリービューの書式設定

組み込みドキュメントと組み込み配列を展開／折り畳む

すべての組み込みドキュメントと配列はノードとして表されます。ノードアイコンをクリックすることによって、ノードを展開または折り畳むことができます。



JSON ビュー

JSON ビューには、JSON 形式でドキュメントが表示されます。ナビゲーションバーを使って、ドキュメントをすばやく入れ替えたり、ドキュメントを挿入、削除することができます。

ドキュメントを挿入するために

1. ナビゲーションバーの **+** をクリックするか、CTRL+N を押します。
2. ポップアップウィンドウでドキュメントを書き込みます。
3. **確認する** をクリックしてドキュメントが正しいことを確認します。
4. **追加** をクリックします。

ドキュメントを編集するために

1. 編集したいドキュメントを右クリックし、**ドキュメントの編集** を選択します。
2. ポップアップウィンドウでドキュメントを編集します。
3. **確認する** をクリックしてドキュメントが正しいことを確認します。
4. **更新** をクリックします。

ドキュメントを削除するために

1. 削除したいドキュメントをクリックします。
2. ナビゲーションバーの **-** をクリックします。


ドキュメントのソート／検索／置換

ドキュメントのソート

サーバーは、コレクションに追加された順番にドキュメントを保存します。Navicat のソートを使用して、ドキュメントを一時的に並び替え、違う順番でドキュメントを表示または更新することができます。

ソートしたいフィールドの見出しに移動して、そのフィールドの右の方をクリックし、**昇順ソート**、**降順ソート**または**ソートを解除**を選択します。

DEPARTMENT_NAME	MANAGER_ID	LOCATION_ID
Administration		1700
Marketing		1800
Purchasing		1700
Human Resources	203	2400

複数フィールドを希望の順序にソートするためには、ツールバーから  **フィルターとソート** をクリックします。

検索と置換

ドキュメントの検索

検索バーは、ウィンドウにおけるテキストのクイック検索のために提供されています。**編集** -> **検索** をクリックするか、CTRL+F を押します。そして、検索文字列を入力します。検索は、カーソルの現在の位置から始まり、ファイルの最後で終わります。

グリッドビューまたはツリービューで、**データの検索** または **値の検索** を選択する必要があります。

次のテキストを検索するためには、**次** をクリックするか、F3 を押します。

ドキュメントの置換

検索バーで、**置換** ボックスにチェックを付け、検索したいテキストと置換したいテキストを入力します。**置換** または **全て置換** をクリックすることによって、最初の置換対象または全ての置換対象を置換することができます。**全て置換** をクリックする場合、**適用** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして変更をキャンセルすることができます。

フィールドの検索

グリッドビューまたはツリービューで、コレクションのフィールドを検索することができます。**編集** -> **検索** を選択するか、CTRL+F を押します。それから、**フィールドの検索** を選択し、検索文字列を入力します。


検索と置換用のいくつかの追加オプションがあります。  をクリックしてください：

オプション	説明
すべてを強調	ビューワーで一致するものすべてを強調表示します。
インクリメンタルサーチ	文字が入力されている時に、検索文字列に一致するテキストを検索します。
大文字と小文字を区別	大文字小文字区別検索を有効にします。

ドキュメントのフィルター

以下のいずれかの方法を使い、グリッドのデータにフィルターをかけることができます：


- セルを右クリックし、ポップアップメニューから **フィルター** -> **フィールド xxx 値** を選択して、セルの現在の値でドキュメントをフィルタリングします。


- 単純なフィルターを素早く作成するために、**カスタムフィルター**ダイアログが提供されています。グリッドを右クリックし、ポップアップメニューから**フィルター** -> **カスタムフィルター**を選択します。ダイアログで、{ MyField: { \$gt: MyValue } }のようなクエリを入力します。
- フィールドを右クリックしてポップアップメニューから**フィルター** -> **フィルターとソート**を選択するか、ツールバーから  **フィルターとソート**をクリックすることで、より複雑な方法でフィルターをカスタマイズすることもできます。グリッドの上部に表示されるフィルターとソートペインでは、アクティブなフィルター条件を確認したり、左側のチェックボックスをクリックして簡単に有効または無効にしたりできます。

データビューの書式設定



以下の方法を使用して、コレクショングリッドを書式設定します：


タイプに基づいてセルを強調表示する

グリッドビューでは、データタイプに基づいてセルを強調表示して、特定のセルを簡単に識別できます。タイプ色ペインはグリッドの右側にあります。グリッドウィンドウが Navicat メインウィンドウにドッキングされている場合は、情報ペインの  アイコンをクリックして色を設定できます。


色を適用するためには、ツールバーの  **タイプ色** ボタンをクリックするか、タイプ色ペインの**色付けを有効にする**オプションをオンにします。


組み込みドキュメントの展開／折り畳み

グリッドビューでは、組み込みドキュメントを他の列と一緒に展開して、データ分析を容易にすることができます。組み込みドキュメントを展開または折り畳むためには、組み込みドキュメントのあるセルをクリックして  または  をクリックするか、セルを右クリックして**展開**、**折り畳む**、または**組み込みドキュメントを全て折り畳む**を選択します。

70	Public Relations	204
80	Sales	145
90	(Document) 2 Fields 	(Array) 3 Elements
100	Finance	108
110	Accounting	205

配列の展開

グリッドビューでは、配列内の全ての要素を表示できます。配列要素を展開するためには、配列要素のあるセルをクリックして  をクリックするか、配列要素のあるセルを右クリックして**展開**を選択します。

Public Relations	204	2700
Sales	145	2500
(Document) 2 Fields	(Array) 3 Elements 	1700
Finance	108	1700
Accounting	205	1700

全ての配列要素が新しいグリッドに表示されます。ここで要素を表示、追加、削除できます。コレクション名をクリックすると、コレクショングリッドに戻ります。

列の移動

1. 列のヘッダーをクリックし、マウスの左ボタンを押した状態にします。
2. ポインターを希望の場所に移動します。
3. マウスを放すと、列が移動します。

列の固定

コレクションに多数の列があり、ドキュメントを識別するために 1 つ以上の列を固定したい場合は、列ヘッダーを右クリックして **列を固定** を選択するか、**表示メニュー** から選択します。

固定された列は、コレクショングリッドの左端の位置に移動します。この操作により、固定された列がロックされ、編集できなくなります。

列の固定を解除するためには、テーブルグリッドの任意の列ヘッダーを右クリックして **全ての列の固定を解除** を選択するか、**表示メニュー** から選択します。

列の幅の設定

- 列の一番上で右端をクリックし、左か右にドラッグします。
- その列にとって最適な幅にするためには、列の一番上で右端をダブルクリックします。
- 列ヘッダーを右クリックし、**列幅を設定** を選択するか、**表示メニュー** から選択します。**列幅を設定** ダイアログで幅を指定します。


ヒント : 結果は、選択中の列だけに適用されます。

行の高さの設定

行ヘッダーを右クリックして **行の高さを設定** を選択するか、**表示メニュー** から選択します。**行の高さを設定** ダイアログで行の高さを指定します。

ヒント : この動作は、現在のコレクショングリッドだけに適用されます。

列の表示/非表示

コレクションに多くの列があり、コレクショングリッドからそれらのいくつかを非表示にする場合は、 **列** をクリックします。非表示にしたい列を選択します。

非表示の列はコレクショングリッドから消えます。

列の非表示を解除するためには、 **列** をクリックします。再表示したい列を選択します。

Redis

Redis データビューワー

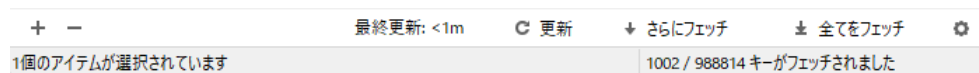
Navicat では、スプレッドシートのようなデータグリッドを使用して Redis サーバー内のキーを探索できます。エディタを使用してキーを追加、編集、削除したり、キーの有効期限を更新したりすることもできます。

データビューワーのツールバーは、データを管理するための以下の機能を備えています：

ボタン	説明
プロファイルを保存	キーデータの現在のビューを使用してプロファイルを作成します。
平らにする	キーのリストビューとツリービューを切り替えます。
エディタ	キーの名前、タイプ、値、および TTL を表示および編集するためのエディタをアクティブ化します。
<u>検索</u>	文字列またはキーパターンを使用してキーを検索します。
	スプレッドシートに似た表形式でキーを表示します。
	ネストされた構造を示す階層形式でキーを表示します。

ナビゲーションバーの使用

データビューワーでは、ナビゲーションバーボタンを使用して、キーの間を簡単に行き来することができます。



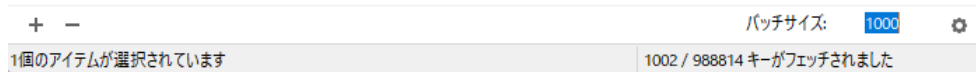
ボタン	説明
+	キーの追加 - 新しいキーを入力します。データビューワーでテーブルを操作するどの時点であっても、このボタンをクリックして、キー用の空白表示部を出すことができます。
-	キーの削除 - 既存キーを削除します。
最終更新	Last Refresh - 最終更新日時、または、最終更新からの経過時間を表示します。
更新	更新 - データを更新します。
+ さらにフェッチ	さらにフェッチ - 次のバッチサイズのキーを取得します。
± 全てをフェッチ	全てをフェッチ - 残りの全てのキーを取得します。
	バッチサイズの設定 - データビューを開く時に表示されるキーの数を設定します。

編集モードにするためには、**バッチサイズの設定** ボタンを使用します。

バッチサイズ

編集ボックスに値を設定します。サーバーからフェッチされるキーの数を表す数値。

注意： この設定モードは、現在のデータビューワーのみに対して有効です。



キーの編集

データビューは、キーを行と列として表示するスプレッドシートのようなビューです。ナビゲーションバーを使用すると、キーを挿入または削除できます。

デフォルトでは、データビューを開くと、Navicat はキーの数をバッチサイズで読み込みます。さらに多くのキーをフェッチしたい場合は、**+** さらにフェッチまたは **-** 全てをフェッチをクリックします。

ヒント : 新しくフェッチされたものには緑色のインジケーターが付けられます。グリッドで右クリックし、**全てのインジケーターのマークを外す**を選択すると、マークを解除できます。

キーを追加するために

1. ナビゲーションバーから **+** をクリックするか、CTRL+N を押してキー用の空白を表示します。
2. **エディタ**を使用してキープロパティを入力します。
3. 別のキーに移動してキーを保存するか、**適用**をクリックするだけです。

キーを編集するために

1. 編集したいキーをダブルクリックします。
2. **エディタ**を使用して新しいデータを入力します。
3. 別のキーに移動するか、**適用**をクリックするだけで、新しいデータが前のデータを上書きします。

ヒント : キー名、キーのタイプ、キーの値、Time to Live (TTL) を変更できます。

キーを削除するために

1. 削除したいキーを選択します。
2. 右クリックし、**キーの削除**を選択するか、ナビゲーションバーから **-** をクリックします。

ヒント : SHIFT キーまたは CTRL キーを押しながらクリックすると、一度に複数のキーを選択できます。


キーのソート

デフォルトでは、データグリッドにはキー名の昇順でキーが表示されます。Navicat でのソートは、キーを別の順序で表示または更新できるように、キーを一時的に並べ替えるために使用されます。

内容をソートしたい列のキャプションをクリックし、**昇順ソート**、**降順ソート**、または**ソートを削除**を選択します。

キー	タイプ	値	サイズ
▼ movie (921)			
1	hash	[ibmdb	726 B
2	hash	[ibmdb	790 B
3	hash	[ibmdb_ju:u2z/0200, poster:https://m.media-amazon.com/images/M/...	739 B
4	hash	[ibmdb_id:tt2267998, poster:https://m.media-amazon.com/images/M/...	726 B

キーの検索


データベース内のキーを迅速に検索するために、検索機能が提供されています。データタイプを選択し、**検索ボックス**にキー名を入力します。次に、 **検索**をクリックするか、ENTER を押します。

検索用のいくつかの追加オプションがあります。 をクリックしてください：

オプション	説明
キーに含まれる	検索文字列（大文字と小文字は区別されない）を含む全てのキーを返します。
キーに含まれる（大文字と小文字を区別）	大文字と小文字を区別した検索を有効にします。
キーがパターンに一致	パターンに一致する全てのキーを返します。


検索を削除するためには、 **検索のクリア**をクリックするだけです。


セルエディタ

Navicat は、フィールドの内容を表示および編集するための強力なセルエディタを提供します。エディタを使用すると、テーブルまたはコレクションのデータを表示、更新、挿入、削除できます。ツールバーから  **セルエディタ**をクリックして、適切なビューワー/エディタをアクティブ化します。




注意： Oracle BFile フィールドは編集できません。MongoDB JSON ビューはセルエディタをサポートしていません。

MySQL、Oracle、PostgreSQL、SQLite、SQL Server、MariaDB、MongoDB

テキストペインでは、シンプルなテキストとしてデータを編集することができます。構文の強調表示を変更するためには、空のスペースを右クリックし、**言語**を選択します。ナビゲーションバーの  ボタンを使用して、変更したレコードまたはドキュメントを更新することができます。


16 進数ペインでは、16 進モードでデータを編集することができます。ナビゲーションバーの  ボタンを使用して、変更したレコードまたはドキュメントを更新することができます。

注意： キーボードの INSERT キーを使用して、挿入モードと上書きモードを切り替えることができます。

イメージペインでは、イメージとしてデータを表示することができます。 **ロード**、 **ディスクに保存**、 **クリア**ボタンを使用して、ファイルからイメージをロード/削除したり、イメージをファイルに保存することができます。



ウェブペインでは、ウェブブラウザのように HTML コードを使ってデータを表示することができます。

フィルターとソートペイン

フィルターとソートペインを使用すると、データグリッドに指定したフィルターとソートの条件を簡単に適用できます。ツールバーから  **フィルターとソート** をクリックして、フィルターとソートペインがアクティブになります。

注意： MySQL / Oracle / PostgreSQL / SQLite / SQL Server / MariaDB / MongoDB でのみ使用可能です。

フィルターの適用

1. 新しい条件を追加するためには、 をクリックします。丸括弧付きの条件を追加したい場合、 をクリックします。

ヒント： 既存の条件に括弧を追加するためには、選択した条件を右クリックし、**角括弧付きのグループ** を選択します。括弧を削除するためには、括弧を右クリックし、**角括弧の削除** または **角括弧と条件の削除** を選択します。

2. (チェックボックスの隣の) フィールド名をクリックし、リストからフィールドを選択します。
3. (フィールド名の隣の) 演算子をクリックし、フィルター演算子を選択します。リストから **[カスタム]** を選択すると、条件を手動で入力することができます。

フィルター演算子	演算子の説明
=	フィールドは、'値'と等しいです。
!=	フィールドは、'値'と等しくありません。
<	フィールドは、'値'より小さいです。
<=	フィールドは、'値'以下です。
>	フィールドは、'値'より大きいです。
>=	フィールドは、'値'以上です。
含む	フィールドは、'値'を含みます。
含む (大文字小文字を区別しない)	フィールドは、'値' (大文字小文字を区別しない) を含みます。 PostgreSQL でのみ使用可能です。
含まない	フィールドは、'値'を含みません。
含まない (大文字小文字を区別しない)	フィールドは、'値' (大文字小文字を区別しない) を含みません。 PostgreSQL でのみ使用可能です。
から始まる	フィールドは、'値'で始まります。
から始まらない	フィールドは、'値'で始まりません。
で終わる	フィールドは、'値'で終わります。
で終わらない	フィールドは、'値'で終わりません。
ヌルである	フィールドは、NULL です。
ヌルでない	フィールドは、NOT NULL です。
空である	フィールドは、空です。
空でない	フィールドは、空ではありません。
の間にある	フィールドは、'値 1' と '値 2' の間にあります。
の間に無い	フィールドは、'値 1' と '値 2' の間にありません。
リストに含まれる	フィールドは、 ('値 1', '値 2', ...) のリストにあります。
リストに含まれない	フィールドは、 ('値 1', '値 2', ...) のリストにありません。

存在する	フィールドは存在しています。 MongoDB でのみ使用可能です。
存在しない	フィールドは存在していません。 MongoDB でのみ使用可能です。
フィールド型です	そのフィールドのタイプは、'値'です。 MongoDB でのみ使用可能です。
フィールド型ではありません	そのフィールドのタイプは、'値'ではありません。 MongoDB でのみ使用可能です。




4. <?> をクリックして、適当なエディタをアクティブにし条件値を入力します。条件値ボックスで使用されるエディタは、該当するフィールドに割り当てられるデータの種類によって決まります。

ヒント : MongoDB の場合、条件値ボックスでエディタの種類を変更することができます。

5. (条件値の隣の) 論理演算子をクリックし、**and** または **or** を選択します。
6. 別の新たな条件を追加する場合は、ステップ 1-5 を繰り返します。
7. **フィルターとソートを適用**をクリックして、作成したフィルターの結果を確認します。

ヒント : 条件の意味を逆にしたい場合、選択した条件を右クリックし、**否定子の切り替え**を選択します。(MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB でのみ使用可能です)

ソートの適用

1.  をクリックします。
2. フィールド名をクリックし、リストからソートしたいフィールドを選択します。
3.  または  をクリックしてソート順序を変更します。
4. 別のフィールドを追加する場合は、ステップ 1-3 を繰り返します。
5. **フィルターとソートを適用**をクリックして、作成したソートの結果を確認します。

ヒント : ソート領域に複数のフィールドがある場合、フィールドを希望の正確な位置にドラッグすることによって、順序を配列し直すことができます。

レイアウトの変更

フィルターとソートペインの外観を**タブ**または**統合**に変更できます。タブレイアウトでは、フィルターとソートのオプションは整理のために個別のタブに区分されます。一方、統合レイアウトでは、フィルターとソートのオプションが 1 つにまとめられたペインに統合されます。

これらのレイアウトオプションにアクセスするためには、**表示 -> フィルターとソートのレイアウト**を選択します。

7 - データプロファイリング (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

データプロファイリングについて


Navicat のデータプロファイリングツールを使用すると、データに関する包括的な洞察を得ることができます。この情報は、データ資産をより深く理解し、データ品質の問題を特定し、データの使用について情報に基づいた決定を下し、データが分析に必要な基準を満たしていることを確認するのに役立ちます。

これは、データの探索を支援する様々な機能を提供します。データセット内のデータタイプ、形式、分布、統計プロパティを調べることができます。欠損値、外れ値、データの不一致を簡単に特定して、データの正確性と完全性を確保できます。

注意： MySQL / Oracle / PostgreSQL / SQLite / SQL Server / MariaDB でのみ使用可能です。


データプロファイリングの開始

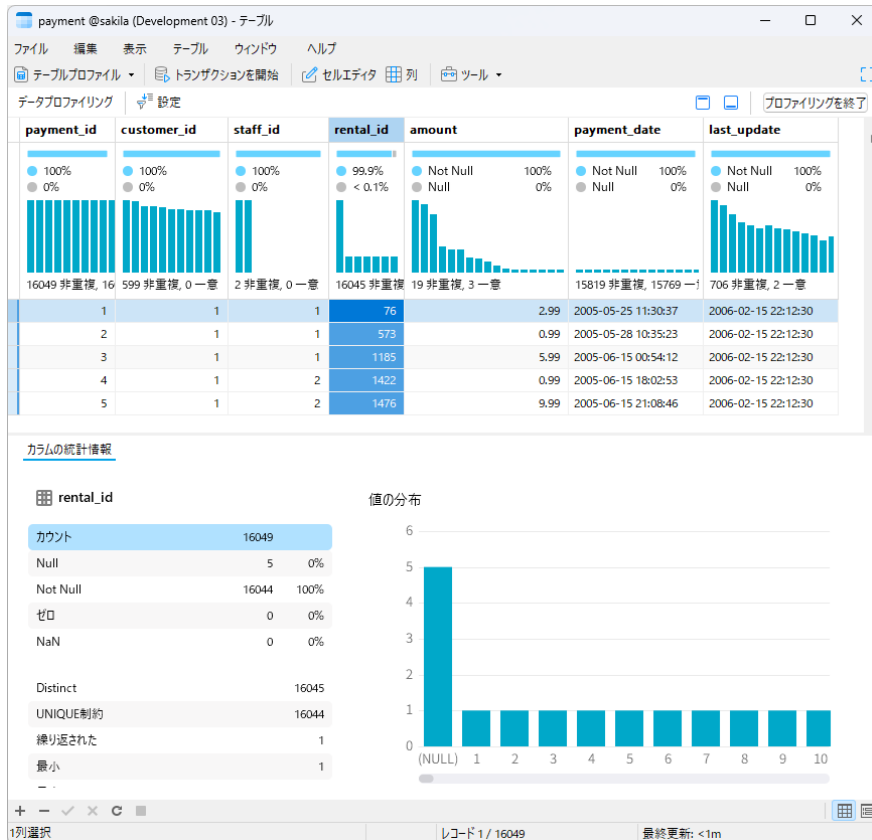
データプロファイリングはリソースを大量に消費するため、特にデータ量が多い場合は実行時間が非常に長くなることがあります。全てのレコードをプロファイリングするだけでなく、フィルターを使用してプロファイルがスキャンするデータを選択できます。フィルターを追加すると、プロファイルは指定したフィルター条件を満たすデータ値のみをスキャンします。

データプロファイリングツールを有効にするためには、テーブルを開いて  **データプロファイリング** をクリックします。データプロファイリングペインで、希望のプロファイリングオプションを有効にして **プロファイリングを開始** をクリックします。

オプション	説明
すべてのレコード	データプロファイリングスキャンでは、テーブル内の全てのデータがスキャンされます。
フィルターを追加	プロファイリング用にスキャンするデータを <u>フィルター</u> し、プロファイリングスキャンを実行するためにサンプリングするレコードの範囲 (制限なしまたは最初 #レコード) を設定できます。

プロファイリング結果の表示

プロファイリングが終了した後、データプロファイルの結果が表示されます。結果は、プロファイルの実行の全ての列とその統計を示しています。  **データ設定** をクリックしてプロファイリングオプションを変更してから、データを再プロファイルできます。

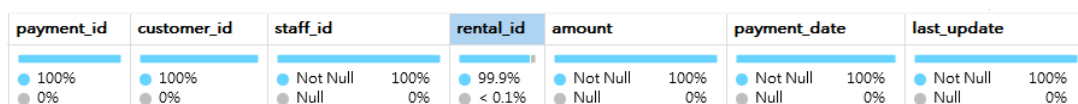


列の品質と分布

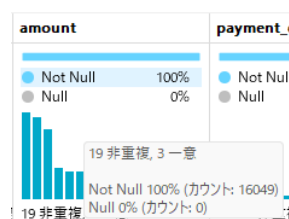
列の品質と分布ペインは、個別の値、一意の値、Null 値、非 Null 値の観点からデータの品質を提供し、列の値に関連付けられた列分布チャートも表示します。

列の品質

列の品質には、小さな棒チャートと列の品質カテゴリ（パーセンテージとして表示）が含まれます。列名の真下に表示されます。



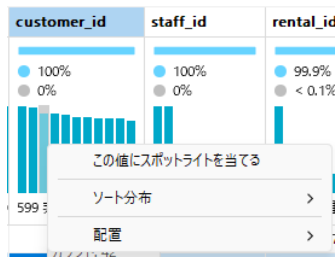
いずれかのカテゴリにマウスを合わせると、列全体の値の品質の数値分布が表示されます。



列の分布

列の分布チャートでは、ヒストグラムのように各列の値の頻度と分布を確認できます。

デフォルトでは、これらの視覚化のデータは、値の昇順でソートされます。チャートを右クリックして**ソート分布**を選択することによって、ソートの順序とカテゴリを変更できます。

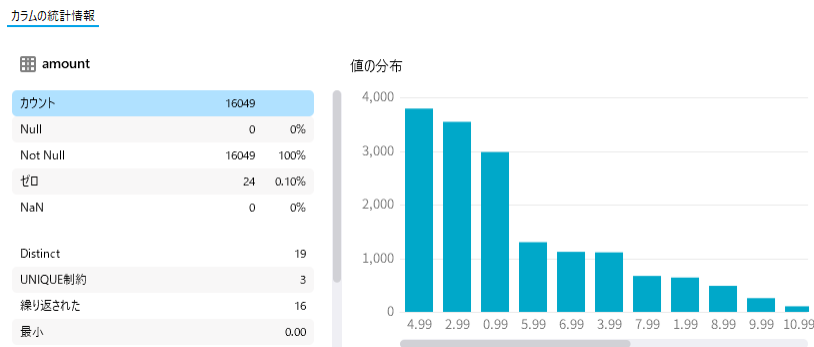


いずれかのバーにマウスを合わせると、列全体の値とその値の品質の数値分布が表示されます。

バーを右クリックして**コンパクト**または**詳細**を選択することによって、自身に最適なディスプレイスタイルを変更できます。コンパクトビューは列の品質情報を表示せず、詳細ビューは列の品質と分布情報の両方を示します。

列の統計情報

列の統計情報ペインは、列のデータをより詳細に表示します。カウント、Distinct、UNIQUE 制約、空文字、最小、最大などの分布メジャーを含む列統計が含まれます。値分布とは別に、列の統計情報チャートを表示するメジャーを選択できます。

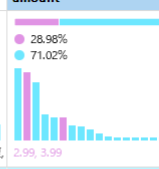


スポットライトの追加

結果の特定の値に注意を向けるために、スポットライトを使用します。値をスポットライトするためには、次の方法のいずれかを使用します：

- 列の品質カテゴリまたは列の品質と分布ペインのバーをクリックします。
- 列の品質と分布ペインのバーを右クリックして、**この値にスポットライトを当てる**または**スポットライトを追加**を選択します。
- グリッドの値を右クリックして、**この値にスポットライトを当てる**または**スポットライトを追加**を選択します。
- 値の分布チャートのバーを右クリックして、**この値にスポットライトを当てる**または**スポットライトを追加**を選択します。

ヒント：スポットライトされた値を同じように削除します。

payment_id	customer_id	staff_id	rental_id	amount	payment_date	last_update
						
4651 非重複, 465	599 非重複, 2 一意	2 非重複, 0 一意	4651 非重複	2.99, 3.99	4608 非重複, 4604 一意	684 非重複, 42 一意
20	1	2	8326	2.99	2005-07-29 03:58:49	2006-02-15 22:12:30
21	1	2	9571	2.99	2005-07-31 02:42:18	2006-02-15 22:12:30
22	1	2	10437	4.99	2005-08-01 08:51:04	2006-02-15 22:12:30
23	1	2	11299	3.99	2005-08-02 15:36:52	2006-02-15 22:12:30
24	1	1	11367	0.99	2005-08-02 18:01:38	2006-02-15 22:12:30

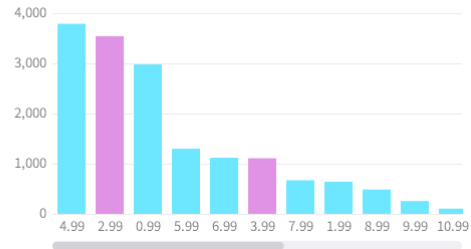
カラムの統計情報

amount


スポットライトフィールド: amount
 スポットライトの値: 2.99, 3.99

カウント	4651
Null	0 0%
Not Null	4651 100%
ゼロ	0 0%
NaN	0 0%
Distinct	2
UNIQUE制約	0

値の分布





列の統計情報のコピー

列の統計情報ペインでは、メジャーの上にマウスを移動して  をクリックすることができます。

8 - クエリ

クエリについて










クエリは、ユーザーの要求に従い、読み取り可能な形式で、データベースからデータを抽出するために使用されます。Navicat は、クエリを操作するための高性能なツールを備えています。クエリテキストを直接編集するためのクエリエディタと、クエリを視覚的に構築するクエリビルダまたは検索ビルダ、集約ビルダです。[自動タスク](#)の設定用にクエリを保存することができます。メインウィンドウで、 **クエリ**をクリックしてクエリオブジェクトリストを開きます。またメインツールバーの  **新規クエリ**をクリックして、接続を開かずに新しいクエリを作成することができます。

外部エディタを使用してクエリを開くためには、クエリを右クリックし、**外部エディタで開く**を選択します。また、[オプション](#)で外部エディタのファイルパスを設定することが可能です。

ヒント : クエリ (.sql/.js/.redis) は、[設定の保存場所](#)の下に保存されます。フォルダを開くためには、クエリを右クリックし、**格納フォルダを開く**を選択します。接続が [Navicat Cloud](#) または [On-Prem Server](#) に同期されている場合、そのクエリはクラウドに保存されます。

クエリデザイナー

クエリデザイナーは、クエリを操作するための Navicat の基本ツールです。

ボタン	説明
MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB	
 クエリビルダ	視覚的にクエリを構築するためにクエリビルダを開きます。
 SQL を整形	エディタの SQL 整形設定を使って、コードを書式設定します。
 説明	クエリの実行プランを表示します：説明または選択部分の説明（コードが強調表示されている場合）。
MongoDB	
 検索ビルダ	視覚的にクエリを構築するために検索ビルダを開きます。
 集約ビルダ	視覚的にクエリを構築するために集約ビルダを開きます。
 整形スクリプト	エディタでコードをフォーマットします。
 説明	クエリの実行プランを表示します：説明または選択部分の説明（コードが強調表示されている場合）。
共通	
 コードスニペット	コードスニペットペインを表示します。
 実行	実行 - クエリ全体を実行します。 現在のステートメントを実行 - カーソル位置に基づいて現在のステートメントを実行します。 選択部分を実行 - 強調表示されたコードを実行します。 エラーが発生しても続ける - 実行プロセス中に発生したエラーを無視します。 (MongoDB は、現在のステートメントを実行とエラーが発生しても続けるをサポートしていません。)

中止

実行中のクエリを停止します。

クエリをデータソースとして使用して BI ワークスペースを作成する

1. クエリデザイナーで、**ファイル -> BI ワークスペースを作成**を選択します。

Navicat で外部ファイルを開く

1. メニューバーから、**ファイル -> 外部ファイルを開く -> クエリ**を選択します。
2. ファイルを選択し、エンコーディングを選択します。
3. **開く**をクリックします。

開いている外部ファイルを Navicat クエリとして保存

1. クエリデザイナーで、**ファイル -> Navicat に保存**を選択します。
2. クエリ名を入力し、保存場所を選択します。
3. **確認**をクリックします。

Navicat クエリを外部ファイルとして保存

1. クエリデザイナーで、**ファイル -> 外部ファイルとして保存**を選択します。
2. 保存パスを選択し、ファイル名を入力します。
3. **保存**をクリックします。

RDBMS

クエリエディタ

クエリエディタでは、SQL テキストの作成と編集、選択したクエリの準備と実行を行えます。1 つのクエリウィンドウで、複数の SQL 文を定義することができます。右の**識別子**ペインにある識別子をドラッグアンドドロップするか、ダブルクリックして、それをエディタに追加します。

ヒント: クエリビルダでクエリを構築している間に、SELECT ステートメントがクエリエディタで自動生成されます。

Navicat は、様々な高度機能を提供しています。例えば、強力なコード編集機能、スマートコード補完、SQL の書式設定など。

SQL の書式設定

SQL 文の書式を変更するためには、**書式**メニューから下記の項目を選択します。

インデント

コードの選択行のインデントを大きく/小さくします。

注釈行

コードの選択行をコメント化／非コメント化します。

文字を切り替える

選択されたコードを大文字／小文字に書式変更します。

SQL を整形

SQL 整形の設定を使い、選択されたコードの書式を設定します。

SQL の整形の設定

SQL 整形のオプションを変更します。

オプション／ボタン	説明
単一行中括弧の単語／記号の制限	短い括弧の長さを設定します。
大文字キーワード	すべての SQL キーワードを大文字に書式設定します。
整形	SQL 整形オプションを保存し適用します。

SQL を縮小

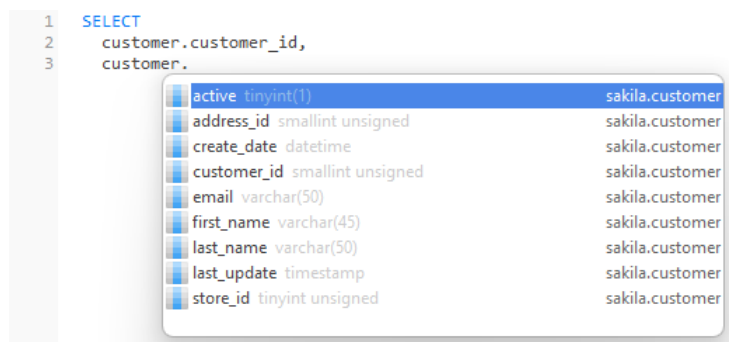
クエリエディタで SQL の書式を縮小します。

コード補完

Navicat のコード補完機能では、エディタに SQL ステートメントを入力すると候補のリストがポップアップで表示されます。ステートメントの補完、および、データベース、テーブル、フィールド、ビューなどのデータベースオブジェクトの利用可能なプロパティを適切なアイコンと情報とともに表示します。編集 -> コード補完 -> コード補完情報を更新を選択すると、最新のデータベースの情報でコードの候補を更新することができます。

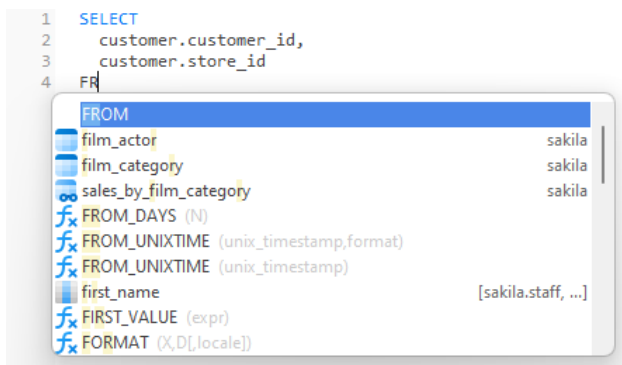
データベースオブジェクトの使用可能なプロパティについては、スコープ内で '.' を入力すると、コード補完機能が起動します。

候補のリストが表示された時、TAB を押すと最初のアイテムが挿入されます。上向き矢印または下向き矢印を使用して必要なアイテムを選択することも可能で、選択後に TAB または ENTER を押します。



さらに、SQL キーワード/データベースオブジェクトの場合は、1 文字を入力またはキーボードの ESC を押すことでコード補完を起動できます。

リストからスニペット名を選択すると、保存されたコードがエディタに挿入されます。



ヒント : 提案リストの右下の角をドラッグすることによって、提案リストのサイズを変更します。





[オプション](#)でコード補完機能を有効または無効にすることができます。

クリップボードスタック

エディタでいつもどおりに一部のコードをコピーまたはカットすると、コピーされたコンテンツもクリップボードスタックに追加されます。クリップボードスタックは、最大 10 個のアイテムを保存でき、後入れ先出しロジックを使用できます。クリップボードスタックからアイテムを貼り付けるには、CTRL+SHIFT+V キーを押します。クリップボードスタックを循環するには、CTRL+SHIFT+V を複数回押します。

コードの折りたたみ

コードの折りたたみ機能を使うと、ひとまとまりのコードを折りたたんで、その一番最初の行だけがクエリエディタに表示されるようにすることができます。

折りたたみ可能なひとまとまりのコードは、その最初の行の左側にアイコン  が表示されます。そのアイコンから折りたたみ可能なコードの一番下まで、垂直線が伸びています。対照的に、折りたたまれているコードは、そのコードブロックの左側にアイコン  が表示されます。コードを折りたたむには  をクリックし、展開するには  をクリックします。

```
1 SELECT
2   `film`.`film_id` AS `FID`,
3   `film`.`title` AS `title`,
4   `film`.`description` AS `description`,
5   group_concat( [..]
6
7 FROM
8   (((
9     `category`
10    LEFT JOIN `film_category` ON (( [..]
11
12    LEFT JOIN `film` ON (( [..]
13
14    JOIN `film_actor` ON ((
15      `film`.`film_id` = `film_actor`.`film_id`
16    ))
17
18    JOIN `actor` ON ((
19      `film_actor`.`actor_id` = `actor`.`actor_id`
20    ))
21  )))
22 GROUP BY
23   `film`.`film_id`,
24   `category`.`name`
```

構文の強調表示

右端での折り返し

ワードラップ（右端での折り返し）モードでは、水平方向のスクロールバーは消えます。エディタウィンドウサイズの幅を超える SQL ステートメントは、次の行に折り返されます。ワードラップを有効にするためには、**表示 -> 右端での折り返し**を選択します。

ズームイン/ズームアウト

Navicat は、エディタで SQL をズームイン/ズームアウトすることが可能です。ズームのオプションは、**表示 -> 表示 -> ズーム**で使用可能です。下記のキーボードのショートカットを使って同様の効果を得ることができます。

ズームイン：[CTRL+=]


ズームアウト：[CTRL+-]

リセット：[CTRL+0]

注意：別のタブまたはウィンドウで開いているエディタは、ズームの影響を受けません。

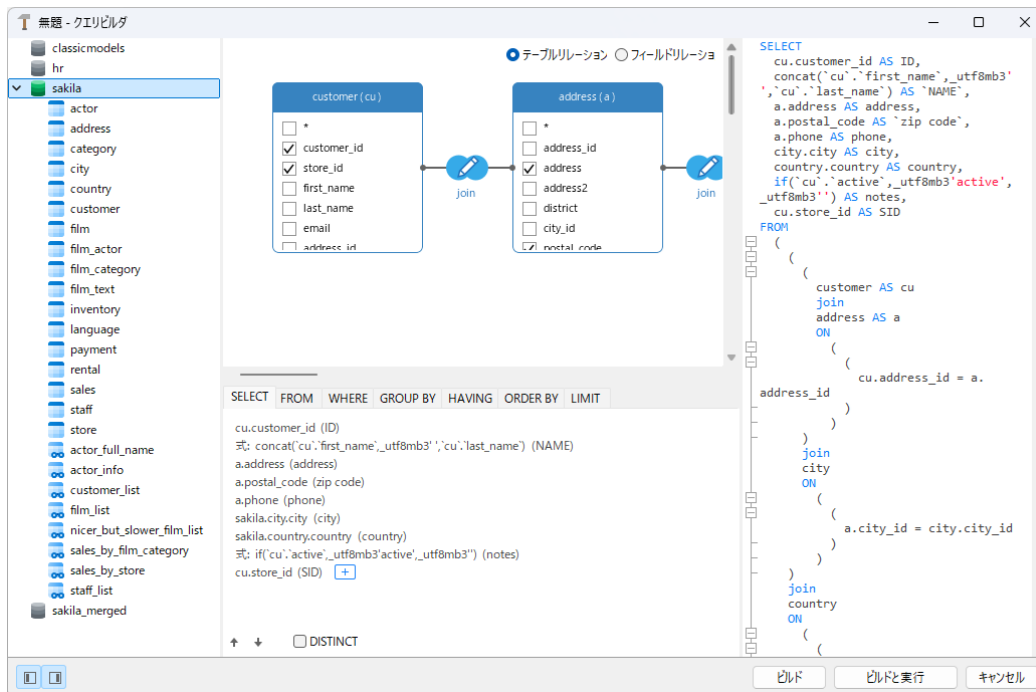
クエリビルダ（Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能）

Navicat は、クエリ、ビュー、マテリアライズドビューを視覚的に作成するための **SQL ビルダ**と呼ばれる便利なツールを提供しています。SQL の知識がなくても、クエリを作成したり編集したりできます。SQL に精通している場合でも、便利で快適に使えるグラフィカルインターフェイスにより、リレーションの作成やクエリの視覚化が容易になります。

クエリデザイナーで、 **クエリビルダ**ボタンをクリックして、ビジュアル SQL ビルダを開きます。

左側の**オブジェクト**ペインには、全てのデータベースオブジェクトが表示されます。中央のペインは、上部の**ダイアグラム**ペインと下部の**条件**ペインの 2 つの部分に分かれています。右側の **SQL** ペインには、クエリを作成する時に、自動生成されたクエリを表示できます。

注意:クエリビルダは SELECT ステートメントのみをサポートしています。クエリエディタを使用して、他の複雑なクエリ (INSERT、UPDATE、DELETE など) を作成します。



オブジェクトをクエリに追加する

最初の手順は、クエリに追加する必要があるテーブルとビューを決定することです。

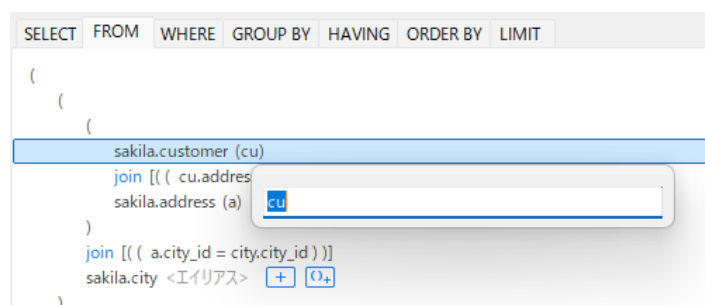
クエリにテーブルとビューを追加するためには、次のいずれかの方法を使用します。

- それらをオブジェクトペインからダイアグラムペインにドラッグします。
- オブジェクトペインでそれらをダブルクリックします。

テーブル、ビュー、サブクエリのエイリアスを設定するためには、ダイアグラムペインでオブジェクトのタイトルをダブルクリックし、オブジェクト名のエイリアスとして使用する名前を入力します。

ダイアグラムにオブジェクトを追加したら、**FROM** タブを使用して、必要に合わせてクエリを調整できます。

- オブジェクトを変更するためには、オブジェクトをクリックして識別子を選択します。
- テーブルのエイリアスを追加するためには、**<エイリアス>**をクリックします。




ダイアグラムペインでオブジェクトを右クリックして**削除**を選択するか、DELETE キーを押して選択されたオブジェクトをクエリから削除できます。

オブジェクトを削除すると、クエリビルダはそのオブジェクトに関連する結合を自動的に削除します。

出力フィールドを選択する

クエリにフィールドを含めるためには、次のいずれかの方法を使用します。

- ダイアグラムペインで、クエリに追加したいフィールド名の左側のチェックボックスにチェックを付けます。
- オブジェクトの全てのフィールドを含めるためには、ダイアグラムペインの * チェックボックスにチェックを付けます。
- 全てのオブジェクトの全てのフィールドを追加するためには、**SELECT** タブで  をクリックし、**全てのフィールド(*)** を選択します。

選択されたフィールドが **SELECT** タブに表示されます。追加の出力フィールドオプションを指定できます。

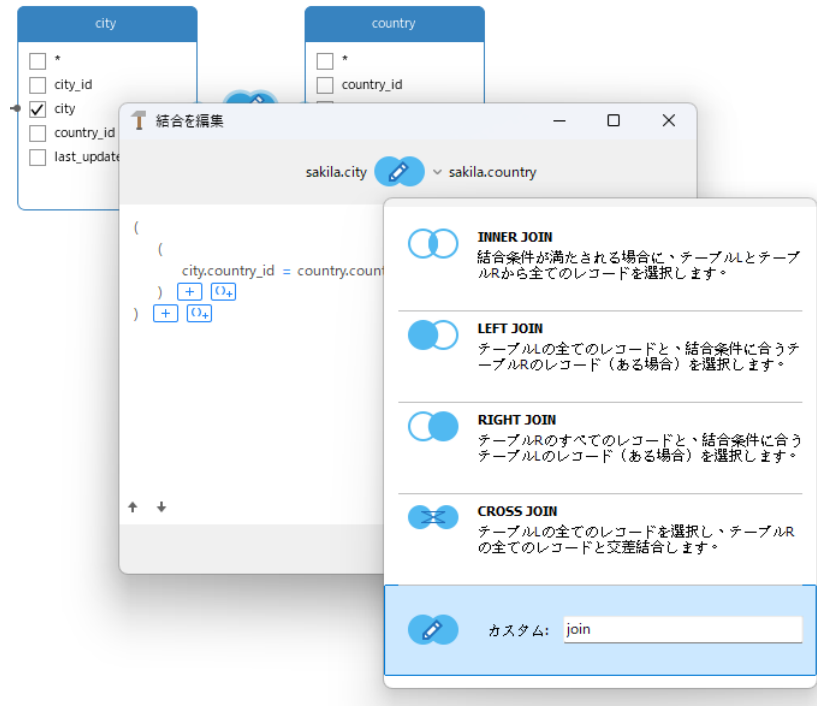
- **DISTINCT** チェックボックスにチェックを付けて、クエリが異なる結果を返すように強制します。
- フィールドエイリアスを追加するためには、**<エイリアス>** をクリックして名前を入力します。
- 識別子をクリックして、**集約関数** を選択します。
- 上向き矢印ボタンと下向き矢印ボタンを使用して、フィールドの順序を変更します。

フィールドの関連付けを設定する

クエリビルダは、外部キーのリレーションに従ってテーブルを自動的に結合します。データベースオブジェクトを手動で関連付けたい場合、オブジェクトからフィールドを選択し、別のオブジェクトのフィールドにドラッグします。2 つのオブジェクト間に接続線が表示され、関係と結合タイプを視覚的に表します。

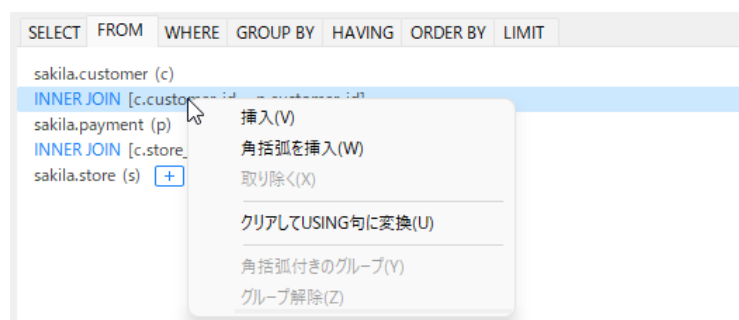
接続線を表示する 2 つのビューがあります。テーブルリレーションとフィールドリレーションです。**フィールドリレーション**ビューでは、2 つのテーブルの一致するフィールドを識別できます。一方、**テーブルリレーション**ビューには、2 つのテーブル間の結合関係が表示されます。

デフォルトでは、全ての結合は最初に **INNER JOIN** として作成されます。関連付けを変更するためには、ダイアグラムペインの接続線をクリックまたはダブルクリックするか、**FROM** タブの **JOIN** キーワードをクリックして、結合タイプを選択します。結合タイプが一覧表示されない場合、**カスタム** テキストボックスにカスタマイズしたタイプを入力することができます。



結合を削除するためには、接続線を右クリックして**削除**を選択します。

結合条件を変更するためには、接続線を右クリックして**結合を編集**を選択するか **FROM** タブで条件をクリックします。



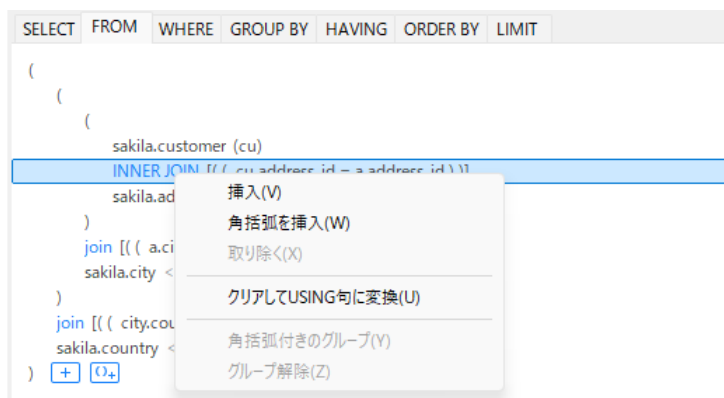
FROM タブのポップアップメニューオプション：

オプション	説明
挿入	識別子、式またはサブクエリを追加します。
角括弧を挿入	括弧のペアを追加します。
削除	識別子、式またはサブクエリを削除します。
クリアして USING 句に変換	ON 条件を削除し、それを USING 句に変換します。
クリアして ON 句に変換	USING 条件を削除し、それを ON 句に変換します。
角括弧付きのグループ	括弧を追加して、選択された条件をグループ化します。
グループ解除	括弧を削除します。

フィルター基準を設定する

データを取得する時、フィルタリング式を設定したい場合があります。クエリによって返されるデータにフィルターをかけるためには、ダイアグラムペインでフィールドを右クリックして、**条件にフィールドを追加** -> **WHERE** と演算子を選択します。

条件は **WHERE** タブに追加されます。<値>をクリックすると、そこで値を編集できます。括弧付きの条件を追加したい場合、**(+)** をクリックします。論理演算子 (および/または) をクリックして変更できます。上向き矢印ボタンと下向き矢印ボタンを使用して、条件の順序を変更します。



WHERE タブのポップアップメニューオプション :

オプション	説明
否定子の切り替え	条件の意味を逆にします。
挿入	条件を追加します。
カスタムを挿入	カスタム条件を追加します。
角括弧を挿入	括弧のペアを追加します。
削除	括弧のペアを追加します。
角括弧付きのグループ	括弧を追加して、選択された条件をグループ化します。
グループ解除	括弧を削除します。

結果データをグループ化する

ダイアグラムペインでフィールドを右クリックし、**条件にフィールドを追加** -> **GROUP BY** を選択して、クエリレコードをグループ化するための条件を設定できます。

条件が **GROUP BY** タブに追加されます。上向き矢印ボタンと下向き矢印ボタンを使用して、フィールドの順序を変更します。

HAVING タブでは 要約されたデータまたはグループ化されたデータにフィルターをかけることができます。条件に含める識別子、演算子、集約関数を選択するか、式を入力します。上向き矢印ボタンと下向き矢印ボタンを使用して、条件の順序を変更します。

HAVING タブのポップアップメニューオプション :

オプション	説明
否定子の切り替え	条件の意味を逆にします。
挿入	条件を追加します。
カスタムを挿入	カスタム条件を追加します。
角括弧を挿入	括弧のペアを追加します。
削除	括弧のペアを追加します。
角括弧付きのグループ	括弧を追加して、選択された条件をグループ化します。
グループ解除	括弧を削除します。

結果データを並べ替える

ダイアグラムペインでフィールドを右クリックし、**条件にフィールドを追加** -> **ORDER BY** -> **ASC** または **DESC** を選択して、クエリレコードのソート方法を設定できます。条件が ORDER BY タブに追加されます。

結果データを制限する

LIMIT タブで、クエリ結果を指定した範囲内にあるものに制限できます。

オフセット

スキップされるレコード数を指定します。これはオプションです。

制限

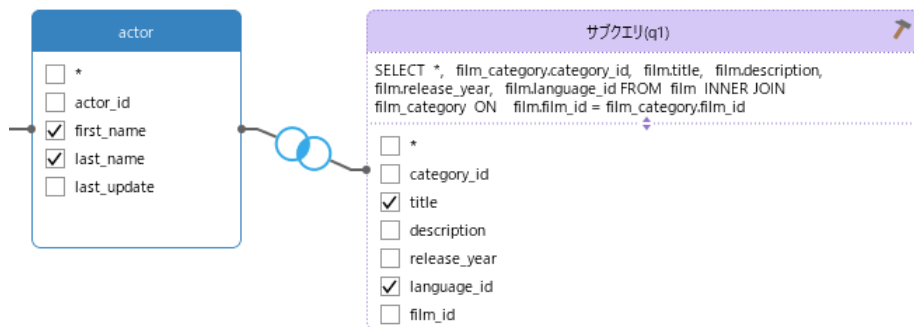
表示されるレコード数を指定します。

注意 : MySQL/PostgreSQL/SQLite/MariaDB でのみ使用可能です。

式/サブクエリを追加する

式またはサブクエリを追加して、クエリ結果をさらに制限できます。**FROM** タブで、**+** をクリックして、**式/サブクエリ**タブを選択します。

式またはサブクエリを入力した後、ENTER キーを押して編集を確認します。これは、ダイアグラムペインに追加され、ステートメントに式またはサブクエリが含まれていることを示し、ステートメントが含まれている列を識別します。



🔗 ボタンをクリックすると、メインクエリと同じ方法で視覚的に作成できるサブクエリレイヤーに切り替わります。

(**メインクエリ**) をクリックすると、いつでもメインクエリに戻ることができます。

生成された SQL を表示する

SQL ペインには、クエリビルダによって生成される SQL の読み取り専用の書式付き表現が表示されます。SQL ペインに表示される SQL をコピーして、他のツールで使用できます。サブクエリレイヤーでは、**現在のレイヤーのみ表示**を有効にして、サブクエリ SQL を表示できます。

ズームイン/ズームアウト

Navicat は、ダイアグラムをズームインまたはズームアウトすることができます。ダイアグラムペインで右クリックし、**ズーム** -> **ズームイン**/**ズームアウト**/**100%**を選択します。下記のキーボードのショートカットを使って同様の効果を得ることができます。

ズームイン : [CTRL+=]

ズームアウト : [CTRL+-]

リセット : [CTRL+0]

クエリパラメータ

クエリは、クエリテキスト内でのパラメータの使用に対応しています。クエリパラメータを設定することによって、実行時はいつも、クエリに変数値が追加されます。パラメータを識別子として示すためには、前に**\$**を付け、**[]**で囲んでください。例えば、**[\$any_name]**。


クエリを実行すると、検索したい希望のデータを入力するための**パラメータを入力**ダイアログが表示されます。入力された値をクォーテーションマークなしでクエリに渡すためには、**Raw モード**にチェックを付けます。

Oracle クエリのデバッグ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)





Oracle クエリをデバッグするために、ツールバーの  **デバッグ** をクリックして、[Oracle デバッグ](#) を起動させます。

クエリが入力パラメータを持つ場合、パラメータを入力します。



クエリの結果

どのサーバーのクエリも実行できます。ツールバーのドロップダウンリストからターゲット接続、データベースやスキーマを選択してから、 **実行** をクリックします。クエリ文が正確な場合、クエリが実行されます。そして、クエリ文がデータを返すことになっている場合、**結果** タブが開き、クエリによって返されたデータを表示します。クエリの実行中にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。



結果 タブは、クエリによって返された結果データをグリッドで表示します。データを 2 つのモードで表示することができます : グリッドビューとフォームビュー。詳細については、[データビューワー](#) をご覧ください。

ボタン	説明
 セルエディタ	セルエディタをアクティブにして、データを表示および編集します。
 データプロファイリング	クエリ内のデータをプロファイルします。
 エクスポート	クエリの結果をエクスポートします。
 ピン	タブをピン留めします。


注意 : Navicat は、20 個の結果セットを返すことをサポートしています。


クエリの選択された一部分を実行することができます。クエリエディタで SQL を強調表示し、 **選択部分を実行**をクリックします。カーソルが乗っている現在のステートメント（希望のステートメント内にカーソルを置きます）を実行するためには、 **実行**ボタンの隣の下向き矢印をクリックし、**現在のステートメントを実行**を選択します。

結果の位置を調整する

Navicat では、クエリ結果の表示方法を柔軟に設定できます。クエリ結果をページ全体、エディタの右側、またはエディタの下部に表示するように選択できます。これにより、Navicat でのデータ分析と探索中に、特定のニーズと好みに基づいて表示レイアウトを調整できます。結果の位置を変更するためには、右上隅にある  または  アイコンを使用するか、**表示** -> **結果メニュー** にアクセスします。

クエリ結果のピン留め (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

クエリを再実行すると、既存の結果タブは削除されます。結果タブをピン留めして、クエリを再実行した後も表示されたままにすることができます。 **ピン**をクリックするだけで、次回実行した時にその内容がクリアされなくなります。

タブをピン留めすると、ピンアイコンが表示され、タブバーの左側に自動的に移動します。ピン留めされた全てのタブが、ピン留めした順序で左から右に表示されます。ピン留めされたタブにマウスカーソルを合わせると、その実行時間とクエリが表示されます。任意の数の結果をピン留めして、ピン留めされているものとピン留めされていないものをすばやく確認できます。タブのピン留めを解除するためには、 **ピン解除**をクリックするだけです。


タブの名前をカスタマイズする

結果タブの名前をカスタマイズするためには、クエリエディタの各 SELECT ステートメントの前に `NAME:tab_name` または `/*NAME:tab_name*/` を追加します。

```
1 -- NAME: actor
2 SELECT * FROM actor;
3
4 -- NAME: film
5 SELECT * FROM film;
6
7 -- NAME: payment
8 SELECT * FROM payment;
```

メッセージ	概要	actor	film	payment
データ 情報				
actor_id	first_name	last_name	last_update	
1	PENELOPE	GUINNESS	2006-02-15 04:34:33	
2	NICK	WAHLBERG	2006-02-15 04:34:33	
3	ED	CHASE	2017-08-31 15:21:49	
4	JENNIFER	DAVIS	2006-02-15 04:34:33	
5	JOHNNY	LOLLOBRIGIDA	2006-02-15 04:34:33	
6	BETTE	NICHOLSON	2006-02-15 04:34:33	
7	GRACE	MOSTEL	2006-02-15 04:34:33	
8	MATTHEW	JOHANSSON	2006-02-15 04:34:33	
9	JOE	SWANK	2017-12-27 16:05:38	
10	CHRISTIAN	GABLE	2006-02-15 04:34:33	

クエリのプロファイリングとステータスの表示 (MySQL/MariaDB でのみ使用可能)

クエリの実行時にクエリのプロファイリングとステータスを表示するためには、**表示** -> **クエリプロファイリングとステータスを表示**を選択し、ツールバーの  **実行**をクリックします。


結果タブの**クエリプロファイリング**タブには、テーブルロック、システムロック、統計などのクエリのプロファイリングが表示されます。

注意：MySQL 5.0 では、5.0.37 以上でサポートされています。MySQL 5.1 では、5.1.24 以上でサポートされています。


状態タブには、クエリの状態が表示されます：受信バイト、送信バイトなど。

クエリの説明

クエリの説明では、データベースサーバーでデータベースクエリがどのように実行されるかについての詳細情報を提供します。クエリ実行プランを分析することで、クエリのパフォーマンスを理解して最適化するのに役立ちます。

 **説明**をクリックすると、Navicat は EXPLAIN ステートメントをデータベースサーバーに送信します。サーバーは、クエリを実行して要求されたデータを取得する手順の概要を示す実行プランを生成します。




説明タブには実行プランが表示されます。  **ピン**をクリックすると、タブをピン留めできます。

クエリの選択された部分を説明することができます。クエリエディタで SQL をハイライトし、  **選択部分の説明**をクリックするだけです。

注意：サポートされているプラン形式は、サーバーのタイプによって異なります。

実行プラン - ビジュアル (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

ダイアグラムには、クエリによって実行される操作と、それらの間で渡されるデータが表示されます。操作のコストがダイアグラムの閾値と等しいかそれを超えると、数字が赤に変わります。操作をクリックすると、その統計情報が表示されます。この情報は、クエリの実行時に内部で何が起きているかを理解するのに役立ちます。

ボタン/オプション	説明
コストの閾値(%)	閾値を設定して、実行プラン内の特定の操作が赤でマークされるほど重要であると判断されるタイミングを決定します。
	ダイアグラムを拡大または縮小します。
	ダイアグラムを PNG ファイルとしてダウンロードします。
	ダイアグラム内のノードをノードタイプでフィルターします。
検索	一致するものを検索するためには、検索文字列を入力します。

実行プラン - JSON

このテキストベースのプランは、クエリ実行に関する完全な情報のセットを JSON 形式で表示します。この形式は読み取りや分析が難しい場合がありますが、他のユーザーと共有するのは簡単です。

実行プラン - テキスト

このテキストベースのプランは、クエリ実行に関する完全な情報のセットを提供します。

実行プラン - グリッド

このグリッドベースのプランは、クエリ実行に関する完全な情報のセットを提供します。

実行プラン - 統計

ノードタイプごと - 視覚的なグラフで各ノードタイプの概要情報を表示します。

リレーションごと - 各テーブルに関連する統計情報を表示します。

MongoDB

クエリエディタ

クエリエディタでは、スクリプトの作成と編集、選択したスクリプトの準備と実行を行えます。右の**識別子**ペインにある識別子をドラッグアンドドロップするか、ダブルクリックして、それをエディタに追加します。

ヒント : 検索ビルダまたは集約ビルダでスクリプトを構築している間に、スクリプトがクエリエディタで自動生成されます。

Navicat は、様々な高度機能を提供しています。例えば、強力なコード編集機能、スマートコード補完、スクリプトの書式設定など。

スクリプトの書式設定

スクリプトの書式を変更するためには、**書式**メニューから下記の項目を選択します。

インデント

コードの選択行のインデントを大きく/小さくします。

注釈行

コードの選択行をコメント化/非コメント化します。

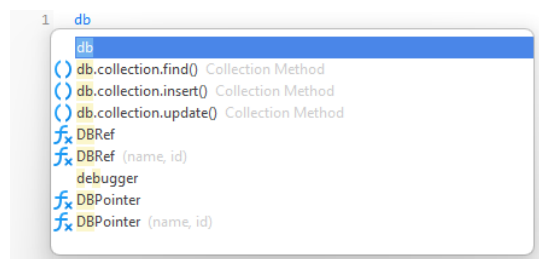
整形スクリプト

選択されたコードの書式を設定します。

コード補完

Navicat のコード補完機能では、エディタにスクリプトを入力すると候補のリストがポップアップで表示されます。データベース名、コレクション名、ビュー名、ドキュメントフィールド名、シェルメソッドを適切なアイコンと情報とともに表示します。**編集** -> **コード補完** -> **コード補完情報を更新**を選択すると、最新のデータベースの情報でコードの候補を更新することができます。

ドット (.) または 1 文字を入力するか、ESC 押すことでコード補完を起動できます。



候補のリストが表示された時、TAB を押すと最初のアイテムが挿入されます。上向き矢印または下向き矢印を使用して必要なアイテムを選択することも可能で、選択後に TAB または ENTER を押します。

リストからスニペット名を選択すると、保存されたコードがエディタに挿入されます。



ヒント : 提案リストの右下の角をドラッグすることによって、提案リストのサイズを変更します。





[オプション](#)でコード補完機能を有効または無効にすることができます。




クリップボードスタック

エディタでいつもどおりに一部のコードをコピーまたはカットすると、コピーされたコンテンツもクリップボードスタックに追加されます。クリップボードスタックは、最大 10 個のアイテムを保存でき、後入れ先出しロジックを使用できます。クリップボードスタックからアイテムを貼り付けるには、CTRL+SHIFT+V キーを押します。クリップボードスタックを循環するには、CTRL+SHIFT+V を複数回押します。

コードの折りたたみ

コードの折りたたみ機能を使うと、ひとまとまりのコードを折りたたんで、その一番最初の行だけがクエリエディタに表示されるようにすることができます。

折りたたみ可能なひとまとまりのコードは、その最初の行の左側にアイコン  が表示されます。そのアイコンから折りたたみ可能なコードの一番下まで、垂直線が伸びています。対照的に、折りたたまれているコードは、そのコードブロックの左側にアイコン  が表示されます。コードを折りたたむには  をクリックし、展開するには  をクリックします。

```
1  db.getCollection("employees").find({
2    $or: [{
3      $and: [{ ...
8   } ], {
9     "MANAGER_ID": 190
10  } ]
11  }).sort({
12    "HIRE_DATE": 1
13  })
```

構文の強調表示

Navicat は、クエリに関連付けられたデータベースに応じて構文の強調表示を使用します。データベースごとに予約キーワードのセットが異なります。[オプション](#)で、様々なテキストフラグメントに関連付けられる色を設定できます。

括弧の強調表示

Navicat は、エディタにおいて、対応する括弧の強調表示に対応しています。例えば、()。

注意：カーソルが括弧上に来た時に強調表示されます。

```
1 db.getCollection("employees").find({
2   $or: [{
3     $and: [{ ...
4   }], {
5     "MANAGER_ID": 190
6   }
7 ]})
8
9
10
11   }).sort({
12     "HIRE_DATE": 1
13 })
```

検索と置換

検索

エディタは、テキストのクイック検索のために、検索バーが用意されています。メニューから**編集** -> **検索**を選択するか、CTRL+F を押して、検索文字列を入力します。

検索は、カーソルの現在の位置から開始され、ファイルの最後で終わります。

次の出現を見つけるためには、**次**をクリックするか、F3 を押します。

置換

置換バーを開くためには、**置換**ボックスにチェックを付けます。そして、検索/置換するテキストを入力します。

置換ボタンをクリックすると、最初の出現箇所が置換されます。

全て置換ボタンをクリックすると、全ての出現箇所が自動的に置換されます。

検索と置換用のいくつかの追加オプションがあります。🔍 をクリックしてください：

オプション	説明
すべてを強調	エディタで一致するものすべてを強調表示します。
インクリメンタルサーチ	文字が入力されている時に、検索文字列に一致するテキストを検索します。
大文字と小文字を区別	大文字小文字区別検索を有効にします。
正規表現	正規表現を検索します。
全ての文字を含む	検索文字列全体と一致するオブジェクトを返します。

引用符付きでコピー

スクリプトを引用符付きでコピーするためには、強調表示されたスクリプトを右クリックしてから、**引用符付きでコピー**を選択し、書式を選択します。

右端での折り返し

ワードラップ (右端での折り返し) モードでは、水平方向のスクロールバーは消えます。エディタウィンドウサイズの幅を超えるスクリプトは、次の行に折り返されます。ワードラップを有効にするためには、**表示** -> **右端での折り返し**を選択します。

ズームイン/ズームアウト

Navicat は、エディタでスクリプトをズームイン/ズームアウトすることが可能です。ズームのオプションは **表示 -> 表示 -> ズーム** で使用可能です。下記のキーボードのショートカットを使って同様の効果を得ることができます。

ズームイン : [CTRL+=]

ズームアウト : [CTRL+-]

リセット : [CTRL+0]

注意 : 別のタブまたはウィンドウで開いているエディタは、ズームの影響を受けません。

検索ビルダ Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

Navicat は、コレクションまたはビューのドキュメントを選択するために、クエリを視覚的に構築するための検索ビルダを備えています。*find* コマンドの知識がなくてもクエリを作成し編集することができます。

クエリデザイナーでは、 **検索ビルダ** ボタンをクリックしてビジュアル検索ビルダを開きます。

問い合わせするコレクションまたはビューの名前を**コレクション/ビュー** ドロップダウンリストから選択します。

フィルター

このタブでは、クエリの選択フィルターを指定することができます。条件に合うドキュメントが返されます。フィルターを指定しない場合、すべてのドキュメントが返されます。詳細については、[フィルターとソート](#) をご覧ください。

投影

このタブでは、返されたドキュメントに追加または除外されるフィールドを選択することができます。プロジェクションを指定しない場合、すべてのフィールドが返されます。

ソート


このタブでは、返されたドキュメントを昇順または降順でフィールドによって並べ替えることができます。

制限


このタブでは、返されるドキュメントの最大数を制限し、スキップするドキュメントの数を設定することができます。

集約ビルダ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)





Navicat は、計算結果を返すためのクエリを視覚的に構築するための集約ビルダを備えています。aggregate コマンドの知識がなくてもクエリを作成し編集することができます。

クエリデザイナーでは、 **集約ビルダ** ボタンをクリックしてビジュアル集約ビルダを開きます。


クエリの結果

どのサーバーのクエリも実行できます。ツールバーのドロップダウンリストからターゲットの接続とデータベースを選択します。そして、 **実行** をクリックします。クエリスクリプトが正確な場合、クエリが実行されます。そして、クエリスクリプトがデータを返すことになっている場合、**結果** タブが開き、クエリによって返されたデータを表示します。クエリの実行中にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。



結果 タブは、クエリによって返された結果データをグリッドで表示します。データを 3 つのモードで表示することができます：グリッドビュー、ツリービュー、JSON ビュー。詳細については、[データビューワー](#) をご覧ください。

ボタン	説明
 セルエディタ	セルエディタをアクティブにして、データを表示および編集します。
 タイプ色	[グリッドビュー] タイプ色ペインで指定したタイプの色のセットを使用して、セルを強調表示します。
 エクスポート	クエリの結果をエクスポートします。
 ピン	タブをピン留めします。


注意： Navicat は、最後の結果データのみを返します。

クエリを選択された一部分を実行することができます。エディタでスクリプトを強調表示し、 **選択部分を実行** をクリックします。


結果の位置を調整する

Navicat では、クエリ結果の表示方法を柔軟に設定できます。クエリ結果をページ全体、エディタの右側、またはエディタの下部に表示するように選択できます。これにより、Navicat でのデータ分析と探索中に、特定のニーズと好みに基づいて表示レイアウトを調整できます。結果の位置を変更するためには、右上隅にある  または  アイコンを使用するか、**表示** -> **結果メニュー** にアクセスします。

クエリ結果のピン留め (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)


クエリを再実行すると、既存の結果タブは削除されます。結果タブをピン留めして、クエリを再実行した後も表示されたままにすることができます。 **ピン** をクリックするだけで、次回実行した時にその内容がクリアされなくなります。

タブをピン留めすると、ピンアイコンが表示され、タブバーの左側に自動的に移動します。ピン留めされた全てのタブが、ピン留めした順序で左から右に表示されます。ピン留めされたタブにマウスカーソルを合わせると、その実行時間とクエリが表示されま


す。任意の数の結果をピン留めして、ピン留めされているものとピン留めされていないものをすばやく確認できます。タブのピン留めを解除するためには、 **ピン解除**をクリックするだけです。

クエリの説明

クエリの説明では、データベースサーバーでデータベースクエリがどのように実行されるかについての詳細情報を提供します。クエリ実行プランを分析することで、クエリのパフォーマンスを理解して最適化するのに役立ちます。




 **説明**をクリックすると、Navicat はデータベースサーバーに説明スクリプトを送信します。サーバーは、クエリを実行して要求されたデータを取得する手順の概要を示す実行プランを生成します。

説明タブには実行プランが表示されます。 **ピン**をクリックすると、タブをピン留めできます。

クエリの選択された部分を説明することができます。クエリエディタでスクリプトをハイライトし、 **選択部分の説明**をクリックするだけです。

実行プラン - ビジュアル (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

ダイアグラムには、クエリによって実行される操作と、それらの間で渡されるデータが表示されます。操作のコストがダイアグラムの閾値と等しいかそれを超えると、数字が赤に変わります。操作をクリックすると、その統計情報が表示されます。この情報は、クエリの実行時に内部で何が起きているかを理解するのに役立ちます。

ボタン/オプション	説明
コストの閾値(%)	閾値を設定して、実行プラン内の特定の操作が赤でマークされるほど重要であると判断されるタイミングを決定します。
	ダイアグラムを拡大または縮小します。
	ダイアグラムを PNG ファイルとしてダウンロードします。
	ダイアグラム内のノードをノードタイプでフィルターします。
検索	一致するものを検索するためには、検索文字列を入力します。

実行プラン - JSON

このテキストベースのプランは、クエリ実行に関する完全な情報のセットを JSON 形式で表示します。この形式は読み取りや分析が難しい場合がありますが、他のユーザーと共有するのは簡単です。

実行プラン - グリッド

このグリッドベースのプランは、クエリ実行に関する完全な情報のセットを提供します。

実行プラン - 統計

ノードタイプごと - 視覚的なグラフで各ノードタイプの概要情報を表示します。

リレーションごと - 各コレクションに関連する統計情報を表示します。

Redis

クエリエディタ

クエリエディタでは、コマンドの作成と編集、選択したクエリの準備と実行を行えます。1 つのクエリウィンドウで、複数のコマンドを定義することができます。

Navicat は、様々な高度機能を提供しています。例えば、強力なコード編集機能、スマートコード補完、コマンドの書式設定など。

コマンドの書式設定

コマンドの書式を変更するためには、**書式**メニューから下記の項目を選択します。

インデント

コードの選択行のインデントを大きく／小さくします。

注釈行

コードの選択行をコメント化／非コメント化します。

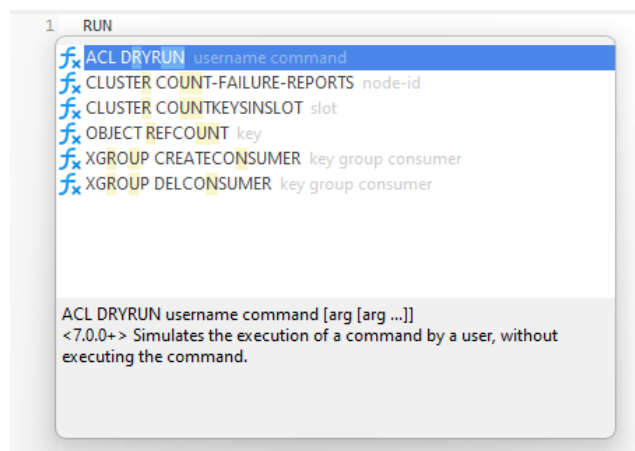
文字を切り替える

選択されたコードを大文字／小文字に書式変更します。

コード補完

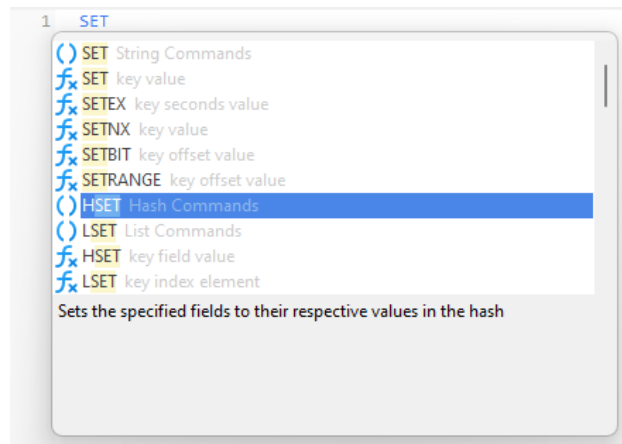
Navicat のコード補完機能では、エディタにコマンドを入力すると候補のリストがポップアップで表示されます。コマンドの補完や、適切なアイコンと情報を使用して利用できる機能でユーザーを支援します。

コード補完は、文字を入力するか ESC キーを押すことで呼び出すことができます。



候補のリストが表示された時、TAB を押すと最初のアイテムが挿入されます。上向き矢印または下向き矢印を使用して必要なアイテムを選択することも可能で、選択後に TAB または ENTER を押します。

リストからスニペット名を選択すると、保存されたコードがエディタに挿入されます。



ヒント : 提案リストの右下の角をドラッグすることによって、提案リストのサイズを変更します。

[オプション](#)でコード補完機能を有効または無効にすることができます。

クリップボードスタック

エディタでいつもどおりに一部のコードをコピーまたはカットすると、コピーされたコンテンツもクリップボードスタックに追加されます。クリップボードスタックは、最大 10 個のアイテムを保存でき、後入れ先出しロジックを使用できます。クリップボードスタックからアイテムを貼り付けるには、CTRL+SHIFT+V キーを押します。クリップボードスタックを循環するには、CTRL+SHIFT+V を複数回押します。

構文の強調表示

Navicat は、クエリに関連付けられたデータベースに応じて構文の強調表示を使用します。データベースごとに予約キーワードのセットが異なります。[オプション](#)で、様々なテキストフラグメントに関連付けられる色を設定できます。

括弧の強調表示

Navicat は、エディタにおいて、対応する括弧の強調表示に対応しています。例えば、()。

注意 : カーソルが括弧上に来た時に強調表示されます。

```

1 ACL SETUSER john on >Jho!jkk >Tahc*mcx nocommands allkeys allchannels
2 ACL SETUSER temp on >Xtxsfaf3 nocommands allkeys allchannels
3 ACL SETUSER usr1 on clearselectors [(nocommands +@read)] (nocommands ~k1 ~k2 ~k3)
4 ACL SETUSER amy on ~* &* +@all >amy123

```

検索と置換

検索

エディタは、テキストのクイック検索のために、検索バーが用意されています。メニューから**編集 -> 検索**を選択するか、CTRL+F を押して、検索文字列を入力します。

検索は、カーソルの現在の位置から開始され、ファイルの最後で終わります。

次の出現を見つけるためには、**次**をクリックするか、F3 を押します。

置換

置換バーを開くためには、**置換**ボックスにチェックを付けます。そして、検索／置換するテキストを入力します。

置換ボタンをクリックすると、最初の出現箇所が置換されます。

全て置換ボタンをクリックすると、全ての出現箇所が自動的に置換されます。

検索と置換用のいくつかの追加オプションがあります。🔍 をクリックしてください：

オプション	説明
すべてを強調	エディタで一致するものすべてを強調表示します。
インクリメンタルサーチ	文字が入力されている時に、検索文字列に一致するテキストを検索します。
大文字と小文字を区別	大文字小文字区別検索を有効にします。
正規表現	正規表現を検索します。
全ての文字を含む	検索文字列全体と一致するオブジェクトを返します。

引用符付きでコピー

コマンドを引用符付きでコピーするためには、強調表示されたコマンドを右クリックしてから、**引用符付きでコピー**を選択し、書式を選択します。

右端での折り返し

ワードラップ（右端での折り返し）モードでは、水平方向のスクロールバーは消えます。エディタウィンドウサイズの幅を超えるコマンドは、次の行に折り返されます。ワードラップを有効にするためには、**表示 -> 右端での折り返し**を選択します。

ズームイン/ズームアウト

Navicat は、エディタでコマンドをズームイン/ズームアウトすることが可能です。ズームのオプションは、**表示 -> 表示 -> ズーム**で使用可能です。下記のキーボードのショートカットを使って同様の効果を得ることができます。

ズームイン：[CTRL+=]

ズームアウト：[CTRL+-]



リセット：[CTRL+0]

注意：別のタブまたはウィンドウで開いているエディタは、ズームの影響を受けません。



クエリの結果

どのサーバーのクエリも実行できます。ツールバーのドロップダウンリストからターゲットの接続とデータベースを選択します。そして、**実行**をクリックします。クエリコマンドが正確な場合、クエリが実行されます。そして、クエリコマンドがデータを返すことになっている場合、**結果**タブが開き、クエリによって返されたデータを表示します。クエリの実行中にエラーが発生した場合、実行は停止し、適切なエラーメッセージが表示されます。



Navicat は、クエリ結果を使いやすい形式で表示します。**結果**タブには、クエリによって返された結果データがグリッドとして表示されます。詳細については、[データビューワー](#)をご覧ください。

ボタン	説明
 エディタ	データを表示および編集するためには、エディタをアクティブにします。
 ピン	タブをピン留めします。


注意 : Navicat は、20 個の結果セットを返すことをサポートしています。


クエリを選択された一部分を実行することができます。エディタでコマンドを強調表示し、 **選択部分を実行**をクリックします。カーソルが乗っている現在のコマンド（希望のコマンド内にカーソルを置きます）を実行するためには、 **実行ボタン**の隣の下向き矢印をクリックし、**現在のステートメントを実行**を選択します。

結果の位置を調整する

Navicat では、クエリ結果の表示方法を柔軟に設定できます。クエリ結果をページ全体、エディタの右側、またはエディタの下部に表示するように選択できます。これにより、Navicat でのデータ分析と探索中に、特定のニーズと好みに基づいて表示レイアウトを調整できます。結果の位置を変更するためには、右上隅にある  または  アイコンを使用するか、**表示** -> **結果メニュー**にアクセスします。

クエリ結果のピン留め (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

クエリを再実行すると、既存の結果タブは削除されます。結果タブをピン留めして、クエリを再実行した後も表示されたままにすることができます。 **ピン**をクリックするだけで、次回実行した時にその内容がクリアされなくなります。

タブをピン留めすると、ピンアイコンが表示され、タブバーの左側に自動的に移動します。ピン留めされた全てのタブが、ピン留めした順序で左から右に表示されます。ピン留めされたタブにマウスカーソルを合わせると、その実行時間とクエリが表示されます。任意の数の結果をピン留めして、ピン留めされているものとピン留めされていないものをすばやく確認できます。タブのピン留めを解除するためには、 **ピン解除**をクリックするだけです。

タブの名前をカスタマイズする

結果タブの名前をカスタマイズするためには、クエリエディタの各コマンドの前に `// NAME:tab_name` を追加します。

```

1 // NAME:database
2 CONFIG GET databases
3
4 // NAME:user
5 ACL GETUSER user1
6
7 // NAME:data
8 SCAN 1050 COUNT 100

```

#	Value
1	flags
2-1	on
2-2	nopass
2-3	sanitize-payload
3	passwords
4-1	(Null)
5	commands
6	-@all
7	keys
8	
9	channels

コードスニペット

コードスニペットを使用すると、ステートメントまたはスクリプトを書いている時に、簡単に再利用可能なコードをエディタに挿入できます。コードスニペットペインは、エディタの右側にあります。エディタウィンドウが Navicat メインウィンドウにドックされている場合、情報ペインの () アイコンをクリックしてライブラリを開くことができます。

ライブラリには、組み込みスニペットとユーザー定義スニペットが含まれます。ドロップダウンリストからラベルを選択するか、検索ボックスに検索文字列を入力して、リストをフィルタリングします。データベースのタイプに応じた使用可能なスニペットを表示したい場合、ライブラリで右クリックし、他のデータベースタイプのスニペットを表示を無効にします。

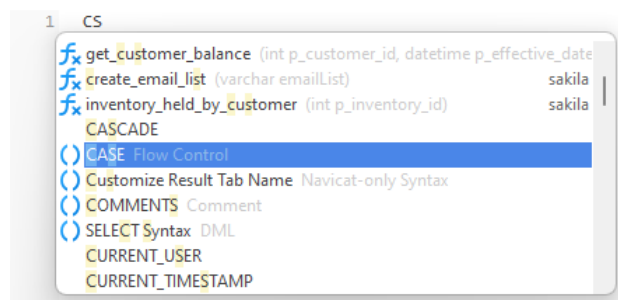


組み込みスニペットは編集不可です。ユーザー定義スニペットは、ライブラリ内のスニペットをダブルクリックすることによって編集可能です。組み込みスニペットを非表示にしたい場合、ライブラリで右クリックし、前もって設定されたスニペットを表示を無効にします。

コードスニペットを使用

2つの方法でエディタにスニペットを挿入できます。

- エディタでスニペットの名前を入力していきます。スマートコード補完は、単語を補完するための候補のリストを自動的にポップアップ表示します。リストからスニペット名を選択すると、保存されたコードがエディタに挿入されます。



- スニペットをライブラリからエディタにドラッグアンドドロップすることができます。

プレースホルダー付きのスニペットを挿入後、プレースホルダーの1つをクリックし、TAB キーを使用し、情報を入力することによって、それらに簡単に進むことができます。


```

1  SELECT
2  [field_name1],
3  [field_name2],
4  [field_name3]
5  FROM
6  [table1]
7  INNER JOIN
8  [table2] ON [condition1]



```

コードスニペットを作成

独自のスニペットを作成し、それらをライブラリに追加することができます。コードスニペットを作成するためには、エディタで希望のコードを選択してから、右クリックし、**スニペットを作成**を選択します。

別の方法として、コードスニペットペインの  をクリックします。この方法を使用する場合、新スニペットウィンドウに手動でコードを入力しなければなりません。エディタで選択されたコードはコードボックスに自動的に追加されません。

ヒント : コードスニペット (.nsnippet) は、[プロファイルの保存場所](#)の **snippets** フォルダに保存されます。

オプション/ボタン	説明
無題のテキストボックス	ライブラリとコード補完リストに表示されるスニペットの名前を入力します。
データベースのタイプ	スニペットのデータベースサーバータイプを選択します。
ラベル	既存のラベルを選択するか、スニペットの新しいラベル名を入力します。
備考	ライブラリに表示されるスニペットの説明を入力します。
コード	コードを入力します。
	コード内の単語を強調表示することによってプレースホルダーを追加し、このボタンをクリックします。プレースホルダーはライトグリーン色で強調表示されます。
	コード内の単語を強調表示することによってプレースホルダーを削除し、このボタンをクリックします。

プロジェクトにスニペットを移動/コピーする


Navicat Cloud または On-Prem Server にログインしている場合は、My Connections のカスタムスニペットをプロジェクトに同期できます。

1. スニペットを右クリックし、**スニペットの移動先**または**スニペットのコピー先**を選択します。
2. 既存のプロジェクトを選択します。
3. スニペットはプロジェクトに移動またはコピーされます。

ヒント : 同様の方法で、プロジェクト内のスニペットを My Connections に移動/コピーできます。

9 - モデル (Navicat Premium/Enterprise エディションでのみ使用可能)

モデルについて

モデルは、データベースモデルを作成し、操作するための高性能なツールです。メインウィンドウで、 **モデル**をクリックしてモデルオブジェクトリストを開きます。

注意：MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

重要な特徴は下記のとおりです。

- 概念/論理/物理モデルを作成して操作します。

注意：Navicat Premium のみが概念モデルと論理モデルをサポートしています。

- データベース/スキーマをモデルにリバースエンジニアリングします。
- 物理モデルを SQL/スクリプトファイルまたはデータベース/スキーマにフォワードエンジニアリングします。
- 2つのモデルワークスペースを比較します。
- モデルからデータディクショナリを生成します。
- テーブル構造を直接作成し編集する。

ヒント：ワークスペースファイル (.nmodel) は、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。フォルダを開くためには、ワークスペースファイルを右クリックし、**格納フォルダを開く**を選択します。ワークスペースが [Navicat Cloud](#) または [On-Prem Server](#) に同期されている場合、ワークスペースはクラウドに保存されます。

外部モデルファイルを開く

1. メニューバーから、**ファイル** -> **外部ファイルを開く** -> **モデル**を選択します。
2. ファイルを参照し、ダイアログウィンドウで**開く**をクリックします。

開いている外部ファイルを Navicat ワークスペースとして保存

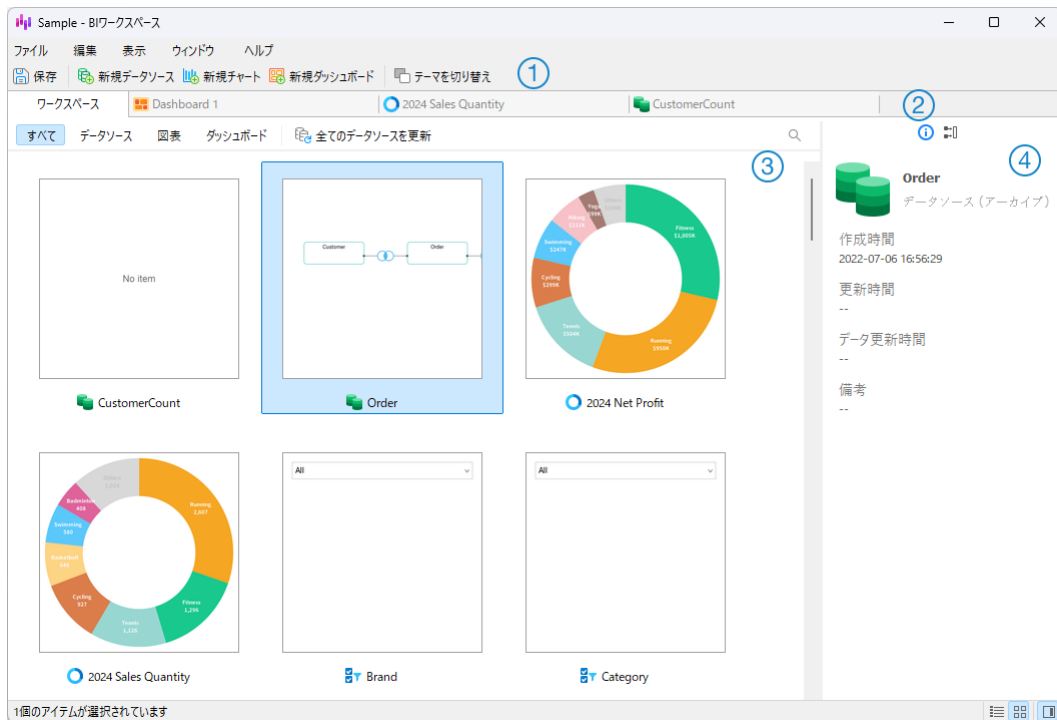
1. ワークスペースデザイナーで、**ファイル** -> **Navicat に保存**を選択します。
2. モデル名を入力し、保存場所を選択します。
3. **確認**をクリックします。

Navicat ワークスペースを外部ファイルとして保存

1. ワークスペースデザイナーで、**ファイル** -> **外部ファイルとして保存**を選択します。
2. 保存パスを選択し、ファイル名を入力します。
3. **保存**をクリックします。

ワークスペース

ワークスペースは、モデル、ダイアグラム、データディクショナリで構成される場所です。ワークスペースには、複数のモデル、ダイアグラム、データディクショナリを作成できます。



① ワークスペースツールバー

ワークスペースのツールバーには、モデル、ダイアグラム、データディクショナリを作成するために使用できるコントロールが用意されています。

② タブバー

タブバーを使用すると、開いているアイテムを切り替えることができます。

③ 内容ペイン

内容ペインには、ワークスペース内の全てのアイテムが表示されます。ビューを変更するためには、ウィンドウの下部にある **詳細** または **アイコン** ボタンをクリックします。

詳細ビューには、各アイテムに関する追加情報が表示されます。詳細ビューでアイテムを並べ替えるためには、アイテムを並べ替えたい列ヘッダーをクリックします。

アイコンビューには、アイテムがサムネイル画像のグリッドとして表示されます。このビューでカテゴリ（すべて、モデル、ダイアグラム、データディクショナリ）をクリックして、アイテムをフィルターできます。

④ プロパティペイン

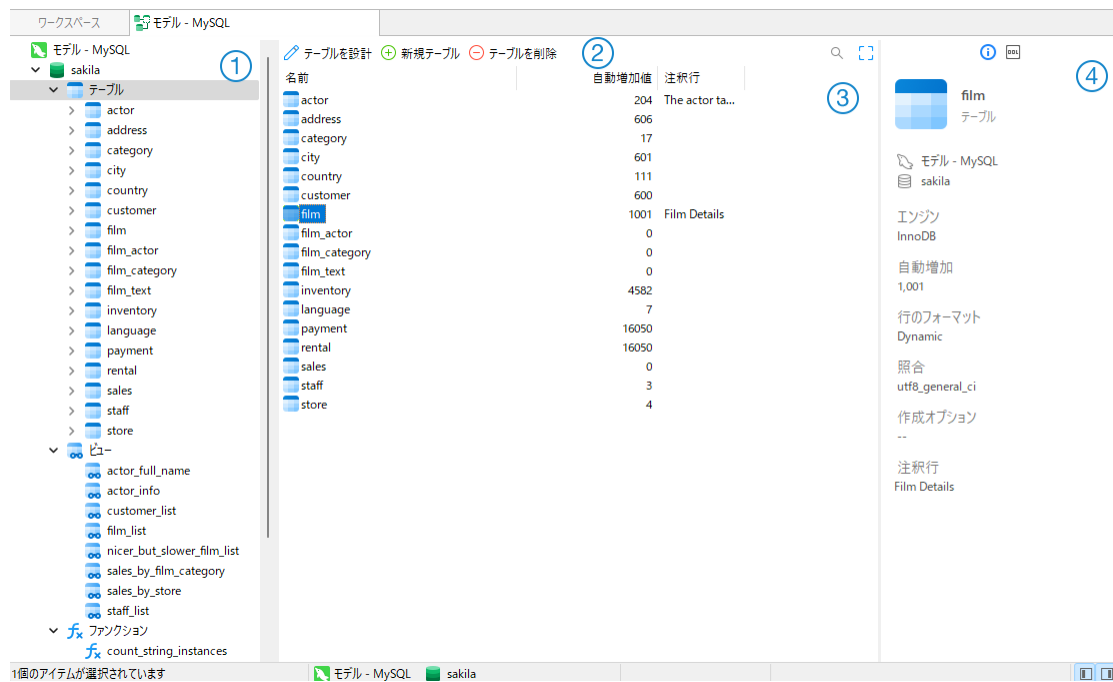
① 基本タブには、ワークスペースまたは選択されたアイテムの一般情報が表示されます。

プロパティペインが非表示の場合、メニューバーで、**表示 -> プロパティを表示**を選択します。

モデル

モデルについて

モデルは、ダイアグラム内で効果的に利用できるデータベースオブジェクトのコレクションです。これらのオブジェクトは様々なダイアグラムで再利用できるため、データベース構造の設計と表示の効率と一貫性が向上します。



① モデルペイン

モデルペインは、データベース/スキーマ、テーブル、ビュー、ファンクション、またはエンティティをナビゲートするための基本的な方法です。

② オブジェクトツールバー

オブジェクトツールバーには、オブジェクトを操作するために使用できるコントロールが用意されています。

③ オブジェクトペイン

オブジェクトペインには、モデルで作成したオブジェクトが表示されます。

④ プロパティペイン


① 基本タブには、選択されたオブジェクトの一般情報が表示されます。

DDL タブには、選択されたオブジェクトの DDL が表示されます。

プロパティペインが非表示の場合、メニューバーで、**表示 -> プロパティを表示**を選択します。

モデルの作成

モデルを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. ワークスペースウィンドウで、 **新規モデル**をクリックします。
2. モデルの名前を入力し、モデルのタイプ、ターゲットデータベース、データベースのバージョンを選択します。
3. **確認**をクリックします。
4. モデルを編集するためのタブが開きます。

データベース/スキーマの追加

新しいモデルを作成すると、データベース（default という名前）が自動的に作成され、それがデフォルトのデータベースになります。

モデルペインでは、全てのデータベース/スキーマとそのオブジェクトをツリー構造で表示できます。

新しいデータベースを作成するためには


1. モデルペインで、モデル名またはデータベースを右クリックし、**新規データベース**を選択します。
2. データベースの名前を入力します。
3. **確認**をクリックします。

新しいスキーマを作成するためには

1. モデルペインで、データベースまたはスキーマを右クリックし、**新規スキーマ**を選択します。
2. スキーマの名前を入力します。
3. **確認**をクリックします。

テーブルの作成


テーブルを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. モデルタブで、モデルペインのテーブルを選択します。
2.  **新規テーブル**をクリックするか、下向き矢印をクリックしてテーブルのタイプを選択します。
3. テーブルの名前を入力します。
4. **確認**をクリックします。

5. テーブルを編集するためのタブが開きます。


ビューの作成

ビューを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. モデルタブで、モデルペインのビューを選択します。
2.  **新規ビュー**をクリックします。
3. ビューの名前を入力します。
4. **確認**をクリックします。
5. ビューを編集するためのタブが開きます。


ファンクション/プロシージャの作成

ファンクション/プロシージャを作成するための基本的な手順は次のとおりです：


1. モデルタブで、モデルペインのファンクションを選択します。
2.  **新規ファンクション**をクリックします。
3. **ファンクションウィザード**がポップアップ表示され、ファンクション/プロシージャを簡単に作成できます。
4. **完了**をクリックします。
5. ファンクション/プロシージャを編集するためのタブが開きます。


コレクションの作成

コレクションを作成するための基本的な手順は次のとおりです：



1. モデルタブで、モデルペインのコレクションを選択します。
2.  **新規コレクション**をクリックするか、下向き矢印をクリックしてコレクションのタイプを選択します。
3. コレクションの名前を入力します。
4. **確認**をクリックします。
5. コレクションを編集するためのタブが開きます。

埋め込みドキュメントの追加


1.  **フィールドを追加**をクリックします。
2. フィールドの名前を入力し、**object** データ型を選択します。

3. フィールド名の左側にある矢印アイコンをクリックします。
4.  **フィールドを追加**をクリックして項目を定義します。

ドキュメントの埋め込み配列の追加

1.  **フィールドを追加**をクリックします。
2. フィールドの名前を入力し、**object** データ型を選択します。
3. **配列です**を有効にします。
4. フィールド名の左側にある矢印アイコンをクリックします。
5.  **フィールドを追加**をクリックして項目を定義します。


事前定義オブジェクトの追加

1.  **フィールドを追加**をクリックします。
2. フィールドの名前を入力し、**(Predefined Object)**データ型を選択します。
3. 事前定義オブジェクトを選択します。

事前定義オブジェクトの作成


事前定義オブジェクトとは、事前に定義済みまたは設定済みの特定のドキュメント構造を指します。これは、MongoDB ドキュメント内のフィールドとそのデータタイプを定義する、事前に決定されたスキーマまたはテンプレートです。事前定義オブジェクトをモデル内の任意のコレクションで使用して、データの整合性を維持し、一貫したドキュメント構造を確立することができます。

事前定義オブジェクトを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. モデルタブで、モデルペインの事前定義オブジェクトを選択します。
2.  **新しい事前定義オブジェクト**をクリックします。
3. 事前定義オブジェクトの名前を入力します。
4. **確認**をクリックします。
5. 事前定義オブジェクトを編集するためのタブが開きます。

エンティティの作成

エンティティを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

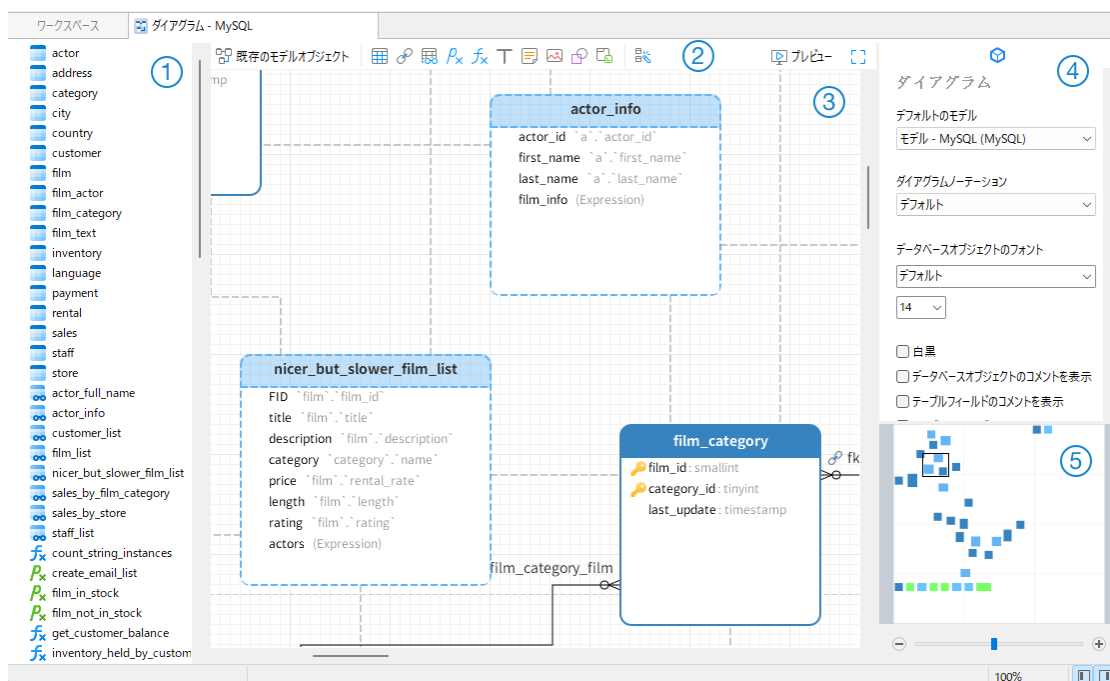
1. モデルタブで、モデルペインのエンティティを選択します。
2.  **新規エンティティ**をクリックします。

3. エンティティの名前を入力します。
4. **確認**をクリックします。
5. モデルが論理モデルの場合は、エンティティを編集するためのタブが開きます。

ダイアグラム

ダイアグラムについて

ダイアグラムは、データモデルの関係と構造を視覚的に表現したものです。テーブル、フィールド、コレクション、エンティティ、属性、およびそれらの関係を明確かつ簡潔に表します。データベースの設計および開発プロセスでこれを使用して、システム内のデータの論理的な構成を伝え、文書化することができます。



① オブジェクトペイン

オブジェクトペインには、ダイアグラムで使用される全てのオブジェクトのリストが表示されます。


② ツールバー

ツールバーは、ダイアグラムの上部近くにあります。ツールバーに表示されるボタンは、モデルタイプ（物理、論理、概念）とサーバータイプによって異なります。ツールバーを使用して、テーブル、ビュー、ファンクション、コレクション、エンティティの追加、自動レイアウト機能の適用などの基本的なタスクを実行できます。

③ キャンバス

ダイアグラムキャンバスでダイアグラムを設計できます。追加された全てのオブジェクトは、移動（マウスまたはキーボードでドラッグ）、サイズの変更、グリッドへの配置などが可能です。

④ プロパティペイン

 **プロパティ**タブには、基本的なレイアウト設定、オブジェクト設定などが含まれます。プロパティは、選択されたオブジェクトのタイプによって異なります。

 **DDL** タブには、選択されたオブジェクトの DDL が表示されます。

⑤ 概要ペイン


概要ペインには、キャンバス内のアクティブなダイアグラム全体が表示されます。ダイアグラムの選択された領域を拡大または縮小するためには、スライダーを調整します。キーボードショートカットを使用しても同じ効果が得られます：

ズームイン：[CTRL++]
または[CTRL+マウスホイールを上へ]

ズームアウト：[CTRL+-]
または[CTRL+マウスホイールを下へ]

ダイアグラムの作成

ダイアグラムを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. ワークスペースウィンドウで、 **新規ダイアグラム**をクリックします。
2. ダイアグラムの名前を入力します。
3. **確認**をクリックします。
4. ダイアグラムを編集するためのタブが開きます。

プロパティ

ダイアグラムキャンバスを選択したら、そのプロパティを変更することによってダイアグラムをカスタマイズできます：


オプション	説明
ダイアグラム	
デフォルトのモデル	ダイアグラムのデフォルトモデルを選択します。ダイアグラムで作成された全てのオブジェクトは、デフォルトモデルに属します。
ダイアグラムノートーション	ダイアグラムの表記を選択します。
データベースオブジェクトのフォント	データベースオブジェクトのフォントスタイルを設定します。
白黒	ダイアグラムの色を白黒に変更します。
データベースオブジェクトのコメントを表示	ダイアグラムにオブジェクトコメントを表示します。
テーブルフィールドのコメントを表示	ダイアグラムにフィールドコメントを表示します。
コレクションのサブフィールドを表示	MongoDB コレクションのサブフィールドを表示します。
データベース名を表示	ダイアグラムにオブジェクトのデータベース名を表示します。

用紙サイズ	キャンバスの用紙サイズを設定します。
ページ	キャンバスの幅と高さ（ページ）を設定します。

モデルオブジェクトの追加


既にモデルを作成済みの場合は、モデル内の既存のオブジェクトをダイアグラムに追加できます。

モデルオブジェクトを追加するための基本的な手順は次のとおりです：



1. ダイアグラムタブで、 **既存のモデルオブジェクト**をクリックします。
2. モデルを選択します。
3. ダイアグラムに挿入したいオブジェクトをダブルクリックするか、ドラッグアンドドロップ方式を使用します。

テーブルの追加

新しいテーブルを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. テーブルをダブルクリックしてデザイナーを開きます。

ヒント：新しいテーブルは、デフォルトのモデルにも追加されます。

デフォルトのダイアグラム表記の場合、 アイコンはフィールドがプライマリキーであることを意味します。  アイコンは、フィールドがインデックスとして機能することを示します。

キャンバスのテーブルオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
テーブルを設計	テーブルデザイナーでテーブル構造を編集します（フィールド、インデックス、外部キーなど）。デザイナーのタブとオプションは、選択したダイアグラムデータベースタイプによって異なります。
関連オブジェクトを追加	選択されたテーブルに全ての関連オブジェクトを追加します。
フィールドを追加	テーブルの最後にフィールドを追加します。
フィールドを挿入	選択されたフィールドの上にフィールドを追加します。
フィールドを削除	選択されたフィールドを削除します。
プライマリキー	選択されたフィールドをプライマリキーとして設定します。
フィールド名を変更	選択されたフィールドの名前を変更します。
切り取り	ダイアグラムからテーブルを削除し、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからテーブルをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。

イメージとして保存	テーブルを PNG ファイルとして保存します。
接続されている全てのオブジェクトを選択	ダイアグラム内でテーブルに接続されている全てのオブジェクトを選択します。
全テーブルを選択	ダイアグラム内の全てのテーブルを選択します。
ダイアグラムから削除/ダイアグラムとモデルから削除	ダイアグラムから、またはダイアグラムとモデルの両方から、テーブルを削除します。
名前を変更	テーブルの名前を変更します。
色	テーブルの色を変更します。
適合サイズ	テーブルのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	テーブルを前面に移動します。
最背面へ移動	テーブルを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のテーブルとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のテーブルをロックまたはロック解除します。


プロパティ

テーブルを選択したら、プロパティを変更することによってテーブルをカスタマイズできます：



オプション	説明
テーブル	
テーブル名	テーブルの名前を入力します。
データベース名	テーブルが属するデータベースの名前を入力します。
モデル名	テーブルが属するモデルの名前を表示します。
位置	テーブルの位置をカスタマイズします。
サイズ	テーブルのサイズをカスタマイズします。
スタイル	<p>テーブルのスタイルを選択します。</p> <p>自動 - サイズを変更する時に、テーブルをコンパクトまたは標準スタイルに自動的に配置します。</p> <p>標準 - テーブル名とそのフィールドを表示します。</p> <p>コンパクト - アイコンの下に名前を付けてテーブルアイコンを表示します。</p>
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
色	テーブルの色を設定します。
太字	テーブルの境界線を太字にします。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のテーブルとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のテーブルをロックまたはロック解除します。

コレクションの追加

新しいコレクションを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. コレクションをダブルクリックしてデザイナーを開きます。

ヒント：新しいコレクションは、デフォルトのモデルにも追加されます。

デフォルトのダイアグラム表記の場合、 アイコンはフィールドがプライマリキーであることを意味します。 アイコンは、フィールドがインデックスとして機能することを示します。

キャンバスのコレクションオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
設計コレクション	コレクションデザイナーでコレクション構造を編集します（フィールド、インデックス、リレーションなど）。
関連オブジェクトを追加	選択されたコレクションに全ての関連オブジェクトを追加します。
フィールドを追加	コレクションの最後にフィールドを追加します。
フィールドを挿入	選択されたフィールドの上にフィールドを追加します。
フィールドを削除	選択されたフィールドを削除します。
プライマリキー	選択されたフィールドをプライマリキーとして設定します。
フィールド名を変更	選択されたフィールドの名前を変更します。
切り取り	ダイアグラムからコレクションを削除し、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからコレクションをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	コレクションを PNG ファイルとして保存します。
接続されている全てのオブジェクトを選択	ダイアグラムでコレクションに接続されている全てのオブジェクトを選択します。
全てのコレクションを選択	ダイアグラム内の全てのコレクションを選択します。
ダイアグラムから削除／ダイアグラムとモデルから削除	ダイアグラムから、またはダイアグラムとモデルの両方から、コレクションを削除します。
名前を変更	コレクションの名前を変更します。
色	コレクションの色を変更します。
適合サイズ	コレクションのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	コレクションを前面に移動します。
最背面へ移動	コレクションを後方に移動します。
グループ／グループ解除	ダイアグラム内のコレクションとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック／ロックを解除	ダイアグラム内のコレクションをロックまたはロック解除します。


プロパティ

コレクションを選択したら、そのプロパティを変更することによってコレクションをカスタマイズできます：

オプション	説明
コレクション	
コレクション名	コレクションの名前を入力します。
データベース名	コレクションが属するデータベースの名前を入力します。
モデル名	コレクションが属するモデルの名前を表示します。
位置	コレクションの位置をカスタマイズします。
サイズ	コレクションのサイズをカスタマイズします。
スタイル	コレクションのスタイルを選択します。 自動 - サイズを変更する時に、コレクションをコンパクトまたは標準スタイルに自動的に配置します。 標準 - コレクション名とそのフィールドを表示します。 コンパクト - アイコンの下に名前を付けてコレクションアイコンを表示します。
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
色	コレクションの色を設定します。
太字	コレクションの境界線を太字にします。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のコレクションとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のコレクションをロックまたはロック解除します。

外部キーの追加

外部キーを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. 子テーブル/コレクションのフィールドを親テーブル/コレクションのフィールドにドラッグアンドドロップします。
または
子フィールドを親テーブル/コレクションの空きスペースにドラッグアンドドロップします。参照先のフィールドは、親テーブル/コレクションに自動的に作成されます。
3. 外部キーコネクタをダブルクリックしてデザイナーを開きます。

ヒント: 外部キーラインにマウスポインターを合わせると、参照先のフィールドと参照元のフィールドが強調表示されます。

キャンバスの外部キーのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます:

オプション	説明
外部キーを設計	テーブルデザイナーで外部キーを編集します。デザイナーのオプションは、選択したダイアグラムデータベースタイプによって異なります。
進む	接続されたテーブル/コレクションに移動して選択します。
コネクタを再ルーティング	接続された 2 つのオブジェクト間の最も近いポイントにコネクタを再ルーティングします。
コピー	ダイアグラムからクリップボードに外部キーをコピーします。

貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	外部キーを PNG ファイルとして保存します。
接続されている全てのオブジェクトを選択	ダイアグラム内で外部キーによって接続されている全てのオブジェクトを選択します。
全リレーションを選択	ダイアグラム内の全ての外部キーを選択します。
ダイアグラムとモデルから削除	ダイアグラムとモデルの両方から外部キーを削除します。
色	外部キーの色を変更します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内の外部キーとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内の外部キーをロックまたはロック解除します。


プロパティ

外部キーを選択したら、プロパティを変更することによって外部キーをカスタマイズできます。:

オプション	説明
外部キー	
名前	外部キーの名前を入力します。
位置	線の位置をカスタマイズします。
オフセット	線の開始と終了のオフセット値をカスタマイズします。
名前を表示	外部キーの名前を表示します。
フォント	名前のフォントスタイルを設定します。
太字	名前に太字スタイルを適用します。
斜体	名前に斜体スタイルを適用します。
色	線の色を設定します。
線の幅	線の太さを選択します。
カーディナリティ	テーブル/コレクションのリレーションのカーディナリティを指定します。
可視	コネクタを表示します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内の外部キーとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内の外部キーをロックまたはロック解除します。

ビューの追加

新しいビューを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. ビューをダブルクリックしてデザイナーを開きます。

ヒント: 新しいビューは、デフォルトのモデルにも追加されます。

キャンパスのビューオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
ビューを設計	ビューデザイナーでビュー構造を編集します。デザイナーのタブとオプションは、選択したダイアグラムデータベースタイプによって異なります。
関連オブジェクトを追加	選択されたビューに全ての関連オブジェクトを追加します。
切り取り	ダイアグラムからビューを削除し、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからビューをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	ビューを PNG ファイルとして保存します。
全てのビューを選択	ダイアグラム内の全てのビューを選択します。
ダイアグラムから削除/ダイアグラムとモデルから削除	ダイアグラムから、またはダイアグラムとモデルの両方から、ビューを削除します。
名前を変更	ビューの名前を変更します。
色	ビューの色を変更します。
適合サイズ	ビューのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	ビューを前面に移動します。
最背面へ移動	ビューを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のビューとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のビューをロックまたはロック解除します。

プロパティ

ビューを選択したら、そのプロパティを変更することによってビューをカスタマイズできます：

オプション	説明
ビュー	
ビュー名	Enter ビューの名前を入力します。
データベース名	ビューが属するデータベースの名前を入力します。
モデル名	ビューが属するモデルの名前を表示します。
位置	ビューの位置をカスタマイズします。
サイズ	ビューのサイズをカスタマイズします。
スタイル	ビューのスタイルを選択します。 自動 - サイズを変更する時に、ビューをコンパクトまたは標準スタイルに自動的に配置します。 標準 - ビュー名とその内容を表示します。 コンパクト - アイコンの下に名前を付けてビューアイコンを表示します。
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
色	ビューの色を設定します。
太字	ビューの境界線を太字にします。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のビューとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除

	します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のビューをロックまたはロック解除します。

ファンクション/プロシージャの追加

新しいファンクション/プロシージャを追加するためには

1. ツールバーの **fx** または **Px** ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. ファンクション/プロシージャをダブルクリックしてデザイナーを開きます。

ヒント: 新しいファンクション/プロシージャは、デフォルトのモデルにも追加されます。

キャンバス内のファンクション/プロシージャオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます:


オプション	説明
ファンクションの設計/プロシージャの設計	ファンクション/プロシージャデザイナーでファンクション/プロシージャの構造を編集します。デザイナーのタブとオプションは、選択したダイアグラムデータベースタイプによって異なります。
切り取り	ダイアグラムからファンクション/プロシージャを削除し、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからファンクション/プロシージャをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	ファンクション/プロシージャを PNG ファイルとして保存します。
全てのファンクションを選択	ダイアグラム内の全てのファンクション/プロシージャを選択します。
ダイアグラムから削除/ダイアグラムとモデルから削除	ダイアグラムから、またはダイアグラムとモデルの両方から、ファンクション/プロシージャを削除します。
名前を変更	ファンクション/プロシージャの名前を変更します。
色	ファンクション/プロシージャの色を変更します。
適合サイズ	ファンクション/プロシージャのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	ファンクション/プロシージャを前面に移動します。
最背面へ移動	ファンクション/プロシージャを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のファンクション/プロシージャとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のファンクション/プロシージャをロックまたはロック解除します。

ファンクション/プロシージャを選択したら、プロパティを変更することによってファンクション/プロシージャをカスタマイズできます：



オプション	説明
ファンクション/プロシージャ	
ファンクション名/プロシージャ名	ファンクション/プロシージャの名前を入力します。
データベース名	ファンクション/プロシージャが属するデータベースの名前を入力します。
モデル名	ファンクション/プロシージャが属するモデルの名前を表示します。
位置	ファンクション/プロシージャの位置をカスタマイズします。
サイズ	ファンクション/プロシージャのサイズをカスタマイズします。
スタイル	ファンクション/プロシージャのスタイルを選択します。 自動 - サイズを変更する時に、ファンクション/プロシージャをコンパクトまたは標準スタイルに自動的に配置します。 標準 - ファンクション/プロシージャの名前とその内容を表示します。 コンパクト - アイコンの下に名前を付けてファンクション/プロシージャのアイコンを表示します。
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
色	ファンクション/プロシージャの色を設定します。
太字	ファンクション/プロシージャの境界線を太字にします。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のファンクション/プロシージャとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のファンクション/プロシージャをロックまたはロック解除します。

エンティティの追加

新しいエンティティを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. [論理モデル] エンティティをダブルクリックしてデザイナーを開きます。

ヒント：新しいエンティティは、デフォルトのモデルにも追加されます。

デフォルトのダイアグラム表記の場合、 アイコンは属性がプライマリキーであることを意味します。 アイコンは、属性がインデックスとして機能することを示します。

キャンバス内のエンティティオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
エンティティを設計	エンティティデザイナーでエンティティ構造を編集します（属性、インデックス、

	リレーションなど)。 論理モデルのみ。
関連オブジェクトを追加	選択されたエンティティに関連する全てのオブジェクトを追加します。
属性を追加	エンティティの末尾に属性を追加します。
属性を挿入	選択された属性の上に属性を追加します。
属性を削除	選択された属性を削除します。
プライマリーキー	選択された属性をプライマリーキーとして設定します。
属性の名前を変更	選択された属性の名前を変更します。
切り取り	ダイアグラムからエンティティを削除し、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからエンティティをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	エンティティを PNG ファイルとして保存します。
接続されている全てのオブジェクトを選択	ダイアグラムで、エンティティに接続されている全てのオブジェクトを選択します。
全てのエンティティを選択	ダイアグラム内の全てのエンティティを選択します。
ダイアグラムから削除/ダイアグラムとモデルから削除	ダイアグラムから、またはダイアグラムとモデルの両方から、エンティティを削除します。
名前を変更	エンティティの名前を変更します。
色	エンティティの色を変更します。
適合サイズ	エンティティのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	エンティティを前面に移動します。
最背面へ移動	エンティティを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のエンティティとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のエンティティをロックまたはロック解除します。

プロパティ

エンティティを選択したら、プロパティを変更することによってエンティティをカスタマイズできます：

オプション	説明
エンティティ	
エンティティ名	エンティティの名前を入力します。
データベース名	エンティティが属するデータベースの名前を入力します。
モデル名	エンティティが属するモデルの名前を表示します。
位置	エンティティの位置をカスタマイズします。
サイズ	エンティティのサイズをカスタマイズします。
スタイル	エンティティのスタイルを選択します。 自動 - サイズを変更する時に、エンティティをコンパクトまたは標準スタイルに自動的に配置します。 標準 - エンティティ名とその属性を表示します。 コンパクト - アイコンの下に名前を付けてエンティティアイコンを表示します。

縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
色	エンティティの色を設定します。
太字	エンティティの境界線を太字にします。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のエンティティとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のエンティティをロックまたはロック解除します。

ラベルの追加

ラベルは通常、ダイアグラムの設計プロセスを文書化するために使用されます。例えば、グループ化されたテーブルオブジェクトを説明する場合などです。

新しいラベルを追加するためには

1. ツールバーの **T** ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. キャプションを入力します。

キャンバスのラベルオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
切り取り	ダイアグラムからラベルを削除して、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからラベルをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	ラベルを PNG ファイルとして保存します。
全ラベルを選択	ダイアグラム内の全てのラベルを選択します。
ダイアグラムから削除	ダイアグラムからラベルを削除します。
適合サイズ	ラベルのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	ラベルを前面に移動します。
最背面へ移動	ラベルを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のラベルとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のラベルをロックまたはロック解除します。

プロパティ

ラベルを選択したら、プロパティを変更することによってラベルをカスタマイズできます。


オプション	説明
ラベル	
名前	ラベルの名前を入力します。
位置	ラベルの位置をカスタマイズします。
サイズ	ラベルのサイズをカスタマイズします。

縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
フォント	ラベルキャプションのフォントスタイルを設定します。
太字	ラベルキャプションに太字スタイルを適用します。
斜体	ラベルキャプションに斜体スタイルを適用します。
URL	テキストをハイパーリンクとして設定するためには、URL パスを入力します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のラベルとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のラベルをロックまたはロック解除します。

メモの追加

メモは通常、ダイアグラムの設計プロセスを文書化するために使用されます。例えば、グループ化されたテーブルオブジェクトを説明する場合などです。

新しいメモを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. 内容を入力します。

キャンバスのメモオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
切り取り	ダイアグラムからメモを削除して、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからクリップボードにメモをコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	メモを PNG ファイルとして保存します。
全ノートを選択	ダイアグラム内の全てのメモを選択します。
ダイアグラムから削除	ダイアグラムからメモを削除します。
色	メモの色を変更します。
適合サイズ	メモのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	メモを前面に移動します。
最背面へ移動	メモを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のメモとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のメモをロックまたはロック解除します。

プロパティ

メモを選択したら、プロパティを変更することによってメモをカスタマイズできます：


オプション	説明
ノート	

名前	メモの名前を入力します。
位置	メモの位置をカスタマイズします。
サイズ	メモのサイズをカスタマイズします。
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
フォント	メモの内容のフォントスタイルを設定します。
太字	メモの内容に太字スタイルを適用します。
斜体	メモの内容に斜体スタイルを適用します。
色	メモの色を設定します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のメモとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のメモをロックまたはロック解除します。

イメージの追加

デザインや識別の目的で、イメージ（BMP、JPG、JPEG、PNG ファイル）をダイアグラムに挿入できます。

新しいイメージを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. 開くダイアログボックスでイメージファイルを選択します。

ヒント： CTRL+V を押すだけで、クリップボードからイメージを追加できます。

キャンバス内のイメージオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
切り取り	ダイアグラムからイメージを削除して、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからイメージをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	イメージを PNG ファイルとして保存します。
全イメージを選択	ダイアグラム内の全てのイメージを選択します。
ダイアグラムから削除	ダイアグラムからイメージを削除します。
最前面へ移動	イメージを前面に移動します。
最背面へ移動	イメージを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のイメージとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のイメージをロックまたはロック解除します。

プロパティ


イメージを選択したら、プロパティを変更することによってイメージをカスタマイズできます。

オプション	説明
イメージ	
名前	イメージの名前を入力します。
不透明度	イメージの不透明度を設定します。
位置	イメージの位置をカスタマイズします。
サイズ	イメージのサイズをカスタマイズします。
オリジナルサイズ	イメージを元のサイズにリセットします。
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
URL	イメージをハイパーリンクとして設定するためには、URL パスを入力します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のイメージとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のイメージをロックまたはロック解除します。

形状の追加

Navicat には、データベースモデルダイアグラムを作成するための定義済みの形状がいくつか含まれています：ライン、矢印、曲線、コネクタ、長方形、楕円、ユーザー、データベース、クラウド、トリガー、サーバー、デスクトップ、ラップトップ、モバイル、男性、女性。

新しい形状を追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. 形状を選択します。
3. キャンバス上に配置します。

コネクタを使用してオブジェクトを接続するためには

1. コネクタの 1 つのエンドポイントをオブジェクトにドラッグして、オブジェクトにスナップします（オブジェクトの周囲に青いアウトラインが表示されます）。
2. コネクタが別のオブジェクトにスナップするまで、もう 1 つのエンドポイントをドラッグします。

ヒント：ライン、矢印、曲線はコネクタとして機能します。プロパティペインでコネクタとしてオプションを有効にすることができます。

キャンバスの形状オブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
共通	
切り取り	ダイアグラムから形状を削除して、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムから形状をクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	形状を PNG ファイルとして保存します。

全形状を選択	ダイアグラム内の全ての形状を選択します。
ダイアグラムから削除	ダイアグラムから形状を削除します。
色	形状の色を変更します。
最前面へ移動	形状を前面に移動します。
最背面へ移動	形状を後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内の形状とその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内の形状をロックまたはロック解除します。
ライン、矢印、曲線	
頂点を追加	マウスカーソルの位置に頂点を追加します。
頂点を削除	マウスカーソルの位置にある頂点を削除します。
全頂点を削除	選択されたライン上の全ての頂点を削除します。
進む	接続されたオブジェクトに移動して選択します。
コネクタ	
進む	接続されたオブジェクトに移動して選択します。
コネクタを再ルーティング	接続された 2 つのオブジェクト間の最も近いポイントにコネクタを再ルーティングします。

プロパティ

形状を選択したら、そのプロパティを変更することによって形状をカスタマイズできます。


オプション	説明
共通	
名前	形状の名前を入力します。
位置	形状の位置をカスタマイズします。
名前を表示	形状の名前ラベルを表示します。
名前の位置	ラベルの位置を変更します。
フォント	名前のフォントスタイルを設定します。
太字	名前に太字スタイルを適用します。
斜体	名前に斜体スタイルを適用します。
色	形状の色を設定します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内の形状とその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内の形状をロックまたはロック解除します。
ライン、矢印、曲線、コネクタ	
オフセット	線の開始と終了のオフセット値をカスタマイズします。
線の幅	線の太さを選択します。
Cap スタイル	線のキャップスタイルを選択します。
Dash スタイル	線の破線スタイルを選択します。
Join スタイル	線の結合スタイルを選択します。
始点スタイル	線の終点のスタイルを選択します。

終点スタイル	線の始点のスタイルを選択します。
コネクタとして	オブジェクトを接続できるようにします。
長方形、楕円、ユーザー、データベース、クラウド、トリガー、サーバー、デスクトップ、ラップトップ、モバイル、男性と女性	
サイズ	形状のサイズをカスタマイズします。
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
ボーダー色	形状の境界線の色を変更します。
境界線の幅	境界線の太さを選択します。
形状スタイル	形状のスタイルを変更します。

レイヤーの追加

レイヤーは、キャンバス上のオブジェクト（テーブル、メモ、イメージなど）を整理するために使用されます。関連する全てのオブジェクトを同じレイヤーに追加できます。例えば、販売に関連する全てのテーブルを1つのレイヤーに追加することを選択できます。

新しいレイヤーを追加するためには

1. ツールバーの  ボタンをクリックします。
2. キャンバス上に配置します。
3. オブジェクトをレイヤーに移動し、**レイヤーに追加**を選択します。

キャンバス内のレイヤーオブジェクトのポップアップメニューオプションには、次のものが含まれます：

オプション	説明
切り取り	ダイアグラムからレイヤーを削除して、クリップボードに置きます。
コピー	ダイアグラムからレイヤーをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアグラムに貼り付けます。
イメージとして保存	レイヤーを PNG ファイルとして保存します。
全レイヤーを選択	ダイアグラム内の全てのレイヤーを選択します。
ダイアグラムから削除	ダイアグラムからレイヤーを削除します。
色	レイヤーの色を変更します。
適合サイズ	レイヤーのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
最前面へ移動	レイヤーを前面に移動します。
最背面へ移動	レイヤーを後方に移動します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のレイヤーとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のレイヤーをロックまたはロック解除します。

プロパティ

レイヤーを選択したら、そのプロパティを変更することによってレイヤーをカスタマイズできます。

オプション	説明
レイヤー	
名前	レイヤーの名前を入力します。
位置	レイヤーの位置をカスタマイズします。
サイズ	レイヤーのサイズをカスタマイズします。
縦横比を固定	サイズを変更する時に、アスペクト比（幅と高さの比率）を維持します。
フォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
タイトルの位置	タイトルの位置を変更します。
色	レイヤーの色を設定します。
グループ/グループ解除	ダイアグラム内のレイヤーとその他のオブジェクトをグループ化またはグループ解除します。
ロック/ロックを解除	ダイアグラム内のレイヤーをロックまたはロック解除します。

ダイアグラムキャンバスの操作

グリッドの表示

ダイアグラムキャンバスでグリッドをオンにするためには、メニューバーから**表示** -> **グリッドを表示**を選択します。

ページ境界線の表示

ダイアグラムキャンバスでページ境界線をオンにするためには、メニューバーから**表示** -> **ページ境界線を表示**を選択します。

グリッドにスナップ

キャンバス上のオブジェクトをグリッドに揃えるには、メニューバーから**表示** -> **グリッドにスナップ**を選択します。

複数のオブジェクトの整列

1. 整列したいオブジェクトを選択します。
2. 選択されたオブジェクトを右クリックし、**整列**メニューから次のいずれかのコマンドを選択します：

オプション	説明
左揃え	オブジェクトを左端に揃えます。
中央揃え	オブジェクトを中央で垂直に揃えます。
右揃え	オブジェクトを右端に揃えます。
上揃え	オブジェクトを上端に揃えます。
中央揃え	オブジェクトを中央で水平に揃えます。
下揃え	オブジェクトを下端に揃えます。

オブジェクトを等間隔に整列


1. 少なくとも3つのオブジェクトを選択します。
2. 選択されたオブジェクトを右クリックし、**分散**メニューから次のいずれかのコマンドを選択します：

オプション	説明
水平方向	オブジェクトを水平に整列します。
垂直方向	オブジェクトを垂直に整列します。


自動レイアウトの適用

Navicat には、ダイアグラム上のオブジェクトを整列するためのレイアウト機能があります。ダイアグラムは、定義した特定の設定に従って再編成されます。オブジェクトが重なったり、コネクタが交差したりすることはありません。


ダイアグラム全体への自動レイアウトの適用

1. キャンバスをクリックします。
2.  をクリックします。

選択されたオブジェクトへの自動レイアウトの適用

1. 自動レイアウトを適用したいオブジェクトを選択します。
2.  をクリックします。

レイヤー内の全てのオブジェクトへの自動レイアウトの適用


1. レイヤーを選択します。
2.  をクリックします。

自動レイアウト設定の変更

自動レイアウトの形式設定を変更するためには、メニューから**ダイアグラム** -> **自動レイアウトの設定**を選択し、次のオプションを設定します：

オプション	説明
自動ダイアグラムディメンション	適切なダイアグラムディメンションを自動的に選択します。
テーブルを自動サイズ調整	テーブルのサイズをその内容に合わせて自動的に変更します。
質	自動レイアウト出力の品質。
オブジェクト間隔	ダイアグラム内のオブジェクト間隔。

ダイアグラムのプレビュー

画面全体を使用してダイアグラムをプレビューできます。このモードでは、タイトルバー、ツールバー、タブバー、オブジェクトペイン、およびプロパティペインは非表示になります。ダイアグラムをプレビューするためには、 **プレビュー**をクリックします。

プレビューモードを終了するためには、ESC キーを押します。ワークスペースウィンドウは前の状態に戻ります。

ダイアグラムの印刷とエクスポート

ダイアグラムの印刷

現在のダイアグラムをプリンターに印刷できます。

1. **ファイル** -> **印刷**を選択します。
2. 印刷オプションを選択します。
3. **確認**をクリックします。

ダイアグラムをファイルにエクスポート

現在のダイアグラムを、PDF、PNG、SVG、JPG などの様々なタイプのイメージやファイルにエクスポートできます。

1. **ファイル** -> **エクスポート先**を選択し、ファイル形式を選択します。
2. パスを選択し、ファイル名を入力します。
3. **保存**をクリックします。



データディクショナリ

データディクショナリについて

データディクショナリは、データモデルの構造とセマンティクスを理解して文書化するためのリファレンスとして機能します。モデル内のオブジェクトの構造、リレーション、制約について包括的に説明します。

データディクショナリの作成

データディクショナリを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. ワークスペースウィンドウで、 **新しいデータディクショナリ**をクリックします。
2. データディクショナリの名前を入力します。
3. **確認**をクリックします。
4. データディクショナリを編集するためのタブが開きます。
5.  **生成**をクリックします。

リバースエンジニアリング

リバースエンジニアリングについて

リバースエンジニアリングは、データベース／スキーマからデータモデルを作成するプロセスです。Navicat を使用すると、既存のデータベース構造をロードして新しいモデルを作成したり、データベースの差異を既存のモデルに同期したりできます。

データベースをモデルに同期

データベースをモデルに同期機能を使用すると、データベースまたはスキーマを既存のモデルと比較し、それらの構造の差異を示し、データベースまたはスキーマの変更をモデルに同期できます。

Navicat には、タスクを完了するためのステップバイステップのウィザードが用意されています：

1. ワークスペースウィンドウで、**ツール** -> **リバースエンジニアリング** -> **データベースをモデルに同期**を選択します。
2. ソース接続、データベース、スキーマを選択し、ターゲットモデル、データベース、スキーマを選択します。
3. **オプション**をクリックし、**比較／詳細オプション**を選択します。
4. **比較**をクリックすると、ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトの差異が表示されます。
5. 同期したいオブジェクトを選択します。
6. **次**をクリックして、プロセスを実行します。

接続の選択

最初のステップは、ソース接続とターゲットモデルを定義することです。

比較オプションの選択

次に、**オプション**ボタンをクリックして、同期プロセスの**比較／詳細オプション**を選択します。

注意：次のオプションは、選択したダイアグラムデータベースのタイプによって異なり、昇順でソートされます。

オプション	説明
自動増加値を比較	テーブルの自動増加値を比較します。
キャラクターセットを比較	テーブルの文字セットを比較します。
チェック制約を比較	チェック制約を比較します。
照合を比較	テーブルの照合順序を比較します。
定義者を比較	ビューの定義者を比較します。
除外制約を比較	除外制約を比較します。
外部キーを比較	テーブルの外部キーを比較します。
ファンクションを比較	ファンクションオブジェクトとプロシージャオブジェクトを比較します。
IDENTITY の最終値を比較	テーブルの ID 最終値を比較します。

インデックスを比較	テーブルインデックスを比較します。
所有者の比較	データベースオブジェクトの所有者を比較します。
パーティションを比較	テーブルパーティションを比較します。
プライマリーキーを比較	テーブルのプライマリーキーを比較します。
ルールを比較	ルールオブジェクトを比較します。
シーケンスを比較	シーケンスオブジェクトを比較します。
シーケンスの最後の値を比較する	シーケンスの最終値を比較します。
ストレージを比較	テーブルストレージを比較します。
テーブルオプションの比較	その他のテーブルオプションを比較します。
テーブルを比較	テーブルオブジェクトを比較します。
トリガーを比較	テーブルトリガーを比較します。
UNIQUE 制約を比較	一意制約を比較します。
ビューを比較	ビューオブジェクトを比較します。
CASCADE オプションで削除する	CASCADE オプションを使用して、依存データベースオブジェクトを削除します。
大文字小文字を区別	マッピング時に識別子の太文字と小文字を無視または考慮するか、サーバーのデフォルト設定を使用します。

比較の開始

比較ボタンをクリックして、ソースデータベースとターゲットモデルを比較します。

比較の結果の表示

構造を比較した後、ツリービューにソースとターゲットのデータベースまたはスキーマの差異が表示されます。ターゲットに適用したいオブジェクトをチェックします。オブジェクトを展開して、詳細な構造を表示できます。

The screenshot shows a comparison tool interface. At the top, it indicates the source is 'MySQL sakila_merged' and the target is 'モデル - MySQL sakila'. Below this, a table lists the objects being compared:

ソースオブジェクト	操作	ターゲットオブジェクト
actor	→	actor
actor_id	→	actor_id
first_name	→	first_name
last_name	→	last_name
last_update1	+	
last_update2	+	
last_update	×	last_update
A-Z idx_actor_last_name	=	A-Z idx_actor_last_name
(プライマリーキー)	=	(プライマリーキー)
(テーブルオプション)	→	(テーブルオプション)
address	→	address
city	→	city

Below the table, the DDL scripts for both tables are shown:

```

CREATE TABLE `sakila_merged`.`actor` (
  `actor_id` smallint UNSIGNED NOT NULL AUTO_INCREMENT,
  `first_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE utf8_general_ci NULL DEFAULT NULL,
  `last_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE utf8_general_ci NULL DEFAULT NULL,
  `last_update1` timestamp NOT NULL DEFAULT CURRENT_TIMESTAMP ON UPDATE CURRENT_TIMESTAMP,
  `last_update2` timestamp NULL DEFAULT NULL,
  PRIMARY KEY (`actor_id`) USING BTREE,
  INDEX `idx_actor_last_name` (`last_name` ASC) USING BTREE
) ENGINE = InnoDB AUTO_INCREMENT = 204 CHARACTER SET =

CREATE TABLE `sakila`.`actor` (
  `actor_id` smallint UNSIGNED NOT NULL AUTO_INCREMENT
  COMMENT 'Actor ID test
1234567\nEfrfefefefefe',
  `first_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE utf8_general_ci NOT NULL,
  `last_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE utf8_general_ci NOT NULL,
  `last_update` timestamp NOT NULL DEFAULT CURRENT_TIMESTAMP ON UPDATE CURRENT_TIMESTAMP,
  PRIMARY KEY (`actor_id`) USING BTREE,
  INDEX `idx_actor_last_name` (`last_name` ASC) USING BTREE
) ENGINE = InnoDB AUTO_INCREMENT = 204 CHARACTER SET =

```

オブジェクトタイプごとにグループ化するまたは操作ごとにグループ化を選択することによって、ツリービュー内のオブジェクトを、オブジェクトタイプまたは操作でグループ化することを選択できます。

操作	説明
→	オブジェクトはソースとターゲットの両方のデータベース/スキーマに存在しますが、定義が異なります。ターゲットオブジェクトはソースオブジェクトに基づいて変更されます。
+	オブジェクトはターゲットのデータベース/スキーマに存在しません。ターゲットに作成されます。
×	オブジェクトはソースのデータベース/スキーマに存在しません。ターゲットオブジェクトは削除されます。
=	オブジェクトはソースとターゲットの両方のデータベース/スキーマに存在し、定義は同じです。操作は適用されません。

ツリービューでオブジェクトを選択すると、**DDL 比較**タブにソースとターゲットのそのオブジェクトの DDL ステートメント/スクリプトが表示され、**デプロイメントスクリプト**タブにはターゲットモデルで更新されるオブジェクトの詳細なステートメント/スクリプトが表示されます。

次ボタンをクリックしてプロセスを実行します。ウィンドウには、実行の進行状況、実行時間、および成功または失敗のメッセージが表示されます。

データベースをモデルに置き換え

データベースをモデルに置き換え機能を使用すると、既存のデータベースまたはスキーマからデータベースモデルを作成できます。

Navicat には、タスクを完了するためのステップバイステップのウィザードが用意されています：

1. ワークスペースウィンドウで、**ツール** -> **リバースエンジニアリング** -> **データベースをモデルに置き換え**を選択します。
2. ソースの接続、データベース、スキーマを選択し、ターゲットのモデル、データベース、スキーマを選択します。**新しいモデル**を作成する場合は、新規モデルとモデルタイプを選択します。
3. **新規**をクリックします。
4. インポートしたいオブジェクトを選択します。
5. オブジェクトをダイアグラムに追加したい場合は、**ダイアグラムにインポート**を有効にしてダイアグラムを選択します。オブジェクトを新しいダイアグラムにインポートしたい場合は、**新規ダイアグラム**を選択します。
6. **開始**をクリックします。

また、Navicat メインウィンドウでリバースエンジニアリングを使用して、新しいモデルダイアグラムを作成することもできます。例えば、開かれたデータベースを右クリックして、**データベースをモデルに置き換え**を選択します。

フォワードエンジニアリング

フォワードエンジニアリングについて

フォワードエンジニアリングは、物理モデルから物理データベーススキーマを生成するプロセスです。Navicat を使用すると、モデルの差異を既存のデータベースに同期したり、モデルを.sql ファイルまたは.script ファイルにエクスポートしたりできます。

モデルをデータベースに同期

モデルをデータベースに同期機能を使用すると、モデルを既存のデータベースまたはスキーマと比較し、それらの構造の差異を示し、モデル内の構造をターゲット接続に同期できます。

Navicat には、タスクを完了するためのステップバイステップのウィザードが用意されています：

1. ワークスペースウィンドウで、**ツール** -> **フォワードエンジニアリング** -> **モデルをデータベースに同期**を選択します。
2. ソースのモデル、データベース、スキーマを選択し、ターゲットの接続、データベース、スキーマを選択します。
3. **オプション**をクリックし、**比較**／**詳細オプション**を選択します。
4. **比較**をクリックして、ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトの差異を表示します。
5. 同期したいオブジェクトを選択します。
6. **次**をクリックして、一連のスクリプトを生成します。
7. **開始**をクリックします。

接続の選択

最初のステップは、ソースモデルとターゲット接続を定義することです。

比較オプションの選択

次に、**オプション**ボタンをクリックして、同期プロセスの**比較**／**詳細オプション**を選択します。

注意：次のオプションは、選択したダイアグラムデータベースのタイプによって異なり、昇順でソートされます。

オプション	説明
自動増加値を比較	テーブルの自動増加値を比較します。
キャラクターセットを比較	テーブルの文字セットを比較します。
チェック制約を比較	チェック制約を比較します。
照合を比較	テーブルの照合順序を比較します。
定義者を比較	ビューの定義者を比較します。
除外制約を比較	除外制約を比較します。
外部キーを比較	テーブルの外部キーを比較します。
ファンクションを比較	ファンクションオブジェクトとプロシージャオブジェクトを比較します。

IDENTITY の最終値を比較	テーブルの ID 最終値を比較します。
インデックスを比較	テーブルインデックスを比較します。
所有者の比較	データベースオブジェクトの所有者を比較します。
パーティションを比較	テーブルパーティションを比較します。
プライマリーキーを比較	テーブルのプライマリーキーを比較します。
ルールを比較	ルールオブジェクトを比較します。
シーケンスを比較	シーケンスオブジェクトを比較します。
シーケンスの最後の値を比較する	シーケンスの最終値を比較します。
ストレージを比較	テーブルストレージを比較します。
テーブルオプションの比較	その他のテーブルオプションを比較します。
テーブルを比較	テーブルオブジェクトを比較します。
トリガーを比較	テーブルトリガーを比較します。
UNIQUE 制約を比較	一意制約を比較します。
ビューを比較	ビューオブジェクトを比較します。
CASCADE オプションで削除する	CASCADE オプションを使用して、依存データベースオブジェクトを削除します。
大文字小文字を区別	マッピング時に識別子の小文字と大文字を無視または考慮するか、サーバーのデフォルト設定を使用します。

比較の開始

比較ボタンをクリックして、ソースモデルとターゲットデータベースを比較します。

比較の結果の表示

構造を比較した後、ツリービューにソースとターゲットのデータベースまたはスキーマの差異が表示されます。ターゲットに適用したいオブジェクトをチェックします。オブジェクトを展開して、詳細な構造を表示できます。

The screenshot shows a comparison tool interface. At the top, it indicates the source is 'MySQL sakila' and the target is 'MySQL sakila_merged'. Below this, a table lists source objects and target objects. The 'actor' table is selected, and its columns are compared. The 'actor' table in the source has columns: actor_id, first_name, last_name, last_update, and address. The target 'actor' table has columns: actor_id, first_name, last_name, last_update1, last_update2, and address. The DDL comparison shows that the source 'actor' table has a primary key on actor_id and an index on last_name. The target 'actor' table has a primary key on actor_id and an index on last_name, but it also has two additional timestamp columns (last_update1 and last_update2) and a different engine (InnoDB).

オブジェクトタイプごとにグループ化するまたは操作ごとにグループ化を選択することによって、ツリービュー内のオブジェクトを、オブジェクトタイプまたは操作でグループ化することを選択できます。

操作	説明
→	オブジェクトはソースとターゲットの両方のデータベース/スキーマに存在しますが、定義が異なります。ターゲットオブジェクトはソースオブジェクトに基づいて変更されます。
+	オブジェクトはターゲットのデータベース/スキーマに存在しません。ターゲットに作成されます。
×	オブジェクトはソースのデータベース/スキーマに存在しません。ターゲットオブジェクトは削除されます。
=	オブジェクトはソースとターゲットの両方のデータベース/スキーマに存在し、定義は同じです。操作は適用されません。

ツリービューでオブジェクトを選択すると、**DDL 比較**タブにソースとターゲットにあるそのオブジェクトの DDL ステートメント/スクリプトが表示され、**デプロイメントスクリプト**タブにはターゲットデータベースで実行されるオブジェクトの詳細なステートメント/スクリプトが表示されます。

次ボタンをクリックして、選択された全てのオブジェクトのスクリプトを表示します。

選択されたスクリプトの編集と実行

デプロイメントスクリプトタブで、ターゲットデータベースで実行される全てのスクリプトを表示できます。

デプロイオプションボタン	説明
デプロイオプション	エラーが発生しても続ける - 必要に応じて、実行プロセス中に発生したエラーを無視します。 デプロイメントクエリをメッセージログに含める - 実行中にメッセージログタブにデプロイメントクエリを表示します。
スクリプトを編集	デプロイメントスクリプトを編集 ウィンドウを開いて、スクリプトの順序を変更します。
スクリプトをクエリエディタで開く	新しいクエリウィンドウを開き、スクリプトを表示します。

デプロイメントスクリプトを編集ウィンドウで、矢印ボタンを使用してスクリプトを移動します。

次に、**開始**ボタンをクリックしてスクリプトを実行します。ウィンドウには、実行の進行状況、実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

モデルを SQL/スクリプトファイルにエクスポート

モデルの作成が完了したら、モデルの構造とリレーションを SQL ファイルまたはスクリプトファイルに保存できます。

Navicat には、タスクを完了するためのステップバイステップのウィザードが用意されています：

- ワークスペースウィンドウで、**ツール -> フォワードエンジニアリング -> モデルを SQL/スクリプトファイルにエクスポート**を選択します。
- ファイル情報を入力し、オブジェクトを選択します。
- **確認**をクリックします。

基本プロパティ

オプション	説明
ファイル	出力ファイルの場所のパスを設定します。
モデル	エクスポートしたいモデルを選択します。
スキーマ	エクスポートしたいスキーマを選択します。
オブジェクト	モデル内のエクスポートしたいオブジェクトを選択します。

詳細プロパティ

注意：次のオプションは、選択したダイアグラムデータベースのタイプによって異なり、昇順でソートされます。

オプション	説明
自動増加を含む	テーブルの自動増加値を含めます。
キャラクターセットを含む	テーブルとフィールドの文字セットを含めます。
チェック制約を含む	チェック制約を含めます。
照合を含む	テーブルの照合を含めます。
Drop SQL を含む	オブジェクトの DROP SQL ステートメントを含めます。
Drop With CASCADE を含む	CASCADE オプションを指定した、オブジェクトの DROP SQL ステートメントを含めます。
除外制約を含む	除外制約を含めます。
外部キーを含む	テーブルの外部キーを含めます。
インデックスを含む	テーブルインデックスを含めます。
プライマリキーを含む	テーブルのプライマリキーを含めます。
ルールを含む	ルールオブジェクトを含めます。
スキーマを含む	オブジェクト名をスキーマ名で修飾します。そうでない場合、SQL ステートメントにはオブジェクト名のみが含まれます。
トリガーを含む	テーブルトリガーを含めます。
UNIQUE 制約を含む	一意制約を含めます。
サーバーバージョン	ファイルのサーバーバージョンを選択します。

モデルワークスペースの比較

モデルワークスペースを比較は、2つのモデルワークスペースを比較し、それらの差異を表示して解決できる強力なツールです。

Navicat には、タスクを完了するためのステップバイステップのウィザードが用意されています：

1. ワークスペースウィンドウで、**ツール -> モデルワークスペースを比較**を選択します。

2. 現在のワークスペースと同期したいワークスペースを選択します。
3. **比較**をクリックして、ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトの差異を表示します。
4. 同期したいオブジェクトを選択します。
5. **変更を適用**をクリックして、変更の数を表示します。
6. **適用**をクリックします。

ソースワークスペースの選択

最初のステップは、ソースワークスペースを定義することです。Navicat の既存のワークスペースまたは外部ワークスペースファイルを選択できます。

次に、**比較**ボタンをクリックします。

比較の結果の表示

比較後、ツリービューにソースワークスペースとターゲットワークスペースの差異が表示されます。ターゲットに適用したいオブジェクトにチェックを付けます。オブジェクトを展開して、詳細な構造を表示できます。

ドロップダウンリストからオプションを選択して、オブジェクトを表示します。

オプション	説明
全てのオブジェクト	ソースとターゲットの全てのオブジェクトを表示します。
違いのあるオブジェクト	ソースとターゲットで異なる全てのオブジェクトを表示します。
追加されるオブジェクト	ターゲットに存在しないオブジェクトのみを表示します。
更新されるオブジェクト	ソースとターゲットの両方に存在するが、構造が異なるオブジェクトのみを表示します。
削除されるオブジェクト	ソースに存在しないオブジェクトのみを表示します。

ツリービューでオブジェクトを選択すると、**DDL 比較**タブにソースとターゲットにあるそのオブジェクトの DDL ステートメント / スクリプトが表示され、**参照スクリプト**タブにターゲットデータベースで実行されるオブジェクトの詳細なステートメント / スクリプトが表示されます。

変更を適用

変更を適用ボタンをクリックして、選択されたオブジェクトに変更を適用します。

モデル変換

Navicat を使用すると、モデルをあるデータベースタイプから別のデータベースタイプに変換できます。例えば、Mariadb 10.0 物理モデルから PostgreSQL 9.0 物理モデルへ。Navicat Premium を使用すると、モデルをあるモデルタイプから別のモデルタイプに変換することもできます。例えば、物理モデルから論理モデルへ。

モデルの変換

1. ワークスペースタブで、モデルを右クリックし、**モデル変換ウィザード**を選択します。
2. ターゲットのワークスペースを選択します。
3. モデル名を入力します。
4. モデルのタイプを選択します。
5. 必要に応じて、ターゲットのデータベースとバージョンを選択します。
6. 関連する全てのダイアグラムを変換したい場合は、**関連するダイアグラムで変換**を有効にします。
7. **変換**をクリックします。
8. モデルを編集するためのタブが開きます。

変換の動作

- 全てのデータタイプは自動的に変換されます。
- あるデータベースタイプから別のデータベースタイプに変換する場合、変換プロセスでビュー、ファンクション、プロシージャの構文は変更されません。
- 物理モデルを論理/概念モデルに変換する場合、全てのビューがエンティティに変換され、全てのファンクションとプロシージャが削除されます。
- ターゲットデータベースのバージョンが MySQL 4.0 以下の場合、全てのビューが削除されます。
- ソースデータベースのタイプが MongoDB の場合、全てのビュー、ファンクション、プロシージャが削除されます。
- ターゲットデータベースのタイプが MongoDB の場合、全てのビュー、ファンクション、プロシージャが削除されます。
- ターゲットデータベースのタイプが SQLite の場合、全てのファンクションとプロシージャが削除されます。

モデルのヒントとコツ

Navicat は、ダイアグラムをより効率的に操作するための便利なヒントを提供します。

ダイアグラムキャンバスでオブジェクトを探す

左ペインでオブジェクトをダブルクリックすると、キャンバス上の対応するオブジェクトにジャンプします。

モデルからオブジェクトを削除

キャンバスでオブジェクトを選択し、SHIFT+DELETE キーを押します。

オブジェクトデザイナーを開く

左ペインまたはキャンバスでオブジェクトをダブルクリックします。

オブジェクトステートメントの取得

キャンバス上のオブジェクトを選択してコピーし、他のテキストエディタに貼り付けます。

オブジェクトデザイナーなしでフィールドを追加／編集

オブジェクトを選択し、キャンバス上のオブジェクト名をクリックしてから、下向き矢印を押してフィールドを追加／編集します。Navicat は、入力したフィールド名に従ってフィールドタイプを予測します。

INTEGER/int/int4/NUMBER

- 接尾語 "id"、"no"（最初の列の場合、プライマリーキーと予測されます）
- 接尾語 "num"
- "qty"接尾語"number"
- 具体的には "age"、"count"

DECIMAL(10,2)/decimal(10,2)/NUMBER/REAL/money

- 接尾語 "price"、"cost"、"salary"

FLOAT/double/float8/NUMBER/REAL/float

- "size"、"height"、"width"、"length"、"weight"、"speed"、"distance"

DATE/datetime/date/TEXT/datetime2

- "date"、"time"

VARCHAR(255)/varchar(255)/VARCHAR2(255)/TEXT

- 他のフィールド名

フィールド名の前に*を入力すると、プライマリーキーとして認識されます。例えば、*itemNo:int。

フィールド名とフィールドタイプの間に入力すると、フィールドタイプをカスタマイズできます。例えば、itemName:varchar(255)。

フィールドの順序変更

キャンバス上のオブジェクトを選択し、SHIFT キーを押したままにします。👉 を使用して、フィールドを希望の場所にドラッグします。

フィールドの削除

キャンバス上のオブジェクトを選択し、SHIFT キーを押したままにします。👉 を使用して、希望のフィールドをオブジェクトからドラッグします。

ライン／矢印／曲線に頂点を追加

キャンバス上のライン、矢印、または曲線を選択します。Shift キーを押したままクリックして頂点を追加します。

ライン／矢印／曲線上の頂点を削除

キャンバス上のライン、矢印、または曲線を選択します。Shift キーを押したまま頂点をクリックします。

オブジェクトのモデルとデータベースを表示

スペースキーを押したままにします。

ハンドモードへの切り替え


スペースキーを押したまま、ダイアグラムを移動します。

10 - デバッグ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)







デバッグについて


Navicat は、2 つのコードデバッグを備えています : **Oracle PL/SQL デバッグ**と **PostgreSQL PL/pgSQL デバッグ**です。デバッグを使用して、ブレークポイントの切り替え、コールスタックの取得、変数値の表示、コードのトレースなどを行えます。

Oracle PL/SQL デバッグ

Oracle PL/SQL デバッグでは、ファンクション、プロシージャ、パッケージ、クエリのステップバイステップのコードデバッグができます。デバッグを起動するためには、前述のオブジェクトの設計画面で  **デバッグ**ボタンをクリックします。

ツールバーまたはメニューから、デバッグで最もよく使用されるアクションを実行することができます :

ボタン	説明
 実行	デバッグモードでコードの実行を開始します。入力パラメータが必要な場合は入力します。デバッグは、コードの最後または次のブレークポイントに達するまで、コードを実行します。キーボードショートカット : F9
 ステップオーバー	実行を再開します。現在行が実行されます。その行がプロシージャコールまたはファンクションコールの場合、プロシージャまたはファンクションを実行せずに、カウンターはコードの次の行へ移動します。キーボードショートカット : F10
 ステップイン	実行を再開します。現在行が実行されます。その行がプロシージャコールまたはファンクションコールの場合、カウンターはそのプロシージャまたはファンクション内の最初のステートメントへ進みます。そうでない場合、カウンターはコードの次の行へ移動します。キーボードショートカット : F11
 ステップアウト	実行を再開します。現在のプロシージャまたはファンクション内のコードの残りの部分が実行されます。その後、カウンターはプロシージャまたはファンクションの呼び出し元の直後の行にジャンプします。キーボードショートカット : SHIFT+F11
 ステップエンド	実行を再開します。カウンターはプロシージャまたはファンクションの最後の行にジャンプします。
 中止	コードのステップ実行を止めます。実行は止まり、再開することはできません。

コードペインには、プロシージャまたはファンクションのコードが表示されます。各行横のグレーのエリアの  をクリックすることによって、デバッグ用のブレークポイントを追加/削除することができます。ウォッチリストに変数を追加するためには、強調表示されているコードを右クリックし、**ウォッチリストに追加**を選択します。

コールスタックペインには、呼び出されるプロシージャとファンクションのリストが表示されます。プロシージャまたはファンクションにジャンプするためには、それを右クリックし、**ファンクションに進む**を選択します。

ブレークポイントペインには、全てのブレークポイントが表示され、そのブレークポイントを削除したり、有効／無効にすることができます。ブレークポイントを有効／無効にするためには、そのチェックボックスにチェックをつけます／外します。また、ブレークポイントを右クリックし、**ブレークポイントを削除**または**全てのブレークポイントを削除**を選択することによって、1つのブレークポイントまたは全てのブレークポイントを削除することも可能です。ブレークポイントの行にジャンプするためには、それを右クリックし、**ファンクションに進む**を選択します。


ローカル変数ペインには、すべてのローカル変数とその値が表示されます。**値列の値**をクリックして編集します。変数をウォッチリストに追加するためには、それを右クリックし、**ウォッチリストに追加**を選択します。

パラメータペインには、入力されたパラメータが表示されます。パラメータをウォッチリストに追加するためには、それを右クリックし、**ウォッチリストに追加**を選択します。






ウォッチリストペインには、ウォッチされている変数についての情報が表示されます。ウォッチ変数は追加、削除、編集することが可能です。ウォッチ変数を追加するためには、ペインで右クリックし、**変数を追加**を選択します。それから、**変数名**を入力します。**値列の値**をクリックして編集します。1つのウォッチ変数またはすべてのウォッチ変数を削除するためには、変数を右クリックし、**変数を削除**または**全ての変数を削除**を選択します。


ログペインには、コードをデバッグした時のメッセージログと、プロシージャまたはファンクションが実行を完了した後の結果が表示されます。

PostgreSQL PL/pgSQL デバッガ

PostgreSQL PL/pgSQL デバッガーは、PL/pgSQL プロシージャ／ファンクションを段階的にコードデバッグできます。デバッガを起動するためには、ファンクションの設計画面で  **デバッガ** ボタンをクリックします。

ツールバーまたはメニューから、デバッグで最もよく使用されるアクションを実行することができます：

ボタン	説明
 実行	デバッグモードでコードの実行を開始します。必要に応じて、入力パラメータを入力します。デバッガは、コードの最後または次のブレークポイントに達するまで、コードを実行します。キーボードショートカット：F9
 ステップオーバー	実行を再開します。現在行が実行されます。その行がプロシージャコールまたはファンクションコールの場合、プロシージャまたはファンクションを実行せずに、カウンターはコードの次の行へ移動します。キーボードショートカット：F10
 ステップイン	実行を再開します。現在行が実行されます。その行がプロシージャコールまたはファンクションコールの場合、カウンターはそのプロシージャまたはファンクション内の最初のステートメントへ進みます。そうでない場合、カウンターはコードの次の行へ移動します。キーボードショートカット：F11
 ステップアウト	実行を再開します。現在のプロシージャまたはファンクション内のコードの残りの部分が実行されます。その後、カウンターはプロシージャまたはファンクションの呼び出し元の直後の行にジャンプします。キーボードショートカット：SHIFT+F11
 中止	コードのステップ実行を止めます。実行は止まり、再開することはできません。

コードペインには、プロシージャまたはファンクションのコードが表示されます。各行横のグレーのエリアの  をクリックすることによって、デバッグ用のブレークポイントを追加／削除することができます。

コールスタックペインには、呼び出されるプロシージャまたはファンクションのリストが表示されます。

ブレークポイントペインには、全てのブレークポイントが表示されます。ブレークポイントを右クリックし、**ブレークポイントを削除**または**全てのブレークポイントを削除**を選択することによって、1 つまたは全てのブレークポイントを削除することができます。また、ブレークポイントの行にジャンプするためには、それを右クリックし、**ファンクションに進む**を選択します。


ローカル変数ペインには、すべてのローカル変数とその値が表示されます。**値列の値**をクリックして編集します。

パラメータペインには、入力されたパラメータが表示されます。

ログペインには、コードをデバッグした時のメッセージログと、プロシージャまたはファンクションが実行を完了した後の結果が表示されます。

11 - Pub/Sub (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

Pub/Sub について

Pub/Sub は、パブリッシュとサブスクライブであり、ユーザーがチャンネルにサブスクライブしたり、メッセージがそれらのチャンネルにパブリッシュされた時にメッセージを受信できるようにします。ユーザーは 1 つ以上のチャンネルをリッスンし、受信したメッセージに反応できます。メインウィンドウで、 **Pub/Sub** をクリックして Pub/Sub オブジェクトリストを開きます。

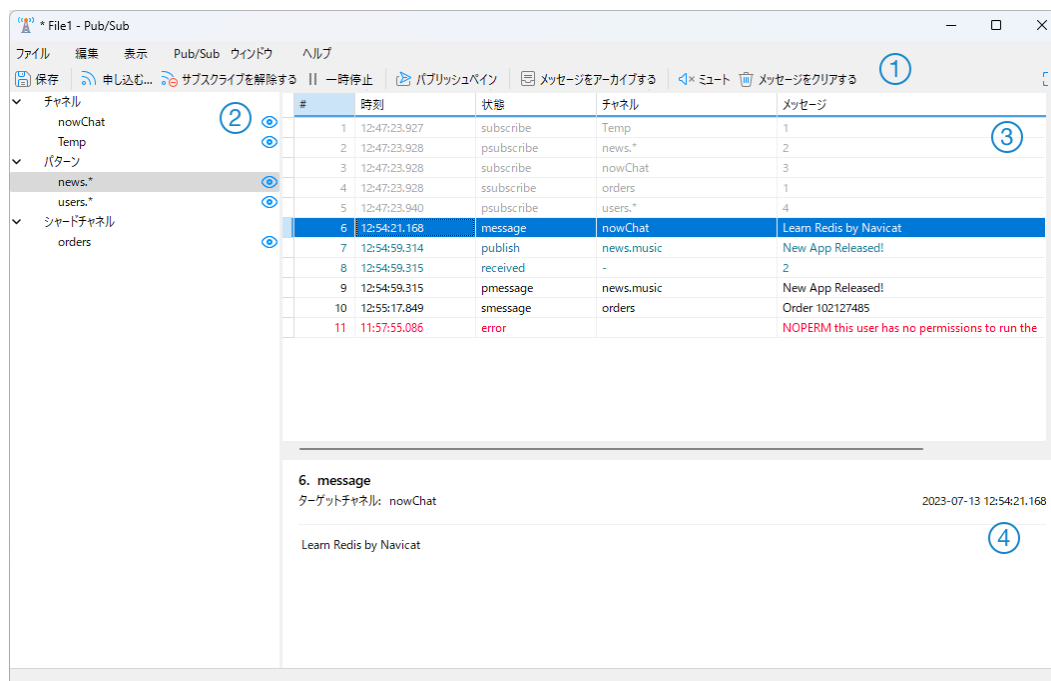
注意 : Redis でのみ使用可能です。

現在サブスクライブしているチャンネルをプロファイルとして保存して、プロファイルを開いた時にすぐにサブスクリプションを再開できます。

ヒント : プロファイル (.npsbredis) は、[設定の保存場所](#)下に保存されます。


Pub/Sub ウィンドウ








Pub/Sub ウィンドウは、ツールバー、チャンネルペイン、メッセージペインで構成されます。



① ツールバー

Pub/Sub のツールバーには次の機能があります :

ボタン	説明
 申し込む	チャンネル、パターン、またはシャードチャンネルをサブスクライブします。

 サブスクライブを解除する	選択されたチャンネルのサブスクライブを解除します。
 一時停止	全てのチャンネルのサブスクライブを一時的に解除します。
 再開	全てのチャンネルを再開します。
 パブリッシュペイン	チャンネルにメッセージを投稿するためのペインを切り替えます。
 メッセージをアーカイブする	現在のメッセージのアーカイブファイルを作成します。
 ミュート	チャンネルをミュートします。新しいメッセージは全て受信されなくなります。
 メッセージをクリアする	メッセージペイン上の全てのメッセージをクリアします。

② チャンネルペイン

チャンネルペインには、サブスクライブされている全てのチャンネルが表示されます。

③ メッセージペイン

メッセージペインには、サブスクライブされたチャンネル内の全てのメッセージが表示されます。グリッドを右クリックすると、様々な状態でメッセージを表示/非表示にすることができます。

それぞれの色のメッセージテキストは次のことを示します：

- 黒 - チャンネルに送信されたメッセージ
- グレー - システムメッセージ
- 青 - パブリッシュ/受信されたメッセージ
- 赤 - エラーメッセージ


④ メッセージ詳細ペイン

メッセージ詳細ペインには、選択されたメッセージの詳細情報が表示されます。


チャンネルのサブスクライブ

チャンネルは、サブスクライバーがシステム上でメッセージをリスンしている時にのみシステム上に存在するため、チャンネルを作成または削除する必要はありません。

チャンネルをサブスクライブする


1.  **申し込む**をクリックします。
2. Redis サーバー上でアクティブなチャンネルを確認できます。アクティブなチャンネルがない場合は、チャンネルをカスタマイズできます。
3. **申し込む**をクリックします。
4. サブスクライブされたチャンネルがチャンネルペインに表示されます。

メッセージをチャンネルにパブリッシュする

1.  **パブリッシュ**ペインをクリックします。
2. チャンネルのタイプとチャンネルを選択します。
3. メッセージを入力します。
4. **パブリッシュ**をクリックします。

ヒント: チャンネルペインでチャンネルを右クリックし、**パブリッシュ先**を選択すると、そのチャンネルにメッセージを投稿できます。

メッセージをアーカイブする


1.  **メッセージをアーカイブする**をクリックします。
2. ファイル名を入力します。
3. **保存**をクリックします。

ヒント: アーカイブファイル (.nrpsbmlg) は、[設定の保存場所](#)の下に保存されます。フォルダーを開くためには、オブジェクトタブでアーカイブされたファイルを右クリックし、**格納フォルダを開く**を選択します。

チャンネルからのサーバーメッセージを非表示にする

1. チャンネル名の横にある  をクリックします。

チャンネルのサブスクライブを解除する

1. チャンネルペインでチャンネルを選択します。
2.  **サブスクライブを解除する**をクリックします。

チャンネルのカラーリング

チャンネルとそのメッセージを識別するために、色によってチャンネルを強調表示できます。これにより、メッセージがどのチャンネルからのものかを即座に知ることができます。強調表示される色はチャンネルペインとメッセージペインで表示されます。

チャンネルを強調表示するためには、チャンネルペインでチャンネルを右クリックし、**色**を選択します。

* File1 - Pub/Sub

ファイル 編集 表示 Pub/Sub ウィンドウ ヘルプ

保存 申し込む... サブスクライブを解除する || 一時停止 パブリッシュボタン メッセージをアーカイブする << ミュート メッセージをクリアする


チャンネル	#	時刻	状態	チャンネル	メッセージ
nowChat	1	12:47:23.927	subscribe	Temp	1
Temp	2	12:47:23.928	psubscribe	news.*	2
パターン	3	12:47:23.928	subscribe	nowChat	3
news.*	4	12:47:23.928	ssubscribe	orders	1
users.*	5	12:47:23.940	psubscribe	users.*	4
シャードチャンネル	6	12:54:21.168	message	nowChat	Learn Redis by Navicat
orders	7	12:54:59.314	publish	news.music	New App Released!
	8	12:54:59.315	received	-	2
	9	12:54:59.315	pmessage	news.music	New App Released!
	10	12:55:17.849	smessage	orders	Order 102127485
	11	12:55:54.218	smessage	orders	Order 102127455

6. message
 ターゲットチャンネル: nowChat 2023-07-13 12:54:21.168

Learn Redis by Navicat

12 - 集計パイプライン (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

集計パイプラインについて

集計パイプラインは、データを処理および変換し、複雑な計算を実行し、集計された結果を生成する特定の操作の流れです。Navicat は、シンプルに即座に集計パイプラインを作成する機能を提供します。メインウィンドウで、 **パイプライン**をクリックして、集計パイプラインオブジェクトリストを開きます。







後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。

ヒント : 集計パイプライン (.nagg) は、[設定の保存場所](#)の下に保存されます。

注意 : MongoDB でのみ使用可能です。

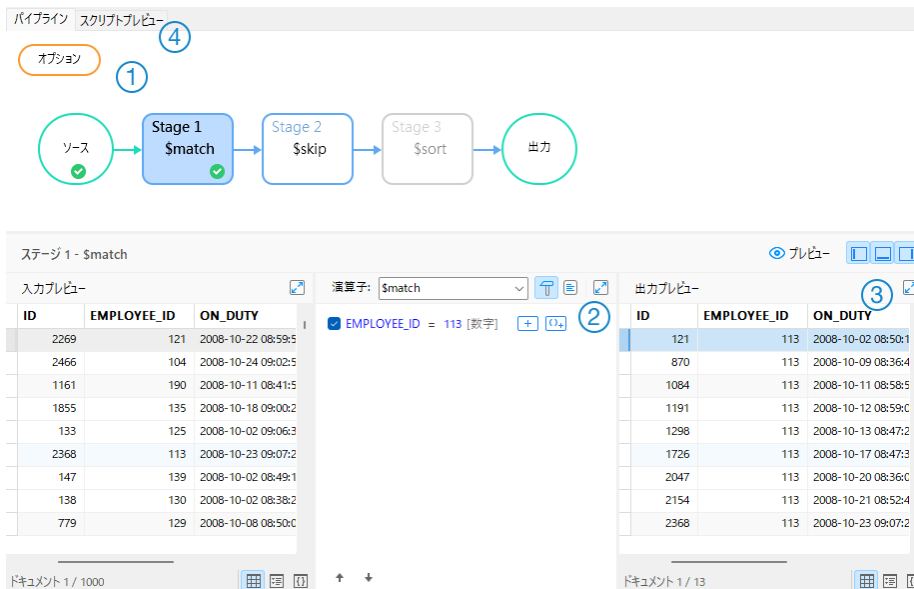
集計パイプラインデザイナー

集計パイプラインデザイナーは、集計パイプラインを操作するための基本的な Navicat ツールです。

ボタン	説明
 クエリをインポート	パイプラインを構築するためのスクリプトファイルをインポートします。
 全てプレビュー	全てプレビュー - 出力をプレビューします。 リロードして全てプレビュー - サンプルドキュメントをリロードし、出力をプレビューします。
 実行	パイプラインを実行します。
 説明	実行プランを表示します。
 中止	実行中のパイプラインを停止します。
 結果をエクスポート	パイプラインの結果をエクスポートします。

パイプラインビルダ

パイプラインビルダを使用すると、ステージオペレーターを定義して、シンプルな集計パイプラインを構築できます。パイプラインビルダーは、パイプライン、ステージエディタ、入力/出力プレビュー、スクリプトプレビューのセクションで構成されています。



① パイプライン

集計パイプラインを示す図。全てのステージを一目で確認し、必要に応じてそれらを追加、削除、移動できます。

② ステージエディタ

ステージエディタは、選択したステージを編集する場所です。

③ 入力/出力プレビューペイン

入力プレビューペインと出力プレビューペインでは、各ステージでの入力ドキュメントと結果を表示できます。

④ スクリプトプレビュー

集計パイプラインスクリプトを表示できます。

ソースコレクションの選択


パイプラインのソース入力は、単一のコレクションまたはビューです。パイプラインで**ソース**を選択し、次のオプションを入力します。

オプション	説明
ソースコレクション	ソースとしてコレクションまたはビューを選択します。
プレビューサンプルのオプション	サンプリングされるドキュメントの数の制限を設定します。


集計パイプラインステージの操作

複雑なクエリをより簡単なステージに分割できます。各ステージでは、フィルタリング、グループ化、ソート、変換など、データに対して様々な操作を実行します。入力と出力の両方を調べることで、クエリが各ステージで適切に機能しているかどうかを確認できます。クエリで使用されるステージの数や、ステージの組み合わせ方法に制限はありません。

ステージの追加

1. 矢印の上にマウスを移動します。
2.  アイコンをクリックします。

ステージの移動

1. ステージの上にマウスを移動します。
2.  アイコンをクリックして押したままにします。
3. それを目的の場所に移動します。

ステージの有効化／無効化

1. ステージの上にマウスを移動します。
2. ステージをオンまたはオフにします。

ステージの入力／出力を確認する

1. ステージの上にマウスを移動します。
2. **プレビュー**をクリックします。

ステージの削除

1. ステージを右クリックし、**削除**を選択します。


パイプライン設定の変更

オプションをクリックすると、パイプライン設定を表示および変更できます。

パイプラインの結果

 **実行**をクリックして、パイプラインを実行できます。**結果**タブには、最後のステージ出力と同じ結果が表示されます。

パイプラインの説明

 **説明**をクリックして、パイプラインのパフォーマンスを理解するのに[実行プラン](#)を表示できます。


13 - データ移行ツール

データ移行ツールについて

Navicat は、インポートウィザードやエクスポートウィザード、データ転送、データの同期、構造の同期、SQL ファイルのダンプ、SQL ファイルの実行を含む、データを操作するためのいくつかの高性能なツールを備えています。これらのツールを使用して、異なるサーバー、異なるデータベース、異なる形式の間でデータを移行することができます。

インポートウィザード

インポートウィザードについて

インポートウィザード使い、CSV、TXT、XML、DBF などから、テーブル/コレクションにデータをインポートすることができます。後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。インポートウィザードウィンドウを開くためには、オブジェクトツールバーから  **インポートウィザード**をクリックします。

注意：MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

注意：Lite エディションは、TXT、CSV、XML、JSON などのテキストベースのファイルのインポートのみをサポートしています。

ヒント：ナビゲーションペインで、テーブル/コレクションのオブジェクトタブまたはデータベース/スキーマにサポートされているファイルをドラッグすることができます。Navicat は、インポートウィザードウィンドウを自動的にポップアップ表示します。既存のテーブル/コレクションが強調表示されている場合、Navicat は強調表示されているテーブル/コレクションにファイルをインポートします。そうしなければ、新しいテーブル/コレクションにファイルをインポートします。

ファイル形式を選択

使用可能なインポート元のファイルの種類を選択します。

注意：Excel ファイル形式は、コンピューターにインストールされている Microsoft Office のバージョンに準じます。

ソースファイルを選択

インポート元ファイル名を表示します。**インポート元**テキストボックスのファイルの拡張子は、最初のステップで選択したインポートタイプによって変わります。インポート元ファイルの**エンコード**を選択します。

注意：インポートするファイルを 1 つ以上選択することができます。

Excel

シートは、**テーブル**リストに表示されます。

Access

例えばデータベースパスワードやユーザーレベルのセキュリティのようなセキュリティの設定がアクセスファイルにある場合、必要な情報を入力する必要があります。設定のためには、**セキュリティ**ボタンをクリックしてください：

システムデータベースファイル

Access ファイルのシステムセキュリティファイルの場所を示します。例えば、D:¥Temp¥Security.mdw。

データベースパスワード

もしあれば、データベースのパスワードを入力します。

ログオン名

ユーザーレベルセキュリティによって設定されたユーザー名を入力します。

ログオンパスワード

そのユーザーのパスワードを入力します。

ODBC

ODBC データソース接続の設定

1. コントロールパネルにおいて、**管理ツール**を選択します。
2. **データソース (ODBC)**を選択します。
3. **ユーザー DSN** タブで**追加**ボタンをクリックします。
4. **Microsoft ODBC for Oracle** のような適切な ODBC ドライバーを選択し、**完了**ボタンをクリックします。
5. 必要な情報を入力します。
6. **OK** ボタンをクリックすると、リストに ODBC ドライバーが表示されます。

Navicat での ODBC データソースへの接続

1. **データソースを追加**をクリックします。
2. **プロバイダ**タブで、**Microsoft OLE DB Provider for ODBC Drivers** のような適切な ODBC ドライバーを選択します。
3. **接続**タブで、**データソース名を使用する**ロップダウンリストからデータソースを選択し、有効なユーザー名とパスワードを入力します。
4. 接続に成功すると、全ての使用可能なテーブルが**テーブル**リストに追加されます。

ヒント : Access または ODBC からインポートする場合、**クエリの追加**、**クエリの修正**ボタンは、インポート元テーブルから任意の行だけをインポートするクエリを作成できる**クエリの追加**ダイアログを開きます。言い換えると、設定された条件を満たす行のみをインポートします。テーブルとクエリは**テーブル**リストに表示されます。クエリを削除するためには、それを選択し、**クエリを削除**ボタンをクリックします。

区切り文字を選択

TXT、CSV

レコード区切り文字

ファイルのレコード区切り文字を指定します。

区切り文字

テキストファイルを区切られた形式でインポートします。

固定長

テキストファイルを固定幅の形式でインポートします。インポート元のファイルの列の範囲を区切るためには、希望の位置をクリックして、区切り線を作成します。その線をドラッグすると、移動できます。ダブルクリックすると、削除できます。

● 固定長 - 手でフィールドの区切り位置を指定します。

矢印線はフィールド区切りを示します。線を作る場合は適当な場所をクリックし、削除する場合は線をダブルクリックします。線をドラッグして移動できます。

JOB_ID	JOB_TITLE	MIN_SAL
AC_ACCOUNT	Public Accountant	4200
AC_MGR	Accounting Manager	8200
AD_ASST	Administration Assistant	3000
AD_PRES	President	20000
AD_VP	Administration Vice President	15000
FI_ACCOUNT	Accountant	4200
FI_MGR	Finance Manager	8200
HR_REP	Human Resources Representative	4000

フィールド区切り文字

フィールド区切り文字を指定します。

テキスト修飾子

テキスト値を囲む文字を指定します。

XML、JSON

テーブル行を識別するタグ/コレクション行を識別するタグ

行を識別するタグを定義します。

タグ属性をテーブルフィールドとみなす/タグ属性をコレクションフィールドと見なす

例：

```
<row age="17">
```

```
<id>1</id>
```

<name>size</name>

</row>

このオプションを有効にすると、Navicat は、"id" や "name" とともに、"age" をフィールドとみなします。有効にしない場合、"id" と "name" のみがフィールドとしてインポートされます。

注意： Navicat は、多階層の XML ファイルをサポートしていません。

追加オプションを選択

以下のオプションは、最初のステップで選択されたファイル形式によって異なります。

フィールド名の行

Navicat がフィールド名としてみなすべき行を示します。

先頭データ行

Navicat が実データを読み始めるべき行を示します。

最終データ行

Navicat が実データの読み込みをやめるべき行を示します。

注意： ファイルにフィールド名を全く定義しない場合、先頭データ行に 1 を、フィールド名の行に 0 を入力してください。

日付形式、日付区切り

日付の形式と日付区切り文字を指定します。

時刻区切り

時間区切り文字を指定します。

小数点

10 進数の小数点区切り文字を指定します。

日付時刻順

日付と時間の順を指定します。

バイナリデータエンコーディング

バイナリデータがファイル内で Base64 エンコードとしてまたはエンコードなしとしてインポートされるように設定します。

ターゲットのテーブル/コレクションを選択

新しい名を定義するか、既存のテーブル/コレクションにインポートする場合はドロップダウンリストからテーブル/コレクションを選択します。

注意：ターゲットテーブル/ターゲットコレクションに新しい名を入力すると、新規テーブル/新規コレクションに自動的にチェックがつけられます。

複数のテーブル/コレクションをインポートする場合、全てのテーブル/コレクションがリストに表示されます。

ソース	ターゲットテーブル	新規テーブル
countries	country	はい
departments	departments	
employees	employees	
jobs	jobs	

フィールド構造とマップフィールドを調整

Navicat は、ソーステーブル/コレクションのフィールドのタイプと長さを推測します。ドロップダウンリストから希望のタイプを選択することができます。

ヒント：複数のテーブル/コレクションをインポートする場合、ドロップダウンリストから他のテーブル/コレクションを選択します。

ソース: countries

ターゲットテーブル: country

	ソースフィールド	ターゲットフィールド	タイプ	長さ	スケール	プライマリキー
<input checked="" type="checkbox"/>	COUNTRY_ID	COUNTRY_ID	varchar	6	0	
<input checked="" type="checkbox"/>	COUNTRY_NAME	COUNTRY_NAME	int	120	0	
<input checked="" type="checkbox"/>	REGION_ID	REGION_ID	bigint	0	255	

タイプメニュー: varchar, int, bigint, double, float, decimal, char, varchar

既存のテーブル/コレクションにデータをインポートする場合、ソースフィールド名をインポートターゲットに手動でマップするか、右クリックしクイックマッピング用のポップアップメニューから、**すべてスマートマッチ**、**すべてダイレクトマッチ**または**すべてアンマッチ**を選択する必要があります。

ソースフィールド	ターゲットフィールド	プライマリキー
EMPLOYEE_ID	EMPLOYEE_ID	
FIRST_NAME	FIRST_NAME	
LAST_NAME		
EMAIL	EMPLOYEE_ID	
PHONE_NUMBER	FIRST_NAME	
HIRE_DATE	LAST_NAME	
JOB_ID	EMAIL	
SALARY	PHONE_NUMBER	
	HIRE_DATE	
	SALARY	

ソースフィールド	ターゲットフィールド	プライマリーキ
EMPLOYEE_ID		
FIRST_NAME		
LAST_NAME		
EMAIL		
PHONE_NUMBER		
HIRE_DATE		
JOB_ID		
SALARY		

すべてスマートマッチ

すべてダイレクトマッチ

すべてアンマッチ

フィールドマッピングを複製

ODBC を通してインポートする場合、**条件クエリ** ボタンを押して **WHERE** ダイアログを開き、ソースから特定の行のみをインポートするための **WHERE** 句を指定することができます。言い換えると、設定された条件を満たす行のみをインポートします。

ヒント : 句の中に文字 **WHERE** 句の中に文字

インポートモードを選択

データのインポート方法を定義するインポートモードを選択します。

インポート形式:

- 追加: インポート先テーブルにレコードを追加します
- 更新: インポート先に既に存在しているレコードのみを更新します
- 追加/更新: インポート先にレコードが存在する場合は更新し、ない場合は追加します
- 更新せずに追加: レコードが送信先に存在する場合、スキップします。それ以外の場合は、追加します
- 削除: インポート元レコードに一致する、インポート先レコードを削除します
- コピー: インポート先レコードを全て削除し、インポート元から追加します

ヒント : 残りのオプションをアクティブにするためには、前のステップでプライマリーキーを有効にする必要があります。

ソースフィールド	ターゲットフィールド	プライマリーキー
EMPLOYEE_ID	EMPLOYEE_ID	
FIRST_NAME	FIRST_NAME	
LAST_NAME	LAST_NAME	
EMAIL	EMAIL	
PHONE_NUMBER	PHONE_NUMBER	
HIRE_DATE	HIRE_DATE	
JOB_ID	JOB_ID	

その他の設定に関しては、**詳細** ボタンをクリックします。以下のオプションは、接続サーバーの種類によって異なります。

各実行時に複数クエリを実行

Execute multiple SQL statements at once, which will make the import process faster.

extended-insert ステートメントを使用

extended-insert 構文を使用してレコードを挿入します。

例 :

```
INSERT INTO `users` VALUES ('1', 'Peter McKindsy', '23'), ('2', 'Johnson Ryne', '56'), ('0', 'Katherine', '23');
```

ステートメントの最大サイズ

実行できる個々の拡張 INSERT ステートメントの最大サイズ (KB 単位) を指定します。行サイズがこの値を超える場合、通常の INSERT ステートメントが使用されます。

空文字を NULL として使用

元のデータフィールドが空文字を含む場合、NULL 値をインポートします。

外部キー制約を無視

インポート処理中は外部キー制約のチェックを無視します。

エラーが発生しても続ける

インポート処理中に発生したエラーを無視します。

UNIQUE 制約、インデックス、外部キーを含む

インポート処理中、UNIQUE 制約やインデックス、外部キーを含めます。

注意：ファイルタイプが MS Access データベースまたは ODBC の場合のみサポートされます。

自動増加フィールドを作成

インポート処理中、自動増加フィールドを作成します。

注意：ファイルタイプが MS Access データベース、Paradox ファイル、dBase ファイルの場合のみサポートされます。

削除されたレコードをインポート

インポート処理中、dBase ファイルの削除済みのレコードをインポートします。

注意：ファイルタイプが dBase ファイルの場合のみサポートされます。

インポートの保存と開始

開始 ボタンをクリックしてインポート処理を開始します。ウィザードにはインポートの進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。


インポート処理が完了したら、**ログ** ボタンをクリックしてログファイルを開くことができます。

ヒント： **保存** ボタンをクリックして設定をプロファイルとして保存できます。

エクスポートウィザード

エクスポートウィザードについて

エクスポートウィザード を使用して、テーブル、コレクション、ビュー、クエリの結果からのデータを、使用可能な形式にエクスポートすることができます。後で使用する時や [自動化タスク](#) の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。

エクスポートウィザードウィンドウを開くためには、オブジェクトツールバーから  **エクスポートウィザード** をクリックします。

注意：MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

注意：Lite エディションは、TXT、CSV、HTML、XML、SQL、JSON などのテキストベースのファイルのエクスポートのみをサポートしています。

ファイル形式を選択

ターゲットファイルに関する使用可能なエクスポート形式の 1 つを選択します。

注意：Excel ファイル形式は、コンピューターにインストールされている Microsoft Office のバージョンに準じます。Navicat 64-bit バージョンは、.mdb ファイルのエクスポートをサポートしていません。

保存パスを選択

このステップでは、エクスポートされたファイルの名前と場所を設定できます。

エクスポートしたいオブジェクトの名前の横にあるボックスにチェックを付けます。既存のオブジェクトがオブジェクトペインで強調表示される場合、それは自動的にチェックを付けられ、デフォルトファイルの名前と場所に割り当てられます。**エクスポート先ファイル** テキストボックスのファイルの拡張子は、最初のステップで選択され出力フォーマットによって異なります。

注意：クエリ結果をエクスポートする場合は、エクスポートウィザードを実行する前にクエリを必ず保存してください。そうしないと、元のオブジェクトはここに表示されません。

全て選択ボタン	説明
全て選択/全て非選択	すべてのソースオブジェクトを選択/非選択します。
選択したものを同じファイルにエクスポート	選択されたオブジェクトを同じターゲットファイルにエクスポートします。ファイル形式が Excel の場合、それぞれのオブジェクトは Excel ファイルにシートとしてエクスポートされます。
選択したものを同じフォルダにエクスポート	選択されたオブジェクトを同じディレクトリにエクスポートします。

詳細ボタン	説明
エンコード	エクスポートファイルのエンコーディングを選択します。
タイムスタンプを追加	ファイル名にエクスポート実行のタイムスタンプを入れたい場合、このオプションにチェックをつけます。ドロップダウンリストから日付/時刻の書式を選択します。

エクスポートする列／フィールドを選択

エクスポートするフィールドを選択することができます。デフォルトで、リストにある全てのフィールドが選択されています。エクスポートしたくないフィールドがある場合、まず**全てのフィールド**オプションのチェックをはずしてから、リストにあるフィールドのチェックを外します。

注意：クエリ結果のエクスポートの場合、ウィザードはこのステップを飛ばします。

追加オプションを選択

以下のオプションは、最初のステップで選択されたファイル形式によって異なります。

列タイトルを含める

このオプションが有効な場合、フィールド名がエクスポートファイルに含まれます。

ゼロの場合は空白

フィールドの内容が0の場合、空白のままにします。

追加

既存のファイルにレコードを追加。

エラーが発生しても続ける

エクスポート処理中に発生したエラーを無視します。

XMLで属性フォーマットを使用

属性フォーマット
<pre><RECORDS> <RECORD OrderNo="1003" ItemNo="1" PartNo="1313" Qty="5" Discount="0"></RECORD> <RECORD OrderNo="1004" ItemNo="1" PartNo="1313" Qty="10" Discount="50"></RECORD> </RECORDS></pre>
非属性フォーマット
<pre><RECORDS> <RECORD> <OrderNo>1003</OrderNo> <ItemNo>1</ItemNo> <PartNo>1313</PartNo> <Qty>5</Qty> <Discount>0</Discount> </RECORD> <RECORD> <OrderNo>1004</OrderNo></pre>

```
<ItemNo>1</ItemNo>
<PartNo>1313</PartNo>
<Qty>10</Qty>
<Discount>50</Discount>
</RECORD>
</RECORDS>
```

レガシー形式でエクスポート ("RECORDS"キーを使用)

レガシーフォーマット

```
{
  "RECORDS": [
    {
      "COUNTRY_ID": AR
      "COUNTRY_NAME": "Argentina"
      "REGION_ID": 2
    },
    {
      "COUNTRY_ID": AU
      "COUNTRY_NAME": "Australia"
      "REGION_ID": 3
    }
  ]
}
```

新規フォーマット

```
[
  {
    "COUNTRY_ID": AR
    "COUNTRY_NAME": "Argentina"
    "REGION_ID": 2
  },
  {
    "COUNTRY_ID": AU
    "COUNTRY_NAME": "Australia"
    "REGION_ID": 3
  }
]
```

レコード区切り文字、フィールド区切り文字、テキスト修飾子

レコード区切り文字、フィールド区切り文字、テキストの値を囲む文字を指定します。

ゼロパディング日付

必要に応じて、日と月を2桁にするために前にゼロを追加します。

日付形式、日付区切り

日付の形式と日付区切り文字を指定します。

時刻区切り

時間区切り文字を指定します。

小数点

10 進数の小数点区切り文字を指定します。

バイナリデータエンコーディング

バイナリデータがファイル内で Base64 エンコードとしてエクスポートされるか、エンコードなしとしてエクスポートされるかを設定します。

エクスポートの保存と開始

開始ボタンをクリックしてエクスポート処理を開始します。ウィザードにはエクスポートの進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

エクスポート処理が完了したら、**開く**ボタンをクリックしてエクスポートされたファイルまたはログファイルを開くことができます。

ヒント : **保存**ボタンをクリックして設定をプロファイルとして保存できます。

データ転送 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

データ転送について

Navicat では、1 つのデータベース/スキーマから別のデータベース/スキーマへ、または、SQL ファイル (RDBMS) または Javascript ファイル (MongoDB) へオブジェクトを転送することができます。ターゲットのデータベース/スキーマは、元のデータベース/スキーマと同じサーバーにあっても、別のサーバーにあっても構いません。データ転送ウィンドウを開くためには、メニューバーから**ツール** -> **データ転送**を選択します。

後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード**ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント : プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

ヒント: テーブル/コレクションをナビゲーションペインのデータベース/スキーマにドラッグすることができます。ターゲットのデータベース/スキーマが同じ接続内にある場合、Navicat は直接テーブル/コレクションをコピーします。そうでない場合、Navicat はデータ転送ウィンドウをポップアップで開きます。

接続と詳細オプションを選択 (ステップ 1)

ソースとターゲットの接続を選択

データ転送ウィンドウで、**ソースデータベース**と**ターゲットデータベース**の接続、データベース、スキーマを定義します。🔄 をクリックしてソースとターゲットを入れ替えることができます。

選択したデータベースオブジェクトを直接テキストファイルに転送することも可能です。**ファイルオプション**を選択し、ファイルのターゲットパスと**SQL フォーマット**と**エンコード**を選択します。

注意: Navicat Premium は 種類の異なるサーバー間でテーブルとデータを転送することができます。例えば MySQL から Oracle へ。ソース接続が MongoDB の場合、Navicat Premium だけがデータを MongoDB サーバーに転送できます。

詳細オプションを選択

次に、**オプション**ボタンをクリックして、詳細オプションを設定します。オプションはソース接続サーバーとターゲット接続サーバーの種類によって異なり、昇順でソートされます。

エラーが発生しても続ける

転送処理中に発生したエラーを無視します。

オブジェクト名を変換

処理中にオブジェクトの名前を**小文字**または**大文字**に変換する必要がある場合、このオプションにチェックをつけます。

コレクションの作成

ターゲットデータベースにコレクションを作成したい場合は、このオプションにチェックを付けます。例えば、このオプションが非選択で、ターゲットデータベースにコレクションがすでに存在している場合、全てのデータは目的のコレクションに追加されます。

レコードを作成

全てのレコードを目的のデータベース/スキーマに転送する必要がある場合、このオプションにチェックをつけます。

テーブルを作成

ターゲットデータベースにテーブルを作成したい場合は、このオプションにチェックを付けます。例えば、このオプションが非選択で、ターゲットデータベース/スキーマにテーブルがすでに存在している場合、全てのデータは目的のテーブルに追加されます。

ターゲットデータベース/スキーマがなければ作成

ターゲットサーバーに指定されたデータベース/スキーマが存在しない場合、新しいデータベース/スキーマを作成します。

作成前にターゲットオブジェクトを削除

データベースオブジェクトがすでにターゲットデータベース/スキーマに存在する場合、このオプションにチェックをつけます。データ転送が開始されるとすぐに、既存のオブジェクトは削除されます。

CASCADE オプションで削除する

カスケードオプションを使用して依存するデータベースオブジェクトを削除したい場合は、このオプションにチェックを付けます。

自動増加を含む

このオプションを有効にすると、テーブルに自動増加を含めます。

キャラクターセットを含む

このオプションを有効にすると、テーブルにキャラクターセットを含めます。

チェック制約を含む

このオプションを有効にすると、テーブルにチェック制約を含めます。

定義者を含む

このオプションを有効にすると、オブジェクトの定義者を含めます。

エンジン/テーブルタイプを含む

このオプションを有効にすると、テーブルタイプを含めます。

除外制約を含む

このオプションを有効にすると、テーブルに除外制約を含めます。

外部キー制約を含む

このオプションを有効にすると、テーブルに外部キーを含めます。

インデックスを含む

このオプションを有効にすると、テーブルにインデックスを含めます。

他のコレクションオプションを含む

このオプションを有効にすると、コレクションに他のオプションを含めます。

他のテーブルオプションを含む

このオプションを有効にすると、テーブルに他のオプションを含めます。

所有者を含む

このオプションを有効にすると、オブジェクトの所有者を含めます。

ルールを含む

このオプションを有効にすると、テーブルにルールを含めます。

トリガーを含む

このオプションを有効にすると、テーブルにトリガーを含めます。

UNIQUE 制約を含む

このオプションを有効にすると、テーブルにユニーク制約を含めます。

ソーステーブルをロック

データ転送がいったん始まると、元のデータベース/スキーマにあるテーブルへの更新ができないように、ロックをかけます。

ターゲットテーブルをロック

データ転送処理中、ターゲットデータベース/スキーマにあるテーブルにロックをかけます。

ステートメントの最大サイズ

実行できる個々の拡張 INSERT ステートメントの最大サイズ (KB 単位) を指定します。行サイズがこの値を超える場合、通常の INSERT ステートメントが使用されます。

complete-insert ステートメントを使用

完全な insert 構文を使用して、レコードを挿入します。

例：

```
INSERT INTO `users` (`ID Number`, `User Name`, `User Age`) VALUES ('1', 'Peter McKindsy', '23');
```

```
INSERT INTO `users` (`ID Number`, `User Name`, `User Age`) VALUES ('2', 'Johnson Ryne', '56');
```

```
INSERT INTO `users` (`ID Number`, `User Name`, `User Age`) VALUES ('0', 'katherine', '23');
```

SHOW CREATE TABLE から DDL を使用する

このオプションを有効にすると、DDL は SHOW CREATE TABLE から使用されます。

sqlite_master から DDL を使用する

このオプションを有効にすると、DDL は SQLITE_MASTER テーブルから使用されます。

delayed-insert ステートメントを使用

DELAYED insert SQL 文を使用して、レコードを挿入します。

例 :

```
INSERT DELAYED INTO `users` VALUES ('1', 'Peter McKindsy', '23');
```

```
INSERT DELAYED INTO `users` VALUES ('2', 'Johnson Ryne', '56');
```

```
INSERT DELAYED INTO `users` VALUES ('0', 'katherine', '23');
```

extended-insert ステートメントを使用

拡張 insert 構文を使用して、レコードを挿入します。

例 : `INSERT INTO `users` VALUES ('1', 'Peter McKindsy', '23'), ('2', 'Johnson Ryne', '56'), ('0', 'Katherine', '23');`

BLOB の場合 16 進形式を使用

16 進形式で BLOB データを挿入します。

ignore-insert ステートメントを使用

IGNORE INSERT SQL ステートメントを使用してレコードを挿入します。INSERT ステートメントの実行中に発生する無視可能なエラーは全て無視されます。

replace-insert ステートメントを使用

REPLACE SQL ステートメントを使用してレコードを挿入します。ターゲットテーブル内の行が PRIMARY KEY または UNIQUE インデックスのソースと同じ値を持つ場合、ターゲット内の行は新しい行が挿入される前に削除されます。

シングルトランザクションを使用

データ転送処理中、シングルトランザクションを使用する場合、このオプションにチェックを付けます。

トランザクションを使用

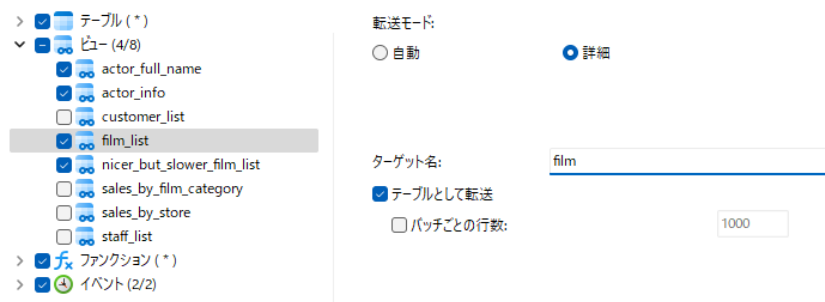
データ転送処理中、トランザクションを使用する場合、このオプションにチェックを付けます。

オブジェクトと転送モードを選択する (ステップ 2)

転送するオブジェクトを選択する

デフォルトでは、**データベースオブジェクト**リストの全てのデータベースオブジェクトが選択されていません。転送したいデータベースオブジェクトにチェックを付けます。

データベースオブジェクト



(*)	すべてのデータベースオブジェクトがターゲットデータベース/スキーマに転送され、すべての新しく追加されるデータベースオブジェクトも、データ転送プロファイルを修正することなく転送されます。
(#/＃)	チェックされたデータベースオブジェクトだけが転送されます。しかし、データ転送プロファイルを作成後にソースデータベース/スキーマに新しいデータベースオブジェクトを追加すると、データベースオブジェクトリストを手動で修正しない限り、新しく追加されたデータベースオブジェクトは転送されません。

テーブル/ビューの転送モードを選択する

選択されたテーブル/ビューの**転送モード**をカスタマイズできます。**自動**を選択すると、Navicat はデフォルト設定を使用してテーブル/ビューを転送します。転送設定をカスタマイズする場合、**詳細**を選択して、次のオプションを設定します。

オプション	説明
ターゲット名	ターゲットデータベースに作成されるテーブル/ビューの名前を入力します。
全てのフィールド	テーブルの全てのフィールドを転送します。
カスタムフィールド	転送するフィールドを選択できます。+をクリックして、フィールドを選択します。必要に応じて、ターゲットフィールドの名前を変更します。
全ての行	テーブル内の全てのレコードを転送します。
バッチごとの行数	バッチごとのデータの行数を指定します。これが有効ではない場合、テーブル内の全てのデータが単一のトランザクションとしてターゲットサーバーに送信されます。
カスタムレコードセット	転送用にレコードにフィルターをかけます。+をクリックして、式を入力します。
レコードセットジェネレータ	テーブルが大きい場合、接続タイムアウトを回避するために、テーブルをいくつかのレコードセットに分割することができます。Recordset Generator は、フィールドの開始値と終了値の間でできるだけ均等にレコードを複数のレコードセットに分割できます。ポップアップウィンドウで、 フィールド名、開始値、終了値、レコードセットの数 を設定します。
SQL プレビュー	レコードセットを返すための SQL ステートメントを表示します。
各レコードセットにトランザクションを使用	データ転送プロセス中に、各レコードセットにトランザクションを使用します。
テーブルとして転送	ビューは新しいテーブルとしてターゲットデータベースに転送されます。

データ転送の確認と開始（ステップ 3）

概要テーブルには、ターゲットデータベースに転送されている全ての選択されたオブジェクトが一覧表示されます。

エラーが発生しても続ける

転送処理中に発生したエラーを無視します。

作成前にターゲットオブジェクトを削除

データベースオブジェクトがすでにターゲットデータベース/スキーマに存在する場合、このオプションにチェックをつけます。データ転送が開始されるとすぐに、既存のオブジェクトは削除されます。

データ転送を開始する

開始ボタンをクリックしてデータ転送処理を実行します。ウィンドウには、実行の進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

データの同期（Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能）

データの同期について

Navicat では、詳細な分析処理で、1 つのデータベース/スキーマから別のデータベース/スキーマにデータを転送することができます。つまり、Navicat は、それぞれのレポジトリが同じ情報を持つために、異なるデータベース/スキーマにあるデータを最新の状態にすることが可能です。転送処理をロールバックすることも、転送先へレコードを挿入したり、転送先にあるレコードを削除、更新することもできます。データの同期ウィンドウを開くためには、メニューバーから **ツール** -> **データの同期** を選択します。

後で使用する時や [自動化タスク](#) の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード** ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント : プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#) の下に保存されます。

注意 : SQL Server 2000 は、この機能をサポートしません。Oracle サーバーに関しては、データの同期処理中、BLOB、CLOB、NCLOB、LONG、LONG RAW データはスキップされます。TIMESTAMP プライマリーキーは、9i サーバーにデータベースリンクを使用して同期（挿入、更新）することができません。RAW プライマリーキーは、エラーなしに、どのサーバーへもデータベースリンクを使用して同期（挿入、更新、削除）することはできません。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。Navicat Premium と Navicat for MySQL は、MySQL と MariaDB 間の同期に対応しています。

接続と比較オプションを選択（ステップ 1）

ソースとターゲットの接続を選択

データの同期ウィンドウで、**ソースデータベース**と**ターゲットデータベース**の接続、データベース、スキーマを定義します。🔄 をクリックしてソースとターゲットを入れ替えることができます。

比較オプションを選択

次に、**オプション**ボタンをクリックして、比較オプションを設定します。

レコードの挿入

レコードがターゲットに存在しない場合は、レコードを挿入します。

レコードの削除

ターゲットから余分なレコードを削除します。

レコードの更新

レコードがソースと異なる場合は、ターゲットを更新します。

テーブル/コレクションマッピングを選択（ステップ 2）

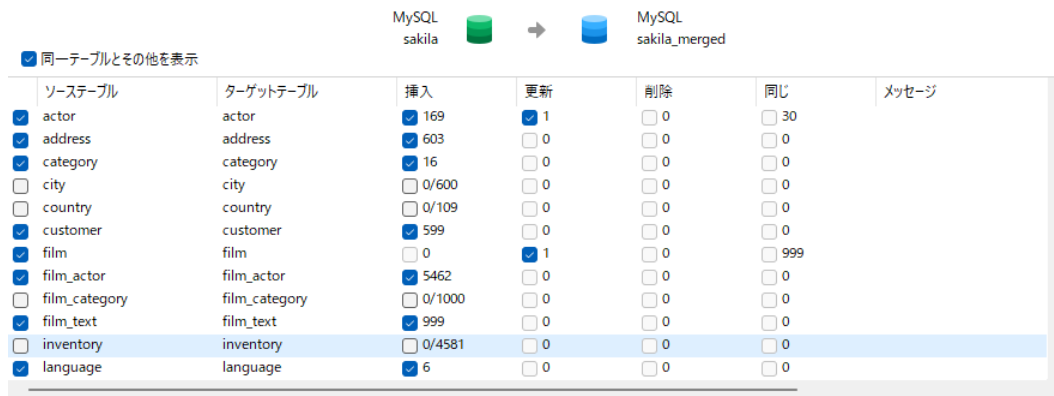
このステップでは、ソースとターゲット間で同じ名前を含むテーブル/コレクションがデフォルトでリストにマップされます。同期したくないテーブル/コレクションがある場合、ドロップダウンリストから手動で無効にします。

同じ名前を含むキーとフィールドもマップされます。**キーマッピング**列と**フィールドマッピング**列のマッピングを変更することができます。

テーブル/コレクションをマッピングした後、**比較&プレビュー**をクリックして比較結果を表示します（ステップ 3）。プレビューをスキップしてすぐにデプロイする場合は、**比較&デプロイ**をクリックします。

データ比較結果の表示（ステップ 3）

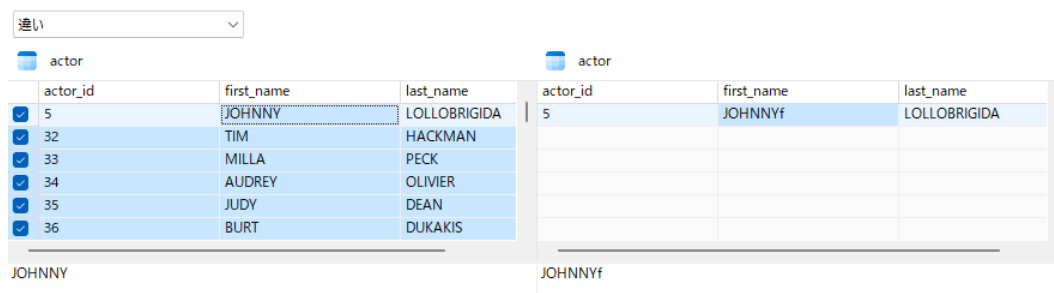
データの比較後、ターゲットで挿入、更新、削除されたレコード数がウィンドウに表示されます。同じデータを持つテーブル/コレクションと異なる構造を持つテーブル/コレクションを非表示にするためには、**同一テーブルとその他を表示/同一コレクションと他のコレクションの表示**オプションのチェックを外します。異なるデータを持つすべてのテーブル/コレクションとすべての動作にデフォルトでチェックが付けられます。ターゲットに適用したくないチェックボックスのチェックを外します。



リストのテーブル/コレクションを選択すると、一番下のペインにソースとターゲットのデータが表示されます。ソースとターゲット間で異なる値が強調表示されます。複数の行のデータを表示するためには、グリッドを右クリックし、**アシスタントビューアを表示**を選択します。ターゲットに適用したくないレコードのチェックを外します。

データを表示するためには、ドロップダウンリストからオプションを選択します。

オプション	説明
違い	ソースとターゲットで異なる全てのレコードを表示します。
挿入	ターゲットに存在しなレコードのみを表示します。
更新	ソースとターゲットの両方に存在するレコードのみを表示します。しかし、異なる値も含まれます。
削除	ソースに存在しないレコードのみを表示します。
同じ	ソースとターゲットの両方に存在するレコードを表示し、それらには同じ値が含まれます。
全ての行	ソースとターゲットのすべてのレコードを表示します。



すべての選択されたテーブル/コレクションのスキプトとレコードを表示するためには、**次**ボタンをクリックします。

選択したスキプトの編集と実行 (ステップ 4)

デプロイメントスクリプトタブにターゲットデータベースで実行されるすべてのスキプトを表示することができます。

デプロイオプションボタン	説明
デプロイオプション	<p>エラーが発生しても続ける - 必要に応じて、実行プロセス中に発生したエラーを無視します。</p> <p>各実行時に複数クエリを実行 - 複数の SQL ステートメントを一度に実行します。これにより、転送プロセスが高速になります。</p> <p>トランザクションを使用 - エラー発生時に全てのデータをロールバックしま</p>

	す。 デプロイメントクエリをメッセージログに含める - 実行された全てのクエリをメッセージログタブに表示します。
スクリプトを編集	スクリプトの順番を変更するためには デプロイメントスクリプトを編集 ウィンドウを開きます。
スクリプトをクリップボードにコピー	すべてのスクリプトをデプロイメントスクリプトタブからクリップボードにコピーします。
スクリプトをクエリエディタで開く	新しいクエリウィンドウを開き、スクリプトを表示します。

デプロイメントスクリプトを編集 ウィンドウでは、矢印ボタンを使用してスクリプトを移動します。

それから、**開始** ボタンをクリックしてスクリプトを実行します。ウィンドウには、実行の進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

構造の同期 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

構造の同期について

Navicat では、詳細な分析処理でテーブル構造と他のオブジェクトを比較し修正することができます。つまり、Navicat は、2つのデータベース/スキーマ間でオブジェクトを比較し、構造の違いを示します。構造の同期ウィンドウを開くためには、メニューバーから **ツール** -> **構造の同期** を選択します。

後で使用する時のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイル** を **ロード** ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント : プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#) の下に保存されます。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQL Server/MariaDB でのみ使用可能です。Navicat Premium と、Navicat for MySQL は、MySQL と MariaDB 間の同期に対応しています。

接続と比較オプションを選択 (ステップ 1)

ソースとターゲットの接続を選択

構造の同期ウィンドウで、**ソースデータベース** と **ターゲットデータベース** の接続、データベース、スキーマを定義します。↔ をクリックしてソースとターゲットを入れ替えることができます。

比較オプションを選択

次に、**オプション** ボタンをクリックして、データベース/スキーマの比較オプションを設定します。オプションは、接続サーバーの種類によって異なり、昇順にソートされます。

自動増加値を比較

テーブルの自動増加値を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

キャラクターセットを比較

テーブルのキャラクターセットを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

チェック制約を比較

チェック制約を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

照合を比較

テーブルの照合を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

定義者を比較

定義者を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

イベントを比較

イベントを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

除外制約を比較

テーブルの除外制約を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

外部キーを比較

テーブルの外部キーを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

ファンクションを比較

ファンクションを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

IDENTITY の最終値を比較

テーブルの IDENTITY の最終値を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

インデックスを比較

インデックスを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

所有者の比較

オブジェクトの所有者を比較したい場合、このオプションにチェックを付けます。

パーティションを比較

テーブルのパーティションを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

プライマリーキーを比較

テーブルのプライマリーキーを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

ルールを比較

ルールを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

シーケンスを比較

シーケンスを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

ストレージを比較

テーブルのストレージを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

テーブルオプションの比較

他のテーブルオプションを比較したい場合、このオプションにチェックを付けます。

テーブルを比較

テーブルを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

テーブルスペースと物理属性を比較

テーブルスペースと物理属性を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

トリガーを比較

トリガーを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

UNIQUE 制約を比較

テーブルの UNIQUE 制約を比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

ビューを比較

ビューを比較したい場合、このオプションにチェックをつけます。

CASCADE オプションで削除する

カスケードオプションを使用して依存するデータベースオブジェクトを削除したい場合は、このオプションにチェックを付けます。

大文字小文字を区別

マッピング時に識別子の`大文字`と`小文字`を無視または考慮、または、サーバーのデフォルト設定を使用します。

比較を開始

比較ボタンをクリックしてソースとターゲットのデータベースを比較します。

構造比較結果を表示（ステップ 2）

構造の比較後、ソースとターゲットのデータベースまたはスキーマ間の違いがツリービューで表示されます。ターゲットに適用したいオブジェクトをチェックします。テーブルオブジェクトを開いて詳細な構造を確認することができます。

DDL比較 デプロイメントスクリプト

```
actor
CREATE TABLE `sakila`.`actor` (
  `actor_id` smallint UNSIGNED NOT NULL AUTO_INCREMENT
  COMMENT 'Actor ID',
  `first_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE
  utf8_general_ci NOT NULL,
  `last_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE
  utf8_general_ci NOT NULL,
  `last_update` timestamp NOT NULL DEFAULT
  CURRENT_TIMESTAMP ON UPDATE CURRENT_TIMESTAMP,
  PRIMARY KEY (`actor_id`) USING BTREE,
  INDEX `idx_actor_last_name` (`last_name` ASC) USING BTREE
) ENGINE = InnoDB AUTO_INCREMENT = 204 CHARACTER SET =
utf8mb4 COLLATE = utf8mb4_general_ci COMMENT = 'The actor
table shows the information of film actor in year 2000 to
2022.' ROW_FORMAT = Dynamic;
```

```
actor
CREATE TABLE `sakila_merged`.`actor` (
  `actor_id` smallint UNSIGNED NOT NULL AUTO_INCREMENT,
  `first_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE
  utf8_general_ci NOT NULL,
  `last_name` varchar(45) CHARACTER SET utf8 COLLATE
  utf8_general_ci NOT NULL,
  `last_update1` timestamp NOT NULL DEFAULT
  CURRENT_TIMESTAMP ON UPDATE CURRENT_TIMESTAMP,
  `last_update2` timestamp NULL DEFAULT NULL,
  PRIMARY KEY (`actor_id`) USING BTREE,
  INDEX `idx_actor_last_name` (`last_name` ASC) USING BTREE
) ENGINE = InnoDB AUTO_INCREMENT = 204 CHARACTER SET =
utf8mb4 COLLATE = utf8mb4_general_ci ROW_FORMAT = Dynamic;
```

オブジェクトタイプごとにグループ化するまたは操作ごとにグループ化を選択することによって、ツリービューのオブジェクトをオブジェクトタイプまたは操作でグループ化を選択できます。

操作	説明
→	オブジェクトはソースとターゲットのデータベース/スキーマの両方に存在しますが、異なる定義を持ちます。ターゲットオブジェクトはソースオブジェクトに基づき修正されます。
+	オブジェクトはターゲットデータベース/スキーマに存在しません。それはターゲットに作成されます。
×	オブジェクトはソースデータベース/スキーマに存在しません。ターゲットのオブジェクトは削除されます。
=	オブジェクトはソースとターゲットのデータベース/スキーマの両方に存在し、同じ定義を持ちます。操作は適用されません。

ツリービューのオブジェクトを選択すると、ソースとターゲットのそのオブジェクトの DDL ステートメントが **DDL 比較** タブに表示され、ターゲットデータベースで実行されるそのオブジェクトの詳細な SQL ステートメントが **デプロイメントスクリプト** タブに表示されます。

すべての選択されたオブジェクトのスクリプトを表示するためには、**次** ボタンをクリックします。

選択したスクリプトの編集と実行（ステップ 3）

デプロイメントスクリプト タブにターゲットデータベースで実行されるすべてのスクリプトを表示することができます。

デプロイオプションボタン	説明
--------------	----

デプロイオプション	エラーが発生しても続ける - 必要に応じて、実行プロセス中に発生したエラーを無視します。 デプロイメントクエリをメッセージログに含める - 実行された全てのクエリをメッセージログタブに表示します。
スクリプトを編集	スクリプトの順番を変更するためには、 デプロイメントスクリプトを編集 ウィンドウを開きます。
スクリプトをクリップボードにコピー	すべてのスクリプトをデプロイメントスクリプトタブからクリップボードにコピーします。
スクリプトをクエリエディタで開く	新しいクエリウィンドウを開き、スクリプトを表示します。

デプロイメントスクリプトを編集ウィンドウでは、矢印ボタンを使用してスクリプトを移動します。

それから、**開始**ボタンをクリックしてスクリプトを実行します。ウィンドウには、実行の進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

SQL/スクリプトファイルのダンプと実行

SQL ファイルにダンプ、**SQL ファイルを実行する**、**スクリプトファイルのダンプ**、**スクリプトファイルの実行**の機能を使用すると、データベース、スキーマ、テーブル、コレクションを SQL ファイルまたは.js ファイルにダンプすること、または、接続、データベース、スキーマの SQL ファイルまたは.js ファイルを実行することができます。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

ファイルにダンプするために

1. メインウィンドウで、開かれているデータベース/スキーマを右クリックするか、選択されたテーブル/コレクションを右クリックします。そして、**SQL ファイルにダンプ**または**スクリプトファイルのダンプ** -> **構造のみ**または**構造とデータ**を選択します。
2. 保存ロケーションを選択し、ファイル名を入力します。
3. **保存**をクリックします。

ヒント : ダンププロセスが完了したら、**開く**ボタンをクリックして、クエリエディタを使用してファイルを開くことができます。

ファイルを実行するために

1. メインウィンドウで、開かれている接続またはデータベース、スキーマを右クリックし、**SQL ファイルを実行する**または**スクリプトファイルの実行**を選択します。
2. SQL ファイルまたは.js ファイルを選択し、ファイルのエンコードを選択し、適切なオプションを有効にします。

オプション	説明
エラーが発生しても続ける	実行処理中に発生したエラーを無視します。
各実行時に複数クエリを実行	複数の SQL ステートメントを一度に実行します。これにより、実行プロセスが高速になります。

SET AUTOCOMMIT=0/ No Auto Commit	自動コミットモードを無効にします。
-------------------------------------	-------------------

3. **開始**をクリックします。

ヒント: .sql ファイルまたは.js ファイルをナビゲーションペインの開かれている接続またはデータベース、スキーマにドラッグアンドドロップすることができます。Navicat は、SQL ファイルを実行するウィンドウまたはスクリプトファイルの実行ウィンドウをポップアップで表示します。

コマンドファイルの実行

コマンドファイルの実行機能を使用すると、接続またはデータベースで Redis コマンドファイル (.redis) を実行できます。

注意: Redis でのみ使用可能です。

ファイルを実行するために

1. メインウィンドウで、開いている接続またはデータベースを右クリックし、**コマンドファイルの実行**を選択します。
2. .redis ファイルを選択し、ファイルのエンコードを選択し、適切なオプションを有効にします。

オプション	説明
バッチサイズ	バッチ内のコマンドの最大数を指定します。
エラーが発生しても続ける	実行処理中に発生したエラーを無視します。

3. **開始**をクリックします。

ヒント: ナビゲーションペインで開いている接続またはデータベースに .redis ファイルをドラッグアンドドロップできます。Navicat は、コマンドファイルの実行ウィンドウを自動的に表示します。

MongoImport と MongoExport

MongoImport と MongoExport について

MongoDB は、データのインポートとエクスポートのために 2 つのユーティリティを備えています。MongoImport と MongoExport です。指定された条件に応じてデータをインポートまたはエクスポートすることができます。

MongoImport

MongoImport では、JSON または CSV、TSV ファイルから MongoDB データベースにデータをインポートすることができます。

注意: この機能を動作させるためには、[mongoimport](#) 実行ファイルが必要です。

ファイルをインポートするために

1. Navicat のメインウィンドウで、データベースを右クリックし、**MongoImport** を選択します。

2. **基本タブ**と**詳細タブ**で、インポートファイルパスとターゲットコレクション、ファイルタイプ、適切なインポートオプションを選択します。
3. **開始ボタン**をクリックしてインポート処理を開始します。**メッセージログタブ**には、インポートの進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード**ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント：プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

MongoExport

MongoExport では、MongoDB コレクションを JSON ファイルまたは CSV ファイルにエクスポートすることができます。

注意：この機能を動作させるためには、[mongoexport](#) 実行ファイルが必要です。

コレクションをエクスポートするために

1. Navicat のメインウィンドウで、データベースを右クリックし、**MongoExport** を選択します。
2. **基本タブ**と**詳細タブ**で、エクスポートファイルパスとソースコレクション、ファイルタイプ、適切なエクスポートオプションを選択します。
3. **開始ボタン**をクリックしてエクスポート処理を開始します。**メッセージログタブ**には、エクスポートの進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード**ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント：プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

14 - データ生成 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

データ生成について

列インテリジェントデータ生成を使用すると、選択したテーブルに現実的で意味のあるテストデータを入力できます。ある列に生成されたデータは、別の列のデータに基づいています。空のテーブルにデータを入力したり、既存のテーブルにさらに行を追加したり、外部キーデータの作成を制御できます。データ生成ウィンドウを開くためには、メニューバーから**ツール -> データ生成**を選択します。

後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード**ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント : プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

ターゲットの接続を選択 (ステップ 1)

ターゲットの接続を選択

データ生成ウィンドウで、ターゲット接続、データベース、スキーマを定義します。

詳細オプションを選択

次に、**オプション**ボタンをクリックして、詳細オプションを設定します。オプションはターゲット接続サーバーの種類によって異なり、昇順でソートされます。

エラーが発生しても続ける

データ生成プロセス中に発生したエラーを無視します。

データを生成する前にコレクションを空にする

データを生成する前に、ターゲットコレクションの全てのデータを削除します。

データの生成前にテーブルを空にする

データを生成する前に、ターゲットテーブルの全てのデータを削除します。

複数の insert 文を実行

複数の INSERT ステートメントを一度に実行すると、実行プロセスが高速になります。

extended-insert ステートメントを使用

拡張 insert 構文を使用して、レコードを挿入します。

例 : `INSERT INTO `users` VALUES ('1', 'Peter McKindy', '23'), ('2', 'Johnson Ryne', '56'), ('0', 'Katherine', '23');`

トランザクションを使用

データ生成処理中、トランザクションを使用する場合、このオプションにチェックをつけます。

オブジェクトと列のプロパティの選択 (ステップ 2)

追加するオブジェクトの選択

デフォルトでは、データベースオブジェクトリストの全てのテーブルが選択解除されています。追加したいテーブルと列にチェックを付けます。



リスト内のオブジェクトを右クリックすると、1 つのオブジェクトから全ての設定をコピーし、他のオブジェクトに設定を貼り付けることができます。

テーブル/コレクションのプロパティを選択

テーブル/コレクションごとに生成するデータの量を指定できます。

テーブル/コレクションのデータが生成される順序を定義する時に、Navicat は依存関係を考慮しませんでした。必要に応じて、**テーブル生成順序/コレクションの生成順序**ボタンをクリックして順序を変更します。

列のプロパティの選択

Navicat は、テーブル名、列名、データタイプ、および長さに基づいて、ジェネレータを各列に自動的に割り当てます。**ジェネレータ**コンボボックスを使用して、リストからジェネレータを選択します。

次の表に、一般的なプロパティを示します。

オプション	説明
デフォルト値を含める	デフォルト値を生成します。列のデフォルト値を設定し、列のデフォルト値の率(%)を設定できます。
null 値を含める	NULL 値を生成します。列にヌル値の率(%)を設定できます。
Unique をセット	列に対して生成された値を一意にします。
値を次に変換する	値を小文字、大文字、または適切な文字（各単語の最初の文字は大文字で、他の文字は小文字）に変換します。
フィールド間のデータリンクを無効にする	このフィールドと他のフィールドの間のデータのリンクを解除します。 このオプションがオフの場合、Navicat はフィールド間で関係性を持つデータを生成します。例：名前フィールドが「Robert Rose」の場合、電子メールフィールドは「robertrose@outlook.com」のようになります。

ジェネレーターを使用する（ステップ 2.1）

数字ジェネレータ

数字ジェネレータは、整数や 10 進数などの数値を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
開始	最小数値を指定します。
終わり	最大数値を指定します。
数値タイプ	数値のタイプを選択します：整数または 10 進数。

Date/Time/DateTime ジェネレータ

Date/Time/DateTime ジェネレータは、日付や時刻を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。プロパティは、選択されたジェネレータによって異なります。

オプション	説明
開始日	日付の最小値を指定します。
終了日	日付の最大値を指定します。
終日	1 日の任意の時刻を含めます。
開始時間	時刻の最小値を指定します。
終了時間	時刻の最大値を指定します。

曜日	日付値の曜日を選択します。
----	---------------

シーケンスジェネレータ

シーケンスジェネレータは、整数のランダム化されたシーケンスを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
開始	シーケンスの最初の番号を指定します。
インクリメント	現在のシーケンス値に追加する値を指定して、新しい値を作成します。
最小	シーケンス範囲の下限を指定します。
最大	シーケンス範囲の上限を指定します。
サイクル	シーケンスは、最大値または最小値のいずれかに達した後も値を生成し続けます。

Enum ジェネレータ

Enum ジェネレータは、指定された値リストから値を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
可能な値	値を指定します。値は、適用可能な場合、列の既存のデータから生成されます。

テキストジェネレータ

テキストジェネレータはダミーのテキスト値を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
文字数	最小文字数と最大文字数を指定します。

イメージ/バイナリジェネレータ

イメージ/バイナリジェネレータは、画像とバイナリデータを生成するか、指定されたフォルダにファイルをランダムにインポートします。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
イメージジェネレータ	
イメージの幅	画像の幅を指定します。
イメージの高さ	画像の高さを指定します。
イメージのフォーマット	画像ファイル形式を選択します。
フォルダからランダムに選択	
フォルダパス	多数の画像またはバイナリデータファイルを含むフォルダを指定します。
拡張子付きフィルタ	インポートされているファイルの拡張子リストを指定します。

外部キージェネレータ

外部キージェネレータは、親テーブルフィールドに含まれる値に基づいて、子テーブルフィールドの外部キー値を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
スキーマ	親テーブルのスキーマを選択します。
テーブル	親テーブルを選択します。
フィールド	親テーブルのフィールドを選択します。子テーブルの列と親テーブルの列に互換性のある型があることを確認してください。
生成モード	データの生成モードを選択します：ランダムデータ、繰り返しデータなし、または、指定された繰り返し回数。

UUID ジェネレータ

UUID ジェネレータは、指定された形式に基づいて、ユニバーサル一意識別子 (UUID) のセットを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
UUID フォーマット	ハイフン有りまたはハイフン無しの UUID を生成します。
正規表現	正規表現を編集します。正規表現の詳細については、 正規表現ジェネレータ を参照してください。

正規表現ジェネレータ

正規表現ジェネレータは、正規表現に基づいて値を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
正規表現	正規表現を入力します。

構文要素

次の表に、構文要素を示します。

説明	例	生成
基本		
普通の文字	Kelly	Kelly
個々の文字	[AB]	A または B
文字セットの頭文字]	[]]
[x-y] 範囲	[0-9]	例 2 または 7
[文字] 文字セット	[A-Z0-9]	例 3 または M
[exclude chars] character set	[^abc]	例 m または [
* ゼロまたはそれ以上	abc*	例 abcc または ab
+ 1 つ以上	abc+	例 abcccc または abc
? 含めるまたは含めない	abc?	ab または abc
(正規表現) グループ化	(abc)*d	例 abcabcd または d
{数値} リピート	b{4}	bbbb
{最小値,最大値} リピート	b{3,4}	bbb または bbbb
{最小値,} 少なくとも最小値の回数リピート	b{4,}	例 bbbb または bbbbbbbbbb
() 空文字	()	
選択肢	True False	True または False
空いた部分の選択肢	th(e is at)	例 the または that
エスケープ		
バックスラッシュ	¥¥	¥
ドット	¥.	.
キャレット	¥^	^
ドル記号	¥\$	\$
左波括弧	¥{	{
右波括弧	¥}	}
左角括弧	¥[[
右角括弧	¥]]

左丸括弧	¥((
右丸括弧	¥))
垂直バー	¥	
アスタリスク	¥*	*
プラスマーク	¥+	+
クエスチョンマーク	¥?	?
大文字または小文字またはアンダースコアまたは数字	¥w	[A-Za-z_0-9]
全ての ASCII 印刷可能文字	¥W	[-~]
数字	¥d	[0-9]
キャリッジリターン	¥r	
タブ文字	¥t	
スペース文字	¥s	

名前ジェネレータ

名前ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で名、姓、またはフルネームを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
フォーマットタイプ	名、姓、またはフルネームを生成します。
言語	名前の言語を選択します。

性別ジェネレータ

性別ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で様々な性別を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	性別の言語を選択します。

タイトルジェネレータ

タイトル（敬称）ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で様々な敬称を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	タイトルの言語を選択します。

婚姻状況ジェネレータ

婚姻状況ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で様々な婚姻状況タイプを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	婚姻状況の言語を選択します。

電話番号ジェネレータ

電話番号ジェネレータは、電話番号のルールに従ったランダムな電話番号を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
書式	電話番号の形式を選択します。国際電話番号を生成することを選択した場合、国コードが追加されます。
区切り文字を含める	電話番号に区切り文字を追加します。
地域	電話番号の地域を選択します。

Eメールジェネレータ

Eメールジェネレータは、指定されたドメイン名でEメールを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
ドメイン	Eメールドメイン名のリストを入力します。

職位ジェネレータ

職位ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で様々な役職を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	役職の言語を選択します。

ソーシャルネットワーク ID ジェネレータ

ソーシャルネットワーク ID ジェネレータは、ランダムなソーシャルネットワークアカウント名を生成します。

支払方法ジェネレータ

支払方法ジェネレータは、指定された値リストから支払方法を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
可能な値	お支払い方法をご指定します。

クレジットカードの種類ジェネレータ

クレジットカードの種類ジェネレータは、クレジットカードの種類を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
タイプ	クレジットカードの種類を選択します。

クレジットカード番号ジェネレータ

クレジットカード番号ジェネレータは、様々なクレジットカードタイプのクレジットカード番号を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
タイプ	クレジットカードの種類を選択します。

クレジットカードの日付ジェネレータ

クレジットカードの日付ジェネレータは、クレジットカードの発行日または有効期限を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
日付タイプ	発行日または有効期限を生成します。
日付範囲	日付範囲 (MM/YY - MM/YY) を選択します。

会社名ジェネレータ

会社名ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で会社名を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	会社名の言語を選択します。

部署ジェネレータ

部署ジェネレータは、会社の部署名を英語、中国語、または日本語で生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	部署名の言語を選択します。

業界ジェネレータ

業界ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で業界名を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	業界名の言語を選択します。

住所ジェネレータ

住所ジェネレータは、米国、英国、中国、または日本の 1 行目、2 行目、または完全なアドレスを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
タイプ	1 行目、2 行目、または完全なアドレスを生成します。
地域	アドレスの地域を選択します。

市ジェネレータ

市ジェネレータは、米国、英国、中国、または日本の都市名を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
地域	都市の地域を選択します。
言語	都市名の言語を選択します。

地域ジェネレータ

地域ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で地域名または ISO 3166 国コードを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
書式	地域名、ISO 3166-1 alpha-2 または ISO 3166-1 alpha-3 国コードを生成します。
言語	地域名の言語を選択します。

製品名ジェネレータ

製品名ジェネレータは、指定されたキーワードで製品名を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
-------	----

キーワードで生成する	製品名を生成するためのキーワードを指定します。
------------	-------------------------

製品カテゴリジェネレータ

製品カテゴリジェネレータは、英語、中国語、または日本語で製品カテゴリ名を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	カテゴリ名の言語を選択します。

色ジェネレータ

色（カラー）ジェネレータは、英語、中国語、または日本語で色の名前を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	色名の言語を選択します。

サイズジェネレータ

サイズジェネレータは、英語、中国語、または日本語でサイズ（XS / S / M / L / XL）を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
言語	サイズの言語を選択します。

重量単位ジェネレータ

重量単位ジェネレータは、指定された値リストから重さの単位を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
可能な値	重さの単位を指定します。

バーコードジェネレータ

バーコードジェネレータは、様々なバーコードタイプまたは指定された形式に基づいてバーコードを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
タイプ	バーコードタイプを選択します。 正規表現 ボックスで Code39 バーコード形式をカスタマイズできます。正規表現の詳細については、 正規表現ジェネレータ を参照してください。

SKU ジェネレータ

SKU ジェネレータは、指定された形式に基づいて在庫管理単位（SKU）を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
正規表現	正規表現を編集します。正規表現の詳細については、 正規表現ジェネレータ を参照してください。

IP アドレスジェネレータ

IP アドレスジェネレータは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
IP アドレスタイプ	IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを生成します。
正規表現	正規表現を編集します。正規表現の詳細については、 正規表現ジェネレータ を参照してください。

MAC アドレスジェネレータ

MAC アドレスジェネレータは、指定された形式でランダムな MAC アドレスを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
正規表現	正規表現を編集します。正規表現の詳細については、 正規表現ジェネレータ を参照してください。

ファイルパスジェネレータ

ファイルパスジェネレータは、Windows、macOS、または Linux のファイルパスを生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
パスタイプ	ファイルパスの OS タイプを選択します。
拡張子を含める	パスの最後にファイル名を追加します。
拡張子タイプ	ファイル拡張子の種類を選択します。
拡張子	ファイル拡張子を編集します。

ファイル名ジェネレータ

ファイル名ジェネレータはファイル名を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
拡張子を含める	パスの最後にファイル名を追加します。
拡張子タイプ	ファイル拡張子の種類を選択します。
拡張子	ファイル拡張子を編集します。

ファイル拡張子ジェネレータ

ファイル拡張子ジェネレータは、ファイル拡張子を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
拡張子タイプ	ファイル拡張子の種類を選択します。
拡張子	ファイル拡張子を編集します。

URL ジェネレータ

URL ジェネレータは、指定されたサブドメインとトップレベルドメインを持つ URL を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
サブドメイン	ウェブサイトのサブドメインのリストを入力します。
トップレベルドメイン	トップレベルドメインのリストを入力します。

ホスト名ジェネレータ

ホスト名ジェネレータは、指定されたサブドメインとトップレベルドメインでサーバーのホスト名を生成します。

ジェネレータのプロパティ

プロパティを変更することで、ジェネレータをカスタマイズできます。

オプション	説明
サブドメイン	ウェブサイトのサブドメインのリストを入力します。
トップレベルドメイン	トップレベルドメインのリストを入力します。

データのプレビューと生成の開始（ステップ 3）

各テーブルに対して生成されるデータをプレビューできます。

開始ボタンをクリックしてデータ生成処理を実行します。ウィンドウには、実行の進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

15 - データディクショナリ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

データディクショナリについて

データディクショナリを使用すると、データベースシステムを効率的に管理および文書化できます。メタデータの集中リポジトリとして機能し、データベースオブジェクトの構造、関係、およびプロパティに関する包括的な情報を提供します。サーバー、データベース、スキーマレベルでデータディクショナリを作成できます。データディクショナリウィンドウを開くためには、メニューバーから**ツール** -> **データディクショナリ**を選択します。

後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード**ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント: プロファイルは、デフォルトパスの下に保存されます。例えば、
/home/your_username/.config/navicat/Premium/Profiles。

注意: MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

データベースの選択 (ステップ 1)

データディクショナリウィンドウで、データディクショナリを生成したいデータベースおよび/またはスキーマを選択します。

オブジェクトの選択と順序の変更 (ステップ 2)

リストで、データディクショナリに含めるオブジェクトを選択します。

Navicat は、リスト上のオブジェクトの順序に基づいてデータディクショナリの内容を生成します。オブジェクトを選択し、矢印ボタンを使用して順序を変更できます。

テンプレートの選択 (ステップ 3)

Navicat には、データディクショナリファイル用のテンプレートがいくつか用意されています。適切なテンプレートを選択し、残りの手順に従って設定をカスタマイズできます。

レイアウト設定の調整 (ステップ 4)

テンプレートのレイアウトを調整し、左ペインでプレビューを表示できます。

レイアウトプロパティ

オプション	説明
表紙	
カバーを含む	表紙を追加します。
ヘッダーロゴ	ヘッダーに先行画像を挿入します。
ヘッダー	表紙の上部に 1 回表示されるヘッダーを入力します。
タイトル	データディクショナリのタイトルを入力します。
サブタイトル	データディクショナリのサブタイトルを入力します。
備考	表紙に表示されるコメントを入力します。
背景イメージ	デフォルト - デフォルトの背景画像を使用します。 カスタム - 表紙の背景画像を挿入します。 なし - 明示的に背景画像を挿入しません。
フッター	表紙の下部に 1 回表示されるフッターを入力します。
目次	
目次を含む	データディクショナリに目次を追加します。
ヘッダー/フッター	
ブレッダラムヘッダーを含む	表紙と目次を除く全てのページの上部に表示されるブレッダラム (パンくず) ヘッダーを追加します。
見出しのフォント	見出しのフォントスタイルを設定します。
小見出しのフォント	サブ見出しのフォントスタイルを設定します。
左フッターを含む	表紙、目次、およびイントロダクションを除く全てのページの左下に表示されるフッターを追加します。
右フッターにページ番号を含む	表紙、目次、およびイントロダクションを除く全てのページの右フッターにページ番号を追加します。
フッターのフォント	フッターのフォントスタイルを設定します。
主要な内容	
イントロダクションを含む	データディクショナリを紹介するページを追加します。
イントロダクション	イントロダクションを入力します。
フォント	イントロダクションのフォントスタイルを設定します。
紙	
紙	用紙サイズを選択します。
向き	ページの向き (縦向きまたは横向き) を選択します。
マージン(CM)	ドキュメントの余白を設定します。

ファイルパスの設定と生成の開始 (ステップ 5)

ファイルパスとその他のオプションの設定

オプション	説明
ファイルにエクスポート	データディクショナリファイルのパスを指定します。

ファイル名にタイムスタンプを追加	ファイルが作成された日時を表示するためにファイル名にタイムスタンプ情報を追加します。
既存のファイルを上書きする	ファイルが既に存在する場合は上書きします。
エラーが発生しても続ける	生成プロセス中に発生したエラーを無視します。


生成の開始

データディクショナリを生成するためには、**開始**ボタンをクリックします。ウィンドウに、生成の進行状況、時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

生成プロセスが終了したら、**開く**ボタンをクリックしてデータディクショナリファイルを開くことができます。

16 - BI (Navicat Premium/Enterprise エディションでのみ使用可能)

BI について

BI 機能は、強力なデータ視覚化、レポート、分析機能を提供することによって、ユーザーが洞察を抽出し、データに基づく意思決定を行うのに役立つように設計されています。メインウィンドウで、 **チャート**をクリックしてワークスペースオブジェクトリストを開きます。

注意：MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB/Snowflake でのみ使用可能です。Snowflake は、Navicat Premium でのみ使用可能です。

重要な特徴は下記のとおりです。

- 20 を超えるチャートタイプをサポートします。
- 複数ページのダッシュボードをカスタマイズします。
- ライブデータを視覚化します。
- 双方向性のコントロールを追加します。

ヒント：ワークスペースファイル (.nbi) は、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。フォルダを開くためには、ワークスペースファイルを右クリックし、**格納フォルダを開く**を選択します。ワークスペースが [Navicat Cloud](#) または [On-Prem Server](#) に同期されている場合、ワークスペースはクラウドに保存されます。

外部ワークスペースファイルを開く

1. メニューバーから、**ファイル** -> **外部ファイルを開く** -> **BI ワークスペース**を選択します。
2. ファイルを参照し、ダイアログウィンドウで**開く**をクリックします。

開いている外部ファイルを Navicat ワークスペースとして保存

1. ワークスペースデザイナーで、**ファイル** -> **Navicat に保存**を選択します。
2. ワークスペース名を入力し、保存場所を選択します。
3. **確認**をクリックします。

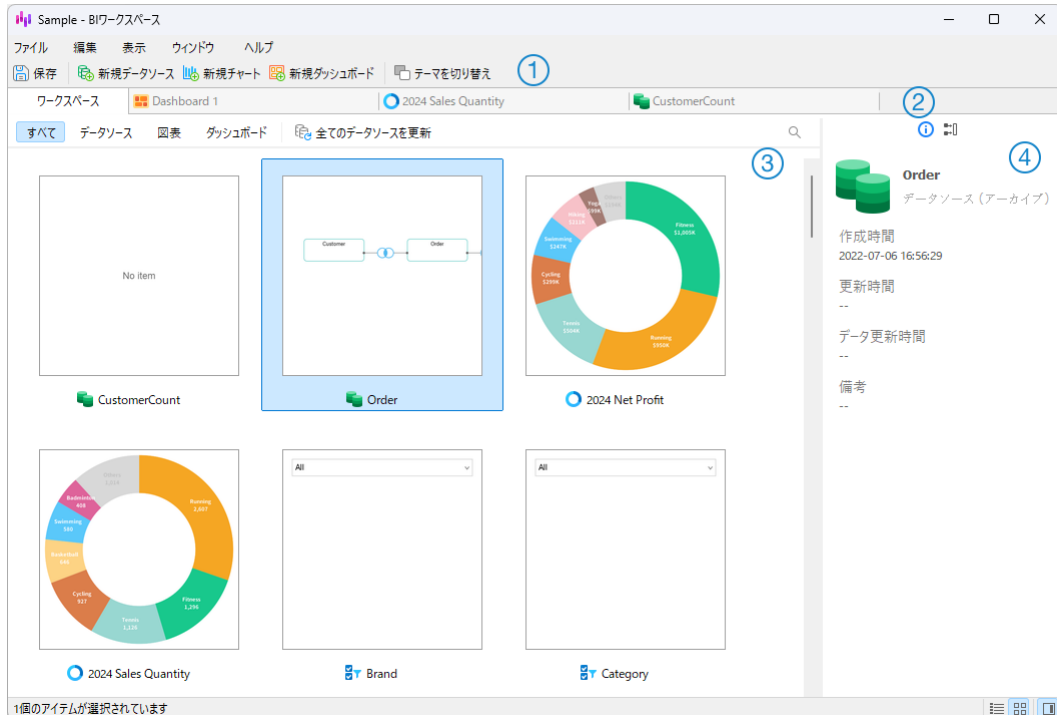
Navicat ワークスペースを外部ファイルとして保存

1. ワークスペースデザイナーで、**ファイル** -> **外部ファイルとして保存**を選択します。
2. 保存パスを選択し、ファイル名を入力します。

3. 保存をクリックします。

ワークスペース

ワークスペースは、ダッシュボード、チャート、データソースから構成される場所です。ワークスペースに複数のダッシュボード、チャート、データソースを作成できます。



① ワークスペースツールバー

ワークスペースツールバーには、データソース、チャート、ダッシュボードの作成に使用できるコントロールが用意されています。

② タブバー

タブバーを使用すると、開いているアイテムを切り替えることができます。

③ 内容ペイン

内容ペインには、ワークスペース内の全てのアイテムが表示されます。ビューを変更するためには、ウィンドウの下部にある **詳細** ボタンまたは **アイコン** ボタンをクリックします。

詳細ビューには、各アイテムに関する追加情報が表示されます。詳細ビューでアイテムを並べ替えるためには、アイテムを並べ替えたい列ヘッダーをクリックします。

アイコンビューでは、アイテムがサムネイル画像のグリッドとして表示されます。このビューでカテゴリ（全て、データソース、チャート、ダッシュボード）をクリックして、アイテムにフィルターをかけることができます。

④ プロパティペイン

① 基本タブには、ワークスペースまたは選択されたアイテムの一般情報が表示されます。

② 使用先タブには、選択されたアイテムが依存しているアイテムが表示されます。

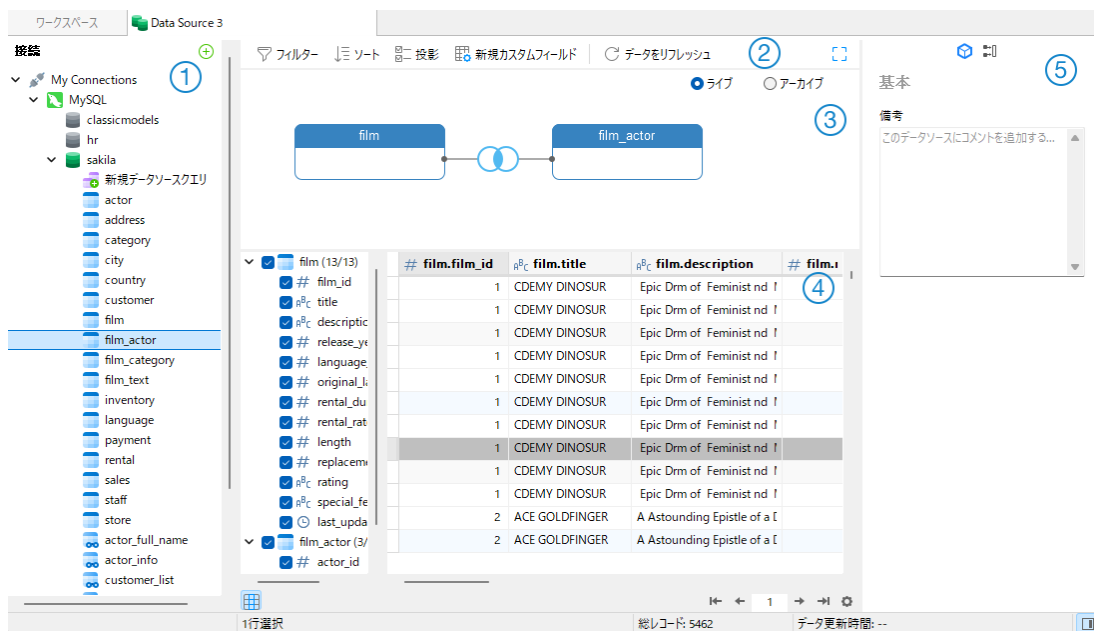
使用元タブには、選択されたアイテムに依存するアイテムが表示されます。

プロパティペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示 -> プロパティを表示**を選択します。

データソース

データソースについて

データソースは、接続内のテーブルまたはファイル/ODBC ソース内のデータを参照し、様々なサーバータイプのテーブルからデータを選択できます。データセットのフィールドを使用して、チャートを作成できます。チャートを作成する時は、チャートが使用するデータソースを指定する必要があります。



① 接続ペイン

接続ペインは、接続、データベース、テーブル、クエリをナビゲートするための基本的な方法です。

② データソースツールバー

データソースツールバーには、データの操作に使用できるコントロールが用意されています。

③ デザインペイン

デザインペインでは、データソースを視覚的に構築できます。

Navicat は、データに接続するための 2 つのモードを提供します：ライブとアーカイブ。


ライブモードは、データソースが使用/ロードされている時はいつでも、サーバーからデータを取得します。リアルタイムの更新の利便性を提供し、基礎となるデータの変更が反映されます。


アーカイブモードは、データソースの作成時にサーバーからデータを取得し、取得したデータをワークスペースに保存して、後でチャートを作成する時に使用します。

④ プレビューペイン

プレビューペインには、データソースのデータが表示されます。 アイコンをクリックすると、列を表示または非表示にできます。

⑤ プロパティペイン


 **プロパティ**タブには、データソースの一般情報が表示されます。データソースにコメントを追加できます。

 **使用元**タブには、データソースに依存するチャートが表示されます。


プロパティペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示** -> **プロパティを表示**を選択します。

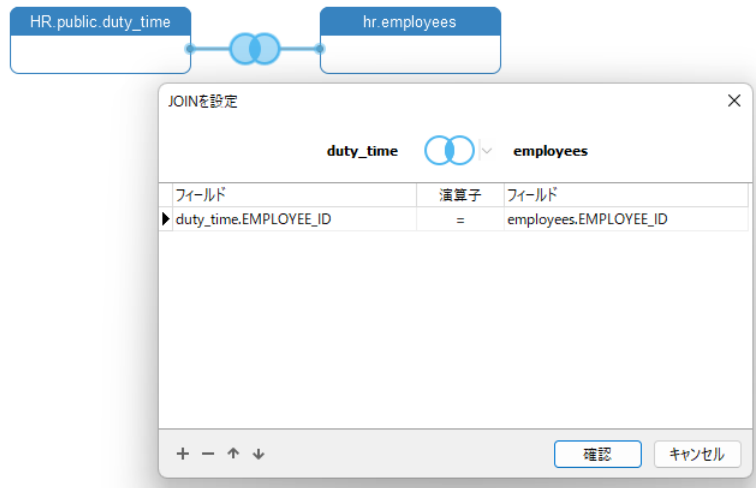
データソースを作成

データソースを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. ワークスペースウィンドウで、 **新規データソース**をクリックします。
2. データソースの名前を入力し、希望の接続、ファイル、または既存のデータソースを選択します。

オプション	説明
データベース	Navicat の既存の接続を使用してデータソースを作成するか、ワークスペースで新しい接続を作成します。接続設定の詳細については、 接続 を参照してください。
ファイル/ODBC	データをワークスペースにインポートするか、サポートされている外部ファイルまたは ODBC ソース内のデータにデータソースをリンクします。インポート手順の詳細については、 インポートウィザード を参照してください。
最近の接続	ワークスペース内の他の既存のデータソースで使用される接続を選択します。

3. **確認**をクリックします。
4. データソースを編集するためのタブが開きます。
5. さらに接続を追加する場合は、**+**をクリックして手順に従います。
6. テーブルを接続ペインからデザインペインにドラッグアンドドロップします。 をクリックすることで、テーブルデータを表示できます。
7. 結合を作成するためにノードを別のノードにドラッグアンドドロップします。
8. 結合タイプを設定し、必要に応じてフィールドを結合します。




ヒント：結合を作成した後、コネクタの結合アイコンをクリックすることで、いつでも結合設定を変更できます。

9. **ライブ**モードまたは**アーカイブ**モードを選択します。
10. データを表示するためには、**データを適用してリフレッシュ**をクリックします。



データベース接続にクエリの追加

データベース接続の場合、クエリ結果を保存して新しいデータセットを作成できます。

新しいクエリを作成するためには

1. 接続ペインで、 **新規データソースクエリ**をダブルクリックします。
2. [クエリエディタ](#)でステートメントを書きます。[クエリビルダ](#)を使用して、クエリを視覚的に作成することもできます。
3. **クエリを保存**をクリックします。
4. クエリの名前を入力し、**保存**をクリックします。


既存のクエリを追加するためには

1. 接続ペインで、 **新規データソースクエリ**をダブルクリックします。
2.  **クエリをインポート**をクリックします。
3. クエリを選択します。
4. **インポート**をクリックします。
5. **クエリを保存**をクリックします。



データベース接続に集計パイプラインの追加

MongoDB データベース接続の場合、集計パイプライン結果を保存して新しいデータセットを作成できます。

新しいパイプラインを作成するためには

1. 接続ペインで、 **新しいデータソース集計パイプライン**をダブルクリックします。
2. [パイプラインビルダ](#)を使用してパイプラインを構築します。
3. **パイプラインを保存**をクリックします。
4. パイプラインの名前を入力し、**保存**をクリックします。

既存のパイプラインを追加するためには

1. 接続ペインで、 **新しいデータソース集計パイプライン**をダブルクリックします。
2.  **集計パイプラインをインポート**をクリックします。
3. パイプラインを選択します。
4. **インポート**をクリックします。
5. **パイプラインを保存**をクリックします。
6. パイプラインの名前を入力し、**保存**をクリックします。

データソース接続の変更

My Connections

My Connections の接続をワークスペース接続に変更するためには

1. 接続ペインで、接続を右クリックし、**ワークスペース接続に変換**を選択します。
2. 接続は“ワークスペース”セクションに移動されます。

見つからない接続を再作成するためには

My Connections のサーバー接続が削除された場合、“My Connections に見つかりません”セクションに移動されます。サーバーに接続するためには、接続を再作成する必要がある場合があります。

1. 接続ペインで、接続を右クリックし、**My Connections で接続を再作成**を選択します。
2. 接続プロパティを入力します。
3. **確認**をクリックします。

プロジェクト接続

プロジェクト接続をワークスペース接続に変更するためには

1. 接続ペインで、接続を右クリックし、**ワークスペース接続に変換**を選択します。

2. 接続は“ワークスペース”セクションに移動されます。

見つからない接続を再作成するためには

プロジェクトのサーバー接続が削除された場合、その接続は“プロジェクトに見つかりません”セクションに移動されます。サーバーに接続するためには、接続を再作成する必要がある場合があります。

1. 接続ペインで、接続を右クリックし、**プロジェクトで接続を再作成**を選択します。
2. 接続プロパティを入力します。
3. **確認**をクリックします。

ワークスペース接続

データベース接続の設定を編集するためには

1. 接続ペインで、データベース接続を右クリックし、**接続を編集**を選択します。
2. 接続プロパティを入力します。

データベース接続のユーザーパスワードを変更するためには

1. 接続ペインで、データベース接続を右クリックし、**接続パスワードを変更**を選択します。
2. データベースユーザーのパスワードを入力します。
3. **確認**をクリックします。

ファイル接続の設定を編集するためには

1. 接続ペインで、ファイル接続を右クリックし、**ファイル接続設定を編集**を選択します。
2. 接続プロパティを入力します。


リンクされたファイル接続のパスを変更するためには


1. 接続ペインで、ファイル接続を右クリックし、**リンクファイルパスを変更**を選択します。
2. 接続プロパティを入力します。

データのフィルタリング/ソート/プロジェクト

データソースに多くのデータまたはフィールドがある場合、データまたはフィールドを必要なものだけに制限する方が簡単であり、データの選択を簡素化できます。

データにフィルターをかける

フィルターペインを使用すると、データに指定するフィルター条件を簡単に作成および適用できます。フィルターペインをアクティブにするためには、ツールバーの  **フィルター** をクリックします。

1. 新しい条件を追加するためには、 をクリックします。丸括弧付きの条件を追加したい場合、 をクリックします。

ヒント : 既存の条件に括弧を追加するためには、選択した条件を右クリックし、**角括弧付きのグループ** を選択します。括弧を削除するためには、括弧を右クリックし、**角括弧の削除** または **角括弧と条件の削除** を選択します。


2. (チェックボックスの隣の) フィールド名をクリックし、リストからフィールドを選択します。
3. (フィールド名の隣の) 演算子をクリックし、フィルター演算子を選択します。


フィルター演算子	演算子の説明
=	フィールドは、'値'と等しいです。
!=	フィールドは、'値'と等しくありません。
<	フィールドは、'値'より小さいです。
<=	フィールドは、'値'以下です。
>	フィールドは、'値'より大きいです。
>=	フィールドは、'値'以上です。
含む	フィールドは、'値'を含みます。
含まない	フィールドは、'値'を含みません。
から始まる	フィールドは、'値'で始まります。
から始まらない	フィールドは、'値'で始まりません。
で終わる	フィールドは、'値'で終わります。
で終わらない	フィールドは、'値'で終わりません。
ヌルである	フィールドは、NULL です。
ヌルでない	フィールドは、NOT NULL です。
空である	フィールドは、空です。
空でない	フィールドは、空ではありません。
の間にある	フィールドは、'値 1'と'値 2'の間にあります。
の間に無い	フィールドは、'値 1'と'値 2'の間にありません。
リストに含まれる	フィールドは、 ('値 1','値 2',...) のリストにあります。
リストに含まれない	フィールドは、 ('値 1','値 2',...) のリストにありません。

4. **<?>** をクリックして、適当なエディタをアクティブにし条件値を入力します。条件値ボックスで使用されるエディタは、該当するフィールドに割り当てられるデータの種類によって決まります。
5. (条件値の隣の) 論理演算子をクリックし、**and** または **or** を選択します。
6. 別の新たな条件を追加する場合は、ステップ 1-5 を繰り返します。
7. **データを適用してリフレッシュ** をクリックして、作成したフィルターの結果を確認します。


ヒント : 条件の意味を逆にしたい場合、選択した条件を右クリックし、**否定子の切り替え** を選択します。


データをソートする

Navicat は、データをソートしたり順序を並べ替える機能を提供します。ソートペインをアクティブにするためには、ツールバーの  **ソート** をクリックします。

1. 新しい条件を追加するためには、 をクリックします。
2. (チェックボックスの隣の) フィールド名をクリックし、リストからフィールドを選択します。
3. ソート順をクリックして、**ASC** または **DESC** を選択します。
4. 別の新たな条件を追加する場合は、ステップ 1-3 を繰り返します。
5. **データを適用してリフレッシュ** をクリックして、作成したソートの結果を確認します。

データを投影する

データソースに含めるフィールドまたは除外するフィールドを選択できます。投影ペインをアクティブにするためには、ツールバーの  **投影** をクリックします。

1. フィールドを**含める**か**除外する**かを選択します。
2. 新しい条件を追加するためには、 をクリックします。
3. (チェックボックスの隣の) フィールド名をクリックし、リストからフィールドを選択します。
4. 別の新たな条件を追加する場合は、ステップ 2-3 を繰り返します。
5. **データを適用してリフレッシュ** をクリックして、作成した投影の結果を確認します。


カスタムフィールドの追加

カスタマイズされたフィールドでデータを拡張できます。新しいフィールドは、フィールドタイプの変更、他のフィールドの連結、他の値へのマッピング、または別のフィールド/カスタマイズされた順序に基づく並べ替えによって作成できます。

カスタムフィールドの作成

タイプ変更フィールド


フィールドタイプ (文字列、数値、日付/時刻) は、フィールドの実際のデータタイプに基づいて全てのフィールドに割り当てられます。フィールドが正しく解釈されなかった場合は、フィールドタイプを調整できます。

1. 下部のデータグリッドで、フィールドを選択し、 **新規カスタムフィールド** -> **タイプ変更フィールド** をクリックして開始します。
2. ポップアップウィンドウで、**ターゲットフィールド名**を入力します。
3. **ターゲットフィールドタイプ**を選択します。
4. **ソースフィールド名**を選択します。

5. 必要に応じて**ソースフィールドデータ形式**を設定します。
6. **確認**をクリックします。


連結フィールド

新しいフィールドを追加して、既存の2つのフィールドのデータを連結できます。

1. 下部のデータグリッドで、フィールドを選択し、 **新規カスタムフィールド** -> **連結フィールド**をクリックして開始します。
2. ポップアップウィンドウで、**ターゲットフィールド名**を入力します。
3. **ソースフィールド**ペインでフィールドをダブルクリックして、ボディに追加します。
4. ボディを編集し、必要に応じて**全てのフィールド値が null または空の場合は null に設定するオプション**を有効にします。
5. **確認**をクリックします。


マップフィールド

ソースフィールドの全ての値にマッピングルールを適用した結果が入力される新しいフィールドを作成できます。

1. 下部のデータグリッドで、フィールドを選択し、 **新規カスタムフィールド** -> **マップフィールド**をクリックして開始します。
2. ポップアップウィンドウで、**ターゲットフィールド名**を入力します。
3. **ソースフィールド名**を選択します。
4. **追加**をクリックして、新しいマッピングルールを作成します。
5. 必要に応じて、**ソース値を大文字と小文字を区別して比較オプション**を有効にします。
6. マッピングルールにない値に対するアクションを選択します。
7. **確認**をクリックします。

カスタムソートフィールド


新しいフィールドを作成して、別のフィールドまたはカスタム順序に基づいて値の順序を並べ替えることができます。チャートでこの新しいフィールドを並べ替えると、設定した順序で並べ替えられます。

1. 下部のデータグリッドで、フィールドを選択し、 **新規カスタムフィールド** -> **カスタムソートフィールド**をクリックして開始します。
2. ポップアップウィンドウで、**ターゲットフィールド名**を入力します。
3. **ソースフィールド名**を選択します。

4. [参照フィールド] 対象フィールドのソート順の基準となるフィールドを選択します。
5. [カスタム] **ソートされる値**リストに値を移動して、フィールド値の順序をカスタマイズします。
6. **確認**をクリックします。

計算フィールド

カスタム式を使用して新しいフィールドを作成できます。式ではファンクション、フィールド、演算子を使用できます。

1. 下部のデータグリッドで、フィールドを選択し、 **新規カスタムフィールド** -> **計算フィールド**をクリックして開始します。
2. ポップアップウィンドウで、**ターゲットフィールド名**を入力します。
3. **ボディ**テキストボックスに式を入力します。
4. **確認**をクリックします。

カスタムフィールドの編集

1. 下部のデータグリッドで、カスタマイズされたフィールドを右クリックし、**XXX フィールドを編集**を選択します。
2. ポップアップウィンドウで、フィールドプロパティを変更します。
3. **確認**をクリックします。

カスタムフィールドの削除

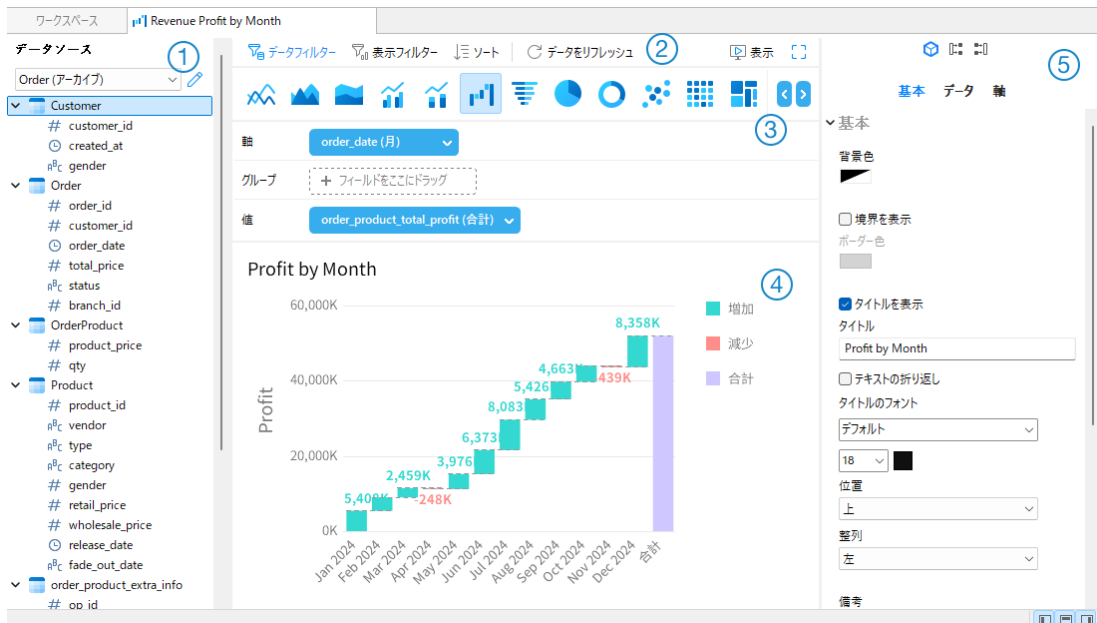
1. 下部のデータグリッドで、カスタマイズされたフィールドを右クリックし、**XXX フィールドを削除**を選択します。

チャート

チャートについて

チャートは、データソース内のデータを視覚的に表現したものです。単一のデータソースにマップし、データ内のいくつかのフィールド間の相関関係を表示できます。コントロールチャートを追加して、チャートをインタラクティブにすることもできます。

注意：チャートの作成を開始する前に、[データソース](#)を追加する必要があります。



① データソースペイン

データソースペインは、データソースを操作するための基本的な方法です。データソースペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示 -> データソースを表示**を選択します。

② チャートツールバー

チャートツールバーには、データの操作に使用できるコントロールが用意されています。

③ メトリックペイン

メトリックペインでは、チャートタイプを選択し、データソースペインから棚にフィールドを追加できます。メトリックペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示 -> メトリックを表示**を選択します。

④ プレビューペイン

プレビューペインには、チャートが表示されます。

⑤ プロパティペイン

プロパティタブには、基本的なレイアウト設定、データ形式の設定などが含まれています。プロパティは、チャートのタイプによって異なります。

使用先タブには、チャートが依存するデータソースが表示されます。

使用元タブには、チャートに依存するダッシュボードが表示されます。

プロパティペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示 -> プロパティを表示**を選択します。

チャートを作成

チャートを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. ワークスペースウィンドウで、**新規チャート**をクリックします。

2. データソースを選択し、チャートの名前を入力します。
3. チャートを編集するためのタブが開きます。
4. 中央のペインで[チャートタイプ](#)を選択します。

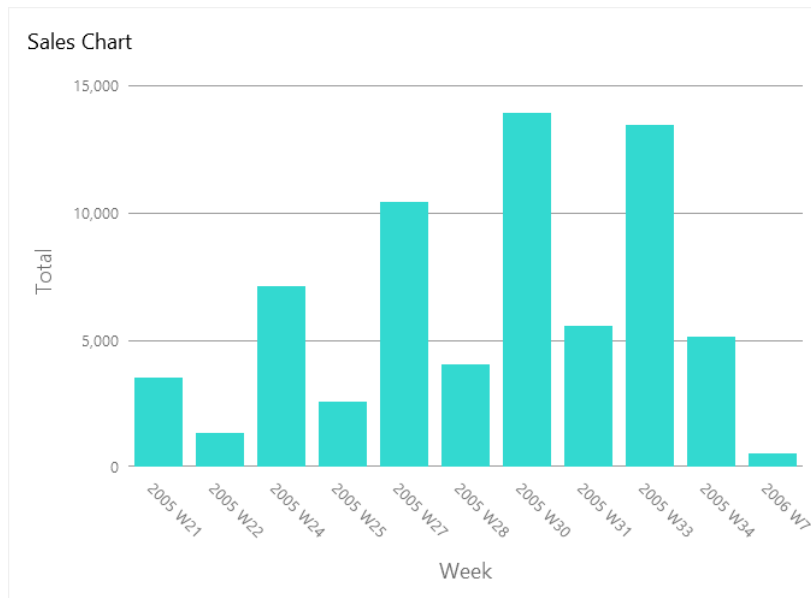


ヒント：使用するチャートのタイプは、通常、データのタイプによって決まります。

5. フィールドをメトリックペインの対応する棚にドラッグして、軸や値などを設定します。
6. 右のペインでプロパティを選択し、チャート用にさらにカスタマイズできます。

ヒント：チャートタイプごとに異なるプロパティがあります。

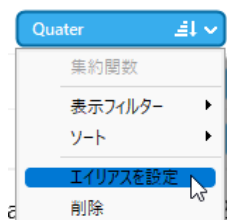
7. チャートがプレビューペインに表示されます。



フィールドエイリアスを設定する

フィールドのエイリアスを作成して、それらのラベルがチャートで異なって表示されるようにすることができます。

1. フィールドボックスの下向き矢印をクリックします。
2. **エイリアスを設定**を選択します。



3. エイリアス名を入力します。

データのフィルタリング/ソート

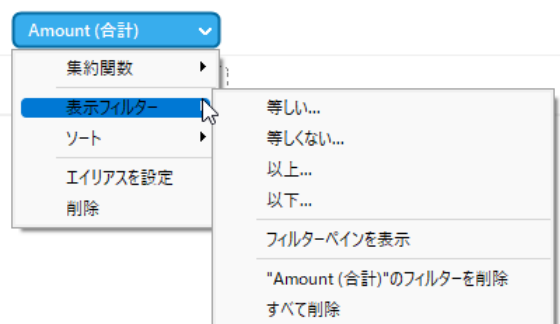
チャートのソースデータのフィルタリング

[データフィルター](#)ペインを使用して、現在のチャートのソースデータをフィルター処理できます。

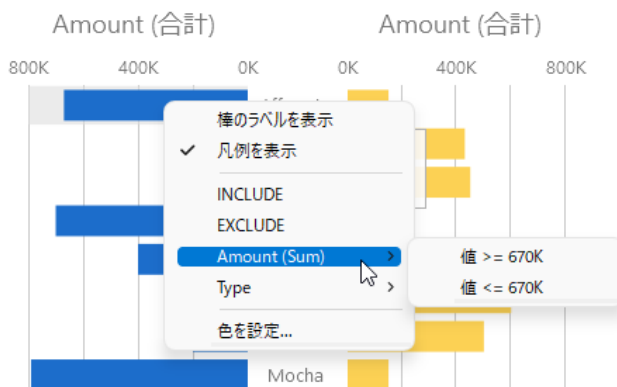
チャートの表示データのフィルタリング

表示データは、次の3つの方法でフィルター処理できます：

- フィールドボックスの下向き矢印をクリックし、**表示フィルター**を選択します。



- [表示フィルター](#)ペインを使用します。
- チャートのシリーズ/データポイントを右クリックします。

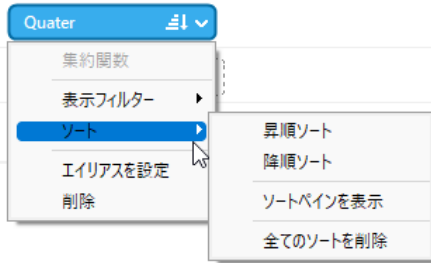


ヒント：フィルターをクリアする場合、表示フィルターペインを使用する必要があります。

データをソートする

次の2つの方法でデータをソートすることができます。

- フィールドボックスの下向き矢印をクリックし、**ソート**を選択します。

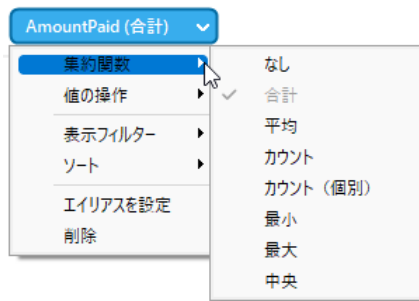


- [ソート](#)ペインを使用します。

集約関数を適用

集約関数を使用すると、データの粒度を要約または変更できます。

1. フィールドボックスの下向き矢印をクリックします。



2. **集約関数**を選択し、集計関数を選択します。

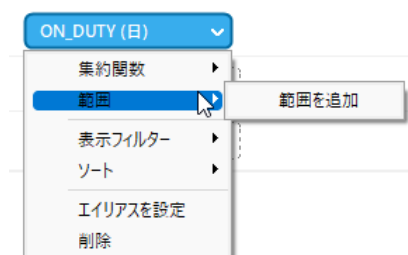
関数	説明
数値	
合計	全ての値の合計を返します。null 値は無視されます。
平均	全ての値の平均を返します。null 値は無視されます。
カウント	アイテムの数を返します。null 値はカウントされません。
カウント(個別)	固有のアイテムの数を返します。null 値はカウントされません。
最小	全てのレコードの最小値を返します。null 値は無視されます。
最大	全てのレコードの最大値を返します。null 値は無視されます。
中央	全てのレコードの中央値を返します。null 値は無視されます。
日付時刻	
カウント	アイテムの数を返します。null 値はカウントされません。
カウント(個別)	固有のアイテムの数を返します。null 値はカウントされません。
年	日付の年を返します (0000~9999)。
四半期	日付の年 (0000~9999) と四半期 (Q1~Q4) を返します。
月	日付の年 (0000~9999) と月 (01~12) を返します。
週	日付の年 (0000~9999) と週 (W01~W52、週の始まりは日曜日) を返します。
日	日付を返します。
時間	日付と時間を返します (00~23)。

分	日付、時間（00～23） および分（00～59）を返します。
秒	日時を返します。
四半期（抽出）	年の四半期を返します（Q1～Q4）。
月（抽出）	日付の月を返します（01～12）。
週（抽出）	年の週を返します（W01～W52、週の始まりは日曜日）。
日（抽出）	日付の日を返します（01～31）。
時間（抽出）	時刻の時間を返します（00～23）。
分（抽出）	時刻の分を返します（00～59）。
秒（抽出）	時刻の秒を返します（00～59）。
テキスト	
最初	最初のレコードの値を返します。
最後	最後のレコードの値を返します。
カウント	アイテムの数を返します。null 値はカウントされません。
カウント(個別)	固有のアイテムの数を返します。null 値はカウントされません。

範囲の追加

データソースで追加の計算を作成する必要なく、データを範囲に集計できます。

1. フィールドボックスの下向き矢印をクリックします。



2. **範囲を追加**を選択します。
3. 範囲設定を編集します。

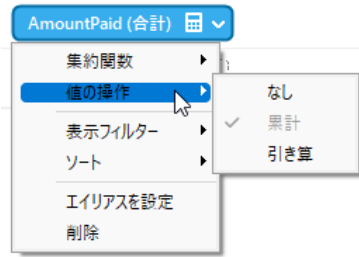
オプション	説明
範囲タイプ - 固定	
Bin サイズ	Binのサイズを入力するか、 計算 をクリックして、Navicat に値を計算させます。
範囲タイプ - カスタム	
停止値	Binの境界を追加します。

4. **確認**をクリックします。

値の設定操作

値が加算または減算されると、現在までの合計を示すチャートを作成できます。

1. フィールドボックスの下向き矢印をクリックします。



2. 値の操作を選択し、操作を選択します。

操作	説明
累計	値を累積的に合計します。
引き算	値をその前の値で減算します。

チャートの表示

画面全体を使用してチャートを表示できます。このモードでは、タイトルバー、ツールバー、タブバー、データソースペイン、メトリックペイン、プロパティペインは非表示になります。表示ビューでチャートを開くためには、 **表示**をクリックします。

表示ビューを終了するためには、ESC キーを押します。ワークスペースウィンドウが前の状態に戻ります。

チャートのソート

表示モードでは、1回のクリックでチャート内のデータを整理できます。データシリーズを値でソートすることができます。 アイコンをクリックするだけで、別の値でソートしたり、ソート順を選択したりできます。

チャートタイプ

チャートタイプについて

Navicat は、さまざまなチャートタイプを提供しているため、データを意味のある方法で表示できます。

利用可能なチャートタイプの完全なリストは次のとおりです。

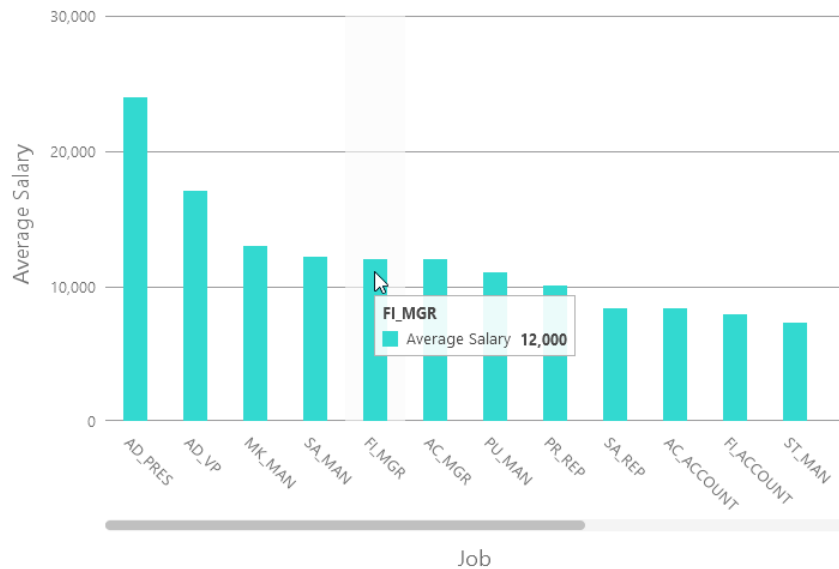
- 縦棒チャート
- 積み上げ縦棒チャート
- 横棒チャート
- 積み上げ横棒チャート
- 折れ線チャート
- 面チャート

- 積み上げ面チャート
- 棒チャートと折れ線チャート
- 積み上げ棒チャートと折れ線チャート
- ウォーターフォールチャート
- トルネードチャート
- 円チャート
- ドーナツチャート
- 散布チャート
- ヒートマップ
- ツリーマップ
- 値
- トレンド
- KPI
- ゲージ
- テーブル
- ピボットテーブル
- コントロール

棒チャート

棒チャートは、特定のカテゴリ内の値を比較することにより、データの傾向の高いレベルの概要を提供します。

- 縦棒チャート
- 積み上げ縦棒チャート
- 横棒チャート
- 積み上げ横棒チャート



チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
棒のラベルを表示	選択した系列のデータラベルを表示します。
棒のラベルに含まれるもの	ラベルにデータ値またはパーセンテージを表示します。
棒ラベルの位置	バーラベルの位置を設定します。
100%積み上げを使用	100%積み上げ棒グラフを使用して、階層データの値を表示します。(それぞれの棒の高さは100%であり、色付きの棒セグメントは棒全体に対するコンポーネントの相対的な割合を表します。)
棒ラベルのフォント	バーラベルのフォントスタイルを設定します。
カスタムデータ値の色を使	データ値のラベルの色をカスタマイズします。

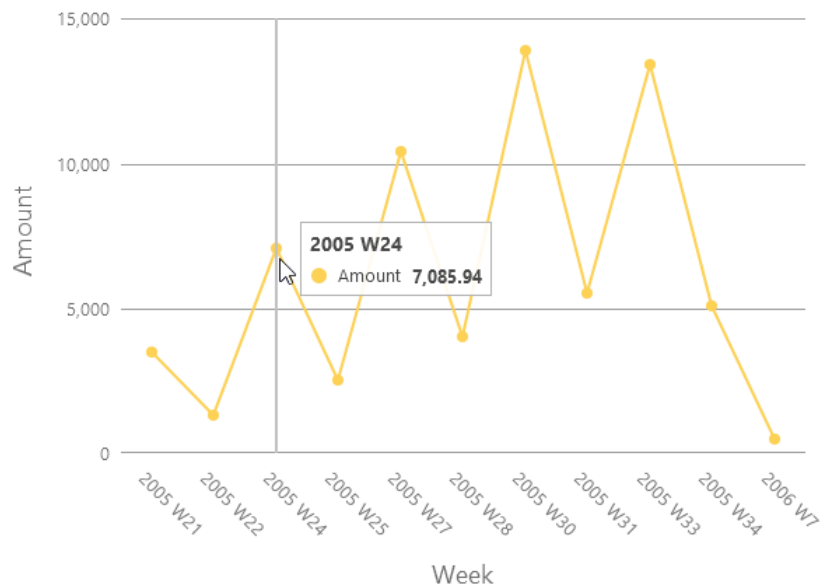
用する	
正のデータ値の色	正の値のラベルの色を設定します。
負のデータ値の色	負の値のラベルの色を設定します。
表示 トップ #	トップ#件のデータのみが表示されます。
スタイル	チャートに離散または連続のデータ系列をプロットします。
密度	データ系列の密度を選択します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
全てのデータの色	各シリーズの色を設定できます。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
X 軸	
X 軸のタイトルを表示	X 軸のタイトルを表示します。
X 軸のタイトル	X 軸のタイトルを指定します。
フォント	X 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後にX軸のタイトルを表示	X 軸の最後にタイトルを表示します。
X 軸のラベルを表示	X 軸のラベルを表示します。
フォント/太字	X 軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
X 軸ラベルの回転	X 軸のラベルを回転します。
X 軸のラベル間隔	X 軸のラベルの間隔を変更します。
X 軸を表示	X 軸の線を表示します。
X 軸の色	X 軸の線の色を設定します。
Y 軸	
Y 軸のタイトルを表示	Y 軸のタイトルを表示します。
Y 軸のタイトル	Y 軸のタイトルを指定します。
フォント	Y 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後にY軸のタイトルを表示	Y 軸の最後にタイトルを表示します。
Y 軸のラベルを表示	Y 軸のラベルを表示します。
フォント/太字	Y 軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
Y 軸を表示	Y 軸の線を表示します。

Y軸の色	Y軸の線の色を設定します。
グリッド線を表示	Y軸のグリッド線を表示します。
カスタム範囲を使用	グリッド線の範囲を設定します。 開始 と 終わり の値を入力します。この範囲を超えて描画されるグラフは切り取られます。
カスタム間隔を使用	Y軸の間隔を変更します。
目盛りの間隔	目盛りの間隔を軸単位で設定します。
アシスタントライン	
	チャートに補助線を追加して、視覚的なデータ傾向、平均、正規分布などを表示します。
	選択された補助線を削除します。
	選択された補助線の名前を変更します。
値	補助線のデータシリーズを選択します。
グループ値	補助線のグループ値を選択します。
タイプ	希望の補助線の種類を選択します。
R ² 値を表示	チャートにR ² 値を表示します。
将来予測／過去予測	予測に含める期間の数を指定します。
他の線と揃える	補助線を他の線と揃えます。
期間	ポイント値の平均化に使用するデータポイントの数を指定します。
スムーズ	線の角度を滑らかにします。
カスタムカラーを使用	線の色をカスタマイズします。
ライン色	線の色を設定します。
Cap スタイル	線のキャップスタイルを選択します。
Dash スタイル	線のダッシュスタイルを選択します。
Join スタイル	線の結合スタイルを選択します。
可視	線を表示するためには、このボックスにチェックを付けます。

折れ線チャート／面チャート

折れ線チャートまたは面チャートは、直線セグメントでつながっている一連のデータポイントとして情報を表示します。

- 折れ線チャート
- 面チャート
- 積み上げ面チャート



チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
滑らかな線を使用	データポイントを通る滑らかな線をプロットします。
線のラベルを表示／エリアのラベルを表示	選択した系列のデータラベルを表示します。
線のラベルに含まれるもの	ラベルにデータ値またはパーセンテージを表示します。
線のラベルパターン	チャートに表示される値を選択します。
マーカーを表示	折れ線／面のマーカーポイントを表示します。
100%積み上げを使用	100%積み上げ面を使用して、階層データの値を表示します。（面の高さは100%であり、色付きの面セグメントは面全体に対するコンポーネントの相対的な割合を

	表します。)
カスタムデータ値の色を使用する	データ値のラベルの色をカスタマイズします。
正のデータ値の色	正の値のラベルの色を設定します。
負のデータ値の色	負の値のラベルの色を設定します。
表示 トップ #	トップ#件のデータのみが表示されます。
密度	データ系列の密度を選択します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3 桁区切り	数値データの 3 桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
X 軸	
X 軸のタイトルを表示	X 軸のタイトルを表示します。
X 軸のタイトル	X 軸のタイトルを指定します。
フォント	X 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後に X 軸のタイトルを表示	X 軸の最後にタイトルを表示します。
X 軸のラベルを表示	X 軸のラベルを表示します。
フォント/太字	X 軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
X 軸ラベルの回転	X 軸のラベルを回転します。
X 軸のラベル間隔	X 軸のラベルの間隔を変更します。
X 軸を表示	X 軸の線を表示します。
X 軸の色	X 軸の線の色を設定します。
Y 軸	
Y 軸のタイトルを表示	Y 軸のタイトルを表示します。
Y 軸のタイトル	Y 軸のタイトルを指定します。
フォント	Y 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後に Y 軸のタイトルを表示	Y 軸の最後にタイトルを表示します。
Y 軸のラベルを表示	Y 軸のラベルを表示します。
フォント/太字	Y 軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
Y 軸を表示	Y 軸の線を表示します。

Y軸の色	Y軸の線の色を設定します。
グリッド線を表示	Y軸のグリッド線を表示します。
カスタム範囲を使用	グリッド線の範囲を設定します。 開始 と 終わり の値を入力します。この範囲を超えて描画されるグラフは切り取られます。
カスタム間隔を使用	Y軸の間隔を変更します。
目盛りの間隔	目盛りの間隔を軸単位で設定します。
アシスタントライン	
	チャートに補助線を追加して、視覚的なデータ傾向、平均、正規分布などを表示します。
	選択された補助線を削除します。
	選択された補助線の名前を変更します。
値	補助線のデータシリーズを選択します。
グループ値	補助線のグループ値を選択します。
タイプ	希望の補助線の種類を選択します。
R ² 値を表示	チャートにR ² 値を表示します。
将来予測／過去予測	予測に含める期間の数を指定します。
他の線と揃える	補助線を他の線と揃えます。
期間	ポイント値の平均化に使用するデータポイントの数を指定します。
スムーズ	線の角度を滑らかにします。
カスタムカラーを使用	線の色をカスタマイズします。
ライン色	線の色を設定します。
Cap スタイル	線のキャップスタイルを選択します。
Dash スタイル	線のダッシュスタイルを選択します。
Join スタイル	線の結合スタイルを選択します。
可視	線を表示するためには、このボックスにチェックを付けます。

棒チャートと折れ線チャート

同じビジュアルに棒チャートと折れ線チャートを混在させることは、シリーズの関係を維持しながらシリーズ間の違いを強調するのに適した方法です。

- 棒チャートと折れ線チャート
- 積み上げ棒チャートと折れ線チャート






チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

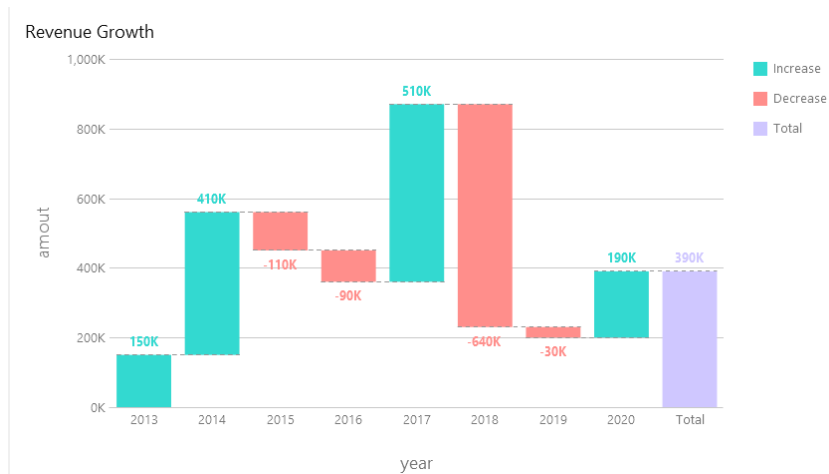
オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
滑らかな線を使用	データポイントを通る滑らかな線をプロットします。
ラベルを表示	選択した系列のデータラベルを表示します。
棒のラベルに含まれるもの	ラベルにデータ値またはパーセンテージを表示します。
棒ラベルの位置	バーラベルの位置を設定します。
棒ラベルのフォント	バーラベルのフォントスタイルを設定します。
100%積み上げ棒を使用	100%積み上げ棒グラフを使用して、階層データの値を表示します。(それぞれの棒の高さは100%であり、色付きの棒セグメントは棒全体に対するコンポーネントの

	相対的な割合を表します。)
線のラベルに含まれるもの	ラベルにデータ値またはパーセンテージを表示します。
線のラベルパターン	チャートに表示される値を選択します。
線のマーカーを表示	線のマーカーポイントを表示します。
カスタムデータ値の色を使用する	データ値のラベルの色をカスタマイズします。
正のデータ値の色	正の値のラベルの色を設定します。
負のデータ値の色	負の値のラベルの色を設定します。
表示 トップ #	トップ#件のデータのみが表示されます。
スタイル	チャートに離散または連続のデータ系列をプロットします。
密度	データ系列の密度を選択します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
全ての棒データの色	各シリーズの色を設定できます。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3 桁区切り	数値データの 3 桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
X 軸	
X 軸のタイトルを表示	X 軸のタイトルを表示します。
X 軸のタイトル	X 軸のタイトルを指定します。
フォント	X 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後に X 軸のタイトルを表示	X 軸の最後にタイトルを表示します。
X 軸のラベルを表示	X 軸のラベルを表示します。
フォント/太字	X 軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
X 軸ラベルの回転	X 軸のラベルを回転します。
X 軸のラベル間隔	X 軸のラベルの間隔を変更します。
X 軸を表示	X 軸の線を表示します。
X 軸の色	X 軸の線の色を設定します。
Y 軸/セカンダリ Y 軸	
Y 軸のタイトルを表示/セカンダリ Y 軸のタイトルを表示	Y 軸のタイトルを表示します。
Y 軸のタイトル/セカンダリ	Y 軸のタイトルを指定します。

Y軸のタイトル	
フォント	Y軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後にY軸のタイトルを表示/軸の最後にセカンダリY軸のタイトルを表示	Y軸の最後にタイトルを表示します。
Y軸のラベルを表示/セカンダリY軸のラベルを表示	Y軸のラベルを表示します。
フォント/太字	Y軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
Y軸を表示/セカンダリY軸を表示	Y軸の線を表示します。
Y軸の色/セカンダリY軸の色	Y軸の線の色を設定します。
グリッド線を表示	Y軸のグリッド線を表示します。
カスタム範囲を使用	グリッド線の範囲を設定します。 開始 と 終わり わりの値を入力します。この範囲を超えて描画されるグラフは切り取られます。
カスタム間隔を使用	Y軸の間隔を変更します。
目盛りの間隔	目盛りの間隔を軸単位で設定します。
アシスタントライン	
	チャートに補助線を追加して、視覚的なデータ傾向、平均、正規分布などを表示します。
	選択された補助線を削除します。
	選択された補助線の名前を変更します。
値	補助線のデータシリーズを選択します。
グループ値	補助線のグループ値を選択します。
タイプ	希望の補助線の種類を選択します。
R ² 値を表示	チャートにR ² 値を表示します。
将来予測/過去予測	予測に含める期間の数を指定します。
他の線と揃える	補助線を他の線と揃えます。
期間	ポイント値の平均化に使用するデータポイントの数を指定します。
スムーズ	線の角度を滑らかにします。
カスタムカラーを使用	線の色をカスタマイズします。
ライン色	線の色を設定します。
Cap スタイル	線のキャップスタイルを選択します。
Dash スタイル	線のダッシュスタイルを選択します。
Join スタイル	線の結合スタイルを選択します。
可視	線を表示するためには、このボックスにチェックを付けます。

ウォーターフォールチャート

ウォーターフォールチャートは、特殊なタイプの棒チャートです。一連の変化（増加または減少）によって開始値がどのように影響を受けるかを理解するのに役立ちます。



チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

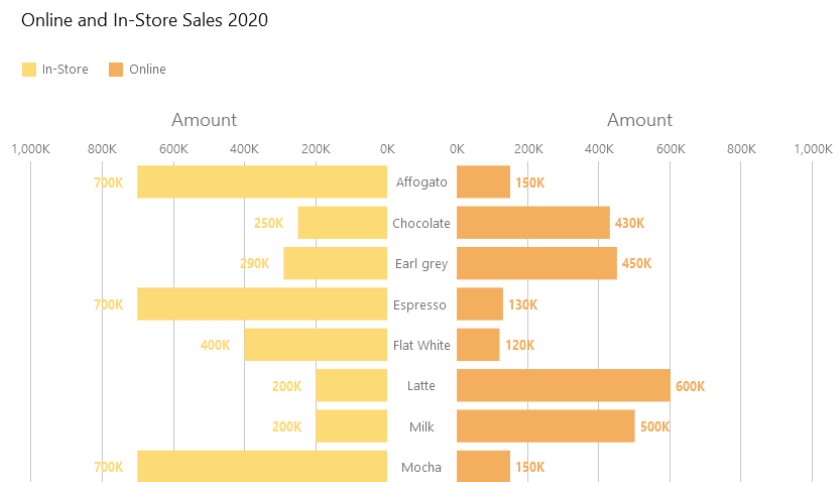
オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
データの値を表示	データシリーズの値を表示します。
棒ラベルの位置	バーラベルの位置を設定します。
棒ラベルのフォント	バーラベルのフォントスタイルを設定します。
合計のバーの色	合計バーの色を設定します。
小計のバーの色	小計バーの色を設定します。
合計のバーのタイトル	合計バーのタイトルを指定します。
増加と減少の色を使用する	増加の色と減少の色でバーに色を付けます。
増加の色	値が増加した時のバーの色を設定します。
減少の色	値が減少した時のバーの色を設定します。
カスタムデータ値の色を使	データ値のラベルの色をカスタマイズします。

用する	
正のデータ値の色	正の値のラベルの色を設定します。
負のデータ値の色	負の値のラベルの色を設定します。
表示 トップ #	トップ#件のデータのみが表示されます。
スタイル	チャートに離散または連続のデータ系列をプロットします。
密度	データ系列の密度を選択します。
グループ値のソート	グループ値を並べ替えます (減少から増加へ、または、増加から減少へ)。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
全てのデータの色	各シリーズの色を設定できます。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3 桁区切り	数値データの 3 桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
X 軸	
X 軸のタイトルを表示	X 軸のタイトルを表示します。
X 軸のタイトル	X 軸のタイトルを指定します。
フォント	X 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後に X 軸のタイトルを表示	X 軸の最後にタイトルを表示します。
X 軸のラベルを表示	X 軸のラベルを表示します。
フォント/太字	X 軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
X 軸ラベルの回転	X 軸のラベルを回転します。
X 軸のラベル間隔	X 軸のラベルの間隔を変更します。
X 軸を表示	X 軸の線を表示します。
X 軸の色	X 軸の線の色を設定します。
Y 軸/セカンダリ Y 軸	
Y 軸のタイトルを表示/セカンダリ Y 軸のタイトルを表示	Y 軸のタイトルを表示します。
Y 軸のタイトル/セカンダリ Y 軸のタイトル	Y 軸のタイトルを指定します。
フォント	Y 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後に Y 軸のタイトルを表示	Y 軸の最後にタイトルを表示します。

Y軸のラベルを表示	Y軸のラベルを表示します。
フォント/太字	Y軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
Y軸を表示	Y軸の線を表示します。
Y軸の色	Y軸の線の色を設定します。
グリッド線を表示	Y軸のグリッド線を表示します。
カスタム範囲を使用	グリッド線の範囲を設定します。 開始と終わり わりの値を入力します。この範囲を超えて描画されるグラフは切り取られます。
カスタム間隔を使用	Y軸の間隔を変更します。
目盛りの間隔	目盛りの間隔を軸単位で設定します。

トルネードチャート

トルネードチャートは、特殊なタイプの棒チャートです。異なるタイプのデータまたはカテゴリ間でデータを比較する場合に便利です。



チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	

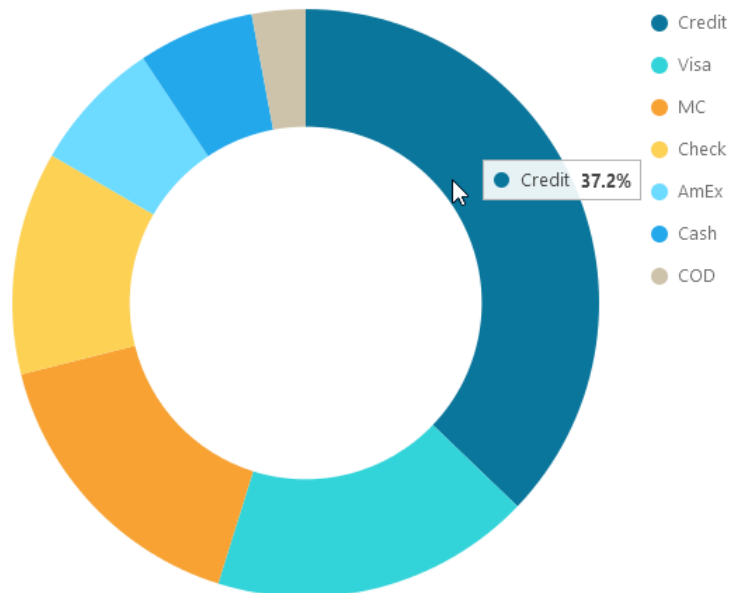
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
棒のラベルを表示	選択した系列のデータラベルを表示します。
棒のラベルに含まれるもの	ラベルにデータ値またはパーセンテージを表示します。
棒ラベルの位置	バーラベルの位置を設定します。
棒ラベルのフォント	バーラベルのフォント スタイルを設定します。
スタックを使用する	積み上げ棒を使用して値を表示します。
100%積み上げ棒を使用	100%積み上げ棒グラフを使用して、階層データの値を表示します。(それぞれの棒の高さは100%であり、色付きの棒セグメントは棒全体に対するコンポーネントの相対的な割合を表します。)
積み上げ棒スタイル	積み上げセクションの表示方法を決定します。
負のデータバーの背景色	負のデータバーの色を設定します。
最小値	バーの最小値を設定します。
データのラベルの色	棒のデータラベルの色を設定します。
カスタムデータ値の色を使用する	データ値のラベルの色をカスタマイズします。
正のデータ値の色	正の値のラベルの色を設定します。
負のデータ値の色	負の値のラベルの色を設定します。
表示 トップ #	トップ#件のデータのみが表示されます。
スタイル	チャートに離散バーまたは連続バーをプロットします。
密度	バーの密度を選択します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
全てのデータの色	各シリーズの色を設定できます。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
Y 軸	
軸の位置	Y 軸の位置を設定します。
Y 軸のタイトルを表示	Y 軸のタイトルを表示します。

Y軸のタイトル	Y軸のタイトルを指定します。
フォント	Y軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
不足している値を埋める	連続軸を使用します。データシリーズはそれらのドメイン値に応じて配置されます。
Y軸ラベルの間隔	Y軸のラベルの間隔を変更します。
Y軸のラベルを表示	Y軸のラベルを表示します。
Y軸の色	Y軸の線の色を設定します。
X軸	
X軸のタイトルを表示	X軸のタイトルを表示します。
左X軸のタイトル	左X軸のタイトルを指定します。
右X軸のタイトル	右X軸のタイトルを指定します。
フォント	X軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後にX軸のタイトルを表示	X軸の最後にタイトルを表示します。
X軸のラベルを表示	X軸のラベルを表示します。
X軸を表示	X軸の線を表示します。
X軸の色	X軸の線の色を設定します。
グリッド線を表示	X軸のグリッド線を表示します。
カスタム範囲を使用	グリッド線の範囲を設定します。 開始と終わり わりの値を入力します。この範囲を超えて描画されるグラフは切り取られます。
カスタム間隔を使用	X軸の間隔を変更します。
目盛りの間隔	目盛りの間隔を軸単位で設定します。

円チャート／ドーナツチャート

円チャートまたはドーナツチャートでは、円の一連のセグメントにデータが表示され、セグメントが大きいほどデータの値が大きいことを表します。

- 円チャート
- ドーナツチャート



チャートのプロパティ

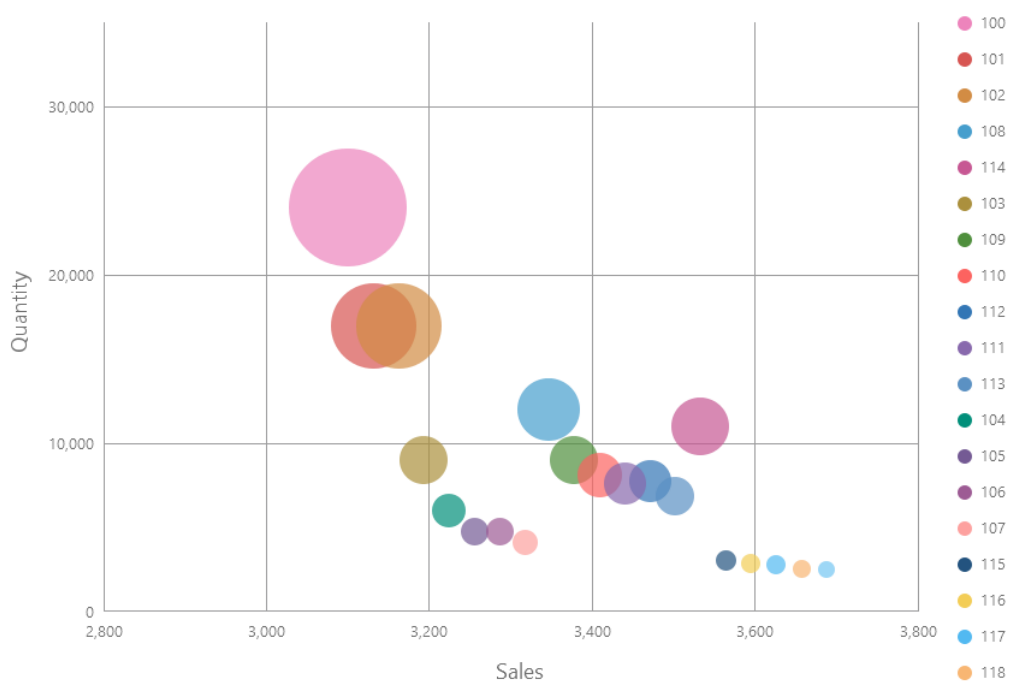
チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
データのラベルを表示	データシリーズを明確にするデータラベルを表示します。
データの値を表示	データシリーズの値を表示します。
データの割合 (%) を表示	スライスのデータの割合 (%) を表示します。
スライス内にラベルを表示	スライス内にスライスのラベルを適切な場所に表示します。小さいスライスのラベルは非表示になります。
他のスライスの上にラベルを表示	全てのラベルが表示されます。小さいスライスのラベルは、他のスライスと重なります。
スライスセパレータを表示	円/ドーナツチャート間に白い境界線を追加します。

データのラベルの色	データラベルの色を設定します。
表示 トップ #	トップ#件のデータのみが表示されます。
スライス	小さなスライスを（その他と呼ばれる）1つのスライスにグループ化します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
グループ	
グループタイトルを表示	グループのタイトルを表示します。
グループタイトル	グループのタイトルを指定します。
グループタイトルのフォント	グループタイトルのフォントスタイルを設定します。

散布チャート




散布チャートは、X軸とY軸に沿って配置された個々のデータポイントでデータをプロットします。



チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

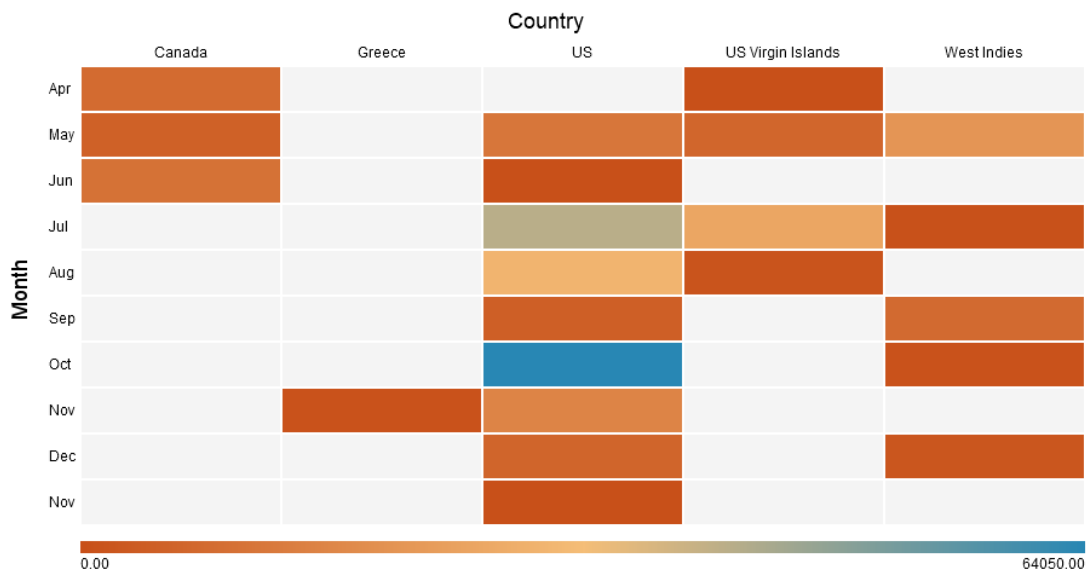
オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
サイズ値を表示	バブルのサイズを表示します。
密度	データ系列の密度を選択します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
X 軸	
X 軸のタイトルを表示	X 軸のタイトルを表示します。
X 軸のタイトル	X 軸のタイトルを指定します。
フォント	X 軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後にX軸のタイトルを表示	X 軸の最後にタイトルを表示します。

X軸のラベルを表示	X軸のラベルを表示します。
フォント/太字	X軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
X軸ラベルの回転	X軸のラベルを回転します。
X軸のラベル間隔	X軸のラベルの間隔を変更します。
X軸を表示	X軸の線を表示します。
X軸の色	X軸の線の色を設定します。
グリッド線を表示	X軸のグリッド線を表示します。
カスタム範囲を使用	グリッド線の範囲を設定します。 開始と終わり わりの値を入力します。この範囲を超えて描画されるグラフは切り取られます。
カスタム間隔を使用	X軸の間隔を変更します。
目盛りの間隔	目盛りの間隔を軸単位で設定します。
Y軸	
Y軸のタイトルを表示	Y軸のタイトルを表示します。
Y軸のタイトル	Y軸のタイトルを指定します。
フォント	Y軸のタイトルのフォントスタイルを設定します。
軸の最後にY軸のタイトルを表示	Y軸の最後にタイトルを表示します。
Y軸のラベルを表示	Y軸のラベルを表示します。
フォント/太字	Y軸ラベルのフォントスタイルを設定します。
Y軸を表示	Y軸の線を表示します。
Y軸の色	Y軸の線の色を設定します。
グリッド線を表示	Y軸のグリッド線を表示します。
カスタム範囲を使用	グリッド線の範囲を設定します。 開始と終わり わりの値を入力します。この範囲を超えて描画されるグラフは切り取られます。
カスタム間隔を使用	Y軸の間隔を変更します。
目盛りの間隔	目盛りの間隔を軸単位で設定します。
アシスタントライン	
	チャートに補助線を追加して、視覚的なデータ傾向、平均、正規分布などを表示します。
	選択された補助線を削除します。
	選択された補助線の名前を変更します。
値	補助線のデータシリーズを選択します。
グループ値	補助線のグループ値を選択します。
タイプ	希望の補助線の種類を選択します。
R ² 値を表示	チャートにR ² 値を表示します。
将来予測/過去予測	予測に含める期間の数を指定します。
他の線と揃える	補助線を他の線と揃えます。
期間	ポイント値の平均化に使用するデータポイントの数を指定します。
スムーズ	線の角度を滑らかにします。
カスタムカラーを使用	線の色をカスタマイズします。
ライン色	線の色を設定します。

Cap スタイル	線のキャップスタイルを選択します。
Dash スタイル	線のダッシュスタイルを選択します。
Join スタイル	線の結合スタイルを選択します。
可視	線を表示するためには、このボックスにチェックを付けます。

ヒートマップ

ヒートマップは、表形式で色の範囲としてデータを表します。色が濃いほど、特定のデータポイントの集計値が大きいことを表します。



チャートのプロパティ

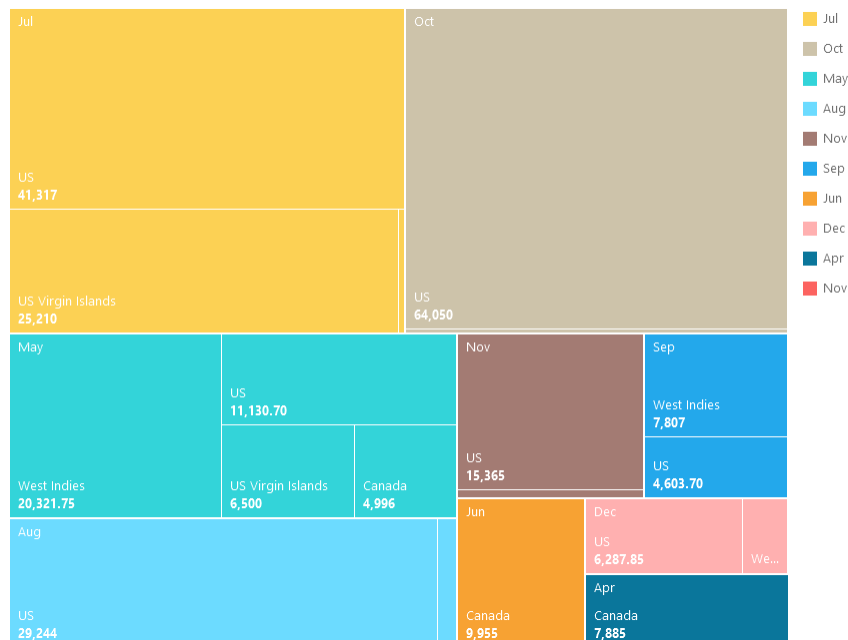
チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。

データ	
データの値を表示	データシリーズの値を表示します。
データの割合 (%) を表示	データシリーズのパーセンテージを表示します。
フォント	データラベルのフォントスタイルを設定します。
発散	発散カラースケールを使用します。
カスタムの最小/最大値を使用	最小値、中央値、最大値の色をカスタマイズします。Navicat は、これらの値の色に基づいてセルの色を計算します。
最小値の色	カラーマップの最小値の色を設定します。
中央値の色	カラーマップの中央にある値の色を設定します。
最大値の色	カラーマップの最大値の色を設定します。
最小値	最小値を指定します。
最大値	最大値を指定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3 桁区切り	数値データの 3 桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
列	
列タイトルを表示	列のタイトルを表示します。
列タイトル	列のタイトルを指定します。
列タイトルのフォント	列のタイトルのフォントスタイルを設定します。
列のラベルを表示	列のラベルを表示します。
列のラベルの色	列のラベルの色を設定します。
行	
行タイトルを表示	行のタイトルを表示します。
行タイトル	行のタイトルを指定します。
行タイトルのフォント	行のタイトルのフォントスタイルを設定します。
行のラベルを表示	行のラベルを表示します。
行のラベルの色	行のラベルの色を設定します。

ツリーマップ

ツリーマップは、階層構造を視覚化しながら、面サイズを通して各カテゴリの数量を表示するという別の方法です。



チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
凡例	
凡例を表示	凡例コンテナを表示します。
位置	凡例の位置を設定します。
配置	凡例の垂直方向または水平方向の配置を設定します。
ラベルの色	凡例ラベルの色を設定します。
データ	
データのポイント名を表示	データポイントの名前を表示します。
データの値を表示	データポイントの値を表示します。
データの割合 (%) を表示	データポイントのデータの割合 (%) を表示します。
データのラベルの色	データラベルの色を設定します。
タイル	小さなタイルを 1 つのタイル (その他と呼ばれる) にグループ化します。
色	データポイントのカラーパレットを設定します。
データ形式 - 数値	

プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。

値

値には、データフィールドの1つの集計値が表示されます。例えば、合計。

Total

\$259,619.25

チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
データ	
データのラベルのフォント	データラベルのフォントスタイルを設定します。
マイナスのフォントの色	負の値の色を設定します。
配置	データのラベルの水平方向の配置を設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。

仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。

トレンド

トレンドには、現在の値が前の値と比較して上昇または下降を示していることと、その変化率 (%) を示します。

514.18 ▼
2,523.01 -79.6%

チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

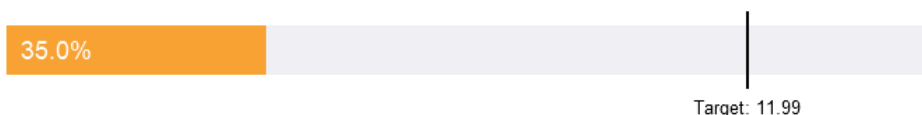
オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
データ	
前の値を表示	前の値を表示します。
差を表示	現在の値と前の値の値/割合 (%) の差を表示します。
インジケータを表示	上昇または下降のインジケータを表示します。
メインのラベルのフォント	メインラベルのフォントスタイルを設定します。
前の値の色	前の値の色を設定します。
ターゲット達成時の色	値が上昇傾向の時のインジケータと割合 (%) の色を設定します。
ターゲットに達していない時の色	値が下降傾向の時のインジケータと割合 (%) の色を設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。

単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。

KPI

KPIは、キー値とそのターゲット値の比較をプログレスバーを使用して表示します。

4.20



チャートのプロパティ

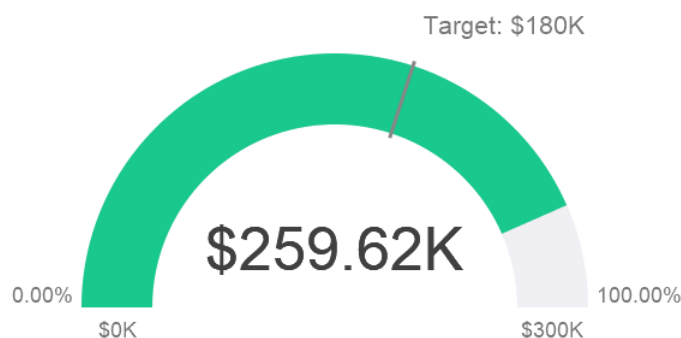
チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
データ	
表示されるメインのラベル	メインのラベルに 実際の値 または 比較の割合 (%) を表示します。
メインのラベルのフォント	メインラベルのフォントスタイルを設定します。
インジケータの太さ	バーのサブラベルのフォントサイズを設定します。
サブラベルの色	バーのサブラベルの色を設定します。
ターゲットの説明	ターゲットラベルのキャプションを指定します。
カスタムターゲット値を使用	目標値を設定します。
ターゲットのラベルの色	ターゲットラベルの色を設定します。

ターゲット達成時の色	値がターゲットに達した時のバーの色を設定します。
ターゲットに達していない時の色	値がターゲットに達していない時のバーの色を設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。

ゲージ

ゲージはメータータイプのチャートです。円弧があり、目標値（ゴール）への進捗状況を測定する単一の値が表示されます。



チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
データ	
ポイントを表示	針を表示します。

パイプの幅の割合	スケールがゲージ領域を占めるパーセンテージを設定します。
背景色	針が非表示の時のスケールの背景色を設定します。
ターゲットカラー	目標ラインの色を設定します。
ポインタの色	針の色を設定します。
値の表示	実際のデータまたは値の比較パーセンテージを表示します。
値のフォント	値のフォントスタイルを設定します。
ターゲットの表示	実際のデータまたは目標値の比較パーセントを表示します。
ターゲットの説明	対象ラベルのキャプションを指定します。
カスタムターゲット値を使用	目標値を設定します。
ターゲットのフォント	目標値のフォントスタイルを設定します。
最小／最大の表示	実際のデータまたは最小値と最大値の比較パーセンテージを表示します。
カスタム最小値を使用	スケールが開始する値を設定します。
カスタム最大値を使用	スケールが終了する値を設定します。
最小／最大のフォント	最小値と最大値のフォントスタイルを設定します。
パーティションラベルの表示	実際のデータまたはパーティションラベルの比較パーセンテージを表示します。
パーティションラベルのフォント	パーティションラベルのフォントスタイルを設定します。
パーティション（最大 8）	スケールをパーティションの数に分割します。
パーティションのスタイル	スケールを均等に分割するか、各パーティションの開始パーセンテージをカスタマイズします。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3 桁区切り	数値データの 3 桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。

テーブル

テーブルはデータを表形式で表示し、各列の最後に合計を計算します。

Job Title	No. of Employees
AC_ACCOUNT	31
AC_MGR	31
AD_ASST	31
AD_PRES	31
AD_VP	62
FI_ACCOUNT	155
FI_MGR	31
HR_REP	31
IT_PROG	155
MK_MAN	31
MK_REP	31
PR_REP	31
PU_CLERK	155
PU_MAN	31
SA_MAN	155
SA_REP	930
SH_CLERK	620
ST_CLERK	620
ST_MAN	155
	3317.00

チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
データ	
フォント	フィールド名とデータのフォントスタイルを設定します。
代替行の色を表示	代替行に色を適用します。
垂直グリッドラインを表示	垂直方向のグリッド線を表示します。
水平グリッドラインを表示	水平方向のグリッド線を表示します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。

負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
データバー	
スタイル	データバーを使用してセルの書式を設定します。
バーのみのアイテムを表示	数値なしで、セル内のデータバーのみを表示します。
カスタム最小値/最大値	データバーの最小値と最大値をカスタマイズします。
最小値	データバーの最小値を指定します。
最大値	データバーの最大値を指定します。
プラスのバーの色	データバーの色を正の値で設定します。
マイナスのバーの色	負の値を持つデータバーの色を設定します。
X軸の色	正のバーと負のバーを分ける軸の色を設定します。
合計	
合計を表示	テーブルの最後の行に合計を表示します。
合計の色	合計値の色を設定します。

ピボットテーブル

ピボットテーブルは、2つのディメンションの交点のメジャー値を示し、表形式でデータを表示します。

Monthly State Sales Report

State	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Total
BC	\$7,885		\$9,955					17840.00
CA						\$971.70		7259.55
Corfu								766.80
FL		\$2,814.70	\$0	\$32,793	\$10,712			46319.70
GA			\$0		\$18,532			18532.00
HI		\$3,115		\$8,524			\$64,050	91054.00
Jamaica		20,321.75		\$343.80		\$7,807	\$787.80	31070.20
OR		\$5,201	\$0			\$3,632		8833.00
Ontario		\$4,996						4996.00
St. Croix	\$0	\$6,500		\$25,210	\$1,238			32948.00
Total	7885.00	42948.45	9955.00	66870.80	30482.00	12410.70	64837.80	259619.25

チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。

位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
データ	
フォント	フィールド名とデータのフォントスタイルを設定します。
代替行の色を表示	代替行に色を適用します。
垂直グリッドラインを表示	垂直方向のグリッド線を表示します。
水平グリッドラインを表示	水平方向のグリッド線を表示します。
色	データシリーズの色パレットを設定します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	
日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。
データバー	
スタイル	データバーを使用してセルの書式を設定します。
バーのみのアイテムを表示	数値なしで、セル内のデータバーのみを表示します。
カスタム最小値/最大値	データバーの最小値と最大値をカスタマイズします。
最小値	データバーの最小値を指定します。
最大値	データバーの最大値を指定します。
プラスのバーの色	データバーの色を正の値で設定します。
マイナスのバーの色	負の値を持つデータバーの色を設定します。
X軸の色	正のバーと負のバーを分ける軸の色を設定します。
合計	
行合計を表示	テーブルの最後の行に合計を表示します。 行の合計の名前を入力し、値の色と背景色を設定します。
列合計を表示	テーブルの最後の列に合計を表示します。 列の合計の名前を入力し、値の色と背景色を設定します。
行の小計を表示	グループの最後の行に合計を表示します。 行の小計の名前を入力し、値の色と背景色を設定します。
列の小計を表示	グループの最後の列に合計を表示します。 列の小計の名前を入力し、値の色と背景色を設定します。

コントロール

コントロールを使用して、プレゼンテーション中にダッシュボード内の全てのチャートのデータシリーズにフィルタをかけることができます。

Month

- April
- May
- June
- July
- August
- September
- October
- November
- December
- November

チャートのプロパティ

チャートタイプを選択したら、そのプロパティを変更することによりチャートをカスタマイズすることができます。

オプション	説明
基本	
背景色	チャート領域の背景色を設定します。
境界を表示	チャートの外枠を表示します。
ボーダー色	チャートの外枠の色を設定します。
タイトルを表示	チャートのメインタイトルを表示します。
タイトル	チャートのタイトルを指定します。
タイトルのフォント	タイトルのフォントスタイルを設定します。
位置	タイトルの位置を設定します。
配置	タイトルの縦または横の配置を設定します。
備考	チャートの備考を入力します。
データ	
データのラベルの色	データラベルの色を設定します。
スタイル	データをリスト、範囲、またはコンボボックスとして表示します。
データ形式 - 数値	
プレフィックス	チャートの全ての数値データにプレフィックス文字を追加します。
単位	数値データを短くする単位を選択します。
サフィックス	カスタマイズされた単位にラベルを付けるためのサフィックスを指定します。
仕切り	カスタマイズされた単位の区切りを指定します。
3桁区切り	数値データの3桁区切りを選択します。
小数点	数値データの小数点を選択します。
小数部分の桁数	数値データの小数部分の桁数を指定します。
負数	表示される負の数の形式を選択します。
データ形式 - 日付時刻	

日付/時刻	データの日付と時刻の形式を選択します。
カスタム	日付と時刻の形式 をカスタマイズします。

DateTime 形式

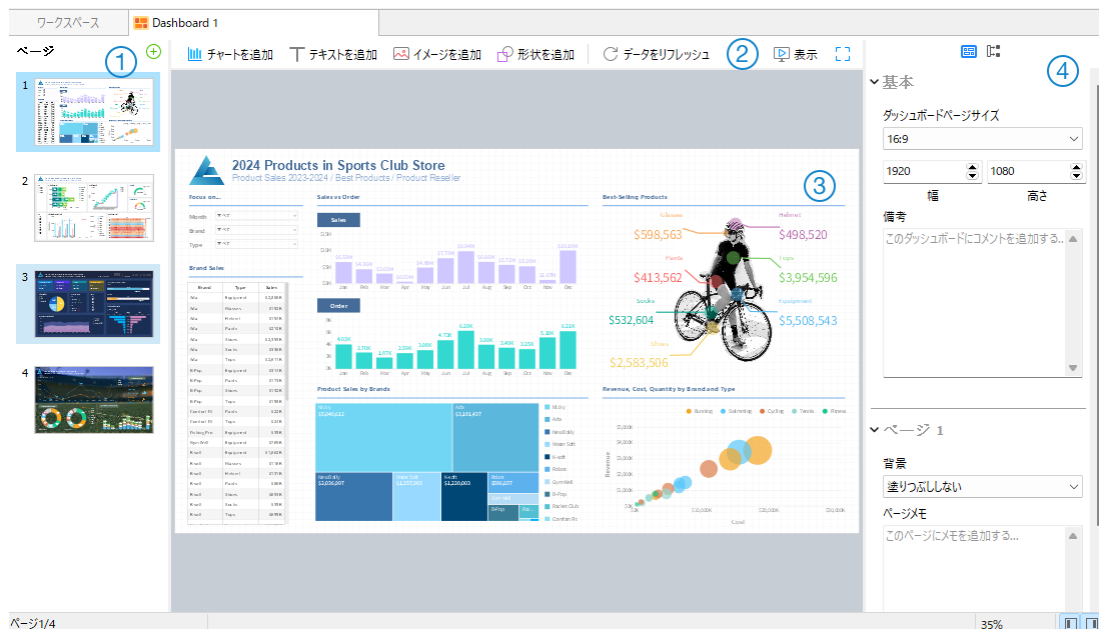
次のテーブルは、チャートの DateTime フィールドのユーザー定義データ形式を作成するために使用できる指定子を示しています。

指定子	説明
D	先行するゼロを付けずに日付を表示します (1~31)。
DD	先行するゼロを付けて日付を表示します (01~31)。
M	先行するゼロを付けずに月を表示します (1~12)。
MM	先行するゼロを付けて月を表示します (01~12)。
MMM	月を短縮形で表示します (Jan~Dec)。
MMMM	月をそのまま表示します (January~December)。
MMMMM	月を略称 (J~D) で表示します。
YY	先行するゼロを付けて、年を 2 桁の数値で表示します (00~99)。
YYYY	年を 4 桁の数値書式で表示します (0000~9999)。
h	先行するゼロを付けずに、時を 12 時間制で表示します (1~12)。
hh	先行するゼロを付けて、時を 12 時間制で表示します (01~12)。
H	先行するゼロを付けずに、時を 24 時間制で表示します (0~23)。
HH	先行するゼロを付けて、時を 24 時間制で表示します (00~23)。
m	先行するゼロを付けずに、分を表示します (0~59)。
mm	先行するゼロを付けて、分を表示します (00~59)。
S	先行するゼロを付けずに、秒を表示します (0~59)。
SS	先行するゼロを付けて、秒を表示します (00~59)。
wd	曜日を 1 文字の省略形で表示します (S~S)。
Wd	曜日を省略形で表示します (日~土)。
WD	曜日を完全な名前で表示します (日曜日から土曜日)。
w	1 年の週を表示します (1~52、週の始まりは日曜日)。
WW	1 年の週を表示します (W1~W52、週の始まりは日曜日)。
q	1 年の四半期を表示します (1~4)。
QQ	1 年の四半期を表示します (Q1~Q4)。
p	午前は大文字の AM、午後 (11:59 P.M. まで) は大文字の PM を表示します。

ダッシュボード

ダッシュボードについて

ダッシュボードは、データの視覚化および表示ができるチャートの集まりです。チャートを変更すると、それを含む全てのダッシュボードに変更が反映されます。



① ページペイン

ページペインには、ダッシュボードの各ページのサムネイル画像が表示されます。ページペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示** -> **ページを表示**を選択します。


② ダッシュボードツールバー


ダッシュボードツールバーには、データの更新やダッシュボードの表示に使用できるコントロールがあります。

③ デザインペイン

ダッシュボードは、デザインペインでデザインできます。追加された全てのオブジェクトは、移動したり（マウスを使ってドラッグしたりキーボードを使用して）、サイズを変更したり、グリッドに配置したりできます。

④ プロパティペイン


 **ダッシュボードのプロパティ**には、基本的なレイアウト設定が含まれています。プロパティは、オブジェクトのタイプによって異なります。

 **使用先タブ**には、ダッシュボードが依存するチャートとデータソースが表示されます。

プロパティペインが非表示の場合、メニューバーから、**表示** -> **プロパティを表示**を選択します。


ダッシュボードを作成

ダッシュボードを作成するための基本的な手順は次のとおりです：

1. ワークスペースウィンドウで、 **新規ダッシュボード**をクリックします。
2. ダッシュボードの名前を入力します。
3. **確認**をクリックします。
4. 新しく作成されたダッシュボードのタブが開きます。

5. ダッシュボードをデザインします。
6. 右ペインでプロパティを選択して、ダッシュボード用にさらにカスタマイズすることができます。

注意：各オブジェクトには異なるプロパティがあります。

ヒント：ダッシュボードを更新して、それぞれのデータソースからの最新データでチャートのデータを更新できます。ダッシュボードを手動で更新するためには、 **データをリフレッシュ**をクリックします。

グリッドを操作する

グリッドを表示

ダッシュボードのグリッドを有効にするためには、メニューバーから**表示** -> **グリッドを表示**を選択します。

グリッドにスナップ

グリッドを使用してダッシュボードのオブジェクトを配置するためには、メニューバーから**表示** -> **グリッドを表示**を選択します。

ページを追加

ページペインには、ダッシュボードにある全てのページが表示されます。ダッシュボードページのサムネイルが表示されます。

新しいページを追加するためには

1. ダッシュボードタブで、ページペインの+ボタンをクリックします。
2. 空白ページが追加され、選択されます。

プロパティ



ページの使用可能なプロパティ：

オプション	説明
基本	
ダッシュボードページサイズ	ダッシュボードにあるページのサイズをカスタマイズします。
備考	ダッシュボードの備考を入力します。
ページ #	
背景	ページの背景色を設定します。 画像で塗りつぶし を選択した場合、イメージファイルとスケーリングオプションを選択できます。
不透明度	イメージの不透明度を設定します。
ページメモ	ページの参照、コメント、または説明を入力します。

チャートを追加

チャートは、データソースのデータの視覚的な表現を提供します。

チャートを追加するためには

1. ダッシュボードタブで、 **チャートを追加**をクリックします。
2. ワークスペースで使用可能な全てのチャートがサムネイルとして表示されます。使用できるチャートがない場合、 **新規チャート**をクリックして作成します。チャート作成の詳細な手順については、[チャートを作成](#)を参照してください。
3. チャートをデザインペインにドラッグします。

プロパティ


チャートの使用可能なプロパティ：

オプション	説明
位置	チャートの位置をカスタマイズします。
サイズ	チャートのサイズをカスタマイズします。
ターゲットチャート	ダッシュボード内のどのチャートをチャートで制御できるかを選択します。
チャートのインタラクション	
インタラクションコントロールとして	チャートをインタラクションコントロールとして設定します。
関連チャート	なし - チャートのインタラクション動作を無効にします。 強調表示 - ダッシュボード上のチャートを、選択したデータポイントでクロスハイライトします。関連のないデータは引き続き表示されますが、淡色表示されます。 フィルター - ダッシュボード上のチャートを、選択したデータポイントでクロスフィルターします。関連のないデータは表示されません。

テキストラベルを追加

テキストラベルは、通常、ダッシュボードタイトルを追加するなど、ダッシュボードの文書化に役立ちます。

テキストラベルを追加するためには

1. ダッシュボードタブで、 **テキストを追加**をクリックします。
2. ダッシュボードにそれを配置します。
3. キャプションを入力します。

プロパティ

テキストラベルの使用可能なプロパティ：

オプション	説明
位置	ラベルの位置をカスタマイズします。
サイズ	ラベルのサイズをカスタマイズします。
キャプション	ラベルのキャプションを入力します。
水平方向の配置／垂直方向の配置	ラベルキャプションのテキスト整列を指定します。
パディング	テキストの水平および垂直パディングを設定します。
フォント	ラベルキャプションのフォントスタイルを設定します。
太字	ラベルキャプションに太字スタイルを適用します。
斜体	ラベルキャプションに斜体スタイルを適用します。
背景色	ラベルの背景色を設定します。
URL	テキストをハイパーリンクとして設定するための URL パスを入力します。

イメージを追加

デザインまたは識別の目的でダッシュボードにイメージ（BMP、JPG、JPEG、PNG ファイル）を挿入することができます。

イメージを追加するためには

1. ダッシュボードタブで、 **イメージを追加**をクリックします。
2. 開くダイアログボックスでイメージファイルを選択します。

プロパティ


イメージの使用可能なプロパティ：

オプション	説明
不透明度	イメージの不透明度を設定します。
位置	イメージの位置をカスタマイズします。
サイズ	イメージのサイズをカスタマイズします。
オリジナルサイズ	イメージをそのオリジナルのサイズに戻します。
URL	イメージをハイパーリンクとして設定するための URL パスを入力します。

形状を追加

Navicat には、ダッシュボードを作成するための定義済みの形状がいくつか含まれています：線、矢印、長方形、楕円、データベース、クラウド、トリガー、サーバー、デスクトップ、モバイル、男性、女性。

形状を追加するためには

1. ダッシュボードタブで、 **形状を追加**をクリックし、形状の種類を選択します。
2. ダッシュボードにそれを配置します。

線または矢印に頂点を追加するためには

1. ダッシュボードで線または矢印を選択します。
2. SHIFT キーを押しながらそれをクリックします。

線または矢印の頂点を削除するためには

1. ダッシュボードで線または矢印を選択します。
2. SHIFT キーを押しながら頂点をクリックします。

プロパティ

形状の使用可能なプロパティ：

オプション	説明
位置	形状の位置をカスタマイズします。
サイズ	形状のサイズをカスタマイズします。 長方形、楕円、データベース、クラウド、トリガー、サーバー、デスクトップ、モバイル、男性、女性のみ。
色	形状の色を設定します。
境界を表示	外形枠を表示します。 長方形、楕円、データベース、クラウド、トリガー、サーバー、デスクトップ、モバイル、男性、女性のみ。
ボーダー色	形状の縁の色を変更します。 長方形、楕円、データベース、クラウド、トリガー、サーバー、デスクトップ、モバイル、男性、女性のみ。
境界線の幅	ボーダーの太さを選択します。 長方形、楕円、データベース、クラウド、トリガー、サーバー、デスクトップ、モバイル、男性、女性のみ。
線の幅	形状の厚みを選びます。
Cap スタイル	線／矢印の Cap スタイルを選択します。
Dash スタイル	線／矢印の Dash スタイルを選択します。
Join スタイル	線／矢印の Join スタイルを選択します。
矢印始点スタイル	矢印の矢尻のスタイルを選択します。
矢印終点スタイル	矢印の先のスタイルを選択します。

オブジェクトの配置

次の方法で、ダッシュボードページ上のオブジェクトを配置できます。

- オブジェクトを前後に移動して重ねます。
- オブジェクトを他のオブジェクトと整列させます。

- オブジェクトを水平または垂直に配置します。
- 複数のオブジェクトをグループ化して、オブジェクトを1つのユニットとして簡単に移動し、関連するチャートの軸に合わせてます。
- オブジェクトをロックして、移動、変更、または削除できないようにします。

前へ/後ろへオブジェクトを移動

オブジェクトをダッシュボードの後部へ移動するためには、オブジェクトを右クリックして**最背面へ移動**を選択します。

オブジェクトをダッシュボードの前部へ移動するためには、オブジェクトを右クリックして**最前面へ移動**を選択します。

オブジェクトを整列

複数のオブジェクトを選択し、右クリックして**整列** -> **左揃え**、**中央揃え**、**右揃え**、**上揃え**、**中央揃え**、**下揃え**を選択します。

オブジェクトの分散を変更

複数のオブジェクトを選択し、右クリックして**分散** -> **横**または**縦**を選択します。

グループオブジェクト

複数のオブジェクトを選択し、プロパティペインで**グループ**をクリックして、必要に応じて次のプロパティを有効にします。

オプション	説明
リンクのスクロール	全てのチャートのスクロールバーを同期します。
リンクのハイライト	いずれかのチャートのデータポイントにカーソルを合わせると、他のチャートの同じデータポイントが強調表示されます。
ハイライト時にヒントを表示する	いずれかのチャートのデータポイントにカーソルを合わせると、ヒントラベルがポップアップ表示されます。

オブジェクトのグループ解除

グループを選択し、プロパティペインで**グループ解除**をクリックします。


オブジェクトをロックする

オブジェクトを選択し、プロパティペインで**ロック**をクリックします。

オブジェクトのロックを解除する

ロックされたオブジェクトを選択し、プロパティペインで**ロックを解除**をクリックします。

ダッシュボードを表示

画面全体を使用してダッシュボードを表示できます。タイトルバー、ツールバー、タブバー、ページペイン、コントロールリスト、プロパティペインは、このモードでは非表示になります。現在のビューでダッシュボードを開くためには、 **表示**をクリックします。

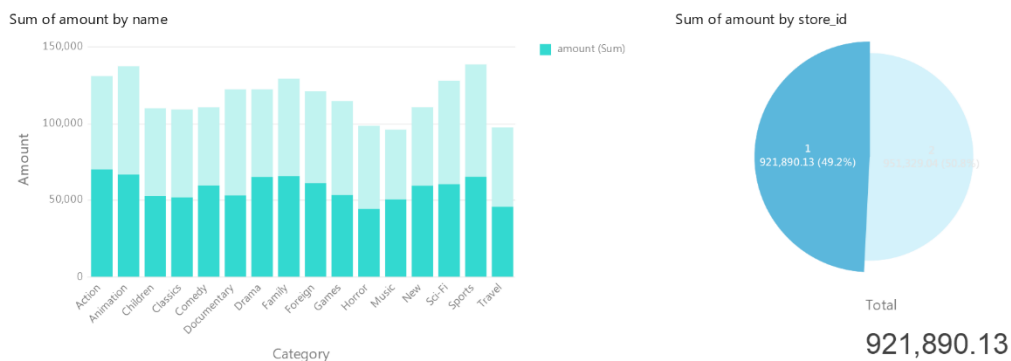
ページ間を移動するためには、矢印キーを使用します。

表示ビューを終了するためには、ESC キーを押します。ワークスペースウィンドウがその前の状態に戻ります。

チャートのインタラクション

ダッシュボード上の同じデータソースを持つ全てのチャートは、相互接続できます。いずれかのチャートでデータポイントを選択すると、ダッシュボードページ上の同じデータを含む他の全てのチャートが、選択に基づいて変更されます。



チャートインタラクションをオフにするか、[ダッシュボードプロパティ](#)でクロスフィルターまたはクロスハイライトの動作を変更できます。



ダッシュボードに[コントロール](#)チャートを追加した場合、コントロールを使用して全てのチャートのデータシリーズにフィルターをかけることができます。

ソートチャート

表示モードでは、ワンクリックでチャート内のデータを整理できます。データ系列を値で並べ替えることができます。

1. 右上隅に  アイコンが表示されるまで、チャートにカーソルを合わせます。
2.  アイコンをクリックして、別の値で並べ替えたり、並べ替え順序を選択します。

ダッシュボードを印刷&エクスポート


プリンタに印刷

ファイル -> **印刷**を選択して、ダッシュボードページを直接プリンターに送信します。ポップアップウィンドウでプリンターオプションを設定できます。

ファイルにエクスポート


ファイル -> **エクスポート先**を選択し、ファイル形式を選択して、ダッシュボードページの PDF、PNG、SVG、または、JPG ファイルを作成します。

テーマを切り替え

チャートとダッシュボードは、[オプション](#)で選択されたソフトウェアテーマの影響を受けません。チャートにダークテーマを使用したい場合、 **テーマを切り替え**をクリックしてテーマを変更します。

17 - オートメーション（自動化）（Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能）

オートメーション（自動化）について

Navicat では、**Windows タスクスケジューラー**を使用して、1 回以上の定期的な間隔で指定日時に開始し終了するジョブの実行を自動化できます。オートメーションは、クエリやバックアップ、データ転送、データの同期、データ生成、データディクショナリ、集計パイプライン、BI、インポート、エクスポート、MongoDump、MongoImport、MongoExport、MapReduce に対して作成することができます。1 つのバッチジョブで実行されるジョブのリストを定義し、手動または指定された時間／定期的に、そのバッチジョブを実行できます。メインウィンドウで、 **オートメーション（自動化）** をクリックしてオートメーション（自動化）オブジェクトリストを開きます。

ヒント：バッチジョブファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

ヒント：次のコマンドを使用して、Windows コマンドプロンプトでバッチジョブを実行できます：

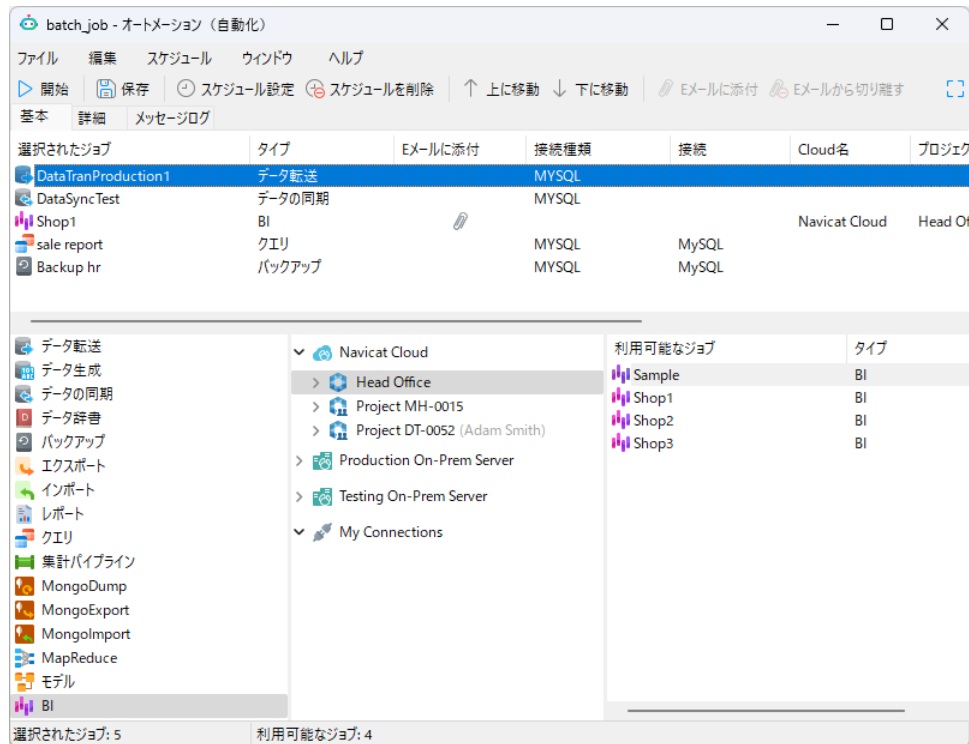
```
navicat.exe -batchjob BatchJobName
```

例：`navicat.exe -batchjob job1`

バッチジョブを作成（ステップ 1）

バッチジョブにジョブを追加

基本タブの一番下のペインで、ジョブタイプを選択してから、必要に応じてジョブを配置する接続、データベース、スキーマを選択します。



ジョブをダブルクリックするかドラッグすることによって、**利用可能なジョブ**リストから**選択されたジョブ**リストにジョブを移動します。同じ方法で、選択されたジョブリストからオブジェクトを削除することができます。1 つのバッチジョブ/スケジュールで、別々のサーバーからのプロファイルを実行することができます。

選択されたジョブの順番を並べ替えるには、**↑ 上に移動**または**↓ 下に移動**ボタンを使用します。

サーバー全体をバックアップしたい場合、接続を選択し、**Backup Server xxx** を選択します。

BI ダッシュボードまたはモデルデータディクショナリを PDF ファイルにエクスポートできます。BI ワークスペースファイルを選択されたジョブリストに追加すると、エクスポートファイル形式を選択してターゲットディレクトリを指定できます。**ファイル名にタイムスタンプを追加**オプションを有効にして、エクスポートされたファイルの名前にタイムスタンプを追加できます。

エクスポートファイルをメール添付としてバッチジョブに追加することができます。選択されたジョブリストのジョブを選択し、**📎 Eメールに添付**または**📧 Eメールから切り離す**をクリックして、メール添付を追加または削除します。

詳細オプションと E メール通知を設定する

エラーが発生しても続ける

ジョブの実行プロセス中に発生したエラーは無視してください。

E メールを送信

Navicat では、スケジュールから返された結果付きの個別のメールを作成し送信することができます。結果セットを複数の受信者に E メール送信することが可能です。

条件

通知 E メールを送信するタイミングを指定します。タスクが正常に完了したか、失敗したか、あるいはその両方か。

From

送信者の E メールアドレスを指定します。例えば、someone@navicat.com。

To、CC

各受信者の E メールアドレスを指定します。複数の場合、コンマまたはセミコロン (;) で区切ります。

サブジェクト

お好きな形式で Eメールの件名を指定します。

ボディ

Eメールの内容を書きます。

ホスト (SMTP サーバー)

送信メッセージ用 Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバーを入力します。

ポート

送信 Eメール (SMTP) サーバーに接続するポート番号を入力します。

認証を使用する

SMTP サーバーが Eメールを送信するために認証を必要とする場合、このオプションにチェックをつけ、**ユーザー名とパスワード**を入力します。

安全な接続


接続が、**TLS**、**SSL** の安全な接続を使用する、または、**使用なし**を指定します。

テストメールを送信



Navicat は、成功または失敗を示すテストメールを送信します。

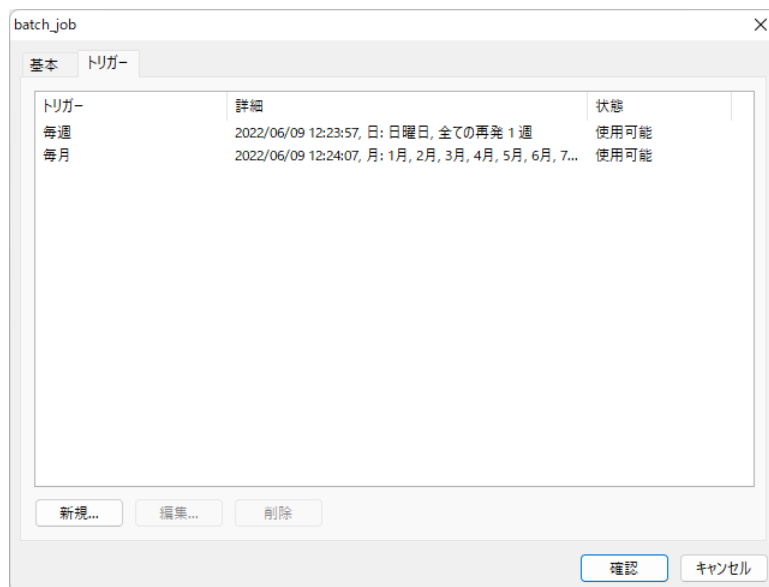
バッチジョブを保存/実行

スケジュールを設定する前に、 **保存** ボタンをクリックしてバッチジョブを保存します。

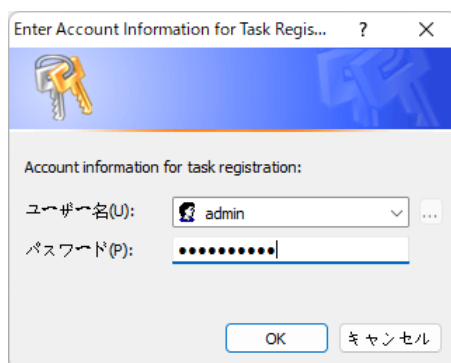
 **開始** ボタンをクリックすることによって、バッチジョブを手動で実行できます。**メッセージログ** タブには、実行の進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

バッチジョブのスケジュール設定 (ステップ 2)

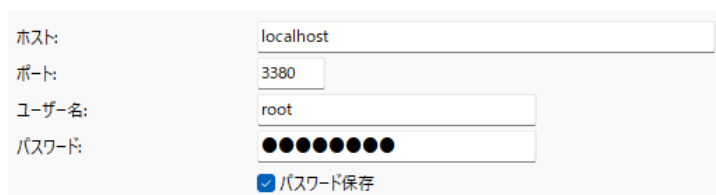
 **スケジュール設定** をクリックしてバッチジョブを実行するためのスケジュールを設定でき、 **スケジュールを削除** をクリックしてスケジュールを削除できます。



基本タブでユーザーがログオンしているかどうかを実行するを選択すると、スケジュールを保存する時に Windows スケジューラーに OS のユーザーパスワードを提供しなければなりません。



注意：スケジュールを設定する前に、バッチジョブを保存してください。スケジュールを実行する前に、[接続](#)ウィンドウにパスワードを保存しなければなりません。



18 - バックアップと復元

バックアップと復元について


安全で信頼性のあるサーバーは、定期的なバックアップの実行にしっかりと対応しています。それは、攻撃やハードウェア障害、人為的ミス、電源異常などが原因となり障害が発生する可能性があるためです。

Navicat は、ユーザーがデータベースオブジェクトをバックアップ/復元するためのバックアップツールおよび復元ツールを提供します。

- MySQL/PostgreSQL/SQLite/MariaDB 用の[組み込みバックアップおよび復元ツール](#)
- [Oracle データポンプ](#)
- [SQL Server のバックアップと復元](#)
- [MongoDump と MongoRestore](#)
- Redis 用の[組み込みバックアップおよび復元ツール](#)

MySQL/PostgreSQL/SQLite/MariaDB (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

バックアップと復元の組み込みツールについて

バックアップと復元の組み込みツールを使用すると、データベースのためにデータベースオブジェクトをバックアップ/復元することができます。後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。メインウィンドウで、 **バックアップ**をクリックしてバックアップオブジェクトリストを開きます。

ヒント: バックアップファイルは、[設定の保存場所](#)の下に保存されます。フォルダを開くためには、バックアップファイルを右クリックし、**格納フォルダを開く**を選択します。

注意: MySQL/PostgreSQL/SQLite/MariaDB でのみ使用可能です。

バックアップ

基本プロパティ

このタブでは、サーバーとデータベースの情報を見ることができます。必要に応じてバックアップファイルについてコメントを入力します。

オブジェクトの選択

このタブでは、バックアップしたいデータベースオブジェクトを選択します。

(*)	すべてのデータベースオブジェクトがバックアップされ、すべての新しく追加されたデータベースオブジェクトもバックアッププロファイルを修正することなくバックアップされます。
(#/#)	チェックされたデータベースオブジェクトだけがバックアップされます。しかし、バックアッププロファイルを作成後にソースデータベース/スキーマに新しいデータベースオブジェクトを追加すると、オブジェクトリストを手動で修正しない限り、新しく追加されたデータベースオブジェクトはバックアップされません。

詳細プロパティ

注意：以下のオプションは接続サーバーの種類に依存し、昇順でソートします。

全テーブルをロック

バックアップ処理が進行している間、全てのオブジェクトにロックをかけます。

単一トランザクションを使用 (InnoDB のみ)

テーブルが InnoDB ストレージエンジン使用の場合にこのオプションにチェックをつけると、Navicat はバックアップ処理開始前にトランザクションを使用します。

指定したファイル名を使用

バックアップ用のファイル名を定義します。そうしなければ、バックアップファイルは"YYYYMMDDhhmmss"形式で名前が付けられます。

復元

復元機能は、まず最初に、選択されたデータベースオブジェクトを削除し、その後、ユーザーのバックアップに従って新しいオブジェクトを再作成します。最後に、データを挿入します。

既存のデータベース/スキーマにバックアップを復元

1. メインウィンドウで、データベース/スキーマを開きます。
2. **バックアップ**をクリックし、既存のバックアップファイルを選択します。
3. オブジェクトツールバーから**バックアップから復元**をクリックします。
4. 復元オプションを選択し、**復元**をクリックします。

新しいデータベース/スキーマにバックアップを復元

1. 新しいデータベース/スキーマを作成し開きます。
2. **バックアップ**をクリックします。

3. オブジェクトタブで、右クリックし、**~ からバックアップをリストア**を選択します。
4. バックアップファイルを参照します。
5. 復元オプションを選択し、**復元**をクリックします。

ヒント : Navicat macOS と Linux のバックアップを復元することも可能です。

注意 : 復元を実行するためには、Create と Drop、Insert 権限 ([MySQL/MariaDB](#) または [PostgreSQL](#)) を持っていないければなりません。

基本プロパティ

このタブでは、ターゲットサーバーとデータベースの情報とバックアップファイルの情報を見ることができます。

オブジェクトの選択

このタブでは、復元したいデータベースオブジェクトを選択します。

詳細プロパティ

注意 : 以下のオプションは接続サーバーの種類、バックアップファイルのバージョンによって異なり、昇順にソートされます。

エラーが発生しても続ける

復元処理中に発生したエラーを無視します。

インデックスを作成

このオプションを有効にすると、復元されたテーブルのインデックスを作成します。

テーブルを作成

このオプションを有効にすると、復元処理中にテーブルを作成します。

レコードを作成

このオプションを有効にすると、テーブルレコードを復元します。無効にすると、テーブル構造だけが復元されます。

トリガーの作成

このオプションを有効にすると、復元されたテーブルのトリガーを作成します。

テーブルをクリア

データベース/スキーマのすべてのテーブルのレコードを削除します。

自動増加値の挿入

データベース/スキーマに自動増加値を挿入します。

書き込みに対してテーブルをロック

復元処理中に、ユーザーがテーブル修正できないように、テーブルにロックをかけます。

既存のイベントを上書き

データベース/スキーマにイベントがすでに存在する場合、上書きします。

既存のファンクションを上書き

データベース/スキーマにファンクションがすでに存在する場合、上書きします。

既存のインデックスを上書き

データベース/スキーマにインデックスがすでに存在する場合、上書きします。

既存のシーケンスを上書き

データベース/スキーマにシーケンスがすでに存在する場合、上書きします。

既存のテーブルを上書き

データベース/スキーマにテーブルがすでに存在する場合、上書きします。

既存のトリガーを上書き

データベース/スキーマにトリガーがすでに存在する場合、上書きします。

既存のタイプを上書き

データベース/スキーマにタイプがすでに存在する場合、上書きします。

既存のビューを上書き

データベース/スキーマにビューがすでに存在する場合、上書きします。

各実行時に複数クエリを実行

各実行時に複数のクエリを実行したい場合、このオプションにチェックをつけます。これによって復元処理がより早くなります。

extended-insert ステートメントを使用

拡張 insert 構文を使用して、レコードを挿入します。

例 : `INSERT INTO `users` VALUES ('1', 'Peter McKindsy', '23'), ('2', 'Johnson Ryne', '56'), ('0', 'Katherine', '23');`

トランザクションを使用

エラーが発生した時にすべてのデータをロールバックしたい場合、このオプションにチェックを付けます。

SQL 文を取り出す

SQL 文を取り出すは、バックアップファイルから SQL ファイルに SQL を抽出することができます。

データベース/スキーマにあるバックアップファイルを取り出す


1. データベース/スキーマを開きます。
2. **バックアップ**をクリックし、既存のバックアップファイルを選択します。
3. オブジェクトツールバーから **SQL 文を取り出す**をクリックします。
4. [SQL 文を取り出すオプション](#)を選択し、**抽出**をクリックします。
5. SQL ファイルのパスを選択します。

任意の場所にあるバックアップファイルを取り出す

1. データベース/スキーマの 1 つを開きます。
2. **バックアップ**をクリックします。
3. オブジェクトタブで、右クリックし、**~ から SQL 文を取り出す**を選択します。
4. バックアップファイルを参照します。
5. [SQL 文を取り出すオプション](#)を選択し、**抽出**をクリックします。
6. SQL ファイルのパスを選択します。

Oracle データポンプ (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

Oracle データポンプについて

データポンプには 2 つのユーティリティが含まれます : データポンプエクスポートとデータポンプインポート。データポンプエクスポートは、データとメタデータをダンプファイルセットにアンロードするためのものです。データポンプインポートは、エクスポートダンプファイルセットをターゲットシステムにロードするためのものです。メインウィンドウで、 **データポンプ**をクリックしてデータポンプオブジェクトリストを開きます。

ダンプファイルセットのディレクトリを変更するためには、オブジェクトタブで右クリックし、**ディレクトリを変更**を選択します。

注意 : データポンプは、Oracle 10g 以降に追加されています。それを実行するためには、SYSDBA ロールが必要です。ダンプファイルセットはサーバーに保存されます。

Oracle データポンプエクスポート

データポンプエクスポートを実行する前に、**SQL を生成**ボタンをクリックして SQL を見直します。それから、**実行**ボタンをクリックしてエクスポート処理を実行できます。

将来の使用のためにデータポンプエクスポート設定をプロファイルに保存することができます。データポンプエクスポートプロファイル (.nbakora) は、[設定の保存場所](#)に保存されます。

隠れているタブ（詳細オプション）を表示するためには、**詳細オプションを表示**オプションにチェックをつけます。

基本プロパティ

ジョブ名

ジョブの名前を指定します。

モード

エクスポートモードを選択します：FULL、TABLESPACE、SCHEMAS、TABLE。

内容

エクスポートするデータを選択します。

データをエクスポート

エクスポートするオブジェクトを選択します。TABLE エクスポートモードを選択する場合、**スキーマをエクスポート(テーブルモード)**ドロップダウンリストからスキーマを選択してください。

ダンプファイル

エクスポートに関するダンプファイルセットにダンプファイルを追加します。

メタデータフィルター

このタブでは、特定のオブジェクトタイプを含めたり除外したりできます。

データフィルター

クエリ

テーブルに対する SELECT 文の最後に追加されるサブクエリを指定します。

サンプル

移動されるデータブロックをサンプリングする割合を指定します。

データを再マップ

このタブでは、列データの再マップ関数を指定できます。

暗号化

暗号化内容

ダンプファイルセットに暗号化するものを選択します。

暗号化アルゴリズム

暗号化を実行するための暗号化アルゴリズムを選択します。

暗号化モード

暗号化モードを選択します：Transparent、Encryption Password、Dual。

暗号化パスワード

暗号化パスワードまたはデュアルの暗号化モードを選択する場合、ダンプファイルに書き込まれるデータを暗号化するためのパスワードを入力します。

パスワード確認

パスワードを再入力してください。

詳細プロパティ

スレッド数

ジョブのために使用できる最大ワーカースレッド数を入力します。

ファイルを再利用

前から存在するファイルを上書きするためには、このオプションにチェックを付けます。

XMLCLOBS を有効にする

XMLCLOBS に関するデータオプションを有効にするためには、このボックスにチェックを付けます。

クラスタを有効にする

ジョブで使用可能なインスタンスでワーカーを起動するためには、このオプションにチェックを付けます。

サービス名

ジョブを特定のインスタンスまたは特定のリソースグループに制限するために使用されるサービス名を指定します。

ソースエディション

アプリケーションのエディションを指定します。

バージョン

抽出されるデータベースオブジェクトのバージョンを指定します。

圧縮タイプ

ダンプファイルセットへの書き込み前に圧縮するデータを指定します。

トランスポータブル

TABLE エクスポートモードを選択する場合、トランスポータブルオプションを使用しないか常に使用するかを選択します。

データベースリンク

ジョブのデータとメタデータのソースであるリモートデータベースへのデータベースリンクを選択します。

見積もり

ジョブを開始する前に実行されるべきテーブルのサイズ用の見積もり方法を選択します。

アクセス方法

デフォルトの方法がうまくいかない場合にデータをアンロードするための代替方法を選択します。

ログファイルディレクトリ

ログファイルを保存するためのディレクトリを選択します。

ログファイル名

ログファイルの名前を入力します。

フラッシュバック SCN

フラッシュバッククエリユーティリティを有効にするために使用されるシステム変更番号 (SCN) を入力します。

フラッシュバック時刻

SCN を検索するためのタイムスタンプを選択します。

Oracle データポンプインポート

データポンプインポートを実行する前に、**SQL を生成**ボタンをクリックして SQL を見直します。それから、**実行**ボタンをクリックしてインポート処理を実行できます。

隠れているタブ (詳細オプション) を表示するためには、**詳細オプションを表示**オプションにチェックをつけます。

基本プロパティ

ジョブ名

ジョブの名前を指定します。

モード

インポートモードを選択します：FULL、TABLESPACE、SCHEMAS、TABLE。

内容

インポートするデータを選択します。

テーブル存在時のアクション

データが既存のテーブルにロードされる場合に実行されるアクションを指定します。

データをインポート

インポートするオブジェクトを選択します。TABLE インポートモードを選択する場合、**スキーマ**テキストボックスにスキーマを指定します。

ダンプファイル

インポートに関するダンプファイルセットにダンプファイルを追加します。

ネットワーク

データベースリンク

ジョブのデータとメタデータのソースであるリモートデータベースへのデータベースリンクを選択します。

見積もり

ジョブを開始する前に実行されるべきテーブルのサイズ用の見積もり方法を選択します。

フラッシュバック SCN

フラッシュバッククエリユーティリティを有効にするために使用されるシステム変更番号（SCN）を入力します。

フラッシュバック時刻

SCN を検索するためのタイムスタンプを選択します。

トランスポータブル

TABLE エクスポートモードを選択する場合、トランスポータブルオプションを使用しないか常に使用するかを選択します。

データファイルパス

トランスポータブルテーブルスペースセットのデータファイルに関する完全なファイル仕様を指定します。

フィルター

INCLUDE/EXCLUDE

特定のオブジェクトタイプを含めるまたは除外します。

クエリ

テーブルに対する SELECT 文の最後に追加されるサブクエリを指定します。

データを再マップ

データを再マップ

列データの再マップ関数を指定します。

データファイルを再マップ

データファイルの再マッピングを指定します。

オブジェクトを再マップ

スキーマを再マップ

スキーマの再マッピングを指定します。

テーブルスペースを再マップ

テーブルスペースの再マッピングを指定します。

テーブルを再マップ

テーブルの再マッピングを指定します。

詳細プロパティ

スレッド数

ジョブのために使用できる最大ワーカースレッド数を入力します。

データファイルを再利用

テーブルスペースの作成に既存のデータファイルを再利用するためには、このボックスにチェックをつけます。

使用できないインデックスをスキップ

インデックスが使用不可状態に設定されたインデックスを持つテーブルのロードをスキップするためには、このボックスにチェックをつけます。

ストリーム設定

エクスポートダンプファイルに存在する可能性のある一般的な Streams メタデータをインポートするためには、このボックスにチェックを付けます。

定数エラーをスキップ

制約違反をスキップしてロードを続行するためには、このオプションにチェックを付けます。

追加情報を無効にする

追加ヒントがデータロードに適用されないようにするためには、このオプションにチェックを付けます。

クラスタ

ジョブで使用可能なインスタンスでワーカーを起動するためには、このオプションにチェックを付けます。

サービス名

ジョブを特定のインスタンスまたは特定のリソースグループに制限するために使用されるサービス名を指定します。

ターゲットエディション

オブジェクトのインポート先となるデータベースのエディションを指定します。

バージョン

抽出されるデータベースオブジェクトのバージョンを指定します。

アクセス方法

デフォルトの方法がうまくいかない場合にデータをアンロードするための代替方法を選択します。

パーティションのオプション

インポート操作中に、パーティション化されたテーブルを処理する方法を指定します。

暗号化パスワード

暗号化パスワードがデータポンプエクスポートで指定された場合、パスワードを入力します。

セグメント属性、セグメント作成、ストレージ、OID、PCT スペース

変換が適用されるオブジェクトを選択します。

ログファイルディレクトリ


ログファイルを保存するためのディレクトリを選択します。

ログファイル名

ログファイルの名前を入力します。

SQL Server のバックアップと復元 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

SQL Server のバックアップと復元について

SQL Server バックアップ機能は、SQL Server のデータを保護するための重要なセーフガードを提供しています。メインウィンドウで、 **SQL Server バックアップ** をクリックしてバックアップオブジェクトリストを開きます。

既存のバックアップファイルの設定を使用してバックアップしたい場合は、オブジェクトタブのバックアップファイルを右クリックして、**この設定からバックアップ** を選択します。

注意：バックアップファイルはサーバーに保存されます。

オブジェクトタブに表示されていないバックアップファイルから復元したい場合、オブジェクトペインで右クリックし、**ファイルから復元** を選択します。

SQL Server バックアップ

バックアップ処理を開始する前に、**SQL を生成** ボタンをクリックして SQL 文を確認してください。それから、**バックアップ** ボタンをクリックしてバックアップ処理を実行できます。

将来の使用のためにバックアップ設定をプロファイルに保存することができます。バックアッププロファイル (.nbakmssql) は、[設定の保存場所](#) に保存されます。

隠れているタブ (詳細オプション) を表示するためには、**詳細オプションを表示** オプションにチェックをつけます。

基本プロパティ

バックアップセット名

バックアップセットの名前を指定します。

説明

バックアップセットの説明を指定します。

バックアップの種類

実行したいバックアップの種類を選択します：フルバックアップ、差分バックアップ、トランザクションログバックアップ。

コピーのみ

バックアップがコピーのみのバックアップであることを指定するためには、このオプションにチェックを付けます。

新規メディアセット

バックアップ用の新しいメディアセットを作成します。リストにバックアップデバイスまたはファイルを追加するためには、**デバイスを追加** ボタンをクリックします。

既存のメディアセット

バックアップ用の既存のメディアセットを選択します。

コンポーネント

このタブでは、データベース全体、データベースの一部、指定ファイルまたは指定グループをバックアップすることを選択できます。

詳細プロパティ

有効期限なし

バックアップセットが期限切れしないことを指定します。

指定期間をもって終了

このバックアップメディアセットが上書き可能となる前に経過しなければならない日数を指定します。

指定日に終了

バックアップセットが有効期限切れとなり上書き可能となる時期を指定します。

パスワード

バックアップセット用のパスワードを入力します。

メディアセットをフォーマット

新しいメディアセットが作成されることを指定するためには、このオプションにチェックを付けます。

新しい名前

新しいメディアセットの名前を入力します。

説明

メディアセットの説明を指定します。

全てのバックアップを上書き

すべてのバックアップセットが上書きされるべきだが、メディアヘッダーを維持することを指定するためには、このオプションにチェックを付けます。

メディアの名前とバックアップセットの有効期限を確認

メディアのバックアップセットが上書きされる前にその有効期限日時を確認するためには、このオプションにチェックを付けます。

メディアセット名

全体バックアップメディアセット用のメディア名を指定します。

パスワード

メディアセット用のパスワードを入力します。

トランザクションログをトランケート

トランザクションログをトランケートするためには、このオプションを選択します。

ログ末尾をバックアップし、データベースを復元状態に設定

ログの最後をバックアップし、データベースを RESTORING 状態のまま残すためには、このオプションを選択します。

バックアップを確認

バックアップを確認するためには、このオプションを選択します。

チェックサムを実行

バックアップチェックサムを有効にするためには、このオプションにチェックを付けます。

エラーが発生しても続ける

このバックアップ中に発生したエラー（無効なチェックサムや破損ページなど）を無視します。

圧縮

このバックアップにおいてバックアップの圧縮が実行されるかどうかを選します。

SQL Server 復元

復元処理を開始する前に、**SQL を生成**ボタンをクリックして SQL 文を確認してください。それから、**復元**ボタンをクリックして復元処理を実行できます。

基本プロパティ

データベースに復元

復元するデータベースを選択します。

元のバックアップセット

オブジェクトタブで**ファイルから復元**を選択した場合、**デバイスを追加**ボタンをクリックすることによってバックアップデバイスまたはファイルをリストに追加できます。

可能な限り最新

復元ポイントを持たない場合、このオプションを選択します。

指定時間

データベースをその日時の時点の状態に復元することを指定するためには、このオプションにチェックを付けます。

マークされたトランザクション

指定された復旧ポイントに復旧するためには、このオプションにチェックを付けます。

マークされたトランザクションを含む

指定されたトランザクションを復旧に含めるためには、このオプションにチェックを付けます。

復元プラン

オブジェクトタブで**ファイルから復元**を選択した場合、リストからデータベースバックアップファイルを選択できます。

詳細プロパティ

データベースファイルの復元先

データまたはログファイルが、**復元先**に指定された場所に復元されることによって、移動されるべきであることを指定します。

WITH REPLACE

WITH REPLACE 引数を含めるためには、このオプションにチェックを付けます。

WITH RESTRICTED_USER

WITH RESTRICTED_USER 引数を含めるためには、このオプションにチェックを付けます。

WITH KEEP_REPLICATION

WITH KEEP_REPLICATION 引数を含めるためには、このオプションにチェックを付けます。

RECOVERY

コミットされないトランザクションすべてをロールバックするためには、このオプションにチェックを付けます。

NORECOVERY

コミットされないトランザクションをロールバックしないためには、このオプションにチェックを付けます。

STANDBY

リカバリーの影響が有効にされないようにできる**スタンバイファイル**を指定します。

MongoDump と MongoRestore

MongoDump と MongoRestore について

MongoDB は、バックアップと復元の操作のための 2 つのユーティリティを備えています。MongoDump と MongoRestore です。これらは、小さなデータベースのバックアップの作成やデータの復元に役立ちます。

MongoDump

MongoDump は、MongoDB データベースからデータを読み込み、高い忠実度の BSON ファイルを作成することができます。

注意：この機能を動作させるためには、[mongodump](#) 実行ファイルが必要です。

ファイルにダンプするために

1. Navicat メインウィンドウで、データベースまたはコレクションを右クリックし、**MongoDump** を選択します。
2. **基本と詳細**タブで、出力パスと適切なダンプオプションを選択します。
3. **開始**ボタンをクリックしてダンプ処理を開始します。**メッセージログ**タブには、ダンプの進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード**ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント：プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

MongoRestore

MongoRestore は、MongoDump によって MongoDB データベースに作成されたバイナリデータベースダンプからデータをロードすることができます。

注意：この機能を動作させるためには、[mongorestore](#) 実行ファイルが必要です。

データベースを復元するために


1. Navicat のメインウィンドウで、データベースを右クリックし、**MongoRestore** を選択します。
2. **基本と詳細**タブで、入力ファイル/ディレクトリパスと適切な復元オプションを選択します。
3. **開始**ボタンをクリックして復元処理を開始します。**メッセージログ**タブには、復元の進行状況や実行時間、成功または失敗のメッセージが表示されます。

後で使用する時のために、設定をプロファイルとして保存することができます。保存済みのプロファイルを開くためには、**プロファイルをロード**ボタンをクリックし、リストからプロファイルを選択します。

ヒント：プロファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

Redis (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディション でのみ使用可能)

バックアップと復元の組み込みツールについて

バックアップと復元の組み込みツールを使用すると、データベースのためにデータベースオブジェクトをバックアップ/復元することができます。後で使用する時や[自動化タスク](#)の設定のために、設定をプロファイルとして保存することができます。メインウィンドウで、 **バックアップ**をクリックしてバックアップオブジェクトリストを開きます。

ヒント: バックアップファイルは、[設定の保存場所](#)の下に保存されます。フォルダを開くためには、バックアップファイルを右クリックし、**格納フォルダを開く**を選択します。

注意: Redis でのみ使用可能です。

バックアップ

基本プロパティ

このタブでは、サーバーとデータベースの情報を見ることができます。必要に応じてバックアップファイルについてコメントを入力します。

オプション

キーパターン

キーパターンを入力します。Navicat は、指定されたパターンに一致するキーのみをバックアップします。

データタイプ

バックアップするデータのタイプを選択します。

volatile キーを含む

タイムアウト有効期限が設定されたキーを含めます。

TTL 情報を保存する

volatile キーの Time-to-Live (TTL) 情報をバックアップします。

指定したファイル名を使用

バックアップ用のファイル名を定義します。そうしなければ、バックアップファイルは"YYYYMMDDhhmmss"形式で名前が付けられます。

復元

復元機能では、まず選択された名前空間内のキーが削除され、次にキーが再作成されます。

既存のデータベースにバックアップを復元

1. メインウィンドウで、データベースを開きます。
2. **バックアップ**をクリックし、既存のバックアップファイルを選択します。
3. オブジェクトツールバーから**バックアップから復元**をクリックします。
4. 復元オプションを選択し、**復元**をクリックします。

バックアップを別のデータベースに復元する

1. 別のデータベースを開きます。
2. **バックアップ**をクリックします。
3. オブジェクトタブで、右クリックし、**~ からバックアップをリストア**を選択します。
4. バックアップファイルを参照します。
5. 復元オプションを選択し、**復元**をクリックします。

ヒント : Navicat macOS と Linux のバックアップを復元することも可能です。

基本プロパティ

このタブでは、ターゲットサーバーとデータベースの情報とバックアップファイルの情報を見ることができます。

詳細

このタブで、バックアップ設定と概要を確認できます。

名前空間の選択

このタブで、復元したい名前空間を選択します。

詳細プロパティ

データタイプ

復元するデータのタイプを選択します。

永続キーを含む

復元するデータのタイプを選択します。

volatile キーを含む

タイムアウト有効期限が設定されたキーを含めます。

TTL 情報を含む

volatile キーの Time-to-Live (TTL) 情報を復元します。残りの TTL、元の有効期限、またはカスタム TTL を復元することを選択できます。

キーが存在する場合は復元する前にキーを削除する

キーがターゲットデータベースに既に存在する場合、一旦復元プロセスが開始されると既存のキーは削除されます。

復元する前にターゲットデータベースの全てのキーを削除する

復元プロセスが開始されたら、ターゲットデータベース内の全てのキーを削除します。

非同期的に削除する

サーバーからキーを非同期的に削除します。操作はバックグラウンドスレッドで実行されます。

サーバーからの応答を無効にする

サーバーがコマンドに応答しないようにします。

エラーが発生しても続ける

復元処理中に発生したエラーを無視します。

コマンドの抽出

コマンドの抽出を使用すると、バックアップファイルからコマンドを Redis コマンドファイルに抽出できます。

データベースにあるバックアップファイルを取り出す

1. データベースを開きます。
2. **バックアップ**をクリックし、既存のバックアップファイルを選択します。
3. オブジェクトツールバーから**コマンドの抽出**をクリックします。
4. [コマンド抽出オプション](#)を選択し、**抽出**をクリックします。
5. コマンドファイルのパスを選択します。



任意の場所にあるバックアップファイルを取り出す

1. データベースの 1 つを開きます。
2. **バックアップ**をクリックします。

3. オブジェクトタブで、右クリックし、**コマンドの抽出元**を選択します。
4. バックアップファイルを参照します。
5. [コマンド抽出オプション](#)を選択し、**抽出**をクリックします。
6. コマンドファイルのパスを選択します。

19 - サーバーセキュリティ

サーバーセキュリティについて

Navicat は、サーバーユーザーアカウントやそのデータベースオブジェクトの権限を管理するための強力なツールを備えています。ユーザーや権限の情報はすべて、サーバーに保存されます。メインウィンドウで、 **ユーザー**または  **ロール**をクリックしてユーザー/ロールオブジェクトリストを開くことができます。

MySQL/MariaDB のユーザーとロールの管理

ユーザーデザイナー

基本プロパティ

ユーザー名

ユーザーアカウントの名前を定義します。

ホスト

ユーザーが接続したホスト名または IP アドレスを入力します。%は任意のホストを意味します。

プラグイン

ユーザーのアカウント認証プラグインを選択します。

パスワード

ユーザーのログインパスワードを指定します。

確認用パスワード

ログインパスワードを再入力します。

パスワードポリシーを失効

ユーザーアカウントのパスワードの有効期限ポリシーを選択します。

詳細プロパティ

毎時ごとに最大実行されるクエリ、毎時ごとに最大実行される更新、毎時ごとの最大接続数

1 時間内にユーザーが実行できるクエリと更新と接続の最大数を指定します。0 は、制限がないことを意味します。

最大ユーザー接続数

ユーザーが確立できる最大同時接続数を指定します。

OLD_PASSWORD オプションの暗号化を使う

OLD_PASSWORD()関数を使用して、ユーザーパスワードを保存するためのハッシュ値を生成します。

SSL タイプ

ユーザーアカウントに関する SSL/TLS 関連オプションを指定します。

ANY	ユーザーが接続する時、SSL 暗号化を要求します。
SPECIFIED	ユーザーが接続する時、有効な証明書を要求します。証明書の 発行者 、証明書の サブジェクト 、SSL 暗号 を提供します。
X509	ユーザーが接続する時、有効な証明書を要求します。

どこのメンバーか

注意：ロールは、MySQL 8.0 以降、MariaDB10.0.5 以降で使用可能です。

グリッドで、**名前**に一覧表示されるロールに対して**付与**または**デフォルト**オプションを選択することにより、そのユーザーが選択されたロールのメンバーであることを指定できます。

サーバー権限

グリッドで、**権限**に一覧表示されるサーバー権限に対して**付与**オプションを選択することにより、そのユーザーがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

権限

ユーザーの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**状態**オプションを選択することにより、そのユーザーがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

ロールデザイナー

注意：ロールは、MySQL 8.0 以降、MariaDB10.0.5 以降で使用可能です。。

基本プロパティ

ロール名

ロールの名前を定義します。

どこのメンバーか

グリッドで、**名前**に一覧表示されるロールに対して**付与オプション**を選択することにより、そのロールが選択されたロールのメンバーであることを指定できます。

メンバー

グリッドで、**名前**に一覧表示されるロール/ユーザーに対して**付与オプション**を選択することにより、選択されたロール/ユーザーがそのロールのメンバーであることを指定できます。

サーバー権限

グリッドで、**権限**に一覧表示されるサーバー権限に対して**付与オプション**を選択することにより、そのロールがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

権限

ロールの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**状態オプション**を選択することにより、そのロールがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

Oracle のユーザーとロールの管理

ユーザーデザイナー

基本プロパティ

ユーザー名

ユーザーアカウントの名前を定義します。

認証

認証方法を選択します。

PASSWORD	ユーザーを作成します。 パスワード を指定し、 パスワード確認 にもう一度入力します。最初のログイン試行時にユーザーにパスワードの変更を強制するためには、 パスワードを失効オプション にチェックを付けます。
EXTERNAL	外部サービスによって承認されたユーザーを作成します。証明書の識別名または Kerberos のプ

	リンシパル名を 外部名 に入力します。
GLOBAL	エンタープライズディレクトリサービスによって承認されたユーザーを作成します。ユーザーを識別するエンタープライズディレクトリサービスでの X.509 名を X.500 名 に入力します。

デフォルトテーブルスペース

ユーザーが作成するオブジェクトのデフォルトテーブルスペースを選択します。

一時テーブルスペース

ユーザーの一時セグメントのテーブルスペースもしくはテーブルスペースグループを選択します。

プロファイル

ユーザーに割り当てるプロファイルを選択します。

アカウントをロック

ユーザーアカウントをロックし、アクセス不可にします。

どこのメンバーか

グリッドで、**ロール名**に一覧表示されるロールに対して、**付与**、**Admin オプション**または**デフォルト**としてオプションを選択することにより、そのユーザーが選択されたロールのメンバーであることを指定できます。


クォータ

グリッドで、そのユーザーがテーブルスペース内で割り当てることができるスペースの最大容量を指定します。**クォータ**を入力し、**単位**を選択します。**無制限**を使用すると、ユーザーはテーブルスペース内のスペースを限りなく割り当てることができます。複数のテーブルスペースに設定することができます。

サーバー権限

グリッドで、**権限**に一覧表示されるサーバー権限に対して**付与**または **Admin オプション**オプションを選択することにより、そのユーザーがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

権限

ユーザーの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**付与**または **Grant オプション**オプションを選択することにより、そのユーザーがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

ロールデザイナー

基本プロパティ

ロール名

ロールの名前を定義します。

認証

認証方法を選択します。

PASSWORD	ロールを作成します。 パスワード を指定し、 パスワード確認 にもう一度入力します。
EXTERNAL	外部サービスによって承認されたロールを作成します。
GLOBAL	エンタープライズディレクトリサービスによって承認されたロールを作成します。
NOT IDENTIFIED	パスワードなしでロールを作成します。

どこのメンバーか

グリッドで、**ロール名**に一覧表示されるロールに対して**付与**または **Admin オプション**オプションを選択することにより、そのロールが選択されたロールのメンバーであることを指定できます。


メンバー

グリッドで、**メンバー**に一覧表示されるユーザーに対して**付与**または **Admin オプション**オプションを選択することにより、選択されたユーザーがそのロールのメンバーであることを指定できます。

サーバー権限

グリッドで、**権限**に一覧表示されるサーバー権限に対して**付与**または **Admin オプション**オプションを選択することにより、そのロールがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

権限

ロールの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**付与**オプションを選択することにより、そのロールがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

ユーザーの保守

Navicat は、Oracle のユーザーを保守するための完全なソリューションを提供しています。

1. メインウィンドウで、オブジェクトタブにあるユーザーを選択してください。
2. 選択されたユーザーを右クリックしてください。
3. **保守**を選択した後、ポップアップメニューから保守オプションを選択してください。

オプション	説明
パスワードを失効	ユーザーアカウントのパスワードが期限切れになるように設定します。
アカウントをロック	ユーザーアカウントをロックし、アクセスを無効にします。
アカウントのロック解除	ユーザーアカウントのロックを外し、アクセスを有効にします。

PostgreSQL のユーザー、グループ、ロールの管理

ユーザーデザイナー

注意：ユーザーは、PostgreSQL 8.0 以前で使用可能です。

基本プロパティ

ユーザー名

ユーザーの名前を定義します。

ユーザーID

ユーザーの ID を指定します。

パスワード

ユーザーのログインパスワードを指定します。

確認用パスワード

ログインパスワードを再入力します。

パスワードの暗号化

ENCRYPTED (暗号化) か UNENCRYPTED (非暗号化) のどちらでパスワードをシステムカタログ内に保存するかを選択します。

有効期限

ユーザーのパスワードが失効する日時を設定します。このオプションが省略されると、パスワードはいつまでも有効となります。

スーパーユーザー

ユーザーをスーパーユーザーとして定義する場合、このオプションにチェックをつけます。

データベースを作成可能

データベースの作成を許可されたユーザーを定義する場合、このオプションにチェックをつけます。

どこのメンバーか

グリッドで、**グループ名**に一覧表示されるグループに対して**付与**オプションを選択することにより、そのユーザーが選択されたグループのメンバーであることを指定できます。

権限

ユーザーの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**付与**または**Grant オプション**オプションを選択することにより、そのユーザーがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

グループデザイナー

注意：グループは、PostgreSQL 8.0 以前で使用可能です。

基本プロパティ

グループ名

グループの名前を定義します。

グループ ID

グループの ID を指定します。

メンバー

グリッドで、**メンバー**に一覧表示されるユーザーに対して**付与**オプションを選択することにより、選択されたユーザーがそのグループのメンバーであることを指定できます。

権限

グループの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。

2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**付与**または**Grant オプション**オプションを選択することにより、そのグループがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

ロールデザイナー

注意 : ロールは、PostgreSQL 8.1 以降で使用可能です。

基本プロパティ

ロール名

ロールの名前を定義します。

ロール ID

ロールの ID を指定します。

ログイン可能

ログインを許可するロールを作成する場合、このオプションにチェックをつけます。

パスワード

ロールのログインパスワードを指定します。

確認用パスワード

ログインパスワードを再入力します。

パスワードの暗号化

ENCRYPTED (暗号化) か UNENCRYPTED (非暗号化) のどちらでパスワードをシステムカタログ内に保存するかを選択します。

接続制限

ロールが作成可能な同時接続数を指定します。-1 は、制限がないことを意味します。

有効期限

ロールのパスワードが失効する日時を設定します。このオプションが省略されると、パスワードはいつまでも有効となります。

スーパーユーザー

ロールをスーパーユーザーとして定義する場合、このオプションにチェックをつけます。

データベースを作成可能

ロールがデータベースを作成可能であることを定義する場合、このオプションにチェックをつけます。

ロールを作成可能

このオプションにチェックをつけると、ロールを作成することが可能になります。

権限を継承

ロールが、あるロールのメンバーとなっていて、そのロールの権限を継承する場合、このオプションにチェックをつけます。

システムカタログを更新可能

このオプションにチェックをつけると、ロールがシステムカタログを更新することが可能になります。

複製できる

このオプションにチェックを付けると、ロールはストリーミングレプリケーションを開始したり、システムをバックアップモードにしたり解除したりすることができます。

RLS を回避出来る

このオプションにチェックを付けると、ロールはすべての行レベルセキュリティ (RLS) ポリシーをバイパスできます。

どこのメンバーか

グリッドで、**ロール名**に一覧表示されるロールに対して**付与**または **Admin オプション**オプションを選択することにより、そのロールが選択されたロールのメンバーであることを指定できます。

メンバー

グリッドで、**メンバー**に一覧表示されるロールに対して**付与**または **Admin オプション**オプションを選択することにより、選択されたロールがそのロールのメンバーであることを指定できます。

権限

ロールの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**付与**または **Grant オプション**オプションを選択することにより、そのロールがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

SQL Server のログイン、ロール、ユーザーの管理

ログインデザイナー

注意：以下のオプションとタブは、サーバーのバージョンや認証の種類によって異なります。

基本プロパティ

ログイン名

ログインの名前を定義します。

認証の種類

ログインの認証の種類を選択します。

パスワード

ログインのパスワードを指定します。

パスワード確認

ログインパスワードを再入力します。

古いパスワードを指定

このオプションにチェックを付けると、ログインの編集時にこのアカウントで使用された古いパスワードを入力できます。

パスワードポリシーを適用

このオプションにチェックをつけると、パスワードを SQL Server のパスワードポリシーに強制的に従わせることができます。

パスワードに期限を適用

このオプションにチェックをつけると、パスワードに強制的に有効期限を持たせることができます。

ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更しなければならない

このオプションにチェックをつけると、ユーザーはログインする度にパスワードを変更しなければなりません。

デフォルトデータベース

ログイン時のデフォルトデータベースを選択します。

デフォルトの言語

ログイン時のデフォルト表示言語を選択します。

証明書の名前

ログインに使用される証明書を選択します。

非対称キーの名前

ログインに使用される非対称キーを選択します。

使用可能

ログインを有効にする場合、このオプションにチェックをつけます。

認証情報

ログインにマップされる認証情報を選択します。

ロール

リストで、このサーバーログインを選択されたサーバーロールのメンバーに割り当てることができます。

ユーザーのマッピング

グリッドで、**データベース**を選択し、**ユーザー**と**デフォルトスキーマ**を入力することによって、データベースログイン用のユーザーを作成し、サーバーによって検索される最初のスキーマを指定することができます。

サーバーパーミッション

グリッドで、**パーミッション**に一覧表示されるサーバーパーミッションに対して**付与**または**Grant オプション付き**、**拒否**オプションを選択することにより、そのログインがそのパーミッションを持つことを指定できます。すべての権限を付与、拒否または取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**、**全て拒否**または**全て取り消す**を選択します。

エンドポイントパーミッション

グリッドで、**エンドポイント**に一覧表示されるエンドポイントに対してパーミッションを選択することにより、そのログインがそのエンドポイントパーミッションを持つことを指定できます。Grant オプション付きの権限を付与するためには、チェックボックスを2回クリックします。権限を拒否するためには、チェックボックスを3回クリックします。

ログインパーミッション

グリッドで、**ログイン**に一覧表示されるエンドポイントに対してパーミッションを選択することにより、そのログインがそのログインパーミッションを持つことを指定できます。Grant オプション付きの権限を付与するためには、チェックボックスを2回クリックします。権限を拒否するためには、チェックボックスを3回クリックします。

サーバーロールデザイナー

注意 : Azure SQL Database は、サーバーロールをサポートしていません。

メンバータブで、選択されたサーバーログインをこのサーバーロールのメンバーに割り当てることができます。

データベースユーザーデザイナー

注意：以下のオプションとタブは、サーバーのバージョンやユーザーの種類によって異なります。

基本プロパティ

ユーザー名

データベースユーザーの名前を定義します。

認証

データベースユーザーのセキュリティタイプを選択します。

ログイン名

このデータベースユーザーが使用する SQL Server ログインを指定します。

デフォルトスキーマ

データベースユーザーによって作成されたオブジェクトを所有するデフォルトスキーマを選択します。

証明書の名前

データベースユーザーに使用される証明書を選択します。

非対称キーの名前

データベースユーザーに使用される非対称キーを選択します。

ロール

リストで、このデータベースユーザーを選択されたデータベースロールのメンバーに割り当てることができます。


所有スキーマ

リストで、データベースユーザーによって所有されるスキーマにチェックを付けます。

データベースパーミッション

グリッドで、**パーミッション**に一覧表示されるデータベースパーミッションに対して**付与**または **Grant オプション付き**、**拒否**を選択することによって、このデータベースユーザーがデータベースに対してそのパーミッションを持つことを指定できます。すべての権限を付与、拒否または取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**、**全て拒否**または**全て取り消す**を選択します。

オブジェクトパーミッション

データベースユーザーの特定のオブジェクトパーミッションを編集するためには、 **パーミッションを追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示されるパーミッションに対して**付与**または **Grant オプション付き**、**拒否**を選択することによって、このデータベースユーザーがそのパーミッションを持つことを指定できます。すべての権限を付与、拒否または取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**、**全て拒否**または**全て取り消す**を選択します。

データベースロールデザイナー

注意：以下のオプションとタブは、サーバーのバージョンによって異なります。

基本プロパティ

ロール名

データベースロールの名前を定義します。

所有者

データベースロールの所有者を指定できます。

どこのメンバーか

リストで、このデータベースロールが選択されたデータベースロールのメンバーであることを指定できます。

メンバーか

リストで、選択されたデータベースユーザーがこのデータベースロールのメンバーであることを指定できます。


所有スキーマ

リストで、データベースロールによって所有されるスキーマにチェックを付けます。

データベースパーミッション

グリッドで、**パーミッション**に一覧表示されるデータベースパーミッションに対して**付与**または **Grant オプション付き**、**拒否**を選択することによって、このデータベースロールがデータベースに対してそのパーミッションを持つことを指定できます。すべての権限を付与、拒否または取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**、**全て拒否**または**全て取り消す**を選択します。

オブジェクトパーミッション

データベースロールの特定のオブジェクトパーミッションを編集するためには、 **パーミッションを追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。

2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示されるパーミッションに対して**付与**または **Grant オプション付き**、**拒否**を選択することによって、このデータベースロールがそのパーミッションを持つことを指定できます。すべての権限を付与、拒否または取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**、**全て拒否**または**全て取り消す**を選択します。

アプリケーションロールデザイナー

注意： Azure SQL Database は、アプリケーションロールをサポートしていません。以下のオプションとタブは、サーバーのバージョンによって異なります。

基本プロパティ

ロール名

アプリケーションロールの名前を定義します。

デフォルトスキーマ

アプリケーションロールによって作成されたオブジェクトを所有するデフォルトスキーマを選択します。

パスワード

アプリケーションロールのパスワードを指定します。

パスワード確認

パスワードを再入力します。


所有スキーマ

リストで、アプリケーションロールによって所有されるスキーマにチェックを付けます。

データベースパーミッション

グリッドで、**パーミッション**に一覧表示されるデータベースパーミッションに対して**付与**または **Grant オプション付き**、**拒否**を選択することによって、このアプリケーションロールがデータベースに対してそのパーミッションを持つことを指定できます。すべての権限を付与、拒否または取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**、**全て拒否**または**全て取り消す**を選択します。

オブジェクトパーミッション

アプリケーションロールの特定のオブジェクトパーミッションを編集するためには、 **パーミッションを追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。

2. そのオブジェクトにチェックをつけると、右ペインにグリッドが表示されます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示されるパーミッションに対して**付与**または **Grant オプション付き**、**拒否**を選択することによって、このアプリケーションロールがそのパーミッションを持つことを指定できます。すべての権限を付与、拒否または取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**、**Grant オプション付きで全て付与**、**全て拒否**または**全て取り消す**を選択します。

SQLite のユーザー管理

注意：デフォルトで、SQLite データベースはユーザー認証を必要としません (no-authentication-required database)。ユーザーを作成すると、データベースは認証が必要なデータベース (authentication- required database) としてマークされます。その後は、データベースファイルに接続するとき、ユーザーはユーザー名とパスワードを提供する必要があります。

基本プロパティ

ユーザー名

ユーザーアカウントの名前を定義します。

パスワード

ユーザーのログインパスワードを指定します。

確認用パスワード

ログインパスワードを再入力します。

アドミニストレーター

ユーザーに admin 権限を与える場合、このオプションにチェックをつけます。

MongoDB のユーザーとロールの管理

ユーザーデザイナー

基本プロパティ

ユーザー名

ユーザーの名前を定義します。

パスワード

ユーザーのログインパスワードを指定します。

確認用パスワード

ログインパスワードを再入力します。

パスワードの問い合わせ

サーバーまたはクライアントがパスワードをダイジェストするかどうかを示します。

メカニズム

SCRAM ユーザー認証情報を作成するための SCRAM メカニズムを指定します。

カスタムデータ

このタブでは、このユーザーに関連づけられている情報を入力することができます。

組み込みロール

リストで、このユーザーを選択された組み込みロールのメンバーに割り当てることができます。

ユーザー定義ロール

リストで、このユーザーを選択されたユーザー定義ロールのメンバーに割り当てることができます。

認証の制限

サーバーがユーザーに適用する特定の認証制限を編集するためには、 **制限の追加**をクリックします。

クライアントソース

クライアントの IP アドレスを制限するために IP アドレスまたは CIDR 範囲のリストを指定します。

サーバアドレス

クライアントが接続可能な IP アドレスまたは CIDR 範囲のリストを指定します。

ロールデザイナー

基本プロパティ

ロール名

ロールの名前を定義します。

組み込みロール

リストで、このロールを選択された組み込みロールのメンバーに割り当てることができます。

ユーザー定義ロール

リストで、このロールを選択されたユーザー定義ロールのメンバーに割り当てることができます。


メンバーか (ロール)

リストで、選択されたロールがこのロールのメンバーであることを指定できます。

メンバーか (ユーザー)

リストで、選択されたユーザーがこのロールのメンバーであることを指定できます。

認証の制限

サーバーがロールに適用する特定の認証制限を編集するためには、 **制限の追加**をクリックします。


クライアントソース

クライアントの IP アドレスを制限するために IP アドレスまたは CIDR 範囲のリストを指定します。

サーバアドレス

クライアントが接続可能な IP アドレスまたは CIDR 範囲のリストを指定します。

権限

ロールの特定のオブジェクト権限を編集するためには、 **権限の追加**をクリックしてウィンドウを開き、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. 権限を付与したいオブジェクトにチェックを付けます。
3. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して**状態**オプションを選択することにより、そのロールがその権限を持つことを指定できます。すべての権限を付与するまたは取り消すためには、グリッドで右クリックし、**全て付与**または**全て取り消す**を選択します。

Redis のユーザー管理

Redis アクセスコントロールリスト (ACL) でユーザーを定義して、データへのアクセスを保護できます。Navicat は、ユーザーを作成、編集、削除するためのグラフィカルインターフェイスを提供します。

注意：ユーザーは、Redis 6 以降で使用可能です。

基本プロパティ

ユーザー名

ユーザーアカウントの名前を定義します。

ログイン可能

ユーザーアカウントを有効にします。


パスワードが必要

ユーザーにパスワードを使用してログインすることを要求します。


パスワードを追加

ユーザーの有効なパスワードの一覧にパスワードまたは SHA-256 ハッシュ値を追加します。


権限

新しい権限グループ（セクター）を作成して、複数のルールのセットをユーザーに追加できます。新しい権限グループはメインの権限グループの後に評価され、定義された順序に従って評価されます。 **権限グループの追加/バッチで権限グループを追加** をクリックします。


コマンド

コマンドを許可または禁止するためには、 **コマンドの追加/バッチでコマンドを追加** をクリックします。@all は、現在サーバーに存在するコマンドと、将来モジュールを介してロードされるコマンドの両方を含む、全てのコマンドを意味します。

キー

特定のキーおよびキー権限を許可または禁止するためには、 **キーの追加/バッチでキーを追加** をクリックします。**全てのキーの権限を付与する** を有効にして、ユーザーが全てのキーにアクセスできるようにすることができます。


チャンネル


Pub/Sub チャンネルを許可または禁止するためには、 **チャンネルの追加/バッチでチャンネルを追加** をクリックします。**全てのチャンネルの権限を付与する** を有効にして、ユーザーが全ての Pub/Sub チャンネルにアクセスできるようにすることができます。

権限マネージャー

権限マネージャーは、各ユーザーの権限の設定以外に、接続とそのデータベースオブジェクトに対する権限の設定も行えます。

注意： MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

権限を追加するためには、ユーザーオブジェクトツールバーから  **権限マネージャー** をクリックして、以下のステップを実行します：

1. ターゲットオブジェクトにたどり着くまで、ツリービューのノードを開きます。
2. オブジェクトを選択し、 **権限の追加** をクリックしてウィンドウを開きます。
3. 左のペインのユーザーにチェックを付けます。
4. グリッドで、**権限**に一覧表示される権限に対して該当する権限を選択することによって、選択されたユーザーがそのオブジェクト権限を持つことを指定できます。

20 - 他のすばらしい機能

サーバー監視 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

Navicat は、選択サーバーのプロパティを閲覧できる**サーバー監視**を提供しています。**ツール** -> **サーバー監視**を選択し、メニューバーからサーバータイプを選択します。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQL Server/MariaDB/MongoDB/Redis でのみ使用可能です。

プロセスリスト

このタブには、選択された全てのサーバーからのプロセスを一覧表示します。プロセスリストには詳細情報が表示されます。情報は選択されたデータベースの種類によって異なります。

指定した秒でプロセスリストを自動更新するという処理を行いたい場合、**表示** -> **自動更新時間を設定**を選択し、自動更新の値を入力します。自動更新機能を有効または無効にするためには、**表示** -> **自動更新**を選択します。

注意 : 値を指定すると、すぐにその値が有効になります。

選択されたプロセスが常にグリッドの一番上に表示されるように設定するためには、右クリックし、**トップに固定**を選択します。この設定を取り消すためには、**トップに固定をキャンセル**を選択します。

選択されたプロセスを停止するためには、**✖ プロセスを終了**ボタンをクリックします。

変数

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/MariaDB/MongoDB/Redis でのみ使用可能です。

このタブには、全てのサーバー変数とその値を一覧表示します。



ここでは、MySQL、MariaDB、Oracle、Redis の変数の値を編集することができます。**⋮** をクリックするか、CTRL+ENTER を押し、編集用のエディタを開きます。

状態

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/MariaDB/MongoDB/Redis でのみ使用可能です。

このタブには、全てのサーバー状態とその値を一覧表示します。





スキーマ分析 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

スキーマ分析は、スキーマの検証、データ分布の視覚化、データ外れ値の識別に使用されます。開始するためには、オブジェクトタブでコレクションまたはビューを選択して、 **スキーマの分析**をクリックするか、データビューワで  **分析**をクリックします。

注意 : MongoDB でのみ使用可能です。

ヒント : スキーマ分析プロファイル (.nsatmongodb) は、[設定の保存場所](#)の下に保存されます。

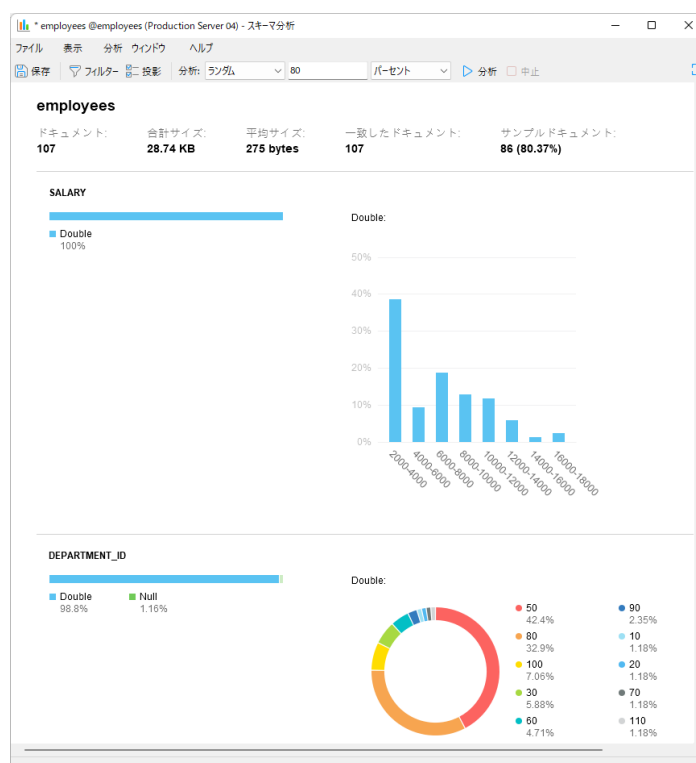
ツールバー

オプションで/ボタン	説明
 フィルター	分析用にドキュメントをフィルタリングします。
 投影	分析用にフィールドを追加または除外します。
分析:	分析用にコレクションからサンプルドキュメントを選択します。
 分析	サンプルドキュメントの分析を開始します。
 中止	サンプルドキュメントの分析を停止します。

結果

分析が完了した後、スキーマ分析結果を見ることができます。結果は、すべてのフィールドのタイプやデータ分布についての情報を視覚的に表示します。

1 つのフィールドが複数のフィールドタイプを持つ場合、左側のフィールドタイプバーをクリックすることができ、図にはそのタイプのデータ分布図が表示されます。








コマンド監視 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

コマンド監視は、Redis サーバーによって処理される全てのコマンドを即座に監視できるリアルタイムコマンド監視ツールです。データベースに何が起きているかを理解するのに役立ちます。モニターを開くためには、接続を右クリックし、**コマンド監視**を選択します。

注意 : Redis でのみ使用可能です。

注意 : コマンド監視は、Redis サーバーのパフォーマンスを大幅に低下させる可能性があります。

ツールバーには次の機能があります :

ボタン	説明
 開始	Redis サーバーの監視を開始します。
 終わり	Redis サーバーの監視を停止します。
 右端での折り返し	長い単語を区切って次の行に折り返します。
 エクスポート	コマンドをテキストファイルにエクスポートします。
 クリア	コマンドをクリアします。

バーチャルグループリング

バーチャルグループは、全てのオブジェクトが効果的に保存されるように、オブジェクトをカテゴリ別に論理的にグループ化するプラットフォームを提供することを目的としています。接続、テーブル、コレクション、データ、ビュー、マテリアライズドビュー、ファンクション、インデックス、トリガー、MapReduce、GridFS、Pub/Sub、クエリ、集計パイプライン、バックアップ、自動化、モデル、BI に適用できます。

ヒント : vgroup.json ファイルは、[プロファイルの保存場所](#)の下に保存されます。

グループ構造を非表示にしたい場合、**表示 -> ナビゲーションペイン -> 接続を折りたたむ**を選択するか、**表示 -> オブジェクトリストを折りたたむ**を選択します。

新しいグループを作成する

1. メインウィンドウで、ナビゲーションペインまたはオブジェクトタブを右クリックし、**新規グループ**または**グループを管理** -> **新規グループ**を選択します。
2. 新しいグループの名前を入力します。

オブジェクトをグループに移動する

1. メインウィンドウで、オブジェクトを右クリックし、**グループを管理** -> **移動**を選択します。
2. 既存のグループを選択します。

オブジェクトを最上位に移動する

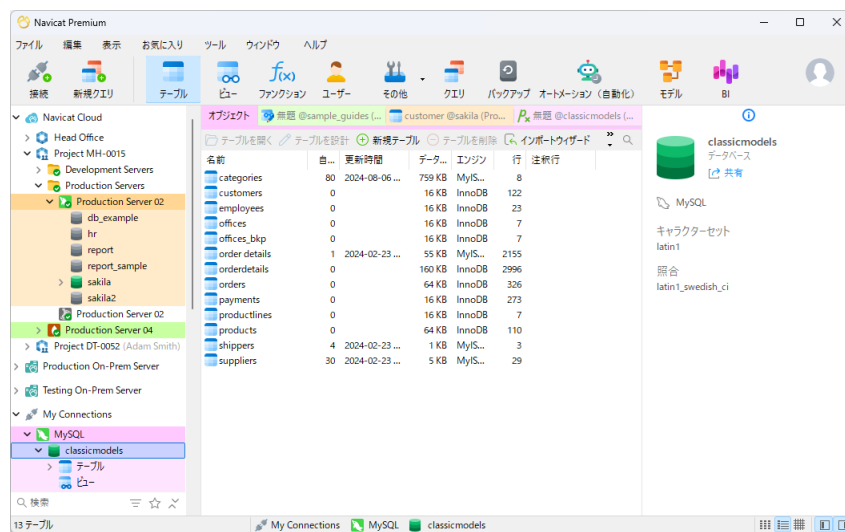
1. メインウィンドウで、オブジェクトを右クリックし、**グループを管理** -> **グループから外す**を選択します。

ヒント：ドラッグアンドドロップメソッドを使用してオブジェクトを移動することもできます。

接続の色付け

Navicat は、接続とそのデータベースオブジェクトを識別するために、色によって接続を強調表示することができます。データベースオブジェクトを操作している時、どの接続に接続しているかすぐにわかります。強調表示色がナビゲーションペインとそのオブジェクトのメニューバーまたはタブに表示されます。

接続を強調表示するためには、ナビゲーションペインの接続を右クリックし、**色**を選択します。



データベース/スキーマ内検索 (Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能)

Navicat は、データベース/スキーマ内のテーブルとビューのレコードまたはオブジェクト構造を検索する**データベース/スキーマ内検索**機能を提供しています。データベース/スキーマ内検索ウィンドウを開くためには、メニューバーから**ツール** -> **データベース/スキーマ内検索**を選択します。

注意 : MySQL/Oracle/PostgreSQL/SQLite/SQL Server/MariaDB/MongoDB でのみ使用可能です。

1. ターゲットの**接続**、**データベース**や**スキーマ**を選択します。
2. **検索文字**に検索文字列を入力します。
3. データまたは構造のどちらを検索するか、**検索対象**ドロップダウンリストから選択します。
4. **検索モード**を選択します : 含む、単語全体、前方、または、正規表現。
5. 必要に応じて、大文字小文字を区別して検索することを無効にするために**大文字小文字を区別しない**にチェックをつけます。

6. 構造を検索する場合、検索するオブジェクトを選択することができます：テーブル、コレクション、ビュー、ファンクション、クエリ、インデックス、トリガー、イベント、マテリアライズド・ビュー。
7. **検索**ボタンをクリックし、その後、**検索結果**リストのオブジェクトをダブルクリックして、そのレコードまたは構造を見ることができます。

コンソール

コンソールでは、コマンドラインインターフェースを使用してサーバーを操作することができます。つまり、クエリの入力とデータベースからの結果出力のための双方向のテキストベース画面を提供しています。コンソールウィンドウを開くためには、接続を開き、メニューバーから**ツール** -> **コンソール**を選択するか、F6 を押します。

ヒント：それぞれが別の接続を表す複数のコンソールウィンドウを開くことができます。

Oracle

Oracle サーバーの場合、この機能を使用するために **SQL*Plus** 実行ファイルが必要です。デフォルトで、Navicat はクライアントフォルダ（例えば、ORACLE_HOME¥bin）の下で SQL*Plus を探します。しかし、Navicat が [SQL*Plus デフォルトパス](#)の下に SQL*Plus を見つけられない場合、実行ファイルの場所を示すように指示されます。

注意：SQL*Plus は、Unicode をサポートしません。

MongoDB

MongoDB サーバーの場合、この機能を使用するために **Mongo Shell** 実行ファイルが必要です。実行ファイルが必要です。Navicat が [Mongo Shell デフォルトパス](#)の下に Mongo Shell を見つけられない場合、実行ファイルの場所を示すように指示されます。

Redis

Redis サーバーの場合、コード補完と構文の強調表示がサポートされています。これにより、Redis コマンドをスムーズに入力できます。

フォーカスモード（Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能）

フォーカスは、気を散らすものを減らし、境界を設定するのに役立つ機能です。作業中のフォーム以外のすべてを画面から削除し、全画面モードに入ります。

特定のアクティビティに集中したい場合は、 アイコンをクリックするだけでオンにできます。

フォーカスモードをサポートするツール：

- データビューワー
- オブジェクトデザイナー

- クエリ
- 集計パイプライン
- オートメーション（自動化）
- モデル
- BI
- サーバー監視

フォーカスモードを終了するためには、右上の  アイコンをクリックするだけです。

URI 経由で共有

Navicat では、オブジェクトの URI によってチームの仲間とオブジェクトを共有できます。Navicat ユーザーは、生成された URI を使用してオブジェクトにアクセスできます。

共有できるオブジェクトは次のとおりです：

- 接続
- データベース/スキーマ
- テーブル/コレクション/データ
- ビュー/マテリアライズド・ビュー
- ファンクション/プロシージャ
- クエリ/集計パイプライン
- モデル
- BI

URI を取得

オブジェクトの URI は、情報ペインの一般タブで取得できます。**共有**をクリックし、ポップアップウィンドウで URI をコピーするだけです。**ホスト情報を非表示にする**を有効にすると、URI 内の接続ホストパラメータを削除できます。

URI でオブジェクトを開く

1. メインウィンドウで、**ファイル** -> **Navicat URI を使用して開く**を選択します。
2. URI を貼り付けます。
3. **確認**をクリックします。

- 必要に応じて、**他のオプション**をクリックして接続マッピングを変更します。

オプション	説明
マッピングされた接続	URI 内の接続を、Navicat 内の最も類似した情報を持つ接続に自動的にマッピングします。
既存の接続	Navicat 内の既存の接続を選択します。
新しい接続	Navicat で新しい接続を作成します。

- オブジェクトを開きます。

お気に入り（Navicat Premium、Enterprise、Standard エディションでのみ使用可能）

お気に入りは、頻繁にアクセスするオブジェクトへのリンクです。お気に入りリストにパスを追加すると、ナビゲーションペインで接続、データベース、スキーマをナビゲートする代わりに、1回のクリックでそのオブジェクトに移動できます。

お気に入りにリンクを追加する

- オブジェクトを開きます。例えば、表。
- ファイル/お気に入り** -> **お気に入りに追加**を選択するか、SHIFT+CTRL+#を押します。オブジェクトがタブウィンドウで開かれている場合、そのタブを右クリックし、**お気に入りに追加**を選択します。
- お気に入りに追加**ウィンドウがポップアップ表示されたら、**お気に入り 名前**を入力し、**お気に入り ID**を選択します。

お気に入りからオブジェクトを開く

- お気に入り** -> **お気に入りの名前**を選択するか、Ctrl+#を押します。

お気に入りからリンクを削除する

- リンクを削除するためには、**お気に入り** -> **お気に入りをクリア** -> **お気に入り 名前**を選択します。
- お気に入りリストから全てのリンクを削除するためには、**お気に入り** -> **お気に入りをクリア** -> **全てをクリア**を選択します。

注意：#は、1、2、3、4、5、6、7、8または9を表します。

ダークテーマ


ダークテーマでは、Navicat は全てのウィンドウ、ビュー、メニュー、コントロールに暗い色のカラーパレットを使用します。サポートされている全てのバージョンの Windows で使用できます。

テーマを変更するためには、**ツール** -> **オプション** -> **基本**を選択します。次に、**ダーク**を選択します。

検索フィルター

Navicat は、ナビゲーションペインやオブジェクトタブ、モデルデザイナーウィンドウ、他のツリー構造のオブジェクトを検索するための検索フィルター機能を提供します。

ナビゲーションペインまたは他のツリー構造では、ツリーをクリックして焦点を合わせ、検索文字列を直接入力します。ナビゲーションペインで接続が開いている場合、フィルターはそのデータベースオブジェクトにも適用されます。

オブジェクトタブでは、 をクリックし、**検索**テキストボックスに検索文字列を入力するだけです。

モデルデザイナーウィンドウでは、**検索**テキストボックスに検索文字列を入力するだけです。

検索文字列を削除することによって、フィルターを取り消すことができます。

21 - 設定

オプション設定

Navicat は、ユーザーインターフェースやパフォーマンスをカスタマイズするために、様々なオプションを提供しています。

オプションウィンドウを開くためには、メニューバーから、**ツール** -> **オプション**を選択します。

基本

基本

テーマ

Windows OS のテーマを使用するか、ダークテーマを使用するかを選択します。

ヒント : 変更を有効にするためには、Navicat を再起動します。

言語

Navicat のインターフェースでの表示に使用する言語を選択します。

ヒント : 変更を有効にするためには、Navicat を再起動します。

同じオブジェクトへの複数のフォームを開く事を許可する

このオプションにチェックを付けると、複数のオブジェクトインスタンスを開くことができます。

ナビゲーションペインのスキーマ下のオブジェクトを表示

ツリー構造を使用してナビゲーションペインにデータベースオブジェクトを表示します。ノードを展開するためには、ノードをダブルクリックします。

ヒント : 変更を有効にするためには、データベース/スキーマを開きなおします。

ナビゲーションペインのテーブルの下にオブジェクトを表示

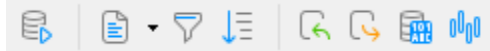
ナビゲーションペインのツリー構造を使用して、テーブル要素（フィールド、インデックス、外部キーなど）を表示します。ノードを展開するためには、テーブル名の左側にある矢印をクリックします。

ヒント : 変更を有効にするためには、データベース/スキーマを開きなおします。

ツールバーの説明を表示

サブウィンドウにあるツールバーのボタンにテキストを表示します。チェックをつけない場合、ボタンだけが表示されます。

ヒント : 変更を有効にするためには、Navicat を再起動します。



ファンクションウィザードを表示

ファンクション/プロシージャの新規作成時、ファンクションウィザード (MySQL, MariaDB, Oracle, PostgreSQL, SQL Server) を表示します。

閉じる前に新規のクエリ/プロファイルを保存するか尋ねる

このオプションを有効にすると、Navicat は、クエリまたはプロファイル用のサブウィンドウを終了する時はいつも、新しいクエリまたはプロファイルを保存するように促します。

起動時に更新を自動チェック

Navicat の起動時に新しいバージョンの確認を行いたい場合、このオプションを選択します。

安全な確認ダイアログを使用する (メインウィンドウ)

このオプションをオンにすると、Navicat は、メインウィンドウでオブジェクトを削除する時に、安全に削除するための二重の確認ダイアログを表示します。

使用データ

使用データを共有

このオプションにチェックを付けると、あなたの Navicat の使用方法に関する情報がお使いのデバイスから我々に送信されます。それは Navicat の改善に役立ちます。**使用データ**ボタンをクリックすると、共有されている情報を確認できます。

タブ

に新しいタブを開く

新しいポップアップウィンドウを以下のように開くために設定します。

ファイル	説明
メインウィンドウ	メインウィンドウに新しいタブを開きます。
最後のタブウィンドウ	最後に開いたウィンドウ (メインウィンドウを含む) で新しいタブを開きます。
最終ウィンドウタブ (メインウィンドウ以外で)	最後に開いたウィンドウ、または、開いているウィンドウがない場合は新しいウィンドウに新しいタブを開きます。
新規ウィンドウ	新しいウィンドウを開きます。

起動時

Navicat を起動する時に表示されるタブを制限します。

ファイル	説明
オブジェクトタブのみ開く	オブジェクトタブのみ開き、その他のタブは開きません。

あなたが中断したところから続ける	オブジェクトタブを開き、Navicat を最後に終了した時に開いていたタブと同じタブを再度開きます。
特定のタブまたはタブのセットを開く	オブジェクトタブを開き、 タブを設定 で選択したタブを開きます。

ヒント : 変更を有効にするためには、Navicat を再起動します。

コード補完

コード補完を使用

. (ドット) 記号または文字を入力すると、エディタはコード補完の候補を表示したリストをポップアップで表示します。

自動更新コード補完情報

このオプションが有効な場合、データベース/スキーマを開くと、Navicat は自動的にサーバーからコード補完のために最新のデータベース情報を取得します。そうでない場合は、クエリウィンドウで手動で更新する必要があります。

コード補完情報を更新する時にシステムオブジェクトを含める

このオプションをオンにすると、コード補完の候補にシステムオブジェクトも含まれます。場合によっては、システムオブジェクトを含めると、特に大規模なデータベースでは、コード補完機能が遅くなる可能性があります。

注意 : MySQL/MariaDB/PostgreSQL でのみ使用可能です。

最初の提案を自動選択

提案リストがポップアップした時に、最初のアイテムを自動的に選択します。したがって、ENTER または TAB を押すと、選択されたアイテムが挿入されます。それ以外の場合は、矢印キーを使用して提案アイテムを選択する必要があります。

コード補完情報のクリア

デバイスに保存されているコード補完機能の情報を削除します。

エディタ

基本

行番号の表示

参照しやすくするために、エディタの端に行番号を表示します。

コードの折りたたみを使用

コードの折りたたみ機能を使うと、エディタで、ひとまとまりのコードを折りたたんで最初の一行だけを表示することができます。

括弧の強調表示を使用

参照しやすくするために、カーソルが片方の括弧に移動すると、その一組の括弧を強調表示します。

シンタックス強調表示を使用

構文の強調表示は、コードを見やすく表示するのに役立ちます。エディタで、コードは、属するカテゴリーに応じて、異なる色とフォントで強調表示されます。パフォーマンス向上のために、**よりファイルサイズが大きい場合は無効にする (MB)**に最大ファイルサイズ（例えば 10）を設定することによって、この機能を制限することが可能です。

文字ラップを使用

エディタでワードラップモードを有効にします。

タブ幅

タブがとる文字数を入力します。例えば、5。

Tab を押すとスペースが挿入される

Tab キーを押すと、スペース文字が挿入されます。

フォントと色

エディタ用フォント

エディタで使用されるフォントとそのサイズを定義します。

色

読みやすさの向上のために、色付けされた構文強調表示を使用してエディタのクエリをフォーマットします。異なるテキストフラグメントを区別するために使用するフォント色を設定します：共通、キーワード、文字列、数字、注釈行、バックグラウンド。色ボックスをクリックし、色の設定ダイアログウィンドウから設定したい色を選択します。

レコード


レコード



レコード制限 レコード(1 ページあたり)

グリッド/外部キーのデータの選択の各ページに表示されるレコード数をグローバルに制限したい場合は、このオプションにチェックをつけます。チェックをつけない場合は、1 ページに全てのレコードが表示されます。

注意： 特定のテーブル/コレクションに対する設定を修正する方法は、[データビューワー](#)をご覧ください。

自動トランザクション開始

テーブル/コレクションのレコードを修正する時に新しいトランザクションを自動的に開始するためには、このオプションにチェックを付けます。そうしない場合は、自動コミットがオンになり、データビューワーで  **トランザクションを開始** ボタンをクリックして手動でトランザクションを開始する必要があります。

データビューワーでトランザクションを開始する時、 **コミット**または  **ロールバック**ボタンを使用して変更をコミットまたはロールバックできます。[データビューワー](#)を参照してください。

グリッド

グリッド用フォント

データビューワーのグリッドで使用されるフォントとそのサイズを定義します。

行シェーディング

データを明確に表示するために、グリッド内で 1 行おきに、または、3 行ごとにシェーディングを適用します。シェーディングを適用したくない場合は、**なし**を選択します。

表示書式

データタイプの日付や時刻、日付時刻は、データグリッドに表示される時、書式表示されます。ここに書式を入力することによって、その書式を変更できます。書式が空白の場合、デフォルト書式が使用されます。デフォルト書式はシステムの日付時刻書式になります。

表示書式	
日付:	<input type="text" value="dd-mm-yyyy"/>
時刻:	<input type="text" value="hh:mm:ss"/>
日付時刻:	<input type="text" value="dd-mm-yyyy hh:mm:ss"/>
例:	2022/06/09 12:41:09
出力:	09-06-2022 12:41:09

これらの書式指定子を使用して文字列を構成することにより、書式は定義されます：

日付と時刻のフィールド

指定子	表示
c	システムグローバル変数に指定された書式を使用した日付、その後に、システムグローバル変数に指定された書式を使用した時刻が続いて表示されます。日付時刻値の小数部分がゼロの場合、時刻は表示されません。
d	先行するゼロを付けずに日付を表示します（1～31）。
dd	先行するゼロを付けて日付を表示します（01～31）。
ddd	システムグローバル変数で指定された文字列を使用して、日を短縮名称（Sun～Sat）で表します。
dddd	システムグローバル変数で指定された文字列を使用して、日を完全名称（Sunday～Saturday）で表します。
dddddd	システムグローバル変数で指定された書式を使用して、日付を表します。
ddddddd	システムグローバル変数で指定された書式を使用して、日付を表します。
m	先行するゼロを付けずに月を表示します（1～12）。m 指定子が、h あるいは hh 指定子の直後に続く場合、月ではなく、分が表示されます。
mm	先行するゼロを付けて月を表示します（01～12）。mm 指定子が、h あるいは hh

	指定子の直後に続く場合、月ではなく、分が表示されます。
mmm	システムグローバル変数で指定された文字列を使用して、月を短縮名称 (Jan~Dec) で表します。
mmmm	システムグローバル変数で指定された文字列を使用して、月を完全名称 (January~December) で表します。
yy	年を 2 桁の数字で表します (00~99)。
yyyy	年を 4 桁の数字で表します (0000~9999)。
h	先行するゼロを付けずに、時を表示します (0~23)。
hh	先行するゼロを付けて、時を表示します (00~23)。
n	先行するゼロを付けずに、分を表示します (0~59)。
nn	先行するゼロを付けて、分を表示します (00~59)。
s	先行するゼロを付けずに、秒を表示します (0~59)。
ss	先行するゼロを付けて、秒を表示します (00~59)。
t	システムグローバル変数で指定された書式を使用して、時刻を表します。
tt	システムグローバル変数で指定された書式を使用して、時刻を表します。
am/pm	前述の h または hh 指定子を 12 時間制の時刻で表し、その後、正午前の時間には "am"、正午以降の時間には "pm" が続いて表示されます。am/pm 指定子は、大文字、小文字、またはそれらの混合形でも指定することができ、それに従って、結果が表示されます。
a/p	前述の h または hh 指定子を 12 時間制の時刻で表し、その後、正午前の時間には "a"、正午以降の時間には "p" が続いて表示されます。a/p 指定子は、大文字、小文字、またはそれらの混合形でも指定することができ、それに従って、結果が表示されます。
ampm	前述の h または hh 指定子を 12 時間制の時刻で表し、その後、正午前の時間にはグローバル変数 TimeAMString、正午以降の時間にはグローバル変数 TimePMString の内容が続いて表示されます。
/	日付の区切り記号。ロケールによっては、日付の区切り記号を表すのに別の記号が使用されます。
:	時刻の区切り記号。ロケールによっては、時刻の区切り記号を表すのに別の記号が使用されます。
'xx'/'xx'	シングルまたはダブルクォートに囲まれた文字列は、書式変更されずに、そのまま表示されます。

書式の指定子は、大文字でも小文字でも記述されます; どちらでも同じ結果になります。

桁区切りを表示

数値データ用の 3 桁ごとの区切り文字を表示するためには、このオプションにチェックを付けます。

システムロケールの小数点と 3 桁ごとの区切り文字を使用する

OS の地域設定で定義されているシステム区切り文字を使用するためには、このオプションをオンにします。そうしない場合は、小数点の区切り文字としてドット (.) を使用し、千の位の区切り文字としてカンマ (,) を使用します。

自動リカバリ

クエリ/モデル/BI

自動保存の間隔 (秒) (例 : 30) を定義することにより、クエリ、モデルワークスペース、または BI ワークスペースの変更後に自動的に保存します。

ファイルロケーション

ログの保存場所

Navicat は、Navicat で実行されたアクションを追跡するための多数の[ログファイル](#)を提供し、それらはログの保存場所のパスにあります。

プロファイルの保存場所

デフォルトでは、Navicat ファイルとプロファイルのほとんどが[設定の保存場所](#)に保存されます。ただし、一部のファイルとプロファイルは、プロファイルの保存場所のパスにあります。

プロファイルの保存場所にあるファイル	サーバーの種類	ファイルの拡張子
オートメーション (自動化)	MySQL	.nbatmysql
	Oracle	.nbatora
	PostgreSQL	.nbatpgsql
	SQLite	.nbatsqlite
	SQL Server	.nbatmssql
	MariaDB	.nbatmariadb
	MongoDB	.nbatmongodb
	Redis	.nbatredis
	Premium (ロスサーバー)	.nbatpremium
BI (ワークスペース)	全て	.nbi
コードスニペット	全て	.nsnippet
データディクショナリ	MySQL	.nddimysql
	Oracle	.nddiora
	PostgreSQL	.nddipgsql
	SQLite	.nddisqlite
	SQL Server	.nddimssql
	MariaDB	.nddimariadb
	MongoDB	.nddimongodb
	Premium (ロスサーバー)	.nddipremium
データ生成	MySQL	.ndgrmysql
	Oracle	.ndgrora
	PostgreSQL	.ndgrpgsql

	SQLite	.ndgrsqlite
	SQL Server	.ndgrmssql
	MariaDB	.ndgrmariadb
	MongoDB	.ndgrmongodb
データの同期	MySQL	.ndsymmysql
	Oracle	.ndsyora
	PostgreSQL	.ndsypgsql
	SQLite	.ndsysqlite
	SQL Server	.ndsymssql
	MariaDB	.ndsymariadb
	MongoDB	.ndsymongodb
データ転送	MySQL	.ndtfmysql
	Oracle	.ndtfora
	PostgreSQL	.ndtfpgsql
	SQLite	.ndtfsqlite
	SQL Server	.ndtfmssql
	MariaDB	.ndtfmariadb
	MongoDB	.ndtfmongodb
	Premium (クロスサーバー)	.ndtfpremium
モデル (ワークスペース)	MySQL、Oracle、PostgreSQL、SQLite、SQL Server、MariaDB、MongoDB	.nmodel
MongoDump	MongoDB	.nmdpmongo
MongoExport	MongoDB	.nmepmongo
MongoImport	MongoDB	.nmipmongo
MongoRestore	MongoDB	.nmrsmongo
構造の同期	MySQL	.nssymmysql
	Oracle	.nssyora
	PostgreSQL	.nssypgsql
	SQL Server	.nssymssql
	MariaDB	.nssymariadb
バーチャルグルーピング	全て	vgroup.json - オブジェクトがどのように分類されているかを保存。

エクスポートウィザード

データをエクスポートする時にデフォルトのエクスポートディレクトリを設定します。

接続性

基本

CA に対するサーバー証明書の検証

このオプションを有効にすると、サーバー証明書が信頼できる CA のリストに照らして検証されます。

プロキシ

ネットワーク接続を確立するためにプロキシを使用するように Navicat Charts Creator を設定するためには、**プロキシの使用**オプションを有効にします。

プロキシタイプ

プロキシサーバーのタイプ (HTTP または SOCKS5) を指定します。

ホスト

プロキシサーバーのホスト名。

ポート

プロキシサーバーのポート番号。

ユーザー名/パスワード

プロキシサーバーで認証が必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力できます。

接続性の診断

接続性をテストをクリックして、ウェブサービスとマシン間のネットワーク接続をテストします。

環境

実行ファイル

SQL*Plus (Oracle でのみ使用可能)

Oracle 接続の[コンソール](#)に使用される SQL*Plus の位置を指定します。SQL*Plus は、Oracle クライアント/Oracle インスタントクライアントに含まれます。

Mongo のシェルのパス (MongoDB でのみ使用可能)

MongoDB 接続の[コンソール](#)に使用される Mongo のシェルの位置を指定します。

MongoDump 実行可能パス (MongoDB でのみ使用可能)

[MongoDump](#) に使用される mongodump 実行ファイルの位置を指定します。

MongoRestore 実行可能パス (MongoDB でのみ使用可能)

[MongoRestore](#) に使用される mongorestore 実行ファイルの位置を指定します。

MongoImport 実行可能パス (MongoDB でのみ使用可能)

[MongoImport](#) に使用される mongoimport 実行ファイルの位置を指定します。

MongoExport 実行可能パス (MongoDB でのみ使用可能)

[MongoExport](#) に使用される mongoexport 実行ファイルの位置を指定します。

外部エディタ

クエリを開くための外部エディタのファイルパスを選択します。

OCI 環境 (Oracle でのみ使用可能)

OCI library (oci.dll)

Oracle 接続用の OCI ライブラリ (oci.dll) がある場所を指定します。デフォルトでは、Navicat インストールフォルダに同梱されたものが設定されています。

ヒント : 変更を有効にするためには、Navicat を再起動します。

Oracle インスタントクライアントは、OCI または OCCI、JDBC-OCI、ODBC ドライバを用いて作られた完全な Oracle クライアントアプリケーションを展開するための最も簡単な方法です。少数のファイルで、必要な Oracle クライアントライブラリを提供します。以下より Oracle インスタントクライアントをダウンロードすることも可能です。

[Oracle インスタントクライアント](#)

お使いのプラットフォームと CPU に適したインスタントクライアントパッケージをダウンロードしてください。すべての設定が Basic または Basic Lite パッケージを必要とします。パッケージを解凍し、それを示すパスを設定してください。

詳細

診断ログを有効にする

Navicat の問題を追跡するのに役立つように、[ログの保存場所](#) にログファイルを生成します。

ヒント : 変更を有効にするためには、Navicat を再起動します。

複数の Navicat インスタンスを許可

このオプションにチェックを付けると、複数の Navicat インスタンスを開くことができます。このオプションにチェックをつけない場合、Navicat のショートカットをクリックすると、起動中の Navicat インスタンスが再びアクティブとなります。新しいコピーは起動されません。

“プログラムから開く”リストに登録する

Navicat プログラムを Windows の“プログラムから開く”リストに登録します。

Navicat URI プロトコルに登録

Windows で Navicat URI プロトコルを登録します。Navicat URI リンクをクリックすると、Navicat が開き、パラメータを使用して、対応する Navicat On-Prem Server を URI に追加します。

22 - ホットキー

Navicat のホットキー

共通

キー	動作
CTRL+SHIFT+# (# 1~9 を表す)	お気に入り追加
F8	Navicat メインウィンドウ/オブジェクトタブ
CTRL+TAB または SHIFT+CTRL+TAB	次ウィンドウ/タブ
CTRL+Q	新規クエリ
F11	フォーカスモード
CTRL+U	Navicat URI を使用して開く
F1	ヘルプ

Navicat メインウィンドウ

キー	動作
CTRL+G	設定の保存場所フォルダを開く
CTRL+# (# 1~9 を表す)	お気に入りリンクを開く
F6	コンソール
CTRL+L	履歴ログ
F12	アクティブなオブジェクトのみを表示
CTRL+N	新規オブジェクト
CTRL+SHIFT+F	データベース/スキーマ内検索

ER ダイアグラムビュー

キー	動作
F5	更新
ESC	選択
H	ダイアグラムを移動
R	新規外部キー
DELETE	選択された外部キーを削除
CTRL+= または CTRL+マウスホイールを上へ	ズームイン
CTRL+- または CTRL+マウスホイールを下へ	ズームアウト
CTRL+0	ズームをリセット

テーブル/コレクションデザイナー

キー	動作
CTRL+O	テーブル/コレクションを開く
CTRL+F	フィールドを検索

F3	次のフィールドを検索
SHIFT+F3	前のフィールドを検索

データビューワー

キー	動作
CTRL+D	オブジェクトを設計 (テーブル、コレクション、ビュー、マテリアライズド・ビュー)
CTRL+Q	オブジェクトへのクエリを行う (テーブル、コレクション、ビュー、マテリアライズド・ビュー)
CTRL+F	テキストを検索
F3	次のテキストを検索
CTRL+G	行へ進む
CTRL+LEFT ARROW	現在のレコードの最初の列に移動
CTRL+RIGHT ARROW	現在のレコードの最後の列に移動
CTRL+HOME	現在の列の最初の行に移動
CTRL+END	現在の列の最後の行に移動
CTRL+PAGE UP または CTRL+UP ARROW	現在のページの最初の行に移動
CTRL+PAGE DOWN または CTRL+DOWN ARROW	現在のページの最後の行に移動
CTRL+R	フィルターを適用/ソートを適用
SHIFT+ARROW	セルを選択
CTRL+ENTER	オープニングエディターでデータを編集する
INSERT または CTRL+N	レコードに追加
CTRL+DELETE	レコードの削除
CTRL+S	レコードの変更を適用
ESC	レコードの変更をキャンセル
CTRL+T	データのロードを停止

ビュー/マテリアライズド・ビューデザイナー

キー	動作
CTRL+O	SQL をインポート
CTRL+E	定義に切り替える
CTRL+R	プレビュー
ALT+1	結果タブに切り替え

クエリデザイナー

キー	動作
CTRL+O	外部ファイルを開く
CTRL+E	クエリエディタに切り替える
CTRL+R	実行/選択部分を実行
SHIFT+CTRL+R	現在のステートメントを実行
CTRL+T	中止

ALT+# (# 0~9 を表す)	結果タブに切り替え
-------------------	-----------

クエリエディタ

キー	動作
CTRL+SHIFT+V	クリップボードスタックから張り付け
CTRL+/ CTRL+F	コメント行/非コメント行
CTRL+F	テキストを検索
F3	次のテキストを検索
CTRL+=	ズームイン
CTRL+-	ズームアウト
CTRL+0	ズームをリセット

クエリビルダ

キー	動作
CTRL+=	ズームイン
CTRL+-	ズームアウト
CTRL+0	ズームをリセット

デバッガ

キー	動作
F9	実行
F10	ステップオーバー
F11	ステップイン
SHIFT+F11	ステップアウト

モデル

キー	動作
ワークスペース	
CTRL+D	オブジェクトの設計
モデル	
CTRL+N	新規オブジェクト
ダイアグラム	
CTRL+P	印刷
ESC	選択
H	ダイアグラムを移動
T	新規テーブル/コレクション/エンティティ
V	新規ビュー
R	新規外部キー/リレーション
A	新規ラベル
N	新規ノート
I	新規イメージ

L	新規レイヤー
CTRL+= または CTRL+マウスホイールを上へ	ズームイン
CTRL+- または CTRL+マウスホイールを下へ	ズームアウト
CTRL+0	ズームをリセット

BI

キー	動作
CTRL+D	オブジェクトを設計
CTRL+R	データをリフレッシュ
F5	ダッシュボードを表示
CTRL+P	ダッシュボードを印刷


23 - ログをたどる

ログファイル


Navicat は、Navicat で実行された動作を記録するために、いくつかのログファイルを提供しています。それらは **logs** ディレクトリに置かれます。例えば、C:\¥Users¥Guest¥Documents¥Navicat¥Premium¥logs¥。 [オプション](#) で、ログファイルの場所を変更することができます。

ファイル	説明
history.log	Navicat のデータベースやデータベースオブジェクトに対して実行された全操作の全文またはスクリプトを保存します。履歴ログビューワーで history.log ファイルを開くためには、 ツール -> 履歴ログ を選択するか、CTRL+L を押します。 注意 ：このログは、Navicat が再起動されると上書きされます。
cmdline.log	Navicat コマンドラインプロセスとバッチジョブ実行中の全ての操作に関する情報を保存します。
LogImport.txt	インポート処理中に発生した全てのエラーに関する詳細情報を記録します（成功または失敗を示す）。 注意 ：このログは、各インポート毎に上書きされます。
navicat_log.txt	Navicat の問題を追跡するのに役立つ情報を保存します。このログは オプション で有効にできます。 注意 ：このログは、Navicat が再起動されると上書きされます。

履歴ログビューワー

履歴ログビューワーには、Navicat で実行されたまたは実行しているステートメントとスクリプトが表示されます。エラーメッセージだけを表示したい場合は、 **エラーのみ表示** をクリックします。また、**表示** メニューから選択することによって、表示情報を変更することもできます。

- 日付を表示
- 時間を表示
- サーバー名を表示
- セッション ID を表示
- 接続タイプを表示
- 実行時間を表示

注意：  **一時停止** をクリックすると、履歴の一時停止中に行われた操作は再開後に表示されます。